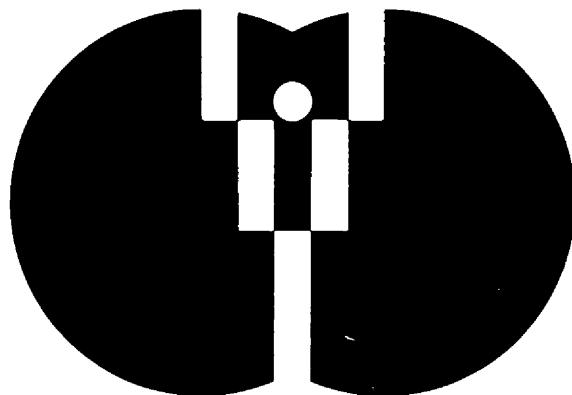


# こどもの城

## 事業年報

昭和 62 年度

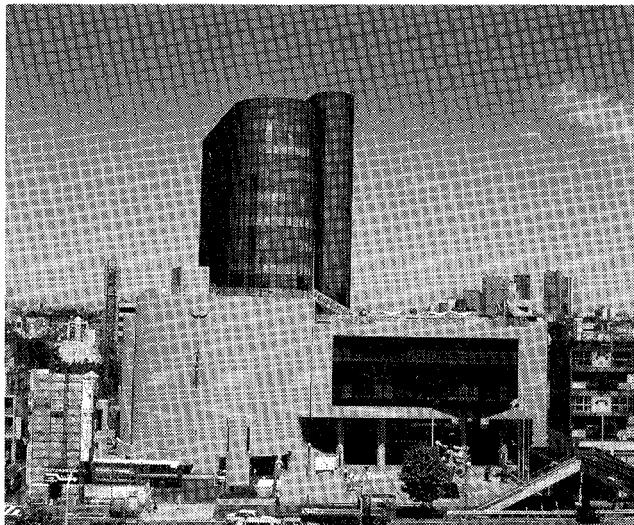


財団法人 日本児童手当協会

# こどもの城

## 事業年報

昭和 62 年度



財団法人 日本児童手当協会

# 子どもの城事業年報 62年度

## 目 次

### I 事業の概要

1 事業と運営	1
(1) 基本構想	1
(2) 運営の基本的な考え方	1
(3) (脚) 本児童手当協会組織機構図	4
(4) 62年度の活動	5
1) 入館者数	5
2) 一般来館者のための活動	5
3) 講座・クラブ活動	6
4) グループ活動	6
5) 劇場事業	6
(5) 活動時間・入館料	6
(こども活動エリア)	
1) 平常期間	6
2) 学校の季節休み	7
3) その他	7
4) 入館料	7

### II 活動状況一覧

1 入館者数	9
2 事業・催し	10
3 グループ活動	16
4 講座・クラブ等	16
5 視察・見学実績	21
6 事業経理収支計算書	22

### III 各部の活動(1)

1 体育事業部	23
---------	----

2 プレイ事業部	39
3 造形事業部	58
4 音楽事業部	74
5 A V事業部	90
6 保育研究開発部	109
7 小児保健部	119
8 劇場事業本部	130
9 全館行事	141

### IV 各部の活動(2)

1 広報部	149
2 研修教養部	153
・子どもの城あそびガヤガヤ研究所	159
3 国際交流部	161
4 営業部	165

### V グループ活動

グループ活動	173
--------	-----

### VI その他の活動

1 子どもの城全国連絡協議会	185
2 チャリティー事業	188
3 「子どもの城」	
・入館者アンケート調査結果	193
・主要年表	8
・内部施設の概要	2
・建築概要	3
・(脚) 本児童手当協会役員	3

# I 事業の概要

# I 事業の概要

## 1 事業と運営

「子どもの城」は、厚生省が1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して計画、建設したものである。国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万平方メートルの敷地に、昭和56年11月、着工された。以来、4年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ、地上13階、地下4階の、ミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、60年11月1日に開館した。厚生省の委託を受けて、財団法人日本児童手当協会がその運営に当たっている。この経営委託契約の締結は同年9月14日に行われた。

「子どもの城」は、新生児から高校生までの全児童を対象にした、幅広い福祉と文化活動を行うとともに、当然、ハンディキャップを持つ児童も一緒に活動する施設である。親たちをはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者などのためにも開かれている。次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図ることを目的に、常に先駆的で実験的なプログラムを企画、実践し、全国に普及させていくこと、そして、国際的視野に立ち、世界各国の子どもたちと、福祉・文化活動を通じて交流を図ることを運営の基本としている。

### (1) 基本構想

「子どもの城」の創設に当たって、昭和54年、厚生省により、「子どもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ、委嘱を受けた有識者メンバーによって基本構想の検討が重ねられた。委員会は同年6月、この結果を「基本構想に関する意見」として取りまとめ、児童家庭局長に提出した。

意見書は「近年、わが国の社会の都市化、工業化に伴い、児童の健康や安全が損なわれており、また、核家族化、家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって、さまざまな問題が生じている。一方で、高齢化が急速に進んでおり、この中で、豊かな活力ある社会を維持していくために、未来を担う児童の健全育成の必要性が高まっている。このときにあたり、わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し、明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは、時宜に適したものである。（要約）」と述べ、「子どもの城」の性格、機能、運営に関して積極的な提言がなされ、基本方針が打ち出された。

以来、厚生省と財団法人日本児童手当協会は、この「基本構想に関する意見」を踏まえ、協力しながら、「子どもの城」の建設に当たり、運営に取り組んできた。

### (2) 運営の基本的な考え方

#### (1) 出生率の低下傾向による人口構造の急速な老齢化、青少年の非行問題、体位に追い

## I 事業の概要

つかない子どもの体力、その心をむしばむ要因の増加など、我が国の児童を取り巻く環境は、活力のある未来社会を期待するうえで、憂慮すべき現況にある。こうした、重要な課題に対応していくためには、単に国や自治体の行政に頼るだけではなく、家庭、学校、地域社会が相互に協力しつつ児童の健全育成に取り組んでいかねばならない。

「子どもの城」はこのような多くの問題を克服し、明るい21世紀の日本を築いていくための児童福祉、文化の拠点でありたいと願っている。

(2) 「子どもの城」は、全国の児童を対象とした施設であり、東京及びその周辺の児童だけの施設ではない。すなわち、「子どもの城」における事業について広く全国各地に情報を伝え、更には各地の児童センターなどでの児童福祉、文化活動を全国に紹介するといった全国的な広がりを持つ「子どもの城」として運営している。

(3) 「子どもの城」は、いわゆる幼児のみを対象とするのではなく、幅広く新生児から高校生までの全児童を対象とした福祉・文化活動に関する施設であるとともに、ハンディキャップを持つ児童も当然参加し、ともに活動する施設である。

更に、「子どもの城」は、親をはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者など、子どもの幸せを願うすべての人が利用できるよう開かれている。

(4) 「子どもの城」は、既製のプログラムだけではなく、先駆的、実験的なプログラムを企画し、実践する。また、国内だけでなく、国際的な視野に立って世界各国の児童福祉・文化活動との交流を図る。

(5) 以上のように「子どもの城」は、①芸術、文化、科学、スポーツなどの活動による児童の健全育成、②児童福祉関係者の研修、現任訓練、③児童福祉に関する研究、開発、④国際交流といった各種の機能を併せ持つ総合施設である。これらの機能を相互に関連させながら、総合的な運営を図ることが、肝要であると考えている。

内部施設の概要		
こども活動エリア	○アトリウム（こども活動エリア入り口）・ギャラリー	[1・1～2階]
	○プール・体育室・健康開発室	[地下2階]
	○プレイホール・コンピュータプレイルーム (パソコンルーム)	[3階] [10階]
	○造形スタジオ	[3階]
	○音楽スタジオA、B・音楽ロビー・シンセサイザー室	[4階]
	○AVライブラリー	[4階]
	○屋上・ともだち広場・ふしぎが丘・まんまる広場	[3～5階]
保健育児場	○小児保健・診療・相談室	[5階]
	○保育研究開発・保育室I、II	[5階]
	○青山劇場	[1・2階]
	○青山円形劇場	[3階]
サービスエリア	○駐車場	[地下2・3・4階]
	○フリーホール（休憩室・催し場）	[地下1階]
	○カフェテラス「アンファン・ひさご寿司」	[1階]
	○コーヒーラウンジ「アミティーエ」	[2階]
	○売店	[1・3階]
	○ホテル	[6・7階]
	○レストラン「ラブニール」	[8階]
	○研修室	[8・9階]

**こどもの城の建築概要**

所在地……東京都渋谷区神宮前5丁目53番地1号  
 地域・地区………住居地域・商業地域  
     防災地域・準防火地域  
     一部第2種文教地域

建築主………厚生省

敷地面積………9,923.39m<sup>2</sup>  
 建築面積………6,001.5m<sup>2</sup>  
 延床面積………41,481.9m<sup>2</sup>  
 建ぺい率………60.48%  
 容積率………344.19%

階数………地下4階・地上13階・塔屋1階  
 最高高さ………G L + 57.6m  
 基礎下端………G L - 28.5m  
 主要構造………高層部 鉄骨造  
     低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造  
     地下 鉄筋コンクリート造

設計・管理………株式会社 山下設計

着工………昭和56年11月  
 完成………昭和60年9月

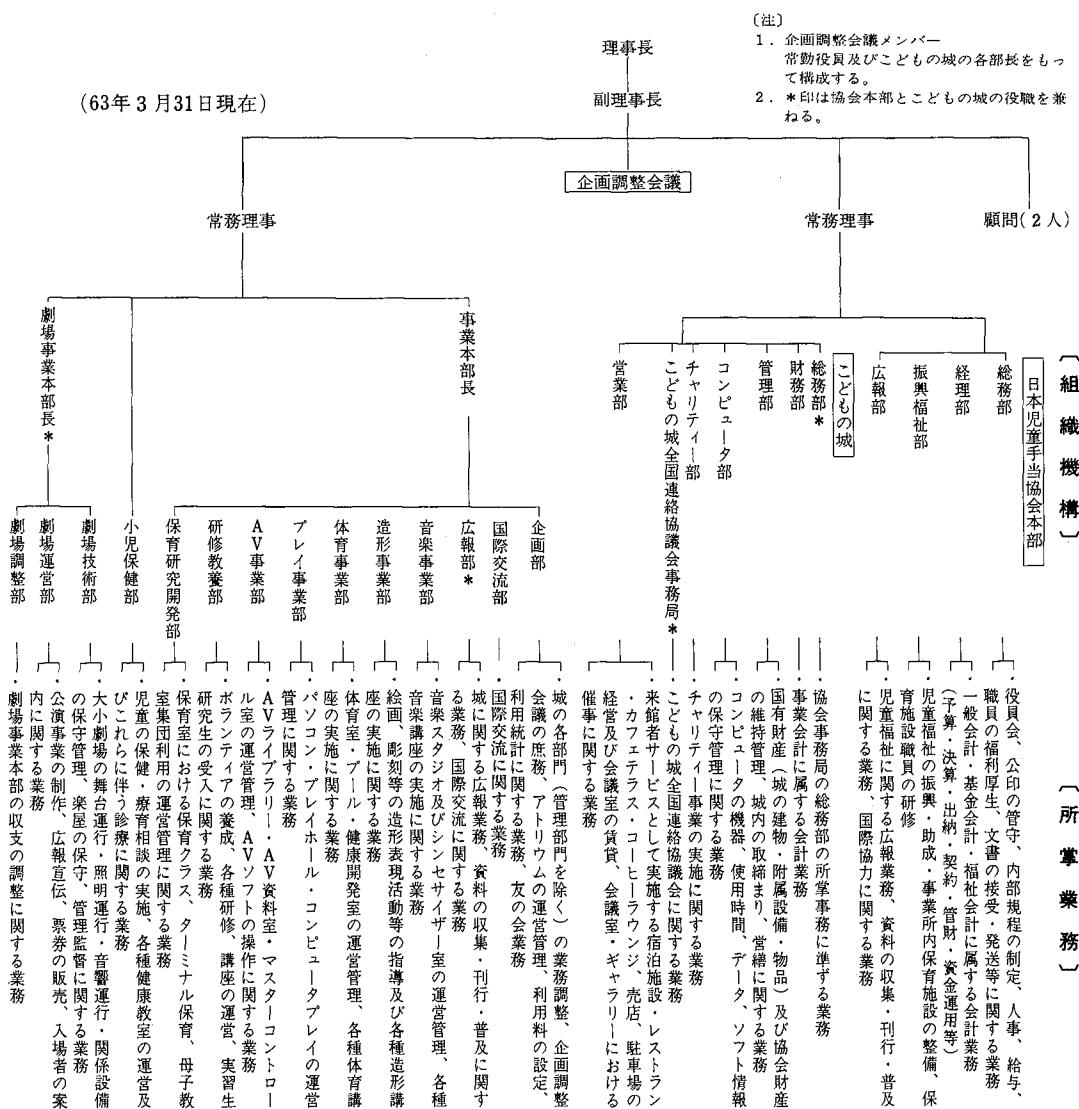
**(財) 日本児童手当協会役員**

(63年3月31日現在)

役職	氏名		
会長	石野	清治	
理事長	竹内	嘉巳	
副理事長	小島	弘仲	
常務理事	堀利	雄	
常務理事	大野	出穂	
理事	葛西	嘉資	医薬品副作用被害救済基金理事長
理事	井川	博	日本商工会議所専務理事
理事	内藤	寿七郎	愛育病院名誉院長
理事	花村	仁八郎	経済団体連合会副会長
理事	肥後	和夫	成蹊大学教授
理事	松崎	芳伸	日本経営者団体連盟専務理事
理事	松本	武子	聖徳学園短期大学教授
理事	河合	三良	経済同友会副代表幹事
監事	武内	稔和	(財)厚生団常務理事
監事	村上	松五郎	社会福祉調査会常務理事

## I 事業の概要

### (3) (財)日本児童手当協会組織機構図



部	職員数			職員数			職員数				
	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計
総務	8	1	9	營業	22	1	23	研修教養	4		4
経理	2		2	企画	8		8	保育研究開発	9		9
振興福祉	3		3	国際交流	1		1	小児保健	10		10
広報	3	1	4	音楽事業	7		7	劇場技術	8		8
財務	5		5	造形事業	6		6	劇場運営	8		8
管				体育事業	6	1	7	劇場調整	2		2
理	3		3	プレイ事業	9		9				
コンピュータ	5		5	A V 事業	7		7	合計	136	4	140

#### (4) 62年度の活動

「子どもの城」が発足して3年度目になる62年度は、開館以来の経験と実績を踏まえて事業内容をいっそう充実させ、運営の安定を図ることを第一の目標とした。

更に、この安定軌道を維持、発展させるためには、60、61年度で固めた基礎の上に立ち、各部門が協力して「子どもの城」の最大の特徴である総合機能の発揮に向けて進まねばならないとの認識から、各種の協同プログラムの開発と実践に積極的に取り組んだ。

各部ごとの日常プログラムや講座・クラブも堅実な積み重ねの中で、新しい方向の開拓は進んでいる。

これらの活動の実態は、以下の各部報告や全館行事の項などで率直に述べている。まだ試行錯誤があり、さまざまな課題を残しながらも、基礎段階から着実に前進した1年であった。

##### 1) 入館者数

一般来館者数は無料の6歳未満児を含め、436,678人。これに劇場入場者、保育、小児保健、講座・クラブ関係や研修室利用者などを加えると、年間総数は1,055,077人になる。この総数は前年度に比べ約3,200人の増だが、一般来館は前年度比12%の減で、その分を劇場、その他の増加でカバーした形になっている。

一般来館者数が減った主な要因としては、4月、8月の学校の春休み、夏休み期間中の減少、平常期間でも9、10月の減が大きかったことなどがあげられる。

##### 2) 一般来館者のための活動

###### (1) 平常事業

「子ども活動エリア」と総称される体育、プレイ、造形、音楽、AV（オーディオ・ビジュアル）の各事業部とも一般来館の児童・家族が楽しく参加し、体験できるプログラムの開発、提供に努めた。その全容は一覧表（10～20ページ）に掲げたとおり。

日曜、祝日には多くの来館者に対応できるようにプログラムの内容や数を工夫し、来館者が比較的少ない平日においては、触れ合いを深めるキメ細かいプログラムの実施に心がけた。また、季節行事などは各部門のプログラムに関連を持たせ、館内の活動に1つの流れをつくる試みも行った。

保育研究開発部は、事業の3つの柱である幼児グループ、保育クラブ、母子教室のうち、フリータイム保育を行う保育クラブの活動を拡充した。

小児保健部は日常の診療相談を行う一方、他部との連携事業である肥満児・ぜんそく児の健康教室、ダウン症児のリズム教室、マタニティスイミングなどの活動を継続して実施した。

###### (2) 特別期間などの事業

学校の季節休み（春休み、夏休み、冬休み）の期間及び児童福祉週間を特別期間とし、各部協力による大型の催しを含む各種の行事を集中的に行った。また、11月を中心に各種の開館2周年記念行事を催した。

夏休みと春休みには、子どもの城、NHK展示プラザ、東京電力の電力館、たばこと塩の

## I 事業の概要

博物館の4館共催で「渋谷スタンプラリー」を実施した。「子どもの城」では、これと連携させて、春休みに城の中の活動エリアを結ぶオリエンテーリング「遊びのパスポート」を行った。

また、夏休み期間中、4回にわたって来館者アンケート（回収数1,011）を行い、運営の参考資料とした。

### 3) 講座・クラブ活動

継続的、体系的に「子どもの城」を利用できるプログラムとして講座・クラブの充実と活発化を図った。講座は43種・101コース、受講者数2,172人と、クラブは9種で会員数1,205人にのぼった。前年度よりコース数で15、受講者数は426人増えた。このほか夏休み、春休み期間には体育、音楽を中心に短期集中講座を開いた。

### 4) グループ活動

保育所、幼稚園、小学校などを単位とした児童及びハンディキャップを持つ児童グループの活動を積極的に受け入れた。このためのプログラムの開発も進め、年間78団体（2,377人）を迎えた。

### 5) 劇場事業

劇場事業本部による自主公演・提携公演として青山劇場で計9公演、青山円形劇場で計18公演（ほかに他事業部主管の自主公演6）を開催した。また、両劇場が貸し館として使用された公演、催しの件数は、青山劇場で21件、青山円形劇場で64件であった。

このほか「子どもの城」の趣旨の普及・推進並びに利用者サービスのため、下記の活動に努めた。

①広報 ②子どもの城友の会 ③子どもの城全国連絡協議会 ④ボランティアの養成、実習生・研究生の受け入れ ⑤チャリティー事業 ⑥ホテル、レストラン、カフェテラス、コーヒーラウンジ、売店などの営業、研修室の貸与。

### (5) 活動時間・入館料（こども活動エリア）

基本的には前年度と変わりはない。

#### 1) 平常期間

平 日 開館（午後1時～午後5時30分）

土曜日  
日曜日 } 開館（午前10時～午後5時30分）  
祝 日

月曜日 休館（祝日または振り替え休日に当たるときは開館＝午前10時～午後5時30分＝翌日の火曜日が休館）

(注)1 夏時間 4月下旬～9月中旬<62年度の場合、4.29(水)～9.20(日)>  
閉館時間を30分繰り下げ（午後5時30分→午後6時）開館時間は変わらず

2 入館券の発売 閉館時間の30分前まで（通常は午後5時まで、夏時間中は午後5時

30分まで)

## 2) 学校の季節休み

曜日にかかわりなく土・日曜日・祝日なみの午前10時～午後5時30分（夏は～午後6時）

年末年始は休館

12. 29（火）～1. 2（土）休館。1. 3（日）は正午開館

休館日の特例

夏休みの休館日は隔週月曜日（7. 27, 8. 10, 8. 24）

春休み・冬休みの月曜日は開館

## 3) その他

都民の日（10月1日） 午前10時開館

11月2日（月） 開館2周年記念特別期間中のため開館。11月4日（水）は  
その振り替え休館

アトリウムにおける講座、クラブ、友の会の申し込み受け付け＝平日・土・日曜・祝日とも午前10時～午後5時（夏時間中は午後5時30分。休館日を除く）

## 4) 入館料

(1) 文化体育事業部門（こども活動エリア）を利用する一般来館者を対象とした入館料  
一般 18歳未満 300円（保護者に同伴される6歳未満児は無料）、18歳以上 400円  
団体 20人以上の団体は一般の入館料の2割引き。

(2) 入館料に関し、こどもの城の発足時の当分の間の措置として設けていた有料施設についての200円の範囲内での利用サービスは、61年度限りで廃止、プール、健康開発室の一般利用を別料金とした。同時に、コンピュータプレイ、AV視聴の料金は、無料とした。

なお、講座の受講者及びクラブの会員について設けられている入館の特例（受講証又はクラブ員証を提示することにより入館できる）は、従来どおり。

(3) 団体見学料（一般団体・こどもの城の要員により案内）1人当たり200円。

(4) 62年5月5日（こどもの日）及び同年11月1日（「こどもの城」の開館記念日）は18歳未満児の入館料は無料。

## 主要年表

3. 26～4. 5 春休み特別期間
4. 1 「おもちゃの図書館マックロー」開設
4. 15 インドネシア副大統領夫人来館
4. 29 ハンガリー国営テレビ取材
4. 29～5. 5 児童福祉週間特別期間（5日は18歳未満入館無料）
5. 10 西ドイツ・プレーメントテレビ取材
7. 12 ABCニュース社取材
7. 21～8. 31 夏休み特別期間
8. 20 タイ国王孫来館
8. 21 ニューヨークタイムズ取材  
CNN テレビ取材
8. 26 入館者200万人突破
9. 5 高円宮、同妃両殿下ご来館（第2回青山バレエフェスティバル）
9. 11 ニュージーランド、ナショナル・ミュージアム理事長来館
10. 1 國際交流部発足
10. 28 カナダ大使夫人来館
11. 1 開館2周年記念（18歳未満入館無料）
11. 21 タイ国営テレビ取材
11. 24 常陸宮、同妃両殿下ご来館（62年度ねむの木賞・高木贈呈式）
12. 6 イラン大使夫人来館
12. 8 常陸宮、同妃両殿下ご来館、藤本厚生大臣同行（62年度肢体不自由児・者の美術展、授賞式）
12. 24～63. 1. 7 冬休み特別期間
63. 3. 3 こどもの城全国連絡協議会63年総会
3. 7 皇太子、同妃両殿下ご来館（ビッグ・リバーご観劇）
3. 26～4. 5 春休み特別期間

## II 活動状況一覧

1	入館者数	9
2	事業・催し	10
3	グループ活動	16
4	講座・クラブ等	18
5	視察・見学実績	21
6	事業経理収支計算書	22

## 1 入館者数

## II 活動状況一覧

## 1 入館者数

	一般来館者		劇場			その他	計
	有料	総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
4月	大人 こども 団体	11,969人 9,141 1,066	(人) 24,011 推計 (35,980)	(人) 22,915	(人) 3,291	(人) 26,206	(人) 14,161 (人) 64,378 推計 (76,347)
	小計	22,176					
5月	大人 こども 団体	15,931 9,240 727	27,733 推計 (43,664)	25,581	5,718	31,299	15,146 74,178 推計 (90,109)
	小計	25,898					
6月	大人 こども 団体	8,835 5,174 887	16,110 推計 (24,945)	19,873	5,352	25,225	17,226 58,561 推計 (67,396)
	小計	14,896					
7月	大人 こども 団体	13,329 10,713 1,973	29,866 推計 (43,195)	34,821	5,699	40,520	15,085 85,471 推計 (98,800)
	小計	26,015					
8月	大人 こども 団体	27,430 22,667 994	53,292 推計 (80,722)	43,565	9,154	52,719	10,403 116,414 推計 (143,844)
	小計	51,091					
9月	大人 こども 団体	10,504 5,773 1,375	18,421 推計 (28,925)	28,962	5,217	34,179	17,502 70,102 推計 (80,606)
	小計	17,652					
10月	大人 こども 団体	9,041 4,722 827	15,335 推計 (24,376)	35,322	4,775	40,097	18,531 73,963 推計 (83,004)
	小計	14,590					
11月	大人 こども 団体	11,111 5,788 1,445	20,934 推計 (32,045)	34,624	7,553	42,177	14,916 78,027 推計 (89,138)
	小計	18,344					
12月	大人 こども 団体	5,427 2,884 768	9,806 推計 (15,233)	20,534	6,676	27,210	12,498 49,514 推計 (54,941)
	小計	9,079					
1月	大人 こども 団体	12,136 6,721 612	22,151 推計 (34,287)	30,569	11,269	41,838	15,496 79,485 推計 (91,621)
	小計	19,469					
2月	大人 こども 団体	10,002 4,349 1,405	18,030 推計 (28,032)	30,896	5,993	36,889	17,611 72,530 推計 (82,532)
	小計	15,816					
3月	大人 こども 団体	14,615 10,974 3,601	30,659 推計 (45,274)	30,433	5,044	35,477	15,988 82,124 推計 (96,739)
	小計	29,190					
計	大人 こども 団体	150,330 98,146 15,740	286,348 推計 (436,678)	358,095	75,741	433,836	184,563 904,747 推計 (1,055,077)
	小計	264,216					

(注 1) ( ) 内は、6歳未満児（無料）の推計数を含めた数値である。

(注 2) その他欄には、研修教養関係、保育関係、小児保健関係、講座・クラブ関係、その他催し、視察の来館者を記入した。

## II 活動状況一覧

### 2 事業・催し

	体 育	プレイ	造 形	音 楽
平 常 事 業	プール一般利用 毎日	パソコン体験教室 こども・母親・親子コース 水・木・土・日曜日	音と造形 1 空気と遊ぼう 4.7~5.24	わいわいスタジオ (音楽ショーの生中継) 毎週 日曜
	体育室一般利用 毎週 土・日	パソコン一般利用 毎日	音と造形 2 たたいてみると・ふって みると 5.26~6.21	音の大冒険 「水」 4.7~7.15
	健康体力測定 毎日	プラモデル模型工作教室 毎週 日曜日	音と造形 3 はじく・まわす・こする 6.23~7.19	音の大冒険 「木」 7.18~9.26
		おはなし紙芝居のつどい 毎週 火曜日	オープンスタジオ 1 水にすむ 9.1~27	音の大冒険 「金属」 10.1~1.21
		みんなであそぼうゲーム 大会 毎週 水曜日	オープンスタジオ 2 空をとぶ 9.29~10.25	音の大冒険 「風」 63.1.23~4.27
		おはなし人形広場 I 毎週 木曜日	オープンスタジオ 3 森へ行こう 10.27~11.29	
		チャレンジギネスゲーム 大会 毎週 金曜日	オープンスタジオ 4 夢のなか 12.1~13	
		おはなし人形劇場 II 毎月 第1第3土曜日	木と造形 I・II・III 樹木とあそぼう 63.1.12~3.13	
		マックロ一人形劇場 (研修教養部共同) 毎月 第2土曜日		
		手作り遊び教室 毎月 第4土曜日		
春 の 特 別 期 間	楽しいバトミントン 4.1~5	春休み人形劇場フェスティバル 4.1~5	素材との出会い展 「木と造形」 3.15~4.10	わいわいスタジオ春休み スペシャル 4.2~5
	春休み集中水泳 63.3.26~30	おもしろチャレンジゲーム大会 (研修教養部共同) 63.3.26~30		ぼくらのサウンド'88 63.3.30~4.1

2 事業・催し

A V	研修教養	小児保健	保育研究開発
AV ライブラリー一般利用 毎日	児童厚生員実技指導講習会 I 5.5~5.7	診療相談 (総合健康・育児生活・神経・心理・言語・ダウン症)	保育クラブ 毎週 火~土曜日
おもしろビデオ館 毎週 木曜日 9月から毎週金曜日	児童厚生員実技指導講習会 II 10.16~18		幼児グループ 毎週 火~金曜日
ぱたぱたアニメをつくろう 毎週 土曜日	ボランティア講習会 第9期 5.30~7.2		保育室一般解放 毎週 土・日曜日・祝日
わいわいスタジオ (音楽ショーの生中継) 毎週 日曜日	ボランティア講習会 第10期 11.7~12.10		母子教室 毎週 水曜日
ウォルトディズニー・ビデオ試写会 毎週 日曜日・特別期間	ボランティア講習会 第11期 63.2.6~3.8		
マック TV こどもの城情報局 毎週 日曜日・特別期間	婦人ボランティア講習会 第3期 10.23~31		
	おもちゃの図書館 毎週 水曜日		
しねまていく (8ミリ・16ミリ映画) 63.3.26~27	ジュニア・スキー・キャンプ 63.3.31~4.4	育児展「おんぶにだっこ・乳母車」 63.3.26~4.6	親子で遊ぼう春が来た 3.28~30 4.2~5
インフォビジョン特集 3.26~4.6 63.3.26~4.6			保育クラブフェスティバル 63.3.27

## II 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
児童福祉週間	空中の演技トランポリン 4.29	みんなでつくろうデカデ カ鲤 5.2~5	こいのぼりを作ろう 4.28~5.5	第3回おまつり劇場 5.3
	スポーツ遊びの記録会 5.3~5	ハロー・マックローワー ルド (企画・研修教養部共同) 5.2~5		スタジオゴーゴー 5.4・5
	健康度を計ろう (体力測定) 5.3~5	母の日 おかあさんありがとう 5.9・10		
	ごはん1杯のカロリーを 運動で消費しよう 5.3~5	こどもデパート (全館行事) 4.29		
夏の特別期間	夏期集中水泳 7.21~8.8	屋上ちびっこプール 7.21~8.31	造形発見展 「音と造形」 7.21~8.31	音楽サマー・セミナー 7.23~8.20
	美しい動きの体育 新体操への誘い 7.22~25	屋上ちびっこプールゲー ム大会 7.21・8.30・31	音のオブジェたち展 8.4~31	わいわいスタジオ・スペ シャル 怪談 7.24~26
	母と子のふれあい広場 7.28・8.19	インドア・キャンプ 7.22・23, 29・30 8.25・26, 27・28		金管バンド ファミリー・コンサート 8.2
	卓球を楽しく 7.29~31	夏休み人形劇フェスティ バル 8.14~16		合唱コンサート みんな音楽家 8.6
	リズムは世界をむすぶ 7.31~8.2	ブラック・ボックス (全館行事) 7.21~8.2		おもしろ民族楽器展 8.11~23
	夏休み体育教室サマーガ ンバ'87 8.4~7	夏まつり (全館行事) 8.8・9		わいわいスタジオ・スペ シャル 夏まつりがやってきた 8.7~9
	宇宙時代の体操トランポ リン 8.15・16	夕すずみ (企画・研修教養部共同) 8.14~16		同 上 おいしい楽器のつくりかた 8.21~23
	こども卓球大会 8.18	ウォーター・アドベンチャー (企画・研修教養部共同) 8.20~23		同 上 夏の思いで特集 8.28~30

2 事業・催し

A V	研修教養	小児保健	保育研究開発
動物ランドへひとつび 4.29~5.5	おもしろチャレンジゲーム大会 (プレイ事業部共同) 5.2~5	育児相談コーナー 5.2~5	親子シアター 5.3~5
こどもデパート CATV 4.29			
オリジナルソフト特集 7.20~8.16	第4回 ジュニア・アウト・ドア・ スクール 8.2~5	いきいき子育てコーナー 7.25・26 8.14~18・29・30	親子あそび 7.25 8.1・13~16
アニメーションフェスタ 7.31~8.2		こども一日ドック 8.19・20	おやつの実演会 7.26 8.2・21・24・28
おもしろビデオ館スペシャル 8.11~16		健康教室集中講座 8.26~28	保育セミナー 8.7・8
自由研究に役立つかな 8.17~31			親子シアター 8.22・23・29・30

II 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
開館記念特別事業	スポーツ遊びの記録会 11.1~3	人形劇フェスティバル 11.1~3	造形スタジオ展 11.1~23	わいわいスタジオ・スペシャル わいスタマラソン 11.1・3
	家族で体力測定 11.1~3	屋上ネット完成記念 フライングディスク大会 11.1~3		
		おもしろチャレンジゲーム大会 (研修教養部共同) 11.1~3		
冬の特別期間	年忘れスポーツ大会 12.26・27	クリスマス 人形劇フェスティバル 12.25~28	かざろうクリスマス 12.19~25	わいわいスタジオ・スペシャル ファミリークリスマス 12.24・25
	ジュニア・スキー・キャンプ 12.28~31	屋上ネット人形劇 ウルトラゲーム大会 12.24~28		わいわいスタジオ 正月スペシャル 63.1.3~5
	ジャンボかるたとり 63.1.4~6	もちつき大会 (全館行事) 63.1.5		新春スペシャル 演奏マラソン 1.6・7
その他季節行事・特別行事	赤ちゃんとママ ふれあいスマミングパー ティー 7.3	パンパー チャンピオン大会 6.13	はっぱでおにの面を作ろう 63.1.30・31	
	東京オリンピックと体育 の日展 10.3~18	父の日 おとうさんと遊ぼう 6.21	こえだでつくるおひなさま 2.27~3.3	
	体育の日 特別水泳指導 10.10	七夕行事 おねがいしよう 6.30~7.5		
		ちびっこプール ラジコンボート大会 7.2~19		
		敬老の日 おたよりしよう 9.12~15		

国際交流部：「マザーグースクリスマス」12.24~26 「ザンビアこども絵画展」63.1.3~17 「親子で

2 事業・催し

A V	研修教養	小児保健	保健研究開発
青山劇場特集 '86・'87 11.1~3		シンポジウム変わる育児 事情 10.27	母子で参加する体験保育 11.1・3
こどもの城1年のあゆみ '86・'87 11.1~3			おやつの実演会 11.2
息子よ、これが私のヒーローだ 12.25~63.1.7	冬休みクイズ大会 (プレイ事業部共同) 12.24~28	ドクターゴローの育児相談コーナー 12.24~27	親子でサンタと遊ぼう 12.24・25
おもしろビデオ館スペシャル 12.26・27・63.1.5~7	親子で遊ぼう昔あそび (プレイ事業部共同) 63.1.3~7	冬休みこども一日ドック 63.1.5・6	親子で楽しい正月遊び 63.1.3~5
	ふれあいセミナー 5.15~29	こどもの城マタニティコンサート 4.25・26	保育クラブフェスティバル 11.29
	体育の日オリンピックラン (プレイ部共同) 10.10・11	マタニティスイミング同窓会 11.7	
	節分会・必殺おに退治 (プレイ事業部共同) 63.1.30・31	第3回 肥満児指導者講習会 8.29	
	レッツトライ5人ばやし (プレイ事業部共同) 2.27・28	第4回 肥満児指導者講習会 63.3.19	

バレンタイン」2.11 「バレンタインパーティー」2.12

## II 活動状況一覧

## 3 グループ活動

区分	件数	月別内訳												地域別内訳			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	東京都	他府県		
		区	市											区	市		
保育園	18			1	2				3	3	1	3	5	14	3	1	
幼稚園	35	5	1	3	1			2	4	1	5	7	6	29	1	5	
児童館																	
通園施設																	
幼稚教室																	
研究所	1			1											1		
自主保育グループ																	
自主訓練グループ																	
小学校	5	1							1	1		1	1		2	3	
中学校																	
高等学校																	
養護学校	10		1	1					3		2	1	2		2	8	
精薄児施設																	
肢体不自由児施設	1													1	1		
小学校特殊学級	7		1	2				2					2		4	2	
中学校特殊学級																	
子供会																	
養護施設	1				1											1	
その他																	
計	78	6	3	8	4			2	6	8	6	8	15	12	51	7	20

## 3 グループ活動

参加児童数別内訳												参加児童数		活動部門					
10人未満	10人	20人	30人	40人	50人	60人	80人	100人	150人以上	延べ数	1件あたり平均	体育	プレイ	音楽	造形	A	V	劇場	
5	5	10	1	1	1					456	25.3	2	5	7	2	4			
	7	6	9	1	4	3				1,048	29.9	5	3	22	14	8			
		1								23	23.0				1				
		1		1	1				2	495	99.0	2	4	3	1	4			
2	3	1	2	2						237	23.7			4	6	1	7		
	1									14	14.0			1		1			
1	5	1								94	13.4		1	2			3		
	1									10	10.0			1					
8	22	20	12	5	6	3			2	2,377	30.5	9	17	42	19	27			

## II 活動状況一覧

### 4 講座・クラブ等

#### (1) 講 座

部門	プロ グ ラ ム	対 象	コース	定 員	受講者数
体 育	幼児体育	幼 児	1年 3	120(人)	107(人)
	幼児水泳	同 上	同上 6	240	302
	幼児・母親水泳	幼児・母親	同上 2	60	55
	小学生体育	小 学 生	同上 1	40	11
	小学生総合体育	同 上	同上 1	40	29
	ジュニア新体操	同 上	同上 1	25	34
	シニア新体操	小・中学生	同上 1	25	29
	小学生水泳	小 学 生	同上 4	200	266
	シニア・スイミング	小・中学生	同上 3	90	61
	シニア・スイミング・フレッシュ	同 上	同上 1	30	34
	レディース・スイミング	婦 人	同上 3	180	163
	レディース・リズム&ストレッチ	同 上	同上 2	80	41
	レディース・エアロビクス	同 上	同上 4	160	65
	手足の不自由な子どもたちのスイミング教室	小・中学生	同上 1	30	8
	幼児・母親体育	幼児・母親	3か月 3	90	88
	幼児リズム運動	幼 児	同上 3	90	91
小計 (16種)			39	1,500	1,384
プレイ	小学生パソコン教室 I	小 学 生	2か月 2	40	22
	小学生パソコン教室 II	同 上	同上 2	40	33
	小計 (2種)		4	80	55
造 形	ワークショップ 子どもの創造性を考える	一 般	2か月 1	30	15
	絵本をつくる	同 上	同上	20	14
	こどもクリエイティブクラブ	小・中・高校生	3か月 11	110	79
	小計 (3種)		13	160	108
音 楽	リズム・ムービング	幼児・小学生	1年 3	45	40
	パーカッション・アンサンブル	小・中学生	同上 1	20	13

## 4 講座・グラフ等

部門	プログラム	対象	コース	定員	受講者数
音 楽	合唱	小 学 生	同上 1	35(人)	26(人)
	ガラムン	小・中学生	同上 1	10	2
	三味線 I	小・中・高校生	同上 1	8	2
	三味線 II	同 上	同上 1	8	9
	シンセサイザー I	中・高校生	9か月 3	24	15
	シンセサイザー II	小・中・高校生	3か月 2	16	10
	おとなためのガムラン	一 般	1年 1	10	15
	混声合唱	同 上	同上 1	15	16
	お母さんもいっしょ(リトミック)	幼児・母親	3か月 10	200	163
	小計 (11種)		25	391	311
	母と子のビデオ教室	幼児・母親	3か月 3	24	9
A V	小計 (1種)		3	24	9
研修教養	手話講座	高校生以上	6か月 2	60	61
	点訳入門講座	同 上	9か月 1	30	32
	お話講座	一 般	3か月 1	30	26
	小計 (3種)		4	120	119
国際交流	切り絵教室	小 学 生	1年 1	25	17
	小計 (1種)		1	25	17
保育研究 開 発	幼児グループ	幼 児	1年 1	22	22
	母子教室	母親・幼児	3か月 4	60	60
	小計 (2種)		5	82	82
小児保健	健康スポーツ教室<肥満児>	小 学 生	1年 1	30	13
	健康教室<ぜんそく児>	同 上	3か月 2	40	18
	母と子のリトミック<ダウン症児>	ダウン症児・母親	同上 3	30	25
	マタニティ・スイミング	妊娠(16週～)	通年 1	各月 35	31
	小計 (4種)		7	135	87
合 計	43種		101	2,517	2,172

## II 活動状況一覧

(注) 1. 以上は、個人を対象とした継続的参加の講座である。

43種 101コース

2. 表の中の「定員」及び「受講者数」の整理方法は、次のとおりである。

- (1) 2コース以上ある講座については、各コースの合計数とした。
- (2) 1年コースの講座については、第1期、第2期及び第3期の平均数とした。
- (3) マタニティ・スイミング(小児保健)については、各月の平均数とした。

3. 夏休み期間等においては、短期の集中講座を実施した。

(体 育)	こども水泳集中講習会	(夏) 6コース	(春) 2コース
	体育教室	(夏) 1コース	
	サマーエアロビクス	(夏) 1コース	
(ブ レ イ)	小学生パソコン教室	(夏) 1コース	(春) 1コース
(音 楽)	リズム・ムービング&パークション	(夏) 1コース	
	三味線	(夏) 1コース	
	シンセサイザー	(夏) 1コース	
	歌舞伎ばやし	(夏) 1コース	
	ガムラン	(夏) 1コース	
(A V)	母と子のビデオ教室	(夏) 2コース	
(小児保健)	健康教室集中講座<肥満児>	(夏) 1コース	

4. 以上のはか、継続的に開講しているが参加者は月ごとに又は1回ごとに変わるものとして次のプログラムを実施した。

成人集中水泳講習会	パソコンこども体験教室
プラモデル模型工作教室	パソコン母親体験教室
一日造形教室	パソコン親子体験教室
公開講座	

### (2) クラブ

部 門	プ ロ グ ラ ム	会員数 (人)
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	296
	マックロード・スポーツクラブ	18
	小計	314
プ レ イ	パソコンクラブ	60
音 楽	児童合唱団	71
	おはやしグループ	6
	ユースバンド	23
	ガムラングループ	7
	小計	107
A V	ファミリー・ビデオクラブ	6
保育研究開発	保育クラブ	718
計	9種	1,205

### (3) こどもの城友の会

家族単位で入会	3,482 家族
会員数の推移	
61年度末会員数	3,332 家族
62年度中の増減	150
入会者	1,218
非継続者	△1,068
62年度末会員数	3,482

(注) 会員数は、昭和62年度末の数である。

## 5 観察・見学実績

## 5 観察・見学実績

(カッコ内は件数)

		都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共的団体		児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークル、これらの中の団体		外 国 人		そ の 他		計	
62 年 度	4月	(2)	4	(5)	65	(2)	42	(1)	2	(10)	113
	5月	(8)	22	(5)	59	(5)	46	—	—	(18)	127
	6月	(9)	25	(12)	173	(3)	18	—	—	(24)	216
	7月	(10)	33	(7)	157	(2)	41	(2)	183	(21)	414
	8月	(6)	18	(4)	95	(4)	35	(4)	177	(18)	325
	9月	(7)	31	(10)	365	(1)	1	(4)	11	(22)	408
	10月	(16)	86	(16)	377	(7)	60	(3)	31	(42)	554
	11月	(7)	18	(14)	426	(2)	6	(1)	5	(24)	455
	12月	(6)	11	(12)	203	(4)	13	(2)	22	(24)	249
	1月	(10)	26	(8)	145	(2)	50	(2)	41	(22)	262
	2月	(10)	115	(15)	272	(2)	33	—	—	(27)	420
	3月	(16)	50	(15)	100	(2)	2	(1)	5	(34)	157
計		(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700

備考 (1) 「外国人」 韓国、北朝鮮、中国、タイ、ネパール、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィジー、スリランカ、パキスタン、オーストラリア、ニュージーランド、ヴァヌアツ、トゥvalu、西サモア、パプア・ニューギニア、イラン、イギリス、西ドイツ、ソ連、カナダ、アメリカ

(2) 「その他」 中央官庁、中央団体、会社等

II 活動状況一覧

## 6 事業経理収支計算書

### 事業経理収支実績

(単位: 千円)

収入の部		備考
款項	62年度	
	62.4.1 63.3.31	
事業収入	1,628,567	
管理運営収入	123,958	入館料収入、友の会収入他
文化体育事業収入	168,768	受講料収入、集団利用収入、一般利用収入、施設使用料収入他
保育事業収入	20,774	保育収入、受講料収入他
小児保健事業収入	11,870	診療収入、相談指導収入、受講料収入他
劇場事業収入	652,729	公演収入、劇場使用料収入他
利用者サービス収入	650,467	宿泊収入、レストラン等収入他
繰入金収入	1,163,645	基金経理より繰入収入等
収入合計	2,792,212	
支出の部		
事業運営費	2,777,224	
役員賃給与	578,189	役員報酬、職員給与他
諸旅費	55,295	
退職手当	26,750	
非常勤嘱託手当	26,591	諸謝金、旅費交通費、事業庁費、業務委託費他
業務諸費用	877,699	
公演事業費	400,749	公演費、公演諸費他
舞台管理費	346,287	事業庁費、業務委託費他
利用者サービス事業費	444,119	営業費、業務委託費他
協賛事業費	17,136	協賛事業費、チャリティ事業費
子どもの城全国連絡協議会助成金	4,410	
特定預金支出		
退職手当引当預金支出	14,988	
支出合計	2,792,212	

### III 各部の活動(1)

1	体育事業部	23
2	プレイ事業部	39
3	造形事業部	58
4	音楽事業部	74
5	AV 事業部	90
6	保育研究開発部	109
7	小児保健部	119
8	劇場事業本部	130
9	全館行事	141

1 体育事業部

1 体育

(1) 62年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 場所 時間	火		水		木		金		土	
	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール	体育室	プール
10:00	グループ活動	レディース スイミング A	レディース リズム ストレッチ A	幼・母水泳A	グループ活動	レディース スイミング B	レディース リズム& ストレッチ B	(6月まで) J I S		幼・母水泳 B
11:00		マタニティ スイミング	幼・母体育	保育研究 開発部		マタニティ スイミング	(6月まで) J I S	西町インター ナショナル スクール		レディース スイミング C
12:00	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ	ヘルス ミック クラブ
13:00		幼児水泳 A		幼児水泳 B		幼児水泳 C				
14:00										
15:00	幼児体育 A	幼児水泳 D	幼児体育 B	小学生 水泳A	幼児体育 C	幼児水泳 E	幼児リズム 運動	幼児水泳 F	一般利用	一般利用
16:00	小学生総 合体育	小学生 水泳B	ジュニア・シニア新体操	小学生 水泳C	小学生 体育	小学生総 合体育	ジュニア・シニア新体操	小学生 水泳D	健康教室	健康教室
17:00	スポーツ クラブ	マッサージ クラブ		コシニアス イミング A	コシニアス イミング B	マッサージ クラブ	コシニアス イミング C	フシニアス イミング		
18:00	ダイナミック ヘルス クラブ	エアロビクス	集中水泳	ダイナミック	エアロビクス	ダイナミック	ダイナミック	集中水泳	ダイナミック ヘルス クラブ	ダイナミック ヘルス クラブ
19:00				ヘルス クラブ		ヘルス クラブ	ヘルス クラブ			
20:00	ダイナミック ヘルス クラブ	エアロビクス	集中水泳	ダイナミック ヘルス クラブ	エアロビクス	ダイナミック ヘルス クラブ	ダイナミック ヘルス クラブ	ダイナミック ヘルス クラブ	ダイナミック ヘルス クラブ	ダイナミック ヘルス クラブ
21:00										

### III 各部の活動(1)

#### 2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈春休み〉 楽しいバドミントン	4.1~4	10:00~ 17:30	体育室	(人) 職員	子どもから成人までだれでも楽しめる、バドミントンの指導と試合。
〈同上〉 体力・成長の記録会	4.1~5	11:00~ 17:00	健康開発室	同上	8種目10項目の体力を測定し、日本人の年齢、性別平均値と比較し、併せてスポーツ参加への動機付けのためのカウンセリングを行う。
〈同上〉 エンジョイスイミング	同上	10:30~ 17:30	プール	職員 プールガード	正しい泳ぎを覚え、水泳を楽しむよう、ワンポイントアドバイスを行う。
〈児童福祉週間〉 空中の演技トランポリン	4.29	11:00~ 17:00	体育室	東京 YMCA トランポリンクラブ 山田光明氏ほか	トランポリンの正しい跳び方を子どもたちに指導。
〈同上〉 スポーツ遊びの記録会	5.3~5	10:00~ 18:00	同上	職員	クロックバスケット、あや跳び、二重跳び、ボーリング、トリップルスラロームなどのスポーツに必要な巧緻性にチャレンジする。
〈同上〉 健康度を測ろう	同上	11:00~ 17:00	健康開発室	同上	8種目10項目の体力測定を行い、バランスよく健康な成長をしているかを測る。
〈同上〉 ご飯1杯のカロリーを運動で消費しよう	同上	10:00~ 17:00	体育ロビー	同上	ご飯1杯約80キロカロリーを運動で消費する体験としてエアロバイクを用いてテストする。
〈同上〉 夏にそなえて楽しく泳ごう	同上	10:00~ 17:30	プール	職員 プールガード	夏に備えて正しい水泳について指導。
赤ちゃんとママふれあい スイミングパーティー	7.3	10:00~ 12:00 12:30~ 14:30	同上		主婦の友社「私の赤ちゃん」編集部と協力し、実施。
〈夏休み〉 こども水泳集中講習会 Aコース Bコース	7.21~25	8:30~ 9:30 9:30~ 10:30	同上	職員 3 外部講師 3	こどもの城の水泳指導のカリキュラムに合わせて、初心者講習を行う。 Aコース 小学生 Bコース 幼児4・5歳
〈同上〉 夏休みの楽しい水泳	7.21~8.31	10:30~ 18:00 (火・木曜は 12:00から)	同上	職員 プールガード	安全、清潔、楽しさをモットーのこどもの城プールで、連日みんなが楽しく泳げるよう指導。7月21日から異常渴水のため公営プールがオープンできないので、多くの参加者があった。

# 1 体 育

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈夏休み〉 美しい動きの体育 (新体操へのいざない)	7.22~25	11:00~ 13:30~ 15:00~ それぞれ1時間	体育室	(人) 職員	新体操の合宿に合わせて メンバーのデモンストレー ションの後、みんなで新 体操を行う。
〈同上〉 新体操合宿	同上	3泊4日	子どもの城ホ テル 体育室	職員ほか	子どもの城に宿泊し、新 体操を練習するとともに よいチームワークをつ くり上げる。 参加費 23,000円
〈同上〉 生活に運動を あなたの健康度を測ろう	7.25~8.30	11:00~ 17:00	健康開発室	職員	8種目10項目の測定を行 い、その結果をもとに 進動の必要性を理解する よう、カウンセリングを行 う。
〈同上〉 スポーツキャンプ	7.27~30	3泊4日	グリーンピア 津南	職員 ボランティア	日ごろ体育室ではできな いスポーツをグリーンピ ア津南の施設を用いて指 導。 参加費 33,000円
〈同上〉 母と子のふれあい広場	7.28 8.19	11:00~ 12:00 13:30~ 15:00	体育室	元NHK体操の お兄さん瀬戸口 清文氏ほか	瀬戸口氏により歌、ダン ス、手遊び、指遊びなど を母と子いっしょに指導。
〈同上〉 こども水泳集中講習会 Cコース Dコース	7.28~8.1	8:30~ 9:30 9:30~ 10:30	プール	職員3 外部講師3	Cコース 小学生 Dコース 幼児4・5歳
〈同上〉 卓球を楽しく	7.29~31	11:00~ 12:00 13:30~ 15:00	体育室	東京都卓球連盟 ママさん選手に よる指導	卓球はだれにでも親しま れるスポーツ。その卓球 をママさん選手が手をと って指導。
〈同上〉 リズムは世界を結ぶ (子どものフォークダン ス)	7.31~8.2	13:30~ 14:30 15:00~ 16:00	同上	フォークダンス 指導者中村富子 氏ほか	世界のいろいろな民族に 受け継がれてきたフォー クダンスのうち、子ども 向きのものを選んで指導 する。
〈同上〉 サマーエアロビクス	8月中 全10回	火・木 18:30~ 19:30	同上	火曜日 波多野恵子氏 木曜日 三矢八千代氏	夏、冷房の中で働く人が エアロビクスで汗を流し、 健康を保つようにアレン ジした教室。 参加費 1回1,500円 5回7,000円
〈同上〉 水泳合宿	8.3~6	3泊4日	上越市 上越高原ホテ ル	職員 ボランティア	合宿により正しい水泳を マスターすることを目指 す。 参加費 33,000円
〈同上〉 体育教室 サマーガンバ'87	8.4~7	9:00~ 10:30	体育室	職員	鉄棒、跳び箱など体育の 不得意な子どもを対象に、 にが手意識を克服するた めの指導。 参加費 5,000円

### III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈夏休み〉 こども水泳集中講習会 Eコース Fコース	8.4~8	8:30~ 9:30 9:30~ 10:30	プール	(人) 職員 3 外部講師 3	Eコース 小学生 Fコース 同上 各コース 700円
〈同上〉 正しい卓球教室	8.5・14・30	11:00~ 16:00	体育室	日本卓球協会ナショナルチーム 強化コーチ 松井康浩氏	松井先生により正しい卓球のグリップ、ヒット、フットワークなど卓球の重要な動きを指導。
〈同上〉 宇宙時代の体操トランボリン	8.15・16	11:00~ 12:00 13:30~ 14:30 15:00~ 16:00	同上	東京 YMCA トランボリンクラブ 山田光明氏ほか	トランボリンに安全で楽しくトライ。
〈同上〉 こども卓球大会	8.18	10:00~ 17:00	同上	職員	近隣区の児童館卓球チームを招待しトーナメントを行う。団体参加 12チーム
〈同上〉 マックロー・スポーツクラブミニバスケット招待試合	8.25	同上	同上	参加チームのコーチと職員	世田谷区若林小学校チーム、葛飾区きらきらジュニアチームが参加。
東京オリンピックと体育の日展	10.3~18	10:00~ 17:30	アトリウム ギャラリー	職員	今、「子どもの城」に来る子どもたちに東京オリンピックが渋谷区で行われたこと、その当時の状況をパネルにより展示。 朝日、毎日、共同通信、オリンピック記念青少年総合センターなどの協力をいただく。
体育の日特別水泳指導	10.10	11:00~ 15:00	プール	三浦直子氏	三浦直子さんはモントリオール・オリンピックの日本代表選手。彼女を迎えてデモンストレーションと実際指導を行う。
〈開館2周年記念〉 スポーツ遊びの記録会	11.1~3	10:00~ 17:00	体育室	職員 ボランティア	二重とび、あやとび、ボーリング、クロッカバスケットのスポーツの基本的巧緻性にチャレンジ。 (2日午後降雨のためフライングディスクがプレイ事業部で行われる)
〈同上〉 家族で体力測定をしよう	同上	11:00~ 17:00	健康開発室	職員	家族参加で和気あいあいと体力測定を楽しむプログラム。
〈冬休み〉 年忘れスポーツ大会	12.26・27	10:00~ 17:00	体育室	同上	年末にバスケット、バドミントンをみんなで楽しむ。
〈同上〉 スキーキャンプ	12.28~31	3泊4日	グリーンピア 津南	専門指導者 ボランティア 8	白銀の世界で、楽しいスキーの講習を行う。 参加費 42,000円

# 1 体 育

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈冬休み〉 正月羽根つきとバトミントン	63.1.3	13:00~ 17:00	体育室	(人) 職員	お正月恒例の羽根つきを行いう。
〈同上〉 ジャンボかるたとり	1.4~6	10:00~ 17:00	同上	同上	犬棒かるた、俳句かるたのジャンボ判を作り、競技する。
〈同上〉 新年体力測定	1.3~6	11:00~ 17:00 (3日は13:00から)	健康開発室	同上	新年の1つの記録として体力測定を行う。
〈春休み〉 こども集中水泳講習会 Aコース Bコース	3.26~30	8:30~ 9:30 9:30~ 10:30	プール	専門指導者ほか	こどもの城水泳指導カリキュラムに添って初心者水泳指導。 参加費 7,000円
〈同上〉 進級進学体力を測ろう	同上	11:00~ 17:00	健康開発室	専門指導者	子どもたちの進級、進学のこの時期に体力測定し、成長の記録とする。

## 3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數						
幼児体育 A	3・4歳	(人) 1学年 39 40 35	(人) 2 40 3	火曜日 14:30~ 15:30	体育室	(回) 14	(円) 17,000		
						14	17,000		
						10	12,000		
幼児体育 B	同上	40	1 43 2 33 3 32	水曜日 14:30~ 15:30	同上	14	17,000		
						14	17,000		
						10	12,000		
幼児体育 C	4・5歳	40	1 36 2 31 3 32	木曜日 14:30~ 15:30	同上	14	17,000		
						14	17,000		
						10	12,000		
幼児水泳 A	3・4歳	40	1 39 2 45 3 43	火曜日 13:30~ 14:30	プール	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
幼児水泳 B	同上	40	1 34 2 39 3 39	水曜日 13:30~ 14:30	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		

III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
幼児水泳 C	3・4歳	(人) 1 40	(人) 34 39 39	木曜日 13:30～ 14:30	プール	(回) 14 14 10	(円) 18,000 18,000 13,000		
		1 40	53 62 60			14 14 10	18,000 18,000 13,000		
		1 40	50 60 62			14 14 10	18,000 18,000 13,000		
		1 40	50 60 62			14 14 10	18,000 18,000 13,000		
幼児水泳 F	同上	1 40	50 60 62	金曜日 14:30～ 15:30	同上	14 14 10	18,000 18,000 13,000		
		1 40	28 27 27			14 14 10	25,000 25,000 18,000		
		1 30	30 32 22		同上	14 14 10	25,000 25,000 18,000		
		1 40	13 10 11			14 14 10	16,000 16,000 11,000		
小学生総合 体育	1～3年	1 40	38 26 22	火・木曜日 15:30～ 16:30	火曜日 体育室 木曜日 プール	28 28 20	22,000 22,000 17,000		
		1 25	38 34 30			28 28 20	24,000 24,000 19,000		
		1 25	38 34 30			28 28 20	24,000 24,000 19,000		
		1 25	38 34 30			28 28 20	24,000 24,000 19,000		

## 1 体 育

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数						
シニア 新体操	小3～ 中3年 女子	(人) 25	(人) 1 31 2 30 3 27	水・金曜日 16:30～ 18:00	体育室	(回) 28 28 30	(円) 24,000 24,000 19,000		
小学生水泳 A	1～6年	50	1 56 2 70 3 60	水曜日 14:30～ 15:30	プール	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
小学生水泳 B	同上	50	1 69 2 71 3 65	火曜日 15:30～ 16:30	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
小学生水泳 C	同上	50	1 64 2 75 3 71	水曜日 15:30～ 16:30	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
小学生水泳 D	同上	50	1 70 2 69 3 58	金曜日 15:30～ 16:30	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
シニア・ スイミング A	小1～ 中3年	30	1 35 2 33 3 28	火曜日 16:30～ 18:00	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
シニア・ スイミング B	同上	30	1 18 2 16 3 13	水曜日 16:30～ 18:00	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
シニア・ スイミング C	同上	30	1 13 2 14 3 13	木曜日 16:30～ 18:00	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		
シニア・ スイミング ・フレッシュ	同上	30	1 31 2 36 3 34	金曜日 16:30～ 18:00	同上	14	18,000		
						14	18,000		
						10	13,000		

III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考		
		定 員	受講数								
レディース・ スイミング A	18歳以上 の女性	(人) 60	(人) 58 59 63	火曜日 10:00～ 11:00	プール	(回) 14	(円) 1単位 20,000 2単位 28,000				
						10	1単位 15,000 2単位 20,000				
レディース・ スイミング B	同上	60	1 57 2 57 3 57	木曜日 10:00～ 11:00	同上	14	1単位 20,000 2単位 28,000				
						10	1単位 15,000 2単位 20,000				
レディース・ スイミング C	同上	60	1 29 2 56 3 53	土曜日 11:00～ 12:00	同上	14	1単位 20,000 2単位 28,000				
						10	1単位 15,000 2単位 20,000				
レディース・ リズム & ストレッチ A	同上	40	1 21 2 17 3 15	水曜日 10:00～ 11:00	体育室	14	1単位 20,000 2単位 28,000				
						10	1単位 15,000 2単位 20,000				
レディース・ リズム & ストレッチ B	同上	40	1 27 2 21 3 22	金曜日 10:00～ 11:00	同上	14	1単位 20,000 2単位 28,000				
						10	1単位 15,000 2単位 20,000				
レディース・ エアロビクス A	同上	40	1 15 2 13 3 8	火曜日 18:00～ 19:00	B リハ ーサル 室	14	1単位 20,000 2単位 28,000				
						10	1単位 15,000 2単位 20,000				
レディース・ エアロビクス B	同上	40	1 21 2 13 3 4	火曜日 19:00～ 20:00	同上	14	1単位 20,000 2単位 28,000				
						10	1単位 15,000 2単位 20,000				

## 1 体 育

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數						
レディース・エアロビクス C	18歳以上の女性	(人) 40	(人) 1 31 2 23 3 9	木曜日 18:00～ 19:00	Bリハーサル室	(回) 14 14 10	(円) 1単位 20,000 2単位 28,000 1単位 15,000 2単位 20,000		
レディースエアロビクス D	同上	40	1 32 2 14 3 11	木曜日 19:00～ 20:00	同上	14 14 10	1単位 20,000 2単位 28,000 1単位 15,000 2単位 20,000		
手足の不自由な子どものスイミング	小1～中3年	30	1 6 2 8 3 9	土曜日 17:00～ 18:00	プール	14 14 10	1単位 20,000 2単位 28,000 1単位 15,000 2単位 20,000		
幼児・母親体育	2・3歳児と母親	30	1 29 2 29 3 30	水曜日 11:00～ 12:00	体育室	10 10 10	16,000 16,000 16,000		
幼児リズム運動	3・4歳	40	1 26 2 30 3 35	金曜日 14:30～ 15:30	同上	10 10 10	12,000 12,000 12,000		
マックロー・スポーツ・クラブ	小3年以上	40	1 30 2 18 3	火・木曜日 16:30～ 18:00	同上	28 28 20			
ダイナミック・ヘルス・クラブ	18歳以上の男女	600	300～ 350	火～土曜日 12:00～ 13:30 18:30～ 21:00 日(祭) 18:00～ 20:00	体育エリア 全城	4か月 1年	22,000 60,000 毎回 300 ビジター 1日 1,500		

## (2) 体育事業部の活動

62年度は開館以来1年5か月の経験を生かし、事業の発展を図るとともに、新しいニーズにこたえるため、改良と新規事業の開発に努め、従来の事業展開の基礎をつくることができた。

### 1) 平常期間

平常期間の一般利用プログラムの開発についてはさまざまな課題があったが、次のプログラムを継続実施し、徐々にではあるが軌道に乗ってきた。

#### ア) 体育室

- ・第1日曜日及びその前日の土曜日＝バスケットボール。
- ・第2日曜日及びその前日の土曜日＝バドミントン
- ・第3日曜日及びその前日の土曜日＝卓球
- ・第4日曜日及びその前日の土曜日＝ミニ・サッカー
- ・第5日曜日及びその前日の土曜日＝ユニホック

以上のプログラムで実施、それぞれの種目に、それが好きな児童を集めて質の高い活動展開を願ったが、季節または時間帯によっては期待したようには参加者が集まらず満足できる成果はあげられなかった。これからも種々工夫をこらして、この方法の発展を図りたいと考えている。

#### イ) プール

土曜日は13時30分から16時まで、日曜日は10時から18時（夏時間）まで、火曜日から金曜日は16時30分から18時までを、人数制限はあるもののそれ一般利用の時間帯として、活動を展開した。

年間の一般利用者数は33,582人で、前年度を約400人上回った。

62年度からプールの一般利用を別料金制とし、入館料のほか6歳未満100円、18歳未満200円、おとな300円を払ってもらうようにしたが利用傾向に変化はなかった。

一般利用の時間帯に来館する人の多くは泳ぎについて目的を持っており、ワンポイント・アドバイス・デモンストレーションなどのプログラムを作ったが、参加の状況、反応などから成功とまではいかなかつた。

#### ウ) 健康開発室

1年を通して8種類、10項目の測定を実施し、日常生活の中に運動を取り入れて、健康を保持する動機付けの機会としようとしたが、前年度に比べ、利用者は半分に減った。62年4月から入館料に加えて1人100円の測定料金を新たに設けたことが響いた。一般にプールの別料金は他の施設でも取る所が多いので違和感はないが、健康開発室は、それが少額であっても敬遠される原因になったようだ。

## 2) 特別期間

### (ア) 児童福祉週間

#### ① 体育室

前半4月29日～5月2日はバスケットボールの指導とゲーム。5月3～5日はスポーツ遊びの記録会を実施した。記録会はクロックバスケット、二重とび、あやとび、ボール・リフティング、的当ての5種目で小学校の中高学年児を中心に多くの参加があった。これらの種目の達成度も非常に高く、スポーツ遊びの記録会も回を重ねるごとに充実してきている。

#### ② 水泳ワンポイント・アドバイス

自由水泳中のプールを見てみると、運動動作を少し直すことにより、より楽しく、また運動効果も高めることができるのでないかと気づくことが多い。そこで、ワンポイント・アドバイスのプログラムを試みたが、アドバイスの申込者は案外少なかった。その少ない人に指導者がつく形となったが意義あるプログラムと考えている。

#### ③ 体力測定とエルゴによるカロリー消費に挑戦

体力測定は8種目10項目について行い、その後、自転車エルゴメーターにより、ジュース1杯、ご飯1杯のカロリー消費を体験しようとのプログラムを実施した。子どもたちはこの自転車エルゴメーターの興味もあり、いつも満員の状態であった。しかし、1人の所要時間が30分近く必要で、多くの人たちに参加してもらえない問題点があった。実施の時期を選ばねばならない。

### (イ) 夏休み

夏休みのプログラムとして次のものを実施した。

#### ① 体育室

- ・のびのび新体操（7月22～25日）
- ・母と子のふれあい広場（7月28日）
- ・リズムは世界を結ぶ（7月31日～8月2日）
- ・卓球の好きな子大集合（8月5・14・30日）
- ・宇宙時代の体操トランポリン（8月15・16日）
- ・ミニバスケット招待大会（8月25～27日）。マックロー・スポーツクラブのデビュー戦として荒川区チーム、世田谷区チームを招待）
- ・子ども卓球大会（8月20日、渋谷、目黒、千代田区及び川崎市から1チーム3人編成の20チームが参加）

以上のうち、「リズムは世界を結ぶ」と「母と子のふれあい広場」は幼児・母親の参加が多く、その他は小学生を中心に多くの参加があった。

#### ② プール

プールでは夏期もマタニティ・スイミング、ダイナミック・ヘルス・クラブの活動があり、これ以外の時間帯で一般利用対応のプログラムを実施した。利用時間が不規則であったが、

### III 各部の活動(1)

「安全、きれい、泳げるプール」のキャッチフレーズのもとに運営し、期間中に前年の夏休みを約900人上回る10,400人の利用者があった。

また、屋上ちびっこプールの安全管理も併せて行い、両方とも無事故で終わった。

#### ③ 健康開発室

「あなたの健康度を測ろう」との呼びかけで全期間を通して体力測定を実施したが前述のように測定を別料金にしたなどの影響から利用者が減少した。しかし、今後もいろいろな機会をとらえて、この測定の呼びかけは続けたい。

また、小児保健部の「こども一日ドック」の体力測定を行い、健康づくりのアドバイスを出すなど協力した。

#### (ウ) 開館記念日

##### ① スポーツ遊びの記録会

今回で5回目を迎えた「スポーツ遊びの記録会」は①クロックバスケット、②二重とび、③あやとび、④ボールリフティングの4種目を取り上げた。いろいろなスポーツ種目の中に含まれる動きの巧緻（こうち）性を競うプログラムとし、腕、足に自信のある子どもたちが多く参加した。

##### ② プール

プールでは11月1日と2日、自由水泳と模範泳法を行い、楽しく、水しぶきを上げた。

##### ③ 体力をはからう

1日と3日、8種目10項目の体力測定を行った。

#### (エ) 冬休み

##### ① 体育室

- ・クリスマス・ゲーム大会（12月24・25日）
- ・年忘れ球技大会（12月26～28日）
- ・新年羽根つき大会（1月3日）
- ・新年スーパーかるた取り（1月4・5日）
- ・今年のスポーツ事始め（1月6・7日）

これらは冬休みになんとなく温か味のあるプログラムとなった。中でもスーパーかるたとりは昔懐かしい“犬棒かるた”や、“俳句かるた”に挑み、体育室では珍しい行事だった。

##### ② プールと健康開発室

プールでは12月に「'87思い出のスイミング」、1月は「新年水泳記録会」を実施した。一方、健康開発室ではこの休みは家族での来館が多いところから「家族で体力測定」のキャッチフレーズで親子の共通体験を進めた。

#### (オ) 春休み

##### ① 体育室

みんなで楽しむレクリエーション（3月26～28日）

こどもバスケットボール大会（3月28～31日）

## 1 体 育

これらは「子どもの城は春らんらん」の全館キャッチフレーズに添って企画し、春の1日子どもたちにとって楽しい催しとなった。

### ② 春のスイスイスイミングと体力の記録をとろう

プールと健康開発室で実施した。体力測定は「学年が上がる節目の時に記録をのこそう」と呼びかけたもの。

### 〔体育の日の特別プログラム〕

体育の日 10月 10日と 11日が連休となった。体育事業部は健康の保持増進に体育の必要性を認識してもらう機会と考え、この時期に特別のプログラムを構成した。

#### 〈特別展示「東京オリンピックと体育の日」展〉

東京オリンピックが東京・渋谷区を中心を開かれてから23年、「子どもの城」を訪れる子どもたちは歴史の1コマとして知っているが、実感することはできない。そのためオリンピック記念青少年総合センター内のオリンピック博物館をはじめ、朝日新聞社、毎日新聞社などから、写真パネルを借用または許可を得て制作し、これをギャラリーに展示した。

「子どもの城」の近くで、この世紀のイベントが開かれたこと、日本選手の活躍の模様、当時の東京の様子などをしのぶかっこうの企画となった。

#### 〈オリンピック選手によるデモンストレーション〉

体育の日の 10 日、モントリオール・オリンピック日本代表として背泳 100 メートル、200 メートルの 2 種目に出場した三浦直子選手を招いた。三浦さんは子どもたちの楽しい質問に答えた後、クロール、バックのデモンストレーションを行い、併せて子どもたちと 25 メートルと一緒に泳いだ。「オリンピック選手に挑戦」と雰囲気が盛り上がる催しとなった。

このほか、健康開発室では体力測定とジュース 1 杯のカロリー消費の体験を自転車エルゴメーターを用いて実施し、体育の日にふさわしいプログラムでにぎわった。

## 3 ) 講座・クラブ・講習会・合宿

### (ア) 講座・クラブ

新規事業として次のものを実施し、成果をあげた。

#### ① 幼児のプログラム

##### (1) 幼児・母親の体育

都市の居住環境には乏しくなった広いフロアで親子が一定の指導理念に基づいて、さまざまな身体運動を行い、互いに手をとって楽しむ。その中で親は我が子の成長を見つめ、子どもは思い切り動ける空間で新しい友達とも触れ合う。このようなイメージで 2・3 歳児と母親を対象に始めた講座で、1 期 10 回とし、年間 3 期実施した。

土井升實先生に指導をお願いし、職員 2 人がつく構成。参加者の交流もよく、子育てについての情報交換の場にもなる副産物もあった。

##### (2) 幼児リズム運動

3・4 歳を対象に始めた。運動にはすべて、リズムが必要であるが、幼児の場合、反応に

### III 各部の活動(1)

よる運動表出の状況を考慮すると、リズム運動による身体活動は運動能力の開発に欠くことのできないものといえる。

この分野の専門指導者を迎えて、クラス編成をして、各学期10回のカリキュラムにより実施した。

#### (3) その他の幼児コース

幼児関係のクラスは「幼児（1・2歳児）と母親の水泳」を1クラス増設し、幼児水泳は3・4歳クラスと4・5歳クラス各3コースを設けた。「幼児体育」は3・4歳児2コース、4・5歳児1コースの3コースとし、年齢的区分を明確にして指導内容もそれぞれ特色を持たせた。

このように1歳児以上ならいざれかの体育プログラムを選んで参加できるようになった。

### ② 小学生のプログラム

#### (1) シニア・スイミングの発展的改組

61年は「小学生水泳アドバンスドコース」を初心者を対象に16時30分から18時まで一般利用の時間帯と併用する形で行ってきた。62年度からこれを「シニア・スイミング」として火曜日から金曜日まで4コースを設け、初心者ばかりではなく、中級者も上級者も受け入れ可能にし、活動展開をより活発にした。

#### (2) マックロー・スポーツクラブ

開館以来、実施してきた「小学生球技」は参加者が減少し、講座として継続実施するにはチームとしての迫力に欠ける状態となった。このため、このコースをクラブとして継続させ、いろいろなスポーツプログラムに取り組むことができるよう改めた。各地の児童館や地域のクラブから、試合などの申し込みがあるが、「子どもの城」にはチームがない。城でもクラブを育て、この種の交流を盛んにしたいと考えての改組である。

### ③ 講座・講習会参加者への主な行事

クラスの新設、改革に含めて、更に質的向上を図るために次のようなプログラムを実施した。

#### (1) 父母の活動参観の実施

平素、観覧室からガラス越しに見ている父母にプール・サイドや体育フロアにおいて指導の状況を直接観察してもらう試み。同時に「子どもの城」の優れた施設や、子どもの進歩の過程なども解説し、父母の理解を深める機会にした。これは各学期とも行った。

#### (2) ガイダンスとカウンセリング

各幼児コースの受講生が小学校に進学する際、どの小学生コースを選ぶか、保護者たちは大きな問題である。そのため、新学年でのクラス教室に当たって小学生コースの実態と受講生の成長、技術的進歩の度合いなどについて父母への説明を行い、喜ばれた。

#### (3) 泳力判定表の作成と保護者への送付

各学期を終了するに当たり、各コースとも担当者と講師が、担当している子どもたちの活動の状況、進歩の過程などを記入した泳力判定表を作成し、保護者へもれなく送付した。この判定表作成は各指導者が共通の基準で、一人一人の進歩の状況を把握することになり、ク

## 1 体 育

ラス運営に重要な意味を持つ作業になった。

### ④ 成人のプログラム

#### (1) レディース・エクササイズ・コース

前年度に引き続いて水泳3コース、エアロビクス4コース、リズム・アンド・ストレッチ2コースの計9コースのうちから1ないし2コースを選択する方式を実施した。このうち水泳は各コースとも満員の盛況であったが、エアロビクス4コースは退潮現象がみられた。今後は全体9コースからの選択ではなく、利用者が参加しやすい時間を考慮して昼間のプログラムと夜間のプログラムを区分しての選択制の導入が望ましいのではないかと考えている。

#### (2) ダイナミック・ヘルス・クラブ

「こどもの城」にある大人のクラブという点で、知名度に乏しく、困難なスタートだったが、5月にほぼ1か月間、東急系電車に額縁広告を掲載したところ、これが功を奏して、8月末までに100人以上メンバーが増え、法人の登録300人を加えると会員は600人以上となった。1日の利用者も4月から10月までは100人以上になった。

プログラムもトレーニングマシン5基が8月に導入され、従来のフリーウエートトレーニング機器とともに充実をみた。

体育室においてもエクササイズ・プログラムとともにテニス、ゴルフなどの練習の機会をつくり好評だった。

毎週火・金曜日の18時から19時まで一般成人の水泳講習会を開き、毎回20人を超える参加者があるが、これはダイナミック・ヘルス・クラブ入会の動機づけをするよい機会となっている。

### (ア) 講習会

#### ① 夏休み

〈こども水泳集中講習会〉 1期7月21～25日、2期7月28日～8月1日、3期8月4～8日の日程で、各期5日間、8時30分～9時30分と9時30分～10時30分の2コース計6コースを実施した。

〈のびのび体育教室〉 8月4～8日、9時～10時30分、比較的体育の苦手、得意な子どもたちが、恵まれた施設で、マット運動、跳び箱、鉄棒にのびのびと挑戦した。

また、小児保健部が実施した健康スポーツ教室（太りすぎクラス）夏休み集中講習会の体育実践指導の面で協力した。

#### ② 春休み

〈こども水泳集中講習会〉 3月26～30日の8時30分からと9時30分からのそれぞれ1時間コースを実施した。この機会に「こどもの城」で水泳をマスターしたいと参加する子どもたちが増え、意欲に満ちた講習会になった。

### (イ) 合宿

#### ① 夏休み

〈スポーツキャンプ〉 7月27～30日、新潟県津南町の「グリーンピア津南」で。参加

### III 各部の活動(1)

者 64 人。

〈水泳合宿〉 8月3～6日，新潟県南魚沼郡六日町で。参加者 41 人。

〈新体操合宿〉 7月22～25日，「子どもの城」で。参加者 50 人。

以上の合宿は、いずれも受講者が対象。平素の講座では体験できない練習やフォーメーションプレー、集団演技の構成などを行い、チームづくりによる機会となった。

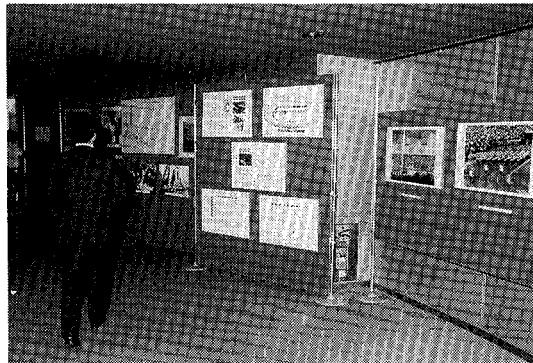
#### ② 冬休み

〈スキー合宿〉 12月27～30日，新潟県「グリーンピア津南」で実施。小学1年生から中学生まで73人の参加者が基礎スキーのトレーニングに励むとともに、体育講座受講者を中心に異年齢の子どもたちがともに集団生活を楽しむ機会となった。

#### 4) グループ活動

グループ活動は1年を通して受け入れ態勢を整えたが、利用グループは2、3月に集中し、年間の平均化ができなかった。

また60、61年と実施してきたジャパンインターナショナルスクールの活動は同校の事情により6月で打ち切りとなった。



いろいろな資料がズラリー「東京オリンピックと体育の日」展  
(10.3～8)



運動技能を楽しく競って－「スポーツあそびの記録会」  
(11.1～3)

## 2 プレイ事業部

### 2 プレイ

#### (1) 62年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム	プレイ ホール ほか	パソコ ンルーム
10:00	グル ープ活 動	グル ープ活 動	パソ コン母 親体 験教 室		グル ープ活 動	グル ープ活 動	グル ープ活 動	グル ープ活 動		一 般利 用	一 般利 用	一 般利 用
11:00												
12:00										般 利 用		
13:00	一 般利 用		一 般利 用		一 般利 用		一 般利 用				一 般利 用	一 般利 用
14:00		一 般利 用										
15:00	おはなし 紙芝居		みんな であそぼ うぐい ム大会		おはなし 人形広 場I				おはなし 人形広 場II 手づくり くらわび 人形劇 場II 第1回 第2回 第3回 第4回			子 ども パソ コン 体 験教 室
16:00		利 用			利 用		利 用	チ ヤラ ジギ ネ ス ゲ ーム 大 会				
17:00		用			用		用					
18:00												

### III 各部の活動(1)

#### 2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
おはなし紙芝居の集い	4~63.3 火曜日	15:00~ 15:30	プレイホール (親子であそぼうたたみの広場)	(人) 職員1 研修教養職員1 ボランティア3	年度当初は水曜日に実施していたが、夏休み以降火曜日に日程を変更した。常時40~50人の参加あり。
みんなであそぼうゲーム大会	4~63.3 水曜日	第1・第3 15:00~ 15:30 第2・第4 15:45~ 16:15	プレイホール (集いの広場) プレイホール (高学年コーナー)	職員2 研修教養職員1 ボランティア2 ~3	年度当初は火曜日に実施していたが、参加者のニーズに合わせて水曜日に日程を変更し、併せて、実施時刻も第1・第3を低学年向きに、第2・第4を高学年向きにと変更した。常時15~30人の参加あり。
おはなし人形広場 I	4~63.3 木曜日	15:00~ 15:30	プレイホール (集いの広場)	職員2	常時40~50人の参加あり。
チャレンジギネスゲーム大会	4~63.3 金曜日	16:00~ 16:30	同上	職員2 ボランティア2 ~3	常時20~30人の参加あり。
おはなし人形広場 II	4~63.3 第1・第3 土曜日	15:00~ 16:00	同上	職員1 外部協力人形劇団	各回50~150人
マックロー人形劇場	4~63.3 第2 土曜日	15:00~ 16:00	同上	職員1 ボランティア 人形劇グループ	各回50~60人
手づくりあそび教室	4~63.3 第4 土曜日	15:00~ 17:00	プレイホール (高学年コーナー)	職員2 ボランティア4	9回実施、延べ58人
プラモデル模型工作教室	4~63.3 日曜日	13:00~ 15:00	同上	職員2 ボランティア1	各回30人

#### 3) 特別期間・季節行事プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈春休み〉人形劇フェスティバル	3.31~4.2	13:00 15:00	フリーホール	(人) 職員2 外部協力人形劇団	3.31 170人 4.1 180人 4.2 170人
〈児童福祉週間〉こどもデパート出店「がんめん屋(玉入れゲーム)」	4.29	11:00~ 15:00	プレイホール	職員1 こども実行委員21	春休み中、一般来館児にポスターで呼びかけ、4月中旬から実行委員会を結成し、出店の計画・準備・実施までを行う。
〈同上〉みんなでつくろうデカデカ鯉	5.2~5	11:00~ 16:00	同上	職員2 ボランティア1 日平均4	長さ15m、高さ2.5mの巨大ごいに1枚ずつウロコをはっていく恒例行事。約3,000人参加。

2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈児童福祉週間〉 マックロー誕生日コンサート・人形劇	5.2~5		プレイホール なかよし広場	職員 2 (人) 企画職員 1 研修教養職員 2 ボランティア 10 外部協力役者・ バンド	企画部・研修教養部との 共同企画事業。マックローの 着ぐるみ、ボランティアのマックロー人形劇の デビュー。
〈同上〉 チャレンジゲーム大会	5.2~5	11:00~ 16:00	ふしぎが丘	職員 2 研修教養職員 2 ボランティア 1 日 15	研修教養部との共同企 画事業。1日約1,000人
〈母の日〉 おかあさんありがとう おたよりづくり	5.10	11:00~ 16:00	プレイホール	職員 2 ボランティア 6	母親の似顔絵入りのお便 り作り。208人
第1回 パンパーチャンピオン大 会	6.13	15:30~ 17:00	同上	職員 2 ボランティア 3	中・高生 7人
〈父の日〉 おとうさんとあそぼう	6.21	11:00~ 16:00	同上	職員 3 ボランティア 10	日ごろ一緒に遊ぶ機会の 少ないおとうさんと3種 類の遊びを通して触れ合 いの場を設ける。約200人
〈七夕まつり〉 おねがいしよう	6.30~7.5	13:00~ 16:00	同上	職員 2 ボランティア 1 日平均 3 協力 AV 事業部	日本伝統の七夕行事に “不思議テレビ”を加え て実施。1日平均300人
七夕まつりクイズ大会	7.4・5	1日 2回	同上	職員 1 研修教養職員 1 ボランティア 延 べ 17	研修教養部との共同企 画事業。1回平均約100人
ちびっこプール ラジコンボート操縦会	7.2~19	13:00~ 16:00	ちびっこプー ル	職員 2 ボランティア 1	1日平均約50人
〈夏休み〉 屋上ちびっこプール	7.21~8.31	11:00~ 16:00	ふしぎが丘	職員 1 アルバイト 5 体育プールガーデ 3	利用者 7月 2,103人 8月 3,531人 合計 5,634人
〈同上〉 ちびっこプールびらきゲー ム大会 ・つりっこゲーム ・宝さがし	7.21	同上	ちびっこプー ル	職員 1 研修教養職員 1 ボランティア 10	研修教養部との共同企 画事業。約300人
〈同上〉 インドアキャンプ I 期 〃 II 期 〃 III 期 〃 IV 期	7.22・23 7.29・30 8.25・26 8.27・28	1泊 2日	ふしぎが丘 ちびっこプー ル プレイホール ほか	職員各期 3 ボランティア各 期 8	参加者、小学校 2~4 年生 I 期 30人 II 期 30人 III 期 28人 IV 期 29人
〈同上〉 夏まつり	8.8・9	15:00~ 17:30	ふしぎが丘	職員 協力渋谷区青少 年団体	全館企画事業。 縁日への出店。

### III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈夏休み〉人形劇フェスティバル	8.14~16	1日 2回	音楽スタジオA	職員 2 (人) 音楽職員 2 外部協力人形劇団	1回約 250 人
〈同上〉こどもの城の夕すずみ	同上	15:00~18:00	ふしぎが丘	職員 1 企画職員 1 研修教養職員 1 ボランティア 1 日 8 外部協力団体 “サウンド紙芝居”	全館事業 “スイカわりゲーム”と “bingoゲーム” “サウ ンド紙芝居”に “ミニ花 火大会”という4つのパ ラエティーに富んだ催し。
〈同上〉こどもの城情報局	8.25~31		プレイホール		夏休み中に起こったこと を中心に夏休み中の天 気や “ワンポイント工作” などについての展示。
〈同上〉ちびっこプールじまいゲーム大会	8.30・31	11:00~16:00	屋上ちびっこ プール	職員 1 研修教養職員 1 ボランティア 10	研修教養部との共同企画 事業。約 200 人 水鉄砲船うちゲーム 博士クイズスペシャル
〈敬老の日〉おじいちゃんおばあちゃんにおたよりしよう	9.12・13 ・15	11:00~16:00	プレイホール	職員 2 ボランティア 3	延べ約 1,000 人
〈同上〉おじいちゃんおばあちゃんに教えてもらおう	9.13	11:00~15:00	同上	職員 2 外部協力：渋谷区老友会 15	昔遊びを通して、お年寄 りとの交流を図る集いの 行事。渋谷区の老人会の方々 が協力してくださった。
〈体育の日〉親子であそぼう大きな集い	10.10・11	12:00~15:00	プレイホール	職員 2 外部協力団体 小学館レクリエーションリーダー ズクラブ	1回目 160 人 2回目 120 人 合計 280 人
〈同上〉オリンピックラリー	同上	11:00~16:00	全館	職員 2 研修教養職員 2 ボランティア 延べ 35	研修教養部との共同企画 事業。延べ 300 人
〈開館記念日〉チャレンジゲーム大会	11.1~3	11:00~16:30 11.2は 13:00~ 16:30	ふしぎが丘	職員 2 研修教養職員 2 ボランティア 1 日平均 15	研修教養部との共同企画 事業。3日間延べ約 1,200 人
〈同上〉人形劇フェスティバル	同上	1日 2回	フリーホール	職員 2 ボランティア人形劇グループ 外部協力人形劇団	1回平均約 170 人
〈同上〉屋上ネット完成記念 フライングディスク大会	同上	11:00~ 16:30 11.2は 13:00~ 16:30	11.1・3 ふしぎが丘 11.2 2雨天のため体育室	職員 2 11.2 フライングディスク協会 理事 師岡先生	屋上ネットの完成を記念 して新しいスポーティーゲーム “フライングディスクゴルフ”と “アキュラシー”の紹介を行う。

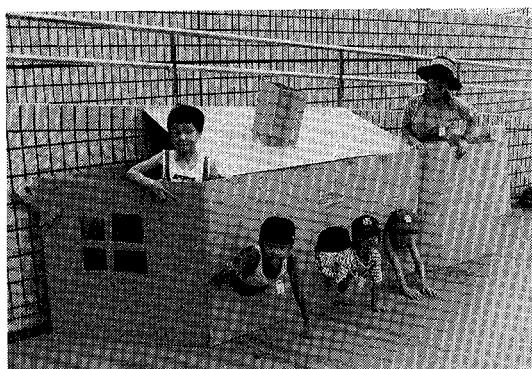
## 2 プレイ

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈冬休み〉 クリスマス 人形劇フェスティバル	12.25~28	1日2回	12.25・26 ・28 フリーホール 12.27 音楽スタジオA	職員2 (人) 12.27のみ音楽 職員2 婦人ボランティア影絵グループ 外部協力人形劇団	1日平均100人
〈同上〉 クイズ大会 「こどもの城の博士3人に聞きました」	12.24~28	同上	プレイホール	職員3 研修教養職員1 ボランティア各回5	延べ約350人
〈同上〉 屋上ネット完成記念第2弾 爆笑ウルトラゲーム大会	同上	同上	ふしぎが丘	職員1 研修教養職員2	研修教養部との共同企画事業。屋上ネットの完成を記念し、併せてグループクリエーションのミュレーション的ゲーム大会を実施。延べ426人
〈同上〉 親子であそぼう昔あそび	63.1.3~7		ふしぎが丘 プレイホール	職員2 研修教養職員2 ボランティア1 日平均15	研修教養部との共同企画事業。今年の特集は「こま」
〈同上〉 もちつき大会	1.5		なかよし広場	職員2 協力: 渋谷区青少年団体	全館事業
〈節分会〉 必殺鬼たいじ	1.30・31	11:00~ 16:00	全館	職員3 企画職員3 AV職員3 研修教養職員1 ボランティア1 日平均10	造形・AV・研修教養部との共同企画事業。延べ約1,500人
〈同上〉 大まめき大会	1.31	12:00 13:00	プレイホール	職員3 企画職員2 研修教養職員1 ボランティア5	研修教養部との共同企画事業。延べ約1,000人
〈ひなまつり〉 レッツトライ五人ばやし	2.27・28	11:00~ 16:00	プレイホール 4階全域	職員2 音楽職員1 アルバイト4 AV職員3 ボランティア1 日平均12	音楽事業部との共同事業。延べ約800人
〈春休み〉 チャレンジゲーム大会	3.26~30	11:00~ 16:00	ふしぎが丘	職員2 AV職員3 研修教養職員2 ボランティア1 日平均10	研修教養部との共同企画事業。1日平均約650人

### III 各部の活動(1)

#### 4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數						
小学生 パソコン教室 I A	4 ~ 6 年	(人) 20	(人) 14	日曜日 10:30 ~ 12:30	パソコン ルーム	4.19 ~ 5.24 全 5 回	(円) 5,000 登録料 1,000	外部講師 1 人	
小学生 パソコン教室 I B	同上	20	14	10:30 ~ 12:30	同上	8.18 ~ 22 全 5 回	5,000	同上	
小学生 パソコン教室 I C	同上	20	8	日曜日 10:30 ~ 12:30	同上	10.10 ~ 11.8 全 5 回	5,000 登録料 1,000	同上	
小学生 パソコン教室 I D	同上	20	16	10:30 ~ 12:30	同上	63.3.26 ~ 30 全 5 回	5,000	同上	
小学生 パソコン教室 II A	同上	20	19	日曜日 10:30 ~ 12:30	同上	6.14 ~ 7.12 全 5 回	5,000	同上	教室 I の受講者に限 る。
小学生 パソコン教室 II B	同上	20	14	日曜日 10:30 ~ 12:30	同上	63.1.17 ~ 2.14 全 5 回	5,000	同上	同上
パソコンクラブ	小 4 ~ 高 3 年	—	57	水・木曜日 14:00 ~ 17:30 土・日曜日 10:00 ~ 17:30	同上	随 時	年会費 3,000	職 員	



ぼくらのお家だーインドア・キャンプ (8.24)



節分の鬼たいじ (63.1.30,31)

## (2) プレイ事業部の活動

プレイ事業部は前年度、シミュレーション的活動として、子どもたちの発達やニーズに合わせて、年齢別コーナーを設け、平日の定期イベントを実施し好評を得た。そこで、本年度はこれを更に進め、「幼児コーナー」を33畳敷きの畳とし、それに隣接して子どもたちが演じる移動式人形劇の館を置いた。同様に「ブロックコーナー」も新設し、さまざまな種類のブロックを4か月交換で楽しめるスペースとした。併せて、保護者の休憩コーナーもプレイホールの一角に設け、AV事業部の協力を得てインフォメーションのモニターテレビを設置した。屋上ふしげが丘には「ネット広場」が新設され、ボール遊びをはじめとする運動的な遊びの幅を広げた。また、活動面では、昨年実施してきた「週間小イベント」も、子どもたちの興味に添って、内容を変更しながら行った。

### 1) 平常期間

#### (ア) プラモデル模型工作教室

毎週日曜日 13:00~15:00

本年度、教室は全55回開催され、延べ1,492人が参加した。内容としては、以前よりも更に、バリエーションが広がり、プラモデル以外の模型（木工作、模型飛行機等）が増加している。参加者の傾向として、以前から続いている低学年向きプログラムの参加率が高いことのほか、遠方からの参加が多い（都下、他県からの参加は全体の34.5%）ことがあげられる。その半面、城の周辺部である渋谷、港の両区の子どもが減少し（ゼロの時もある）休日の来館者の傾向が、ここでも顕著に現れている。

また前年度から始まったチャリティーとしての養護施設や母子寮の子どもたちの招待は、日常的に続けられるようになり、本年度は、50人余の参加があった。

#### (イ) おはなし紙芝居のつどい

4~7月 毎週水曜日 15:00~

9~63.3月 每週火曜日 15:00~

このプログラムは、紙芝居を通じて子どもたちと触れ合う場をつくることを、第一の目的としている。

紙芝居をうまく演ずることよりも、紙芝居を演じて子どもたちとコミュニケーションを図り、穏やかな雰囲気づくりに努力している。

プログラムのディレクターは職員が行うが、実際に紙芝居を演じて、この集いを進めているのは、主にボランティアである。

ボランティアの努力が実を結び、9月以降この集いに来てくれる子どもたちの常連ができ、3~5歳ぐらいの約30人が常に参加してくるようになった。今後も、この集いを通じて子どもたちとの、コミュニケーションづくりを積極的に進めていきたい。

### III 各部の活動(1)

#### (ウ) みんなであそぼうゲーム大会

4～7月 毎週火曜日 15：00～

9～63.3月 第1・3水曜日 15：00～

第2・4水曜日 15：45～

夏前までは、火曜日に実施していたが、来館者のほとんどが3歳前後のため、予定したプログラムによるゲーム大会実施は不適当と判断して、水曜日に変更（東京都の公立小学校は水曜日午後の授業がないので、学童の来館が多い）。この時点で対象に合わせてプログラムの変更を試みた。つまり第1・3水曜日は、幼児を対象にソング・ゲーム、パネルシアターを織り交ぜた「つどい」のプログラムを行った。これは幼児に楽しいレクリエーションの体験とみんなで“つどう”ことの楽しさの提供を目的とした。ソングを中心としたため小さな子から参加できた。また第2・4水曜日は、小学生を対象にユニカールやシャッフルボードといった新しいゲームを使って、子どもたち同士をグループ分けしてゲームを進める形をとった。新しいゲームに興味を示し、何度も通う子もいたが、テクニックが必要なゲームのため、低学年には難しいようだった。また、隔週の実施は子どもたちの気持ちをつなぎとめるには無理があったように思われる。

#### (エ) おはなし人形広場I

毎週木曜日 15：00～ (7.23～8.27・12.24～63.1.7を除く)

舞台はついたてに黒布を掛けたものをけこみとし、移動式のパーテーション2枚でそでを作る簡易舞台。上演は、呼びかけ、手遊び、司会人形の顔見せ、人形劇、握手といった順序で、4～7月は、テープにせりふを録音し人形の動きを合わせるもの（不思議なたまご、3匹の子ブタ、日天さん月天さん、七夕）を行った。司会人形も言葉を発していくなかったが、子どもたちが常連化し、いろいろな反応が返るようになってきたので9月からは肉声で上演し、手遊びにもパネルシアターを加え、より子どもたちと対話できる形にした。司会の人形も言葉を発するようにし、司会の人形が人形劇を上演しているという前提が、子どもたちにも定着していたように思われる。また、年度の前半は子どもたちが、それぞれブロックやいすを持ち寄り客席を作ったが、9月からはじゅうたんを敷いて、場所設定をしたところ、落ち着いて参加できるようになった。本年度はパネルシアターも作り、手遊びにも幅ができたと思う。

#### (オ) チャレンジゲーム大会

毎週金曜日 16：00～16：30

このプログラムは、1つのゲーム記録に挑戦し、自分の記録を他人と比べることで遊びに對して、より興味を持たせ新しい友達関係づくりをねらいとするものであった。

形式は、毎回1種目を一定期間（約1か月ごと）ローテーションを決めて行った。

種目は、「クッションボール」「ヒモまきスピード」「Lトンスピード通りぬけ」「おせんべい屋さんゲーム」「わなげ大会」。参加対象は、幼児から中学生までとしたが、実際に参加したのは、4～6歳が中心であった。平均参加者数は約20人。

## 2 プレイ

1年目は、まず多くの人にこの大会を知ってもらおうということで対象範囲を広げた。その結果、多くの児童の参加があった半面、平均年齢が低くなつたため記録に挑戦する大会という形にはなりにくく、ゲーム種目も、幼児向けが多くなってしまった。

### (カ) おはなし人形広場II

毎月第1・3土曜日（4.4・5.5・8.5・8.19・63.1.2を除く）

15：30～16：30（11.21から15：00～16：00）

外部協力団体による人形劇、パネルシアターで、第1土曜日は「木ぐつの木」、第3土曜日は「ペペットマーケット」のプロデュースによる公演。15時の開演で行っていたが、冬時間帯になり対象となる幼児の帰宅時間が早くなつたため11月21日から、15時開演に変更した。

会場設定も最初、幼児コーナーのマットの上を使っていたが、ほかの遊びのじゃまになつてしまつて6月20日からブロックコーナーの横の空間に移つた。しばらく床に子どもたちがいすやブロックを持ち寄つて会場を作つていたが、9月からじゅうたんを敷くようにしたところ、集まりもよくなり上演中も落ち着いて参加できるようになった。

### 62年度・上演協力者

木ぐつの木・わけちゃん・お花見劇場・高津人形座・ありんこ・あゆたみ・  
夢ま～るく社ほか。

### (キ) マックロ一人形劇場

毎月第2土曜日 15：00～（4・5・8・10・12月を除く。9月は第3土曜日  
及び5・11月の人形劇フェスティバルで上演）

子どもの城ボランティア人形劇グループによるマックロ一人形劇は、創作戯曲4本の上演のほか、季節行事、恒例のクイズ大会「3人の博士クイズ」などの、日常活動にも顔を出して、徐々に、「子どもの城」の行事として定着してきた。また、フェスティバルの上演ごとに新しい仲間が登場し、本年度でマックロー、フーコ、ウザエモン、カナの4人がそろつた。来年の誕生日（5月5日）にも1人がお目見得し、仲間が出そろう予定である。

### (ク) 手づくりあそび教室

毎月第4土曜日 15：00～17：00

参加する子どもたちが身近にある物を利用して自分の遊具を作り上げることにより、創造性を養い、手作りのおもちゃで遊ぶ楽しさを知ることとともに同じ作業を通して協調性・社会性を養うことを目的として実施した。

この教室では、比較的高い学年の子ども（小学3年生以上）を参加対象として考えた。各回ごとに2時間の活動の中で、工作の時間・それを使っての遊び・作ったものを更に工夫する時間に分けて行った。

本年度は、各題材の選択等の問題により、製作の時間がほとんどとなつてしまい、遊ぶ時間・工夫の時間をなかなか十分にとることができなかつた。また、対象を小学3年生以上としたことにより、参加人数が減少する傾向も見られたが、後半は同じ子どもが数回続けて参

加するなど、定着してきている様子も感じられた。

## 2) 特別期間

### (ア) 児童福祉週間

「みんなでつくろうデカデカ鯉」「おもしろチャレンジゲーム大会」「鯉のぼり掲場式」「マックローデビューコンサート」「マックロー人形劇場」を行った。

#### ① デカデカ鯉

昨年と同様にウロコの型を型紙より写し、ウロコをクレヨンと絵の具で色をつけ、乾燥させてから鯉にはりつけていった。終了時までに3,000人余の参加者によって、プレイホールの中に全長15m、高さ2.5mの巨大な鯉が完成した。

#### ② チャレンジゲーム大会

従来と同様に、さまざまな種目で、自己最高得点にチャレンジするゲーム大会として行った。今回の大会で初めて最高得点者の表示をし、子どもたちの参加意欲を高めることに成功した。また、過去のゲーム大会のパネル展示も好評で、子どもたちに非常な興味を持って見られていた。

#### ③ 鯉のぼり掲場式

屋上遊園で行い、マックローのぬいぐるみが初登場する中、参加者といっしょに鯉のぼりを揚げた。また「マックローデビューコンサート」では、同じくぬいぐるみの登場と、マックローのテーマソング3曲が披露された。「マックロー人形劇場」は、フリーホールで上演され、子どもの城ボランティアの人形劇グループがデビュー作を演じた。ゴールデンウイークを通して、上記のほか、さまざまなイベントにマックローが顔を出し、『子どもの城のマックロー』を来館者に広めることができた。

#### ④ こどもデパート

普段、「子どもの城」へ一般来館している子どもたちに呼びかけ「こどもデパート」に参加してもらった。春休みからポスターなどで委員を募集し、最終的に小学3年生から大学1年生までの21人が集まった。第1回の会合で『がんめん屋』と名づけたゲームのお店を出店することを決め準備を進めた。当日も受け付け、呼び込み、ゲームの進行役などを分担し、スムーズに運営することができた。前年の「こどもデパート」では、「子どもの城」の講座やクラブのメンバーだけで運営されており、全く組織されていない一般の子どもたちに呼びかけての参加は初めて。このように知らない子同士がいっしょになって活動できたことは、今後の活動の新しい方向を示すものとして大きな意味がある。

### (イ) 夏休み

「ちびっこプール」「インドアキャンプ」「子どもの城情報局」を行った。「ちびっこプール」では、「プール開きゲーム大会」「プールじまいゲーム大会」も併せて行った。

#### ① ちびっこプール

「ちびっこプール」は、7月の上旬から屋上遊園に設置され、オープン（7月21日）ま

では、プールを使って小学生を対象にラジオコントロールボートの操縦会を開いた。この夏は、水不足で近隣のプール閉鎖もあり、状況をうかがいながらのオープンであった。8月に入って、水不足も解消し、また、2年目ということで、PRも浸透して、利用者の数は5,634人と、昨年を約500人上回った。

「プール開きゲーム大会」は、プールサイドのビニールプール内にプラスチック板の魚を沈め、それを釣り上げるゲームと、プール内で行う水上ゲームを行った。釣りゲームは、手軽に参加できるため、用意した300個の魚は短時間のうちに、なくなってしまった。また、水上ゲームの参加は、水温、気温ともに低かったため、ごく少数になってしまった。

「プールじまいゲーム大会」（8月30・31日）は、水鉄砲を使って船を進めるゲームと、プールサイド博士クイズを行った。水鉄砲を使ったゲームは様式が単純で、参加しやすいわりに帆と水鉄砲の調節が難しく、年齢の高い子も数多く参加した。またプールサイド博士クイズは、博士クイズの特別版として、プレイホールで行うときより、ゲーム的要素を多くし、参加者とリーダーとの触れ合う機会が増えたことで盛り上がっていた。

### ② インドアキャンプ

外泊経験の少ない比較的小さい子どもたち（小学2～4年生）に楽しく規律ある合宿を体験をさせることを目標に、昨年から始めた。昨年は1回のみの実施だったが、今年は4回に増やし、計117人の参加があった。屋上のふしげが丘でダンボールの家を作り、実際に夜はそこで泊まる経験や、野外炊事、水上ゲームなどを通して新しい友達づくりを行った。

### ③ 子どもの城情報局

今まで動的なプログラムが多いプレイ事業部において、初めて静的なプログラムといってよい展示の行事であった。

最初の内容は、夏の出来事を振り返り、興味を持ったことについて、もっと、詳しく調べられる本や城にあるビデオを紹介し、おもしろいと思ったら、もっと、じっくりと調べてみようという動機づけをねらった。しかし、夏の出来事の新聞記事や、その展示方法とのつなげ方が十分でなく、スクラップブックのようになってしまった。次は、子どもたちに読んでもらいたい本や行って楽しい施設、簡単に楽しめる工作の紹介をし、ミニワークショップを開いた。今回は、子どもより親が熱心にメモをとる姿が多く目についた。

### (ウ) 冬休み

「みんなで飾ろうクリスマス」「爆笑ウルトラゲーム大会」「子どもの城の博士3人に聞きました」「親子であそぼう昔あそび」を行った。

### ① みんなで飾ろうクリスマス

造形スタジオで実施されている『アニマルクリスマス』と連携し、動物の絵を子どもたちが描き、クリスマスツリーのパネルに飾るプログラムをプレイ事業部と造形事業部が共同で行った。実施中は、来館者が極端に少ない日が続き、いまひとつ盛り上がりに欠けた。しかし、ワークショップでは担当者と、子どもが和気あいあいの雰囲気で行うことができた。

② ウルトラゲーム大会

新しくできた屋上ネット広場を来館者に PR するとともに、そこで楽しんでもらうため、ネットと人工芝を利用してだれでも参加できるレクリエーションゲーム大会を実施した。初回は学校の休みの期間に入っていたので参加も少なかったが、回を重ねる度に増え、年齢も小学校中・高学年や中学生が多く、高校生や大人の参加もあった。反省としては、賞品を多数出したため、何回も参加してくる子が多く、また、ゲームの中で不正をしようとする子が見受けられたこと。

③ 博士 3 人に聞きました

新しい期のボランティアが中心となり企画、運営を行った。そのため初回は、博士クイズを 1 度も体験したことのないメンバーばかりであったため、職員が博士となり実施した。クイズ内容は事前にクリスマスに関して、よく調査し、問題を作成した。お正月に関しても同様にし、難しいものに関しては手直しをした。チャンピオンには、手作りのリース、絵馬を配布した。特に願いごとを書く絵馬が喜ばれた。

＜出題の一例＞

「クリスマス」

○サンタクロースは何という国に住んでいるでしょう

- |                  |        |
|------------------|--------|
| 1. 北海道           | .....× |
| 2. 北極            | .....× |
| 3. フィンランドのハーラナ地方 | .....○ |

「お正月」

○ヘビやカエルはなぜ冬眠するのでしょうか

- |              |        |
|--------------|--------|
| 1. 体温が下がるから  | .....○ |
| 2. からだが疲れるから | .....× |
| 3. 空腹になるから   | .....× |

④ 親子であそぼう昔あそび

お正月恒例の昔あそびで、今回はメインを“こま”に絞り、題も『こま、コマ、独楽』とし、手作りのこまやさまざまな木地ごまを集めてみた。年始の屋上は 30 分といられないほどの寒い日が続いたが、広場の屋上ネットの中は、いつも大勢の人が集まっていた。また、竹馬も根強い人気があり、広さや人員の関係で昨年ほどの組数は用意できなかったが大好評であった。屋内でもプレイホールで例年どおりジャンボ福笑い、トントン紙相撲初場所、双六（すごろく）などを実施し好評であった。

上記のほかにも、フリーホールでは「爆走レーシングカー走行会」が開かれ、多数の来館者が楽しんだ。

(二) 春休み

「チャレンジゲーム大会」を行った。恒例のゲーム大会であり、地味ながらたいへんまとまりのある大会となった。その大きな要因はボランティアの新人（10 期、11 期）のメンバー

の子どもたちに対する、とても一生懸命な温かみのある言葉かけがあったためである。また、先輩たちが、よく協力し、フォローして、全体の運営を陰で支える場面もあった。また、AVとの協力により、スーパーチャレンジャーの表彰をビデオ撮影して全館に放映したこと、子どもたちの参加意欲をより高めることができた。他部との連携がスムーズに行われたことも成功の要因の1つである。

### 3) 季節行事、その他特別行事

#### (ア) 人形劇フェスティバル

夏休み、冬休み、春休みの特別期間と開館記念の行事として実施した。これは、よい環境で、よい人形劇を、多くの子どもたちに提供することを目的としている。開催・日時・主演団体・演目等は、以下のとおりである。

#### 春休み人形劇フェスティバル

月 日	出 演 者	演 目	時 間	人 数
3 . 31 4 . 1	劇団あゆたみ お花見劇場 和気みずえ	負けウサギ	13 : 00	80
		ネコふんじゅった	15 : 00	90
		カレーライスの歌	13 : 00	80
		シャボン玉	15 : 00	100
		だあーれ		
4 . 2	劇団バンビ	なかよし		
		リンゴたべたいネズミ	13 : 00	90
		3 匹のヤギのガラガラドン	15 : 00	80
		はだかの王様		

#### 夏休み人形劇フェスティバル

月 日	出 演 者	演 目	時 間	人 数
8 . 14	ばねるっぽ	げんこつ山じゃんけん	13 : 30	約 500(人)
		しゃぼん玉	15 : 30	約 300
		星の数		
		おばけなんてないさ		
		おもちゃのチャチャチャ		
8 . 15	くまちゃん お花見劇場	人形劇・アヒルの散歩		
		げんこつ山じゃんけん	13 : 30	約 200
		たまご	15 : 30	約 200
		だあれ		
		海		
8 . 16	スケッチブック	ねこふんじゅった		
		ネコの写真館		
		洗たくかあちゃん	13 : 30	約 150

### III 各部の活動(1)

#### 開館2周年記念人形劇フェスティバル

月 日	出 演 者	演 目	時 間	人 数
11. 1	ぱねるっぽ	カレーライス	13:00	約 120
		私のワンピース	15:00	約 100
11. 2	木ぐつの木	不思議なポケットほか		
		毛虫の体操	14:00	100
11. 3	H O P P Y	カラスの手品師	15:30	60
		ライオンとうさぎ		
		動物コンサート	13:00	250
		ピエロ	15:00	400
		3匹の子ぶた		

#### クリスマス人形劇フェスティバル

月 日	出 演 者	演 目	時 間	人 数
12. 25	木ぐつの木	毛虫の体操	13:00	60
		カラスの手品師	14:30	75
		かくれんぼ		
12. 26	婦人ボランティア	くるみ割り人形	13:00	65
			14:30	55
12. 27	ぱねるっぽ	あわてんばうのサンタクロース	13:00	45
		星の歌	14:30	35
12. 28	パパット・マーケット	マッチ売りの少女		
		私のワンピース		
		あひるの散歩		
		なかよし	13:00	65
		だるまちゃんとてんぐちゃん	14:30	70

#### (イ) 母の日

前年度の参加者数から、約500組分の材料を用意したが、予想に反し、ゴールデンウイークあけの日曜日ということで来館者は少なく、参加者は208人であった。内容は、おかあさんが、三角(きりん)、丸(ライオン)、四角(フランケンシュタイン)の窓から顔を出し、それを見ながら子どもが似顔絵を描く。用紙にノリ付きのシールを使用したため、裏表がはっきりせず、間違えて裏を使ってしまった子も見られた。プログラムとしては、はさみを使用することなど、前年度に比べて多少高度であったが、思ったより上手にできていた問題はなかった。

#### (ウ) バンパーチャンピンオン大会

プレイホール内、高学年コーナーに設置してあるビリヤードに似たバンパーの初の大会を行った。日ごろ、別々にゲームしている子どもたち同士が知り合うことができた。

## 2 プレイ

小学生の部は、参加者が少なく、中止になったが、中・高校生の部は7人がトーナメントの形式で緊張した試合を続けた。参加者の間からは、次回の開催を望む声が多く、小学生の部と併せて、広報の方法や、日程の設定などを、検討しなければならない。

### (エ) 父の日

「折り紙ひこうき」の参加者の総数は約250人、「同記録会」の参加組数（親子）は1回目28組、2回目26組であった。また、「おとうさんと楽しむバンパードーム」は、多数の保護者の方が喜々として我が子とゲームに興じていた。「立体大型パズル」に関しても楽しんでいる様子がうかがえたが、難しいこともあってやり方の表示等をもっと工夫する必要があった。全体として、父親の来館が多く、父の日らしいプログラムとなった。どちらかというと、大人のほうが楽しんでいたように思われる。

### (オ) 七夕

プレイホールの真ん中に、壁で囲んだ館を作り周りに竹を巡らした装置はよく目立ち、短冊に願いごとを書く子どもは多かった。またAVの協力により、内部にいじわるカメラを設置、壁の穴からこれがのぞけるようにし、遊びの要素を高めることができた。短冊作りの指導・協力をしていただいた婦人ボランティアのみなさんが子どもたちといっしょに活動している姿が印象的であった。

### (カ) 敬老の日

「おしえてもらおう」のコーナーでは、地元の渋谷区老友会の方々の協力による、お年寄りと子どもたちの交流プログラムが行われた。あやとり、おはじき、お手玉などの昔遊びは、畳のコーナーにテーブルを作り、参加した子どもたちが自然に老人の方々に溶け込んでいた。手品のコーナーでは、お年寄りの手品に来館児が盛んな拍手を贈った。

「おたよりしよう」のコーナーでは、ハガキに「」と「」の線を印刷しておき、子どもたちのイメージにより自由に似顔絵などを描かせた。参加者は、1,048人であった。

### (キ) 体育の日

#### ① オリンピックラリー

こどもの城館内の数か所にポイントを設定し、ウォークラリー形式で地図を頼りにゴールまでたどり着く。各ポイントには、体育の日にちなんでオリンピックの種目をもじった課題があり、成績結果によって点数がつく。また、ゴールまでの時間にラッキータイムを設定し、ちょうど同じタイムでゴールした参加者には賞品を渡した。種目、方法等、ユニークで楽しめるプログラムで好評だった。特に、コンピュータでプリントした、タイム、得点を表示した参加証が人気を集めていた。

#### ② 親子であそぼう大きなつどい

『小学館レクリエーションクラブ』の協力によるプログラム。予想以上に親の参加が多く、やり方次第で大人も参加することを改めて発見した。幼児だけでなく、小学生も意欲的に加わり、特にダンボールくずしでは中学生もいっしょになっていた。しかし、オープンなスペースでの集いのため、プログラムのテンポに間があくと、子どもたちが離れていってしまう面

も見受けられた。

(ク) 開館2周年記念

① チャレンジゲーム大会

回を重ねるごとに、この大会を目当てに来館するファンが多数見られた。また今回は、この大会に『名人に挑戦』というテーマを決めて進めたため、内容を知らなかった来館者も気軽に参加できた。また、恒例となっている行事のため、スムーズに準備、運営が行われた。

② 屋上ネットオープン記念ゲーム大会

日本フライングディスク協会の師岡文男先生をお迎えし、フライングディスク（フリスビー）の投げ方、競技の仕方を指導していただいた。フリスビーを投げて遊ぶ遊具としてばかりでなく、「ディスクゴルフ」「アキュラシー」といった競技方法をスポーツの1つとして紹介してもらえたのがよかったです。参加者は、幼児から大人まで、特に小学校高学年や大人が多くいた。専門家の指導を受けて、参加者の上達が早く、質の高い競技会となった。

(ケ) 節分

「大まめまき会」「必殺 鬼たいじ」を行った。一般家庭でもなじみが深く、「子どもの城」でも恒例となっている豆まき（「大まめまき会」）だけでなく、本年は昨年の節分で行われたワイドゲームを全館を舞台に行い、参加性を高めた。これは鬼に扮した青年ボランティアが出題するクイズに答え、正解のスタンプを集めるとゲーム。青年ボランティアの忙しい時期（試験、学期末）と重なるため、スタッフの確保には苦労があったが、各部の協力を得て好評のうちに終了した。特に、AV事業部の協力による館内TVからの参加者に対する情報提供は、AV機器を利用したおもしろい“あそび”活動であり、今後の工夫次第によってはもっと広がりが考えられる。

(コ) ひなまつり

五人ばやしにちなんだゲームとして、音楽事業部と共同でプログラムを作成した。プレイ部門では鼓打ちの“事前練習”ということで、掌でコインをはじき、その距離を競うなど5種目の遊びを設定。これが終わると音楽ロビーで実際に鼓などの和楽器を演奏させ、ゲームと音楽的な要素を組み合わせたイベントとした。全体的には、ひなまつりらしく静かな雰囲気の中で盛り上がった。場所柄、外国の人の参加も見られたが、日本の伝統行事ということもあって、理解が得にくく、インフォメーション不足が感じられた。

4) グループ活動

グループクリエーション、パソコン体験教室、コンピュータ・プレイゲームの3つのプログラムに、17グループが参加した。また、自由遊びの形で、プレイホールを利用した団体も53グループあった。前年度と比較して、幼稚園、保育園の利用が増加した。これは、幼児を対象とした新しいプログラムを開発したことが要因と思われる。また、障害児のためのプログラム開発を目指すシミュレーションも行った。

本年は新しいプログラムの開発に力を入れ参加された学校や園の先生方からも、よい評価

を得た。また、改良すべき点も指導いただいた。これをもとに、よりよいプログラムへ作り上げていきたい。

#### (ア) グループレクリエーション

幼児、障害児を対象に「劇あそび」「ゲーム・ソング・ダンスのつどい」を実施した。「劇あそび」としては障害児のためのシミュレーションに“森へいこう”というプログラムを作った。ほかにコンピュータ・プレイルームの大画面を利用した「世界旅行」も作成。どちらも、プレイホール全体を使い、歌やダンスを織り込んだプログラムで、子どもたち、ひとりひとりが主人公になりきって、劇に参加していた。

「つどい」は幼児対象に新しいプログラムの1つとして考えた。先生方との事前打ち合わせの際、子どもたちの様子や日常保育活動の内容を伺い、その園に合ったプログラムを作成し、実施した。子どもたちにとって、初めての場所、初めての指導員の前で、「つどい」を通して、心も体も開放し、のびのびと楽しく活動に参加してもらえるように配慮した。

小学生対象には、子どもたち同士のつながりを深め、遊びの中で、お互いに協力する楽しさを伝える「ジャンケンゲーム」を実施、ジャンケンという素朴な遊びを使い、それを変化させて、グループ対抗戦まで進めたのに、驚きを覚える子が多く、好評だったようだ。

#### (イ) パソコン体験教室

ロゴを使ってグラフィックスづくりを体験するプログラムに小学生が参加した。最近、学校でパソコンを導入するところが増え、関心も高くなっている。そのため、このプログラムを希望する学校も増えている。しかし、機器の台数に限りがあり、クラス単位など多人数に対しての十分な指導が行えないという問題もある。

#### (ウ) コンピュータ・プレイゲーム

障害児を対象にパソコンを利用したプログラム。本年は“コンピュータ・グラフィックス”的ソフトを利用し、マウスという機器を使って絵を描き、それぞれが作品づくりに取り組んだ。

コンピュータ機器の普及で、パソコンへの興味も高く、また機器の操作自体が楽しい様子である。本物のコンピュータに触れ、それを自分で動かせたという喜びが、とても強かったようだ。

### 5) パソコン

パソコンルームの運営は、一般来館者のために自由に参加できる日常活動のほか、小学生の講座2コース、体験教室3コースを開き、パソコンクラブの活動を実施した。

#### ① 日常活動

ロゴ言語を使いパソコンの簡単な取り扱いとプログラミングの初步を体験できるようにした。初めて来る子どもには入門を、そして繰り返し通って来る子どものためのプログラムも用意し、インストラクターが助言、指導した。小学低学年の子どもも多いので、平仮名でも命令できるように工夫した。パソコンに複雑な処理をするのには積み重ねの知識が必要であ

### III 各部の活動(1)

り、子どもの年齢も大切な要素である。現在はグラフィックス中心のプログラムであるが、幅広い内容を持ち、子どもの学年差や経験差にも対応できるプログラムづくりが必要である。

#### ② 体験教室

体験教室は、1.5時間～2時間でパソコンを体験する初心者向けのプログラムで、こども体験教室（小学3年生～中学3年生）、親子体験教室（小学3年生～中学3年生の子と親）、母親体験教室IとII（Iはベーシック言語、IIはロゴ言語を使用）の3つのコースを実施した。

体験教室はパソコン利用への導入部という役目を持っているが、回数や時間の制約により多くの人が参加しにくいという問題点もある。

#### ③ 小学生パソコン教室I・II

小学生パソコン教室では、第1段階として、パソコンを遊具として遊ぶ、第2段階として、共同で1つのプログラムを作ることによってグループ活動に利用するという目標がある。そして今年度は、第3段階として今までの内容を踏まえながら具体的な何かを表現する道具としてパソコンを利用することをねらった。

そのテーマとしては、子どもたちの発案により、パソコンで太陽系の動きを疑似的にシミュレートするという内容である。5、6人のグループで、メンバーがそれぞれ受け持ちの惑星をデザインし、その軌道を計算し、最後にグループ全体で太陽系を完成させるというものである。具体的なテーマで、分かりやすく、子どもたちも興味を持って取り組んだ。

また、今年度から今まで教室の修了者を対象として、上級コースであるコースIIを新設した。コースIではできなかった変数や再帰（リカージョン）、条件判断といった概念を内容に入れて、簡単なゲームづくりを行った。

#### ④ パソコンクラブ

63年3月現在、メンバー数は男子43人、女子14人、計57人である。本年度、延べ559人（前年度は283人）のメンバーが活動をした。パソコンの取り扱いについての講習会、年賀状づくりなどプリント印刷の講習会などをミーティングを兼ねて開催した。

普段の活動は土曜日の午後を中心に多くのメンバーが集まり、各自、ゲームづくり、パソコンによる音楽演奏、グラフィックスのプログラムづくりに励んだ。知り合ったメンバー同士で、情報交換をするもの、上級生が下級生を指導する光景も見られるようになり、クラブとしての組織化が徐々にではあるが、確実に進んでいる。

ただ、ほとんど活動に参加していないメンバーも多く、みんなが参加しやすいプログラム活動を行うことが今後の課題である。

##### (1) コンピュータ・プレイ

本年度から利用料が無料となった。本年度の利用は44,257回、延べ49,282人。他の事業部の講座、クラブの子どもも多くなり、全体として前年度より約5%利用者が増加した。

利用者を年齢別でみると小学生の利用が7割を占め、中学・高校生にも魅力あるソフトの充実が望まれる。62年度は個人プレイで「マウスシンセ」（パソコンで世界各国の音楽の

## 2 プレイ

アドリブ演奏を楽しむもの=オリジナルソフト)を追加した。ハード面でも新しい集団プレイ用ソフトのためにレーザーディスク5台を設備した。

パーソナルコンピュータも年々高性能化しており、今までできなかつたことが比較的簡単にできるようになっており、コンピュータ・プレイの設備も数年のうちに更新する必要がでてくるであろう。

### コンピュータ・プレイ利用実績

	個人 プ レイ	集 団 プ レイ		計
		組 数	人 員	
(月)	(人)	(組)	(人)	(人)
4	2,861	222	640	3,501
5	3,153	216	592	3,745
6	2,529	190	493	3,022
7	4,236	282	821	5,057
8	6,916	401	1,217	8,133
9	3,078	219	616	3,694
10	2,722	209	555	3,277
11	3,198	204	600	3,798
12	2,551	177	465	3,016
63. 1	3,473	213	599	4,072
2	2,685	180	492	3,177
3	4,121	221	669	4,790
計	41,523	2,734	7,759	49,282

### 利用者年齢別構成

(人)

	幼 児	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中	高	おとな	合 計
男 子	3,381	2,380	3,251	3,983	3,930	3,847	3,421	2,561	221	2,244	29,219
女 子	1,684	1,557	2,240	2,812	2,902	2,465	2,129	1,207	253	2,814	20,063
合 計	5,065	3,937	5,491	6,795	6,832	6,312	5,550	3,768	474	5,058	49,282

(%)

	幼 児	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中	高	おとな	合 計
男 子	6.9	4.8	6.6	8.1	8.0	7.8	6.9	5.2	0.5	4.6	59.4
女 子	3.4	3.2	4.5	5.7	5.9	5.0	4.3	2.4	0.5	5.7	40.6
合 計	10.3	8.0	11.1	13.8	13.9	12.8	11.2	7.6	1.0	10.3	100.0

### 3 造形事業部

#### III 各部の活動(1)

##### (1) 62年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間	火	水	木	金	土	日
9:00						
10:00	保育グループの活動	(スタッフミーティング)		グループ活動	グループ活動	
11:00						
12:00						
13:00						
14:00					一般来館児プログラム	一般来館児プログラム
15:00		一般来館児プログラム		一般来館児プログラム		
16:00	一般来館児プログラム		クリエイティブA		クリエイティブB	クリエイティブC
17:00						クリエイティブD
18:00						
19:00				講座 絵本をつくる		
20:00	ワークショップ 子どもの創造性を考える					
21:00						

### 3 造形

#### 2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
音と造形（ステップ1） 「空気とあそぼう～ふいてみると」	4.7～5.24	開館時間中	造形スタジオ	スタッフ・指導員	
音と造形（ステップ2） 「たたいてみると ふってみると」	5.26～6.21	同上	同上	同上	
音と造形（ステップ3） 「はじく・まわす・こする」	6.23～7.19	同上	同上	同上	
オープニングスタジオ (ステップ1) 「水にすむ」	9.1～27	同上	同上	同上	
オープニングスタジオ (ステップ2) 「空をとぶ」	9.29～10.25	同上	同上	同上	
オープニングスタジオ (ステップ3) 「森へいこう」	10.27～11.29	同上	同上	同上	
オープニングスタジオ (ステップ4) 「夢の中」	12.1～13	同上	同上	同上	
木と造形（ステップ1） 「樹木とあそぼう①」	63.1.12～31	同上	同上	同上	
木と造形（ステップ2） 「樹木とあそぼう②」	2.2～28	同上	同上	同上	
木と造形（ステップ3） 「樹木とあそぼう③」	3.1～13	同上	同上	同上	

#### 3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ブルーノ・ムナーリキット展	4.4～19	開館時間中	アトリウムギャラリー	スタッフ・指導員・アルバイト	
<児童福祉週間> 「こいのぼりをつくろう」	4.28～5.5	同上	造形スタジオ	同上	
<夏休み> 造形発見展 「音と造形」	7.21～8.31	同上	同上	同上	
“音と造形”イベント 「牧原利弘氏による音のイベント」	7.30	11：00～16：00	同上	同上	
“音と造形”特別展 「音のオブジェたち展」	8.4～31	11：00～17：00	アトリウムギャラリー ピロティ	同上	

III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
“音と造形”イベント 「花田資久氏による身体表現のイベント」	8.12・13	11:00～ 16:00	造形スタジオ	スタッフ・指導員・アルバイト	
同上 「神藏香保氏によるイベント」	8.14・15	11:00～ 16:00	同上	同上	
同上 「WAYによる音のイベント」	8.15	14:00～ 16:00	アトリウムギャラリー	同上	
同上 「金沢健一氏ほかによる音のイベント」	8.16	同上	アトリウムギャラリー ピロティ	同上	
同上 「MUSAによる音のイベント」	8.19	14:00～ 16:00	アトリウムギャラリー	同上	
同上 「倉橋克明氏によるイントナルモーリの実演と解説」	8.22・23	13:00～ 16:00	同上	同上	
同上 「関根秀樹氏による制作とイベント」	8.23	14:00～ 17:00	造形スタジオ	同上	
<開館2周年記念> 第2回造形スタジオ展	11.1～23	開館時間中	アトリウムギャラリー	同上	
<冬休み> オープンスタジオ 「造形ジャングル」	12.15～ 63.1.10	同上	造形スタジオ	同上	
<クリスマス行事> 「かざろうクリスマス」	12.19～25	同上	同上	同上	
<節分行事> 「はっぱでおにのお面をつくろう」	63.1.30・31	同上	同上	同上	
<ひなまつり行事> 「こえだでつくるおひなさま」	2.27～3.3	同上	同上	同上	
<春休み> 木と造形公開制作とワークショップ	2.20～4.10	同上	ピロティ	同上	
素材との出会い展 「木と造形」	3.15～4.10	同上	造形スタジオ ほか	同上	

### 3 造形

#### 4) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數						
こどもクリエイティブクラブ えほんをつくろう	小1~6年	10	12	水曜日 16:00~ 17:30	造形スタジオ	4.22, 5.13・20・ 27, 6.3・10・ 17・24, 7.1・18 10回	13,000 (材料費 含む)	職員 指導員	
こどもクリエイティブクラブ 金属ってなんだろう	小4~ 高3年	10	6	土曜日 15:00~ 16:30	同上	5.9・16・ 23・30, 6.6・13・ 20・27, 7.4・7 10回	同上	同上	
こどもクリエイティブクラブ たのしい造形くうつす	小1~6年	10	11	日曜日 10:30~ 12:00	同上	4.26, 5.10・17・ 24・31, 6.7・14・ 21・28, 7.5 10回	同上	同上	
こどもクリエイティブクラブ(A) アニメ体験	小3年 以上	10	3	水曜日 16:00~ 17:30	同上	9.16・30, 10.7・14・ 21, 11.11・1 8・25, 12.2・9 10回	同上	同上	
こどもクリエイティブクラブ(B) たのしい造形「えをかこう!」	小1年 以上	10	11	水曜日 16:00~ 17:30	同上	同上	同上	同上	
こどもクリエイティブクラブ(C) 石膏でリンクゴをコピーしよう	小3年 以上	10	9	土曜日 15:00~ 16:30	同上	9.19・26, 10.3・17・ 24・31, 11.7・14・ 21・28 10回	同上	同上	
こどもクリエイティブクラブ 日時計をつくろう	小3~6年	10	5	日曜日 10:30~ 12:00	同上	9.13・20・ 27, 10.4・18・ 25, 11.8・15・ 29, 12.6 10回	同上	同上	
こどもクリエイティブクラブ(A) きってはってくみあわせて	小1~6年	10	3	水曜日 16:00~ 17:30	同上	1.20・27, 2.3・10・ 17・24, 3.2 7回	10,000 (材料費 含む)	同上	

### III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數						
こどもクリエイティブクラブ(B) えほんをつくろう～みんなともだち～	小1～6年	10	7	水曜日 16：00～ 17：30	造形スタジオ	1.20・27, 2.3・10・ 17・24, 3.2, 7回	10,000 (材料費含む)	職員 指導員	
こどもクリエイティブクラブ(C) ガラスとあそぼう	小3～高3年	10	10	土曜日 15：30～ 16：30	同上	1.23・30, 2.6・13・ 20・27, 3.5 7回	同上	同上	
こどもクリエイティブクラブ 小刀をつかった木と造形	小4～ 高3年	10	3	日曜日 10：30～ 12：00	同上	1.24・31, 2.7・14・ 21・28, 3.6 7回	同上	同上	
ワークショップ 子どもの創造性を考える I	一般 保育者 専門職	30	23	火曜日 18：00～ 20：00	同上	4.14～ 7.7 12回	15,000	職員 音楽職員 AV職員 藤山貴司氏 宮脇理氏	それぞれ1年コースとして設定したが、第3期は実施せず。
ワークショップ 子どもの創造性を考える II	同上	30	7	同上	同上	9.8～ 12.8 12回	同上	職員 高山正喜久氏	同上
絵本をつくる I	一般	20	17	木曜日 18：00～ 20：00	同上	4.16～ 7.9 12回	24,000	杉浦範茂氏	同上
絵本をつくる II	同上	20	11	同上	同上	9.17～ 12.3 12回	同上	同上	同上



開館2周年を記念して「造形スタジオ展」(11.1～29)

## (2) 造形事業部の活動

62年度における造形スタジオでの活動で60, 61年度と異なることはステップという考え方である。既にこの考え方には61年度には実施予定でしたが、実行し得たのは62年度といえる。春、夏、冬の特別期間へ備える期間すなわち平常期間を幾つかのステップでプログラムを試行し、特別期間へ収斂（しゅうれん）していくというコンセプトである。特別期間で助走していくことによって、特別期間でのプログラム実施が比較的容易になった。

4～6月 音と造形ステップ1, 2, 3

7, 8月 造形発見展「音と造形」

9～11月 オープンスタジオステップ1, 2, 3, 4

12, 63. 1月 オープンスタジオ「造形ジャングル」

1, 2月 木と造形ステップ1, 2, 3

3, 4月 素材との出会い展「木と造形」

### 1) 平常・特別期間

#### (ア) 「音と造形」

〔平常期間〕

〔1〕ステップ1～3（4～6月）

夏休み特別プログラム“造形発見展<音と造形>”の準備プログラムとして「空気とあそぼう・ふいてみると」「たたいてみると・ふってみると」「はじく・まわす・こする」を実施した。それぞれのテーマは、音の発生する原理により設定された。

(1) 「空気とあそぼう・ふいてみると」 ストローを吹いて飛ばすビューン、ひもの先端につけた形が風で回転するクルリン、クルンバ、かざぐるま、吹く息で薄紙から音が出るプルプル、ビー、空気で動くオブジェ、ビニールチューブでつくるパンフルートなどのプログラムを実施した。空気や風により、動き変化する内容から始め、音の造形への手かかりとした。素朴な音の発生する原理から子どもたちは工夫をし、さまざまなバリエーションを生み出して、その動きや音を楽しんだ。季節行事として、児童福祉週間には、こいのぼりと、新聞紙のカブト、風車を組み合わせた帽子を制作した。また、7歳以上のコーナーでは、巻きダンボールによるこいのぼりも制作し、スタジオ内に飾られた。さらに母の日にはクルリンをカーネーションに見立てた、母の日クルリンを制作した。

(2) 「たたいてみると・ふってみると」 正四面体の中に小石を入れて振ると音の出るシェクシェク、小さく切った紙の音が聞こえるひそひそマラカス、アキカンでつくるアゴゴ、紙のタイコなどのプログラムを実施した。シェクシェクは、1枚の紙から正四面体へと、簡単に平面から立体へと移行させる工作で、ユニークなものであった。子どもたちは、その表面に絵や模様などを描き、更にテープで飾りつけて振る音を楽しんだ。また、中に入れる物の

違いにより、出る音や、振る感触の変化も体験した。

(3) 「はじく・まわす・こする」 厚紙にプラスチックのスプーンをはじいて音を出すパチ・パッчин、わりばしに巻いた糸をストローでこすり、音を出すミニ・ギロ、棒の先端につけた紙コップを回すと音の出るケロ・ケロ、ブン・ブンなどのプログラムを行った。

「音と造形」ステップ1～3では、身近な素材から、子どもたちが特別な技術を要せずに、思いがけない音が発生する音具が制作できるよう、素材や制作方法、工程について、検討され試行された。また、この期間には、子どもたちが体験できる大型の音具の試作と制作も続けられた。

#### 〔特別期間〕

##### ② 造形発見展「音と造形」（夏休み）

昨年に引き続き、造形発見展のテーマを「音と造形」とした。見て聴いて触って音が出せる展示・体験のコーナーと、子どもたち自身が造形できる制作のコーナーが一体となるようスタジオ内の環境設定を行った。

入口の外には自動的に音が発生する装置“音のかんばん”が設置され、子どもたちの目と耳を引いた。“音のサーカス”は押しボタンを押すことで、たたく音、はじく音、回る音、うなる音などを見て聴ける装置であった。“音の壁”は暗やみの中の壁面に仕掛けられた音を、パチでたたいて捜す小部屋で、目を閉じ耳をすまして音の探検を行った。“おしゃべりパイプ”はスタジオの入口から奥までの天井にアルミダクトのチューブが張りめぐらされ、両端で話す声がそれぞれ伝えられる装置で、音のはんらんしたスタジオ内でもその声はよく聞き取れた。また、“音のステージ”には、はじく・たたく・ふる・回す・吹く・こするなどにより音が出る、多数の工夫された音具が置かれ、それぞれの音の変化を体験することができた。

いずれの装置・音具ともたいへん好評で、子どもと親がその音や声を確かめ合う場面が見られた。しかし、多数の来館者のため、また、制作の際には予期しなかった使い方をされたため、たびたび破損が生じ、スタッフはその修理・補修に追われることもあった。

制作のコーナーでは、次のプログラムを行った。「パチ・パッчин」「ミニ・ギロ」「カズー」「プルプル」「ビー」「ひそひそマラカス」「シェク・シェク」「ストローラッパ」（以上ファミリーコーナー）・「ポコポコ糸ダイコ」「ドラヤキダイコ」（以上7歳以上のコーナー）・「平面紙ダイコ」「ケロケロブンブン」「あきかんアゴゴ」（以上9歳以上のコーナー）。

また期間中、水～日曜日には、小学3年以上を対象とした有料の一日造形教室を開催した。プログラムA「エリエルをつくろう」、プログラムB「うえきばちだいこをつくろう」、プログラムC「バネッコをつくろう」、プログラムD「おんぶにラッコをつくろう」プログラムE「いとをならそう」。

制作の内容については、ステップ1～3の期間に相当検討され試行されたものだけに、それぞれがたいへんユニークで興味深いものであった。材料の準備や子どもたちへの対応も、

### 3 造形

昨年に比べればある程度スムーズに行えるようになった。一日造形教室は、夏休みということで参加希望者は多いが、アトリウムでの事前受け付けと、スタジオでの当日受け付けの連絡がうまくいかず、しばしば混乱した。今後受け付けについては、更に検討したい。

ミニ・ワークショップは、ギャラリーでの音のオブジェたち展と連動して会期中随時行った。スタジオで「みみめがね」を制作したうえ、館内の音を発見しながらギャラリーに行き、展示された作品を体験した後、館外に出て木々を渡る風の音やセミの声に気付くというイベントであった。来館児の中から6歳以上の希望者が毎回10人程度参加したが、いずれの回でも新鮮な音体験ができたようだ。

このほか造形スタジオでは、音と身体表現のイベント、うなり木の制作のイベントなども行った。

#### ③ 「音と造形」特別展

##### 音のオブジェたち展

アトリウム・ギャラリーで開催した。

音は私たちの周りにたくさんある。自然音・人工音。耳からさまざまに聞こえてくるもの。手から振動として聞こえてくるもの。目から形として、色として聞こえてくるもの。音が形になり、形が音になり、その繰り返しから、幾つかの音の出るもののが生まれた。

ギャラリーに入ると、子どもたちは試みる。手で光をさえぎる。指揮棒を振る。木づちでたたく。ボタンを押す。吹く。鉄片をたたく。ひとつおり体験した後で、自分の好きなオブジェのところに行き、再び試す。

「なんだろう？」から「なんだかおもしろい」という体験。

音の出るものはオブジェとして、見る人の好奇心を誘う。触ったり、音を出した子どもたちは、形からは予測がつかなかった意外な音に驚いたり、自分のイメージと合致した音に喜んだ。子どもたちにとって、また大人にとっても視覚と聴覚の機能を十分に働かせた、日常に対する“覚醒環境”であった。

#### (イ) オープンスタジオ

##### 〔平常期間〕

###### ① ステップ1～4（9～12月）

冬休み特別プログラム「オープンスタジオ、造形ジャングル」へのステッププログラムとして動物シリーズ「水にすむ」「空をとぶ」「森へいこう」「夢の中」を実施した。それぞれのプログラムはいろいろな技法を使いテーマに添った生き物を制作した。そしてそれが冬休みオープンスタジオにつながるように意図した。

〈水にすむ〉 紙や布のコラージュ、布と針金の水族館、粘土の魚などのプログラムを行った。色や形の違いだけでなく紙と布、布同士の手触りや色感の違いが不思議な作品を生んだ。布と針金ではどちらの素材ともいろいろな形に容易に変化させることができるので、あたかも粘土を触るような感じで制作ができたようである。

〈空をとぶ〉 紙版画、針金の生き物、粘土のプログラムを行った。紙版画は昭和61年

### III 各部の活動(1)

のオープンスタジオでのプログラムをより分かりやすく解説し手順もはっきりとさせた。針金の生き物では銅線、真鍮（しんちゅう）線をハンダづけして立体の生き物を作っていた。9歳以上で行ったが、初めてハンダゴテを使う子どもたちが多く、真剣なまなざしでみんな取り組んでいた。また最初に紙に素描してから針金を扱わせた手順は子どもたちが平面から立体へと考え方を移行していくよい手助けとなつたのではないか。

＜森へいこう＞ 袋お面、廃材で作る動物、粘土のプログラムを行った。袋お面では森の中の生き物になってみようという指導員の言葉がけに促されてか、また変身願望の表れか、年齢に関係なくお面の制作を楽しんでいた。また廃材の動物では前もって森のジオラマを制作して子どもたちの作ったものをより効果的に展示できた。また来館した子どもたちの制作意欲を促した。

＜夢の中＞ 廃材のコラージュ、木の動物、粘土のプログラムを行った。廃材では紙や布だけでなくプラスチックのふた、コード類などを制作材料とした。木の動物では3～5mm程度の板材に下書きし、電動糸のこで切り、制作したものを台座に取り付けた。テーマが「夢の中の生きもの」なのでステップ1～4の中では子どもが枠にとらわれずに、一番自由にかつダイナミックに作品が作れたテーマだった。

このようなテーマは生き物を作るということで共通性を持っている。しかし素材、技法という点ではいろいろなものを使うよう考慮されたプログラムである。ただ、以前行ったプログラムを整理し直してシステム化し、制作のプロセスは良くなつたが、少しおとなしくなってしまったようである。今後は流れを考えながらもおとなしくならず、よりダイナミックなプログラムを作っていく。

ステップ期間中は、オープンスタジオ用の展示「手触りの部屋」を試作していった。実験的に作った手触りの箱を、来館した子どもたちに体験してもらい意見を聞きながら改良していった。粘土や染色など少しづつ準備を進めて単発でプログラムを実施したりもした。

#### 〔特別期間〕

##### ② 「造形ジャングル」（冬休み）

「オープンスタジオ」は紙、木、布、土、金属、廃材と素材・技法を用いていろいろな生き物を作り、造形スタジオ全体をジャングルのようなイメージにした。スタジオ入口に木、布、金属などさまざまな素材を生かして作った「造形ジャングル」のタイトルはオープンスタジオの内容も分かりやすく、展示としても効果的であった。また、展示、体験の「手触りの部屋」では手すりにいろいろな素材をはり、多くの子どもたちが手触りの体験を楽しめるようにした。触る面積や材質には再検討の必要があった。子どもたちが目で見るだけでなく、手で物を見ていく体験として、スタジオでのプログラムにつながっていく重要な展示であった。

中央スペースをファミリースペースとして親子で作る場にし、木、ロープ、紙、布などで床から天井へつながる逆三角形の木のような造形物を配置して、ジャングルのイメージを作った。また、各コーナーでは、「造形ジャングルの動物を作ろう、Let's Make Animals in

### 3 造形

「Zokei Jungle」（ファミリー・コーナー）、「粘土でジャングル旅行, Jungle Adventure in Clay」（ファミリー・コーナー）、「いろいろな素材の動物, Animals of Several Materials」（7歳以上）、「しぶり染めの花, Variegatie-dyed Flowers」（5歳以上）、「針金の動物, Wire Animals」（9歳以上）、「木の動物, Wooden Animals」（9歳以上）とテーマを英字でも表示し、外国人来館者にも分かるようにした。また、土・日曜日、各2回ずつ一日造形教室「ろうけつ染めの額絵」を開いた。

今回のオープンスタジオは共通テーマを素材の違いだけでなく、より技法とのかかわり合いを重視したプログラムを取り入れた。「しぶり染めの花」では、布を輪ゴムでしばるという5歳児ではかなり抵抗感のある作業から染色技法を体験させた。これは輪ゴムを止めいくことも、またはずすことも握力の強さを要求するもので年齢設定ではかなり悩んだ。しかし、ステップ段階に実験的に実施できたので実際にはスムーズに行えた。「粘土でジャングル旅行」では土練機で練りだした円筒状の粘土に陶芸技法を用いて、飛行機、テント、バオバブの樹などを作った。いろいろな技法を盛り込んだ40~60分のプログラムの中、指導員のストーリー仕立ての指導で粘土のおもしろさを楽しんだ。

12月19（土）～25日（金）はスタジオ入り口部分にコーナーを設定してプレイ事業部との共同プログラム「かざろうクリスマス」を行った。昨年の反省などから実施期間を早めたので子どもたちがゆっくりと参加し3階スペースを飾っていったプログラムだった。

活動状況を見てみると年齢を分けることで全体がスムーズに動いていたようである。参加人数には制約はあったが、粘土コーナーのように比較的年齢に関係なく積極的に参加できるプログラムがあったことでスタジオ全体が活気づいた（2歳児と12歳のこどもが一緒に同じ制作進行をするプログラムは今までに実施しなかった）。

一日造形教室は参加人数が少なかったが、その理由は時間がかかりすぎると、年末、年始で来館者数が減少した時期であったからと思われる。日時の設定は今後も問題が残る。今回のオープンスタジオは、題材が動物ということもあって子どもたちにとっては非常に親しい存在であったようである。これは技法や素材の魅力と同じくらい子どもたちにとって大切な題材のようであった。

#### (ウ) 木と造形

〔平常期間〕

##### ① ステップ1～3（63年1～3月）

素材との出会い展「木と造形」のためのステップとして行ったものである。ステップ1では、特に乳幼児のために、<切る>ことを中心にして、どのようなプログラムが展開できるかを試行錯誤しながら、実施した。プログラムは「こえだのつみき」「はっぱのはがき」「わぎりゲーム」「三角へび」である。

ステップ2では、<切る>に<穴をあける>を加えたプログラムを実施した。「みのむしくん」「まほうのぼう」「木のメダル」である。

ステップ3では、小枝・葉っぱ・木の実などを使ったプログラムおよび小刀を使っての制

作を行った。「うんどうずきのむしくん」「にじのぼう」「枝のつりざお・木のさかな」「ままごとコーナー」「こがたなコーナー」である。素材が自然の木という、通常使用している紙などとは違い抵抗感のある固いもので、どのような道具を使い、どのような内容にして、楽しいプログラムに仕上げるかが常にステップ期間の課題であった。

#### [特別期間]

##### ② 素材との出会い展「木と造形」（春休み）

「木と造形」では、展示・体験・制作を基本としたワークショップ活動を行った。見る・聞く・触る・試す・考える・作る・遊ぶなどの行為、そして主に、＜手を動かす＞ことを目的として、子どもに自然木を感じさせる環境を設定した。

ピロティにおいては、公開制作の形式を取り、「橋・管・道」を作り、子どもが遊べる木の環境を試みた。そこでは子どもが枝に顔を描き、その空間に並べるというワークショップも行った。

子どもが作りたい気持ちが起こるよう、展示ではロビーに44種の材鑑（20cm×1m）を並べ、造形スタジオには、1万本の枝をレイアウトした。スタジオにおける制作は、木を触り、木を使って作り、枝・葉・実で遊び、楽しむ子どもの体験として、9種のプログラム（はっぱのはがき、ブランコむし、まほうのぼう、わぎりゲーム、くっつけむし、びっくりバー、こがたなコーナー、きのみあそび、こえだのつみき）を行った。制作は今までのワークショップ活動の経験から、プログラムによっては制作年齢を制限しているものもある。抵抗感のある＜木＞を変化させるためには、まず単純に体力が関係してくる。更に、最後まで成し遂げようとする意思力、忍耐力が必要となる。柔らかい素材でないだけに、制作における体験は、作る意欲と手ごたえのある感触を成就させた充実感を伴うものであった。「木と造形」の制作は、自然木を子どもが体験する活動として木の実・枝・葉っぱ・幹を使った、香りと触感を通した手の活動であった。

#### 2) 講座・クラブ

本年度は、4月から7月まで、9月から12月まで、それぞれの期間にワークショップ「子どもの創造性を考える」Ⅰ、Ⅱおよび講座「絵本をつくる」Ⅰ、Ⅱを開講した。

(1) ワークショップを開いた意図は、開館以来造形スタジオで行われた子どものためのプログラムの中から、一般的でありながら、独創性のあるもの、また、60年の開館記念行事に来館したブルーノ・ムナーリ氏のプログラムから幾つかを選び、大人の受講者に同一プログラムを体験してもらい、それをテーマにして、「子どもの創造性」とは何かを考えることにあった。受講者の実践を通して、造形スタジオの提出したプログラムの優れた点、あるいはよくない点を分析し、総合し、子どもへのプログラムの試みについて、全員でワークショップ形式で考えた。

(2) 「絵本をつくる」は前年度とは少し趣を変えて、実際に1ページ1ページ作り上げていくことから始められるようにカリキュラムを講師の杉浦範茂氏と話し合った。

### 3 造形

受講者の構想とストーリーおよびイラストについて、毎回ワークショップ形式で、全くの初心者にも講師による丁寧な検討指導が行われ、7月までに完成し作品は11月の第2回造形スタジオ展に展示された。

#### ① こどもクリエイティブ・クラブ（4～7月）

##### ・「えほんをつくろう」

イタリアの美術家ブルーノ・ムナーリ氏の絵本「みんなともだち」を使い、絵を描き文をつづり、自分だけの絵本「みんなともだち」40ページを仕上げた。

前半の4回はムナーリ氏のワークショップのプログラムから、いろいろな黒のペンで＜木をかこう＞、＜フロッタージュ＞＜点描＞＜コラージュ＞による太陽をかこう、＜やさいのスタンプ＞＜さまざまなかたち＞を体験した。後半の6回は「みんなともだち」の制作にかかった。子どもたちは紙の質や色の違いに興味を持ち、絵本づくりに意欲がでたようだ。また、ムナーリ氏の意図でもあったが、紙に印刷されている途中まで書かれた文章に引かれ、物語が個々に展開していった。

今回のクラブで、「みんなともだち」の絵本が子どもの興味によってさまざまな可能性を持っていることが確かめられた。

##### ・「金属ってなんだろう」

真鍮（しんちゅう）・アルミニウム・銅といった生活中に欠かせない金属を切ったり、たたいたり、曲げたり、ふだん知らなかった金属の秘密を発見しながら制作体験した。

道具の目新しさ、素材特有の抵抗感と手を加えることによって目に見えて変化する金属の様子が興味深かったようだ。小学校3年以上になると、バーナーなど、少々危険なもの扱いに強い興味を示し、注意深くなる。

「金属ってなんだろう」は、造形スタジオにおいて、子ども（小学生）のためにプログラム化する金属の可能性を見いだすよい試みともなった。

##### ・たのしい造形「うつす」

日常なにげなく使っている「うつす」という言葉から、その概念にとらわれずに、言葉から広がっていくイメージを具体的に制作活動に結びつけた。子どもたちはいろいろな素材・技法を使い、その体験を作品に仕上げた。

スタジオに限らず、子どもの城の敷地のさまざまな所でいろいろな表面を写し取る（フロッタージュ）。2人1組による（人型うつし）。粘土に指押しをしてパラフィンで型取る（ロウオブジェ）。○△□型の金属パイプを使った（ろうけつ染め）。小さな暗箱による（ミニ影絵シアター）。子どもたちはバラエティーに富んだ材料や技法が使われたプログラムに積極的に取り組み、回を重ねるにしたがい、子ども同士のコミュニケーションも生まれる楽しいクラブとなった。

#### ② こどもクリエイティブ・クラブ（9～12月）

##### ・「アニメ体験」

アニメーション（動く仕組み）を体験的に理解しながら、簡単なアニメーションを制作し

た。2枚の紙に少しづつ動きの異なった絵を描き、それを交互にすばやく動かすと絵が動いてみえるという（パタパタアニメ）。身の回りにある物や道具などを少しづつ動かしてコマ撮りする（いろいろな物をうごかしてみよう）。切り紙を使ったストーリーのあるアニメーション作り（切絵アニメ）などを体験した。

参加した3人の母国語が日本語・英語・ドイツ語という異例な状況であり、通常の会話や意思伝達など難しい面が多々あった。しかし、アニメーションという共通メディアによる視覚伝達のため、子ども同士も指導者もそれぞれの作品の表現を理解することはできた。なお、このクラブは他の事業部（AV事業部）と共同して企画したものであり、初めての試みである。

・たのしい造形「えをかこう」

さまざまな材料や用具を利用して、いろいろな絵を描き、絵を描くことの体験を広げた。墨の濃淡だけで描く・種々の紙に描く・切って貼って描く・粘着塩ビシートでガラスに描く・螢光色で描く・OHPを使って描く・インスタント写真を利用して描く。いずれも30cm正方形の画面にし、最後に1冊の画集にしてとした。テーマを太陽と魚に限定したため、素材・用具の変化が際立った。子どもたちはその変化を楽しみ、悪戦苦闘した部分もそれぞれに楽しい作品になって表れた。

絵を描くことが、形や色にこだわることから抜け出し、子どもたちはブラックライトやミラーシートを使うことで、「こういうふうにしてみたいな」と発想がわき、おもしろがることができた。クラブのねらいが実現できたといえる。

・「石膏でリンゴをコピーしよう」

いろいろなものを型どりしながら、新しい素材の特性を比較体験した。粘土による型こめ、石膏でリンゴの複製を作る、シリコンで貝をコピーする、ウレタンに石膏じかづけし、動物を作るなどの制作を行った。

知り合い同士の子どもが和気あいあいとした雰囲気で始まった。回を重ねるにしがって、その度合いがエスカレートし、子どもを注意する場面もしばしばあった。しかし、石膏の溶き方になると、真剣に耳を傾け、その理解も早い。どのクラブも共通にいえることだが、後片付けの習慣がない。常に注意されなければ、片付けができないようである。

「日時計をつくろう」

全10回を、「セメントで日時計をつくろう」「発泡スチロールで家や動物をつくろう」「ローラースタンプをつくって、いろいろなものをうつしてみよう」の3種類に分けて制作した。

それぞれのプログラムは、制作の計画を立て、作り方を理解しながら、各自の制作進度に合わせてゆっくりと作るというものであった。セメント・発泡スチロール・塩ビシートなど身近にありながら、造形素材としてあまり使われない材料を扱うおもしろさがあったようだ。素材だけでなく、ヒートカッターなど道具においても珍しい体験をし、扱い方に十分注意しながら、自力で作品を完成させていた。

### 3 造形

#### ③ こどもクリエイティブ・クラブ（63年1～3月）

- ・「きって、はって、くみあわせて」

ダンボール・色セロハン・ボール紙・じゅうたん・新聞紙などの材料の特質の違いを、ハサミやポンチで「切る」という行為を通して体験した。

雑誌や新聞を切り抜き、いろいろな形をつくる（コラージュ）。ケント紙に半分切り込みを入れ、立ち上げ（仕かけ絵）をつくる。ペンの代わりに毛糸を使って描く（毛糸でつくろう）。インスタントカメラで自分を写し、顔の部分を切り抜いて別の紙にはり、服装をデザインする（ぼくの、わたしのファッショhn）。色セロハンによるステンドグラスふうの（ステンドペーパー）。色の違うじゅうたんを切ってはめ込む（じゅうたんでつくろう）を実施した。

紙や布はいろいろな顔を持っている。紙や布などのさまざまな表情を工夫して、切って、はって、組み合わせて、形のおもしろさを体験した。

- ・「えほんをつくろう」

前回と同様にブルーノ・ムナーリ氏の「みんなともだち」を使って、絵本づくりを行った。  
<線であらわす><フロッタージュ><点描><コラージュ>の技法体験の後で制作した。制作の進度・内容は子どもによってさまざまである。きっかけとなる文章や絵から、どんどんストーリーを具体的に展開していく子。ストーリーはなかなか進まないが、描くことが難ですぐに飽きてしまう子。その子どもには家から持ってきた雑誌のコラージュを提案した。描くことより、はって作っていくおもしろさを発見しながら、制作を進めた。進度の早い子どもにはお話を更に発展させて増ページした。素材・用具・文・技法など、子どもはそれぞれにきっかけを見つけ出し、意欲を深めた。「ちょっとした発見」は、絵本づくりだけでなく造形すべてに言える大切なことである。

#### 「ガラスとあそぼう」

粘土で形をつくる。それを石膏で型どりし、原形をつくる。原形にガラスを入れて焼き上げる。粘土から石膏へ、石膏からガラスへと素材の変化によって生まれた<ガラス作品>のおもしろさを体験した。ガラス技法の中で<ハード・ド・ヴェール>、<スランピング>、<バーナーワーク>をおこなった。前者2工程は電気窯で焼くので、ガラスの粉や破片をセットして、次には焼き上がるのを見る。後者はガラス棒を実際にバーナーで焼きながらスプレーに仕上げるので、変化が目の当たりにでき、よい体験となった。従来のガラスのイメージ、尖（せん）鋭で冷めたいというものは異なり、手作りのものには、それぞれ表情があり、子どもたちにとって新鮮な素材と出会えたようだ。

#### 「小刀をつかった木と造形」

模様のある杖（つえ）・表札・小刀のさや・じゅってふうのクルクル棒・枝の琴・箸（はし）置きを制作した。小刀で削る過程で、木の暖かさ、手触り、肌触りなどを体験した。

生活環境の変化に伴い、鉛筆も削れないといわれる今日、子どもたちはやはり小刀をうまく使うことはできない。しかし、回を重ねるにしたがい、小刀の持ち方や削り方のぎこちな

さがなくなってくる。小刀 1 本で作ること、その手の体験は脳の働きと感性の鍛磨という点において、重要な体験であることは言うまでもない。その機会やきっかけをつくることがこのプログラムの 1 つの目的でもあった。今後もなんらかの形で継続したいプログラムである。

### 3) その他

#### ① こどもの城ブルーノ・ムナーリ・コレクション

##### 巡回展示キット作品展

これは開館記念特別行事「ブルーノ・ムナーリ展」を機に「こどもの城」に帰属した氏の作品で構成された巡回展示用キットである。61 年 4 月から広報し、貸し出し始めた。これらの作品をアトリウム・ギャラリーに展示、ワークショップなどを展開して一般・教育関係者・美術関係者にムナーリおよび、子どもの造形をより広く、深く知ってもらうことをねらいに企画した。内容は①グラフィックアート ②オブジェ ③プロダクト作品 ④遊具 ⑤絵本書籍 ⑥ビデオ作品、写真資料 ⑦スタッフおよび指導員によるワークショップ。

会期中は「こどもの城」の入り口部分に展示し、入場無料ということもあって入館するほとんどの人たちが来場した。自由に参加制作できるワークショップを随時実施したこともあり、見るだけの受動的な展覧会ではなく入場者が参加していく能動的な展覧会となった。また、60 年の開館記念行事の際に「シンポジウム」「公開指導参観」「作品展」を分かりやすくまとめた 15 分ビデオ・フィルムも入場者には好評であった。60 年度にこの展示キットの館外貸し出しがなかった。貸し出しの際の経費や展示指導員の派遣などに課題が残っている。

#### ② 「第 2 回造形スタジオ展」

##### (開館 2 周年記念)

前年度同様に来館する人々に造形事業部の活動を広く知ってもらうために「造形スタジオ展」を企画実行した。造形事業部としては 3 回目のギャラリー使用であって、照明、セッティングはそれほど、時間を要さなかった。しかし、より充実した展示とするにはギャラリー自体の電量不足、光量不足など、今後に残された大きな問題がある。

展示構成は、造形スタジオでの活動の 3 本柱である「オープンスタジオ」「素材との出会い展」「造形発見展」に大別展示した。「クリエイティブクラブ」での作品がアトリウム入り口のガラスを飾り、時間をかけて自分でつくる絵本「みんなともだち」の完成作品や、そのビデオ版、金属の作品などが会場入り口の雰囲気を盛り上げた。また、大人の講座「絵本をつくろう」の講師杉浦範茂氏の指導により、子どもたちに語りかける大人たちの優しさがあふれた絵本の展示が花を添えた。ギャラリー入り口壁面では活動記録のスライド写真で當時、来館者に子どもたちの制作中の真剣なまなざしや楽しそうな笑顔を上映した。これは、アトリウム入り口からのガラス面の作品とつながって来館者の移動を促した。また、早くからの展示準備もあって充実した展示となった。2 階フロアでは「音と造形」でのプログラムを 1 週ずつ 3 プログラムを実施した。このように展示だけでは伝えきれないプログラムはワー

### 3 造形

クシップで実施した。前年度同様にダイナミックで楽しい展示であった。作品の整理方法、収納場所は前年度同様に多くの問題を残している。

#### ③ 特別プログラム

##### ・「おかあさんの勉強室」

NHK から「おかあさんの勉強室—親子ふれあいランド—」のためのプログラム公開依頼があり、実施した。下見が素材との出会い展「紙と造形～造形通り～」の期間中であったため、プログラム内容はその中から選び、少し変化させて企画した。「変身ママとぼく」「インテリアしよう」「おもちゃをつくろう」「ぼくのわたしのおくりもの」である。依頼から実現まで内容を十分吟味する時間的余裕がなく録画撮りに至った。また、造形スタジオでの録画撮りのため、その場の設定も造形側が急ぎょ行うというものであった。参加親子を NHK 側が準備したが、親子と指導者が会ったのは、録画撮り当日の 30 分前、企画実行には幾つかの難しい条件があった。できれば外部依頼の企画は十分な打ち合わせが必要に思われる。

#### 4) グループ活動

前年度から「木をつくろう」と「かげをうつそう」だけにプログラムを限定し実施した。各プログラムとも、対象グループの事前の情報によって、少しずつ変化を与えた。

「木をつくろう」は特に就学児童の活動が多くプログラム内容にもいろいろな変化を与えて行えた。参加 40 人以上でスタジオでできないときは劇場前ピロティを使って巨大な木を作り、敷地をフルに使い、木を壊しながら 1 本の長い帯にしていくゲームも行った。行う度に形態は異なるが、ブルーノ・ムナーリ氏の精神を受け継ぎながら実施した。

「かげをうつそう」は幼稚園、保育園、3 ~ 5 歳児のインターナショナルスクールが多く活用した。低年齢児にも影のシステムが分かりやすいようにと、影当てクイズ、ミスター・シャードーの寸劇などを取り入れ、回を重ねるごとに充実したものになっていった。今後は 1 つの形にとらわれずに、新しい「かげをうつそう」を模索していきたい。

グループ活動会議で決定した障害児プログラムシミュレーションは AV、プレイ事業部について行った。「粘土」を使ったもので冬休みオープンスタジオでの一般プログラムを原形にした。プログラム進行の時間の読みの甘さなどあったが、桜小生活学級からはたいへんよい印象の言葉をもらった。しかし、粘土の準備に時間がかかりすぎるので、今後は準備などの時間短縮など、継続してできるプログラムにするよう考えていきたい。



造形スタジオは木の香がいっぱい 「木と造形」 (63. 1. 12 ~ 4. 10)

# 4 音楽事業部

## III 各部の活動(1)

### (1) 62年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火			水			木			金			土			日				
	スタジオ		シンセ 室	ロビ ー	スタジオ		シンセ 室	ロビ ー	スタジオ		シンセ 室	ロビ ー	スタジオ		シンセ 室	ロビ ー	スタジオ		シンセ 室	ロビ ー
	A	B			A	B			A	B		A	B		A	B				
9:00																				
10:00																				
11:00																				
12:00																				
13:00																				
14:00																				
15:00																				
16:00																				
17:00																				
18:00																				
19:00																				
20:00																				
21:00																				

## 4 音 樂

### 2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
わいわいスタジオ	4.12~63.3・21 (全46回,ただし特別期間は除く)	13:30~ 14:30 15:30~ 16:30	音楽スタジオB	(人) 出演者は5~15 ゲスト パート 職員	職員だけによる内部プログラム, ゲストによる外部プログラムのほか関連団体によるプログラムや, AV事業部によるAVプログラムの4種類に大別できる。 親子連れが多く, 参加も非常に積極的。AVと共同。 観客は平均80~120人
ロビー企画 「音の大冒険——水」	4.7~7.15	火~金曜日 13:00~ 17:30	音楽ロビー	職員 パート	4つの素材をテーマに音を原点から考え直し, 各テーマごとのオブジェや所蔵楽器を使って一般来館対応を展開。平日は低年齢層が多く, 親子で楽しめる内容が喜ばれた。 日・祝日は大人から子どもまで楽しめる参加型プログラムとして「演奏マラソン」の形態が確立された。
同上 「音の大冒険——木」	7.18~9.26	同上	同上	同上	
同上 「音の大冒険——金属」	10.1~63.1.21	同上	同上	同上	
同上 「音の大冒険——風」	1.23~4.27	同上	同上	同上	

### 3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<春休み> わいわいスタジオスペシャル (1)おはなし劇場 (2)おはなし劇場, 人形劇 (3)水のコンサート	4.2 4.3~4 4.5	各日 13:00と15:30 計8回	音楽スタジオB	職員, AVスタジオ班 (2)はプレイ共同 (3)は木管グループ“MašMaš”特別出演	(3)…ロビー「音の大冒険——水」シリーズとのジョイント企画
「こどもデパート」 (参加協力)	4.29	11:00~ 16:30	音楽ロビー 音楽スタジオB 保育室	クラブ会員, 受講者とその家族, 講師, 助手, 顧問, 職員	企画部主宰
<児童福祉週間> こどもの日スペシャルス タジオ5/5(ゴーゴー)	5.4・5	各日 13:00と15:30 計4回	音楽スタジオB	木管グループ“MašMaš”, 職員, AVスタジオ班	
<夏休み> わいスタスペシャル 「怪談」	7.24 25・26	13:00 15:30 11:30 13:00 15:30	同上	<出演> 役員・顧問 職員 <スタッフ> 職員, パート, AVスタジオ班	
<同上> わいスタスペシャル 「夏祭りがやってきた」 和太鼓	8.7	13:00 15:30	同上	講師, 職員, パート, AVスタジオ班	

### III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<夏休み> わいスタスペシャル 「夏祭りがやってきた」 I三味線 IIバリの踊り	8.8		屋上 音楽スタジオB	受講者, ガムラ ングループ「ス カル=ジュポン」 「ムラティ」 講師, 職員, パー ト	全館催事「夏まつり」に ジョイント。
<同上> わいスタスペシャル 「夏祭りがやってきた」 Iおはなし IIバリの踊り	8.9		同上	同上	同上
<同上> わいスタスペシャル 「おいしい楽器のつくり かた」	8.21 22・23	13:00 15:30 11:30 13:00 15:30	音楽スタジオB	特別委嘱パート, 職員, パート, AV スタジオ班	
<同上> わいスタスペシャル 「夏の想い出特集」	8.28 29・30	13:00 15:30 11:30 13:00 15:30	同上	木管グループ “MašMas” 職員, AV スタ ジオ班	
<同上> おもしろ民族楽器展 (第2回)	8.11～23	10:00～18:00	音楽ロビー	職員, パート, インストラクター (直川氏)	「人間博物館リトルワ ールド」の協力を得てアフ リカ, アジア, 南北アメ リカの民族楽器数十点お よびマラカスづくりの指 導を。
<同上> 合宿研修 パークション・アンサ ンブル講座	7.21～23	2泊3日	音楽スタジオA こどもの城ホ テル	講師, 助手, 職 員	
<同上> 合宿研修 ユース・バンド	7.28～31	3泊4日	栃木県今市市 「松本山荘」 および宇都宮 市栃木会館	同上	宇都宮では地元「雀宮ユ ースバンド」と交歓, ジョ イントコンサート。
<同上> 合宿研修 三味線講座	8.3～5	2泊3日	箱根湯本「青 風荘」	同上	
<同上> 合宿研修 合唱合同 (児童合唱団・ 合唱講座)	8.21～24	3泊4日	福島県「那須 甲子少年自然 の家」	特別インストラ クタ, 伴奏者, 受講者, ボラン ティア 職員 (音楽, 研 修教養, 保育, 小児保健)	
<開館2周年記念> スペシャル・イベント わいスタマラソン	11.1・3		音楽スタジオB	受講児有志, パ ート, 職員, AV スタジオ班	
<冬休み> わいスタクリスマス・ス ペシャル ファミリー・クリスマス	12.24・25		同上	ゲスト, パート, 職員, 顧問	

#### 4 音 樂

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<冬休み> 正月スペシャルイベント ①「琴?しもよろしく!」	63.1.3・4		音楽スタジオB	特別ゲスト=池成子氏(韓国), 蘇宇虹氏(中国) ゲスト演奏者(尺八, 琴ほか) 顧問, 職員, パート	
<同上> 正月スペシャルイベント ②「獅子舞い」「演奏マラソン」	1.5		同上	ゲスト(笛), 講師, 顧問, おはやしグループ, 三味線, 獅子舞チーム(ユース), 職員, パート	
<同上> わいスタ新春スペシャル 演奏マラソン	1.6・7		同上	三味線講座 職員, パート	
「音の大冒険」スペシャル 演奏マラソン カムカム劇場など	特別期間中 夏休みから 1月から	各全日	音楽ロビー	職員, パート	

#### 4) 講座・クラブ等

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數							
リズム・ ムービング A	4・5歳	(人) (1) 15  (2) 17  (3) 12	(人) (1) 15  (2) 17  (3) 12	火曜日 14:30~ 15:10	音楽ス タジオ A		(1) 4.7~7. 7 全 13回	(円) 9,000  同上  7,000	武藏野音大・ お茶の水女 子大講師 柳沼輝子氏  田内千代氏	
							(2) 9.8~12. 22 全 13回			
							(3) 63.1.12 ~3.5 全 10回			
リズム・ ムービング B	4~6歳	15	(1) 9  (2) 8  (3) 7	火曜日 15:00~ 16:00	同上	同上	同上	同上		
リズム・ ムービング C	小1~3年	15	(1) 18  (2) 17  (3) 17	火曜日 16:00~ 16:50	同上	同上	同上	同上		

III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數							
パー カッ ショ ン・アンサンブル	小4～中3年	(人) 20	(人) 12	水曜日 17:00～ 19:00	音楽スタジオB	同上	(円) 同上	武藏野音大・ お茶の水女子大講師 柳沼輝子氏  米原敬子氏		
			(2) 13							
			(3) 14							
お母さんも一緒にリトミック I	3～5歳	(組) 20	(1)(組) 18	水曜日 13:30～ 14:30	音楽スタジオA	同上	(1) 4.8～7.15 全13回	13,000	玉川大講師 吉村温子氏  川口あづさ氏	
			(2) 12				(2) 9.9～12.23 全12回	同上		
			(3) 11				(3) 63.1.25～3. 28 全11回	10,000		
お母さんも一緒にリトミック II	同上	同上	(1) 31	水曜日 15:00～ 16:00	音楽スタジオB	同上	同上	同上		
			(2) 14	水曜日 14:30～ 15:30						
			(3) 13							
お母さんも一緒にリトミック III	同上	同上	(1)		同上				同上	
			(2) 14	水曜日 15:30～ 16:30			(2) 9.9～12.23 全12回	13,000		
			(3) 14				(3) 63.1.25～3. 28 全11回	10,000		
お母さんも一緒にリトミック 初級	同上	同上	(1)		音楽スタジオA				同上	
			(2) 20	金曜日 13:00～ 14:00			(2) 9.11～ 12.18 全13回	13,000		
			(3) 16				(3) 63.1.22～3.18 全9回	10,000		
合 唱	小1～4年	(人) 35	(人) 19	水曜日 16:30～ 18:30	音楽スタジオB	同上	(1) 4.8～7. 15 全13回	14,000	同上	
			(2) 30				(2) 9.9～12. 23 全12回	同上		
			(3) 29				(3) 63.1.13～3. 28 全11回	11,000		

#### 4 音 樂

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
シンセサイザー(火曜クラス)	中1～高3年	(人)8	(人)(1)3	火曜日 16:00～18:00	シンセサイザ室	(1)4.7～7. 14 全13回	19,000	日本電子専門学校講師 岩下哲氏	
			(2)3			(2)9.1～12. 22 全13回	同上		
			(3)5			(3)63.1.12 ～3.15 全10回	16,000		
シンセサイザー(木曜クラス)	同上	(人)同上	(1)6	木曜日 16:00～18:00	同上	(1)4.9～7. 9 全13回	19,000	同上	
			(2)5			(2)9.3～12. 10 全13回	同上		
			(3)△			(3)			
シンセサイザー(土曜クラス)	同上	(人)同上	(1)5	土曜日 16:00～18:00	同上	(1)4.11～7. 18 全13回	19,000	同上	
			(2)6			(2)9.5～12. 19 全13回	同上		
			(3)5			(3)63.1.9 ～3.19 全10回	16,000		
ガムラン	小4～中3年	(人)10	(1)2	土曜日 16:00～18:00	音楽スタジオA	(1)4.18～7. 18 全13回	16,000	芸大・桐朋 大講師 田村史氏 中村美郁氏	
			(2)2			(2)9.12～ 12.12 全13回	同上		
			(3)2			(3)63.1.9 ～3.12 全10回	13,000		
三味線I	小4～高3年	(人)8	(1)2	日曜日 13:00～14:30	同上	(1)4.12～7. 12 全13回	19,000	芸大講師 田島佳子氏 井上久仁子氏	
			(2)2			(2)9.6～12. 13 全13回	同上		
			(3)1			(3)63.1.10 ～3.13 全10回	16,000		
三味線II	同上	(人)同上	(1)9	日曜日 11:30～13:00	同上	同上	同上		
			(2)9						
			(3)8						

III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 数							
おはやし グループ	小4～ 中3年	(人) (1) 8	(人) (2) 6	12	水曜日 16:30～ 18:30	音楽ス タジオ A	(1) 4.8～7.15 全13回	(円) 13,000	長唄囃子方 川島佑介氏	
		(3) 6					(2)9.9～12. 23 全13回	同上		
							(3)63.1.13 ～3.16 全10回	10,000		
児童合唱団 A	小1～3年	(1) 28	(2) 27	同上	土曜日 14:30～ 16:30	音楽ス タジオ B	(1)4.11～7. 18 全13回	14,000	玉川大講師 吉村温子氏 川口あづさ 氏	
		(3) 27					(2)9.12～ 12.26 全11回	同上		
							(3)63.1.9 ～3.12 全10回	11,000		
児童合唱団 B	小4～6年	(1) 49	(2) 49	30	土曜日 16:30～ 18:30	同上	同上	同上	同上	
		(3) 49								
ユースバンド	小5～ 高2年	(1) 28	(2) 26	28	日曜日 10:00～ 12:00	同上	(1)4.12～7. 12 全13回	19,000	芸大講師 山本武雄氏 山本真理子 氏 岡本篤彦氏 三田村健氏 (以上の中 から當時3 氏)	
		(3) 23					(2)9.13～ 12.13 全13回	同上		
							(3)63.1.10 ～3.13 全10回	16,000		
ガムラン グループ	小4～ 中3年	(1) 8	(2) 7	12	日曜日 15:00～ 17:00	音楽ス タジオ A	(1)4.19～7. 19 全13回	16,000	芸大・桐朋 大講師 田村史氏 福岡正太氏 佐々木美奈 子氏	
		(3) 7					(2)9.13～ 12.13 全13回	同上		
							(3)63.1.10 ～3.13 全10回	13,000		
混声合唱	高校生 以上	(1) 19	(2) 17	15	土曜日 18:30～ 20:30	同上	(1) 4.11～8.1 全13回	14,000	玉川大講師 吉村温子氏 川口あづさ 氏	
		(3) 13					(2) 9.12～12.26 全12回	同上		
							(3)63.1.9～ 3.26 全11回	11,000		

## 4 音 樂

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數						
大人のため のガムラン	高校生 以上	(人) (1) 10	(人) (1) 14 (2) 14 (3) 13	日曜日 17:00～ 19:00	音楽ス タジオ A	(1)4.19～7. 19 全 13 回 (2)9.13～12. 13 全 13 回 (3)63.1.10 ～3.13 全 12 回	(円) 19,000 同上 16,000	芸大・桐朋 大講師 田村史氏 福岡正太氏 佐々木美奈 子氏	

(特別期間)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
[サマー・セミナー] リズム・ムービング&パー カッショソ・アンサンブ ル	7.23～25	23 日 13:00～17:00 レクチャー 13:00～15:00 24・25 日 10:00～12:00	音楽スタジオ A	講師, 助手, 職 員	受講者 31 人 (うちレク チャーのみ 11 人) 高校生以上対象, 少人数 制, 実技中心, 楽器・教 材完備 料金 10,000 円 (レクチャーのみ 15,000 円)
[同上] 三味線	7.28～30	10:00～13:00	同上	講師, 職員	受講者 6 人 料金 12,000 円
[同上] シンセサイザー	8.3～6	10:00～12:30	シンセサイザ ー室	同上	受講者 10 人 料金 12,000 円
[同上] 歌舞伎ばやし	8.11～13	10:00～ 12:00	音楽スタジオ A	講師, 職員, 助 手	受講者 7 人 料金 9,000 円
[同上] ガムラン	8.18～20	同上	同上	同上	同上

## 5 ) 劇場公演

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ぼくらのサウンド'88 —第1回こどもの城音楽 クラブ合同コンサート—	3.30～ 4.1	30 日 ①15:00 ②18:00 31 日 16:00 4.1 日 16:00	青山円形劇場	22 コース全ク ラブ会員, 受講 者 (約 250 人), 講師, 助手, 顧 問, 職員, パー ト, 劇場スタッ フ	※本来 61 年度事業であるが, 劇場スケジュール 上, 年度をまたいでの催 事となった。

### III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
子どもの城おまつり劇場 —子どもたちによる日本の芸能—第3回ふたつの鹿島踊	5.2	①13:00 ②16:00	青山円形劇場	〔招聘ゲスト〕 鍛冶屋鹿島踊保存会（湯河原町）の子どもたち39人 市川亀治郎、長唄連中17人 三味線、おはやし、合唱団と獅子舞チーム（ユース有志）が出演。 講師、助手、顧問、職員、劇場スタッフ	3回目に至り、初めてテーマ企画による。下見、打ち合わせ十分なるも、湯河原の子どもたちは7時に集合、22時解散という強行スケジュールとなつた。ゴールデン・ウィークには無理との声も。 入場料 800円
「ふれあいコンサート」 —表現活動による世代交流の試み— (出演・協力)	5.5	14:00	同上	子どもの城児童合唱団出演	主催、高齢者ドラマ研究会
オペラ・クリエーション・イン青山公演 「ワインザーの陽気な女房たち」 (出演・協力)	5.22~24	22・23日 18:30 24日 14:00	青山劇場	同上	劇場事業本部制作 入場料 5,000円 4,000円
金管バンドによる楽しいファミリーコンサート (第2回)	8.2	①15:00 ②18:00	青山円形劇場	子どもの城ユースバンド会員、 講師、助手、職員、劇場スタッフ	ゲスト出演、玉川大学マスターズ・バンド 有料 373人 入場料 500円
合唱コンサート サマー・フェスティバル “みんな音楽家”	8.6	①15:00 ②18:30	青山劇場	子どもの城児童合唱団、母と子のリトミック・グループ、混声合唱団出演 講師、助手、職員、劇場スタッフ、保育職員ほか	オペラ・クリエーション・イン青山、東京シティ・フィルアンサンブル、カラワン、亀田雪人、早川バレエ、余バレエ、リトルパード、武藏野3小吹奏楽団、狹山市児童館、保育幼稚グループ出演、劇場事業本部共同制作 入場料 1,000円
田島佳子 三味線のつどい (制作・出演)	9.24	18:30	青山円形劇場	三味線グループ出演。顧問、講師、助手、職員、劇場スタッフ	佳の会共催 入場料 3,000円
オペラ・クリエーション・イン青山 「おとぎの国のメルヘン通り」 (出演・協力)	63.1.3~7	3日 14:30 4~7日 ①11:30 ②14:30	同上	子どもの城児童合唱団出演	劇場事業本部制作 入場料 2,500円

## (2) 音楽事業部の活動

本年度音楽事業は、およそ以下のように整理することができる。

平常期間事業（ロビー活動、日曜・祝日イベント）、特別期間事業（児童福祉週間、夏休み、オープン記念、年末、年始、春休み）、講座・クラブ活動、グループ活動、劇場公演、施設レンタル。

平常期間事業、講座・クラブ活動、グループ活動、施設レンタルは通年にわたるもので、特別期間事業、劇場公演は比較的大かがりな単発的事業である。また、平常期間事業、特別期間事業、劇場公演は一般来館者が自由に参加できるオープン・プログラムであるのに対し、講座・クラブ活動、グループ活動、施設レンタルは、公募や申し込みによる限定メンバーを対象としたプログラムとなっている。

しかし、これらの整理・区分は、現実にはそれほど厳密なものではない。企画、準備はしばしば並行し重複した。劇場公演やその他の活動も、講座・クラブ活動の一環として、その延長線上で行うことがあった。

オープン3年目を迎えた本年度は、定着しつつある各プログラムの充実を図るとともに、これまでの経験を踏まえた幾つかの新しい事業が開発され、試みられた。

その1つが、音楽ロビー企画「音の大ぼうけん」であった。多様な年齢・レベルの子どもたちに対応するこのプログラムは、3、4か月のサイクルで統一テーマを定め1年間ほぼ全日にわたり継続した。その中から児童参加型の「演奏マラソン」が生まれ、フリー対応の1つの方向が示唆された。

学校の音楽教育や、民間の音楽教室とは一線を画す、「子どもの城」ならではの音楽活動——その確立に向けての新たな一步を踏み出した年であった。

### 1) 平常期間

#### <ロビー活動>

4つの素材「水」「木」「金属」「風」をテーマとし、音楽の原点の“音”に注目した内容を展開させた。スタッフの対応も演奏者という立場からではなく、個々の子どもとの触れ合いを大切にしながら音楽体験へ導くようにと考えた。

内容は次表に示したとおり、どのテーマにも共通するコーナーは、簡単な操作で音をつくり出せる「シンセサイザー」、テーマのイメージを象徴する「オブジェ」、テーマの音を聴きながら描画する「音の展覧会」、音遊びを体験できる「音の公園」である。

珍しい世界の楽器を展示紹介した「楽器展」に関心を持つ来館者は多く、所蔵楽器の有効利用の1つとして考えられるが、各楽器に対応する知識、演奏、紹介方法等スタッフの力量の充実が必要である。

夏休みから始まった「演奏マラソン」は来館者を巻き込みながら30分程度の演奏を続け

### III 各部の活動(1)

#### 音楽ロビー企画展開内容

〔水〕 4.7-7.15		〔木〕 7.18-9.29		〔金属〕 10.1-12.1.21		〔風〕 12.1.23-4.27	
シンセ	<ul style="list-style-type: none"> <li>DW600 (2台)</li> <li>C P (水に関係のある音を入れる)</li> </ul>	シンセ	<ul style="list-style-type: none"> <li>DW600 (2台)</li> <li>楽器体験 (スタジオA)</li> </ul>	シンセ	<ul style="list-style-type: none"> <li>DW600 (2台)</li> </ul>	シンセ	<ul style="list-style-type: none"> <li>DW600 (2台)</li> <li>デモンストレーション</li> </ul>
△音の展覧会▽	<ul style="list-style-type: none"> <li>水の音を開いて描画したもの展示 (洞窟のしづく、波、清流、地獄谷などの音)</li> </ul>	△展	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水」の時の絵を展示</li> </ul>	△展覧会	<ul style="list-style-type: none"> <li>金属でできた楽器の演奏を開いて描画 (親指ピアノ、ガムラン、銅鑼、ハンドベル等)</li> </ul>	△展覧会	<ul style="list-style-type: none"> <li>風の音や、風で音のできる楽器の演奏を開いて描画 (葉をゆする風、ファゴット、フルート等)</li> </ul>
△オブジェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水の塔」</li> </ul>	△オブジェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>木琴 (4種) ・スリットドラム (2種) ・自動演奏装置 (2種)</li> </ul>	△オブジェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「バカちゃん1号」 ・「バカちゃん2号」 ・「バカちゃん3号」 ・「児童作曲オルゴール」</li> </ul>	△オブジェ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「風の音のするかきね」 ・「児童作曲オルゴール」 ・「ウインドマシーン」</li> </ul>
△音の公園▽	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コボコボ」 ・製作コーナー ・「波の箱」 ・グラスハープ ・ドレミファコップ ・展示コーナー ・水に関係のある曲 ・パイプオルガン ・ウォーターゴング ・水笛</li> </ul> <p>&lt;ミニコンサート&gt; ・水にちなんだ曲の演奏と歌 ・和太鼓と水音の実演 ・「しづくの冒険」 ・「ヘンデルとグレーテル」 ・和楽器による日本昔話集</p>	△演奏マラソン▽	<ul style="list-style-type: none"> <li>即興 (ジャズ風、沖縄風) ・童謡メドレー ・民謡メドレー ・ピアノリード型 ・シロホンリード型 ・オブジェ木琴リード型 ・踊り ・歌 ・リズム遊び</li> </ul>	△演奏マラソン▽	<ul style="list-style-type: none"> <li>「バカちゃん」を使った金属楽器中心のもの ・2周年記念ではサンバのリズムで ・お正月は、三味線と和太鼓で</li> </ul>	△演奏マラソン▽	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンバ風 ・春休みはシンセサイザーを使ったデジタルサウンド型 ・即興 ・踊り ・カードを使ったもの ・イミュレーター、ボコーダー、ミディバットを使ったもの</li> </ul>
△公園▽	<ul style="list-style-type: none"> <li>和公園による日本昔話集</li> </ul>	△公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>「タップちゃん」 ・「ピンジャカン」 ・パンパーンダンス ・ケンバ</li> </ul>	△公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロコロアトム ・オルフ楽器 ・ハンドベル ・等</li> </ul>	△公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニ演奏マラソン ・ストロー笛 ・ピンジャカン ・オカリナ ・いろいろな笛 ・等</li> </ul>
△音のスタジオ▽	<ul style="list-style-type: none"> <li>和楽器による日本昔話集 ・パネルシアター ・ソプラノ独唱 ・ガムラン (ジャワ、バリ) ・バーカッション ・音あそび ・アンクルン</li> </ul>	△スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ブレーメンの音楽隊」 ・音あそび ・和楽器による日本昔話集</li> </ul>	△スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>風に関係のある楽器の紹介 ・和楽器による日本昔話集 ・アックマ君劇場 ・リズムあそび ・フルート演奏と歌 ・アンクルン</li> </ul>	△スタジオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>城所蔵の楽器の展示と実演 (インドネシア、インド、韓国、日本、西洋)</li> </ul>
△楽器展	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもしろ民族楽器展 (リトルワールドの協力を得、世界の珍しい木製打楽器を紹介)</li> </ul>	△楽器展	<ul style="list-style-type: none"> <li>城所蔵の楽器の展示と実演 (インドネシア、インド、韓国、日本、西洋)</li> </ul>	△楽器展	<ul style="list-style-type: none"> <li>城所蔵の楽器の展示と実演 (インドネシアの小物楽器、韓国、歌舞伎囃子など)</li> </ul>	△楽器展	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器展用ビデオ</li> </ul>
△ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズ大会 ・音の展覧会作品の放映 ・ミニスタジオの放映</li> </ul>	△ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロモーションビデオ ・楽器展用ビデオ</li> </ul>	△ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロモーションビデオ ・楽器展用ビデオ</li> </ul>	△ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器展用ビデオ</li> </ul>

るという新企画である。幼児から大人までを対象とした、参加型の一般来館者向けプログラムとして定着し、さまざまなスタイルで展開させていった。平日も来館者の状態に合わせてミニマラソンという形で生かされている。

平日は来館者が少なく、低い年齢児が多かったことから、テーマの素材を音楽的な体験に結びつける過程に課題が残された。しかし、「音のスタジオ」「カムカム劇場」は、お話しぐるみを媒介とすることできまざまな音楽体験を提供する場となった。この平日向けの小イベントは今後もより充実させていくべきものである。

この1年は不特定な人数、ばらばら年齢の来館者に、音楽を通した体験で楽しんでもらいたいと願いながらも試行錯誤を繰り返した。子どもとの基本的な対応を踏まえたうえでの音楽の楽しさを味わえるスタイルを、ハード面、ソフト面ともに求めていきたい。

#### <日曜日・祝日イベント>

本年度の日曜日・祝日のスタジオ事業は、「わいわいスタジオ」のタイトルのもとに行い、前年度に実施したものの充実、新企画の開発に努めた。

本年度の実施プログラムは、外部専門家によるもの・講座・クラブ受講生によるもの・職員によるもの・ボランティアによるものの4種類に大別できる。前年度に比べると、プログラムの数も増え、内容も充実した。

また、年間スケジュールも早くから立てられ計画的に実施することができた。

##### (ア) 外部専門家によるもの

職員による企画・構成のパターンも定着し、新しいジャンルの音楽も加わって、バラエティーに富んだミニコンサートが展開できた。さまざまな音楽を広く子どもたちに紹介するという大きな目標の実現に一歩近づいた。

また、プログラム構成もそれぞれの音楽の特徴やコンサートの内容によって、鑑賞を目的にしたものと、参加を織り込んだものに分けて考え、より親しみやすいプログラムづくりを心がけた。

##### (イ) 講座・クラブ受講生によるもの

本年度も、日ごろの活動の成果を発表する場として、また講座・クラブの活動の紹介の場として、幾つかの講座に「わいわいスタジオ」に参加してもらった。講座の目的や活動内容によって、発表会形式の「わいわいスタジオ」に参加できる講座は限られたが、新たに混声合唱も加わるなど、少ないながらもアットホームなコンサートが多かった。

##### (ウ) 職員によるもの

前年度に行われたプログラムの充実とともに、新しいプログラムの開発に努めた結果、ロビーの活動テーマに合わせたもの（例、風のコンサート・水のコンサート等）が新たに加わった。

これらのプログラムは、「わいわいスタジオ」以外の音楽事業部の活動をアピールするうえでとても有意義だった。

(エ) ボランティアによるもの

「わいわいスタジオ」を広く他事業部に開放した、新しいパターンである。企画・構成から実施まで音楽事業部と婦人ボランティアが共同で行った。

スケジュール調整など苦労した点はあったが、お互いに達成感を持つことができた。

2) 特別期間

(ア) 春休み

第2回音楽事業部講座・クラブ発表会「ぼくらのサウンド'88」のほか、ロビーではデジタル演奏マラソンを実施した。

春休み「デジタルサウンド演奏マラソン」

シンセサイザーの旋律やリズムに合わせ、来館者はクルクル（くり抜き太鼓）とガンザ（コカコーラの協力を得た手製のマラカス）で参加した。シンセサイザーは演奏者の、アクションと音の出方が一致しないため特有のスタイルになじみにくいのではないかと懸念された。しかし、生演奏（トムトム、ティンパレス、ユースバンド）を加えることで解決し、多くの来館者が参加をした。

(イ) 児童福祉週間

平常活動を生かし「水」に関するクイズ「水の音と音楽・ロビーカクイズ大会」を実施した。

前年度に引き続き、スタジオでは「こどもの日スペシャル スタジオ5／5」と題して、木管楽器グループのミニコンサートを実施した。

通常期間に比べ、来館者も非常に多く、年齢層も広いので、それに対応できるプログラムづくりが必要である。

(ウ) 夏休み

「わいわいスタジオ 夏休みスペシャル」は毎週金・土・日曜日ごとに実施した。

「怪談」「パリの踊り」「夏の思い出特集」など、夏休みならではのユニークな活動が多く、屋外を使ったコンサートなど、活動範囲も広くなった。

ロビーでは「木」の特集のほか、「おもしろ民族楽器展」第2回をリトル・ワールドの協力を得て開催した。

(1) 木の音と音楽「演奏マラソン」

旋律を奏でる楽器（主にピアノ）と基本リズムを刻む楽器（主にコンガ）に合わせ、来館者が木製の打楽器（クルクル、スリットドラム、木琴等）で好きなリズムを刻んで参加していった。演奏は30分から長いときで4時間半続けた。多くの来館者が1つの演奏をつくり出そうとすることでロビー全体が一体感を持ち、独特の雰囲気空間となっていました。

(2) 「おもしろ民族楽器展」

犬山市の博物館「リトルワールド」の協力を得、世界の珍しい木製打楽器を展示。「こどもの城」の楽器も加え充実を図ったが「演奏マラソン」と同じフロアにあったので、音が漏

れて落ち着いた場にならなかった。次の検討事項といえる。

### (3) 楽器体験「シンセサイザー」

スタジオAをシンセサイザー専用の部屋として開放した。他の音から隔離されるので集中して体験できる場となった。

### (=) 開館2周年記念

今まで行ってきた「わいわいスタジオ」の中から、幾つかを選んでのスタジオBとロビーを使ってリレー形式で構成したスペシャルイベント「わいスタ・マラソン」を実施した。また、年齢を限定しない参加イベント「演奏マラソン」がスタートした。

### (オ) 年末・年始

クリスマス・スペシャルは、職員によるハンドベルのコンサートと、お話劇場「くるみ割人形」を行った。来館者が少ないことを予測して、少人数制のプログラムづくりを心がけた。

年始は、恒例の「獅子舞」とスペシャル「琴しもよろしく」と題するお琴のコンサートを実施。

日本のお琴のほかに、中国・韓国のお琴も出演するなど、国際色豊かなお正月になった。

また、ロビーでもお正月の雰囲気を生かし、和楽器による演奏マラソンを行った。スタッフが事前の研修で習得した和太鼓に、三味線講座の受講生の演奏を加えた。獅子舞の登場もあり、新春らしい催しとなった。

和太鼓の参加は外人の来館者にも好評で熱気のあるものとなった。一弦琴の「造ろうコーナー」も非常に好評だった。

### (カ) その他 「レッツ・トライ五人ばやし」

ひな祭りの時期にチャレンジゲームのゴールとして五人囃子の楽器を体験できる場を作った。テレビや本でしか見たことがない楽器なので親子ともに楽しく参加していた。

また、プレイ、研修教養、ボランティアの人たちとの合同企画のきっかけとしても意義があった。

### (キ) サマー・セミナー

成人向け短期集中型の「サマー・セミナー」は、本年度も夏休みに適した企画として、非常に好評だった。

特に「リズム・ムービング&パーカッション・アンサンブル」は希望者も多く、中には2年連続の人や、遠方からの参加もあった。

「三味線」「シンセサイザー」「歌舞伎ばやし」「ガムラン」も、参加者は少なかったが、極めて熱心な人が多く、成果も認められた。

## 3 ) 講座・クラブ

62年度第I期は新設講座（リズム・ムービングIII、リトミックIII、ガムラングループ、三味線II）を含めて21コース、第II期からは新たに1講座（リトミック初級）が加わって22コースが開講し、受講生は3歳児から成人に及んだ。

### III 各部の活動(1)

前年度同様、各講座・クラブの申し込みには片寄りが見られ、依然として邦楽・民族音楽系のものは受講者確保が難しかった。

しかし、発表会や各種劇場公演、季節行事に出演・参加するにつれて、活動が紹介され、少しづつではあるが申し込みの数も増えてきた。

また、各講座・クラブの専門性や継続期間から生じる受講生のレベル差の問題は、相変わらず解決されない今まで、そのため、クラスの数が増える傾向にある。

それぞれの講座・クラブの特徴や目的を踏まえたレベル設定、継続期間の見直しが早急に必要である。

#### <合宿>

7、8月に「ユースバンド」「パーカッション・アンサンブル」「三味線」「合唱」が合宿を実施した。

昨年度同様、各講座・クラブの特徴を生かした形で行い、子どもにとって有意義なものになったようだ。しかし、実施期間が夏休みに当たっているため、問題は多い。他の事業とのバランスを考慮しながら、実施を見直す必要がある。

#### 4) グループ活動

前年度確立したシステムにしたがって、活動を行った。

本年度は、主にプログラムの充実、新しいプログラムの開発に重点が置かれた。

特に講師・助手に頼らない職員によるプログラム（例、「アンクルン」「和楽器に触れよう」等）の開発に力を入れた。

また、需要の多い障害児対象のプログラム作りも積極的に行った。

#### 5) 劇場公演

##### (ア) 音楽事業部主管

「第3回子どもの城おまつり劇場」「第2回音楽講座・クラブ合同発表会 ぼくらのサウンド'88」を開催した。

いずれも有意義な公演だったが、特に「ぼくらのサウンド'88——子どもの城音楽事業部講座・クラブ合同発表会」は、1年の成果をまとめ、「子どもの城」の音楽活動を紹介するうえで非常に重要なものだった。

観客は出演者の家族が多い。講座・クラブ活動をもっと広くアピールするためにも、一般来館者や音楽・教育関係者に見てほしい。

##### (イ) 参加依頼型

ゴールデンウイークに円形劇場で行われた「ふれあいコンサート」への児童合唱団の参加、年2回行われるオペラクリエーション公演への児童合唱団有志の参加などがあった。

前年度は参加依頼が間近になることが多く、参加する子どもたちへの負担が問題になったため、本年度は計画的に行うよう心がけた。

## 4 音 楽

### (ウ) 他事業部との共同制作

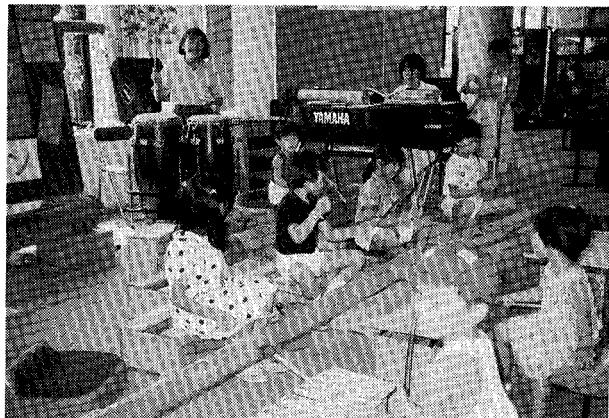
本年度は、夏休みに劇場事業部と青山劇場で「サマーフェスティバル」を、春休みの発表会2日目に国際交流部と青山円形劇場で「春です！イースター」を開催した。

どちらの公演も出演団体が多かったため、職員の負担もかなり重かったが、にぎやかな楽しい公演だった。

このような公演を開催する場合、時期やスタッフなどを慎重に考える必要がある。

### 6) 施設レンタル

本年度のレンタルは、他事業の充実・発展を考え、業務整理（レンタル時期・時間の限定）を行った。



いろいろな音を見つけて－音の大冒険「木」（7.18～9.26）



「ぼくらのサウンド'88」（63.3）

(1) 62年度活動一覽表

### 1) 調間事業実施時間

## 2) 平常期間プログラム

名 称		期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
ウ オ ル ト ・ デ イ ズ ニ ー ビ デ オ 試 写 会	9月	6(日) 13(日) 15(火) 20(日) 27(日)	11:00~ 17:00	AVライブラ リー(6) 音楽スタジオ B(13・15) フリーホール (20・27)	アルバイト2 (人)	パンダイと提携し、ディ ズニー・短編アニメの上 映会を行った。
	10月	4(日) 11(日) 18(日) 25(日)	同上	フリーホール	同上	同上
	11月	15(日) 22(日) 23(月) 29(日)	同上	同上	同上	同上
	12月	6(日) 13(日) 20(日)	同上	同上	同上	同上
	63・1月	10(日) 15(金) 17(日) 24(日) 31(日)	同上	同上	同上	同上
	2月	7(日) 11(木) 14(日) 21(日) 28(日)	同上	同上	同上	短編アニメ上映(11) 長編アニメ上映 「ダンボ」(7) 「ピーターパン」(14) 「不思議の国のアリス」 (21) 「ピノキオ」(28)
	3月	6(日) 13(日) 20(日) 21(月)	同上	同上	同上	短編アニメ上映(20・21) 長編アニメ上映 「ロビンフッド」(6) 「ダンボ」(13)
	おもしろビデオ館 「きみも鳥博士になれる よ」	5.15~29 (毎週木曜 日全3回)	16:30~ 17:00	音楽スタジオ B	職員2 アルバイト1	AVライブラリー所蔵の ビデオソフトの中から、 秀作ソフトを選び、テー マを決めて紹介する。 “見てもらいたい”作品 を提供することによって、 映像のおもしろさ、すば らしさを知ってもらう。
同上 「おはなし烟は夢の実いっ ぱい」	6.5~7.10 (毎週木曜 日全6回)	同上	同上	同上	同上	
同上 「でんしゃときしゃ日本 の鉄道を知ろう」	9.18~10.30 (毎週金曜 日全7回)	同上	同上	同上	同上	上映日を木曜日から金曜 日に変更。以後、金曜日 が定例になる。
同上 「世界のアニメーション傑 作シリーズー中国、ソ連」	11.13~12.11 (毎週金曜 日全5回)	同上	同上	同上	同上	

### III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
おもしろビデオ館 「いきいきビデオ図鑑み んな生きている！」	63.1.22～ 2.26 (毎週金曜 日全6回)	15：30～ 16：00	音楽スタジオ B	(人) 職員 2 アルバイト 1	上映時間を1時間繰り上 げて、15時30分からに した。
同上 「そらのくのりもの」	3.4～18 (毎週金曜 日全3回)	同上	同上	同上	
おもしろビデオ館スペシャ ル 「うごく！すてきな絵本 たち」	4.26	13:30～ 14:10 14:30～ 15:10 15:30～ 16:10	同上	同上	
同上 「おはなし畠は夢の実いっ ぱい日本編パートⅠ」	5.31	13:30 14:30 15:30	同上	同上	
同上 「おはなし畠は夢の実いっ ぱい日本編パートⅡ」	6.14	同上	同上	同上	
同上 「おはなし畠は夢の実いっ ぱい日本編パートⅢ」	7.12	同上	同上	同上	
同上 「でんしゃ、きしゃ」	9.23	12:30 13:30 14:30 15:30	同上	同上	
同上 「インフォビジョンに挑 戦－エンジョイ・スporte ・ラグビー・サッカー 編」	10.10・11	11:30～ 12:00 (10日のみ) 13:30～ 14:00 15:30～ 16:00	同上	職員 2 アルバイト 1 (音楽事業部の 協力あり)	
同上 「インフォビジョンに挑 戦－ぼくらの東京探検」	11.22・23	11:30～ 12:00 (23日のみ) 13:30～ 14:00 15:30～ 16:00	同上	同上	
同上 「うごく！すてきな絵本 たち」	12.6	13:30～ 14:00 14:30～ 15:00 15:30～ 16:00	同上	職員 2 アルバイト 1	
おもしろビデオ館スペシャ ル 「ニッポン！まんが映画 大行進」	63.1.10 2.7・11	13:30～ 14:00 15:30～ 16:00	同上	同上	

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
おもしろビデオ館スペシャル 「インフォビジョンに挑戦－日本全国鉄道の旅」	3.20・21	13:00～ 14:00 15:30～ 16:00	音楽スタジオB	職員2 (人) アルバイト2 (音楽事業部の協力あり)	
ぱたぱたアニメをつくろう	4.18～ 63.3.19 (特別期間 および祝日 を除く毎週 土曜日)全 33回	16:00～閉館	音楽ロビー	職員2 アルバイト1	
マックTV子どもの城情 報局+わいわいスタジオ	62.4～ 63.3 (日・祝日 および特別 期間)	10:30～閉館	音楽スタジオB および映像 調整室	職員2 アルバイト2 (音楽事業部と の共同企画)	音楽スタジオBで行われる各種イベントの中継に 催事案内情報などを盛り込んで全館に送出。11 月からは、文字案内情報を本格的にスタートさせ た。

## 3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<春休み> インフォビジョン特集	3.26 ～4.6	10:00～ 17:30	AV ライブラ リー	職員3人 アルバイト5 (人)	インフォビジョンの新ソ フト「ネコになっちゃっ た」「街は音楽だ」の公開 に合わせインフォビジョン を利用者にアピールし た。
<児童福祉週間> 動物ランドへひとつび	4.29～5.5	10:00～ 18:00	同上	常勤3 アルバイト5	低年齢に人気ある動物ソ フト・カタログを更新。
<同上> 子どもデパート CATV 局	4.29		音楽スタジオB 映像調整室	職員3 賃金職員2	全館行事「子どもデパー ト」の開・閉会式の中継。 端末モニター・テレビを 3, 4階のエレベーター ホール付近などに臨時に 増設し、買い物情報、迷 い子情報などを提供。 「子どもデパート」の会 場環境を演出した。
<夏休み> オリジナルソフト特集	7:20～ 8:16	10:00～ 18:00	AV ライブラ リー	職員3 アルバイト5	青山劇場・円形劇場の公 演収録を中心とした、こ どもの城オリジナル・ソ フトを特集、カタログを 製作。
<同上> マックTV子どもの城情 報局	7.25～8.30 (土・日曜 日)	10:30～ 18:00	映像調整室 音楽スタジオB	職員2 アルバイト2	「わいわいスタジオ」の 中継をはさんで、催事案 内情報を館内へ送出。

### III 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<夏休み> AV アニメーションフェス	7.31 8.1 8.2	11:00～ 17:00 11:00～ 16:30 11:00～ 16:30	音楽スタジオB	(人) 職員 2 アルバイト 2 同上 同上（協力=音楽事業部）	「おもしろビデオ館スペシャル」として、AVライブラリーの秀作アニメを上映。(31日) 高校生や若い人たちが作った8mm、16mmのアニメ作品の上映。(1日) アニメ作家を招いて、アニメ作りの実際を聞いたり、ぱたぱたアニメづくりに参加した。(2日)
<同上> おたのしみおもしろビデオ館	8.11～16	11:00～ 17:00	同上	職員 2 アルバイト 2	「自然のなかで生きる」をテーマに、自然の中で生きる生物や、自然に挑む人間をテーマにしたビデオ作品を上映。
<同上> 自由研究に役立つかな	8.17～31	10:00～ 18:00	AV ライブラー	職員 3 アルバイト 5	夏休みの自由研究のヒントになりそうなソフトを特集。3件の取材あり。
<同上> ウォルトディズニービデオ試写会	8.22・23・ 25～31	11:00～ 17:00	フリーホール	アルバイト 2	短編アニメ上映
<開館2周年記念> 青山劇場 86・87	11.1～3	10:00～ 18:00	AV ライブラー	職員 2 アルバイト 3	青山劇場・円形劇場の61年10月～62年9月の公演のダイジェスト・ビデオを作成。オリジナル・ソフトを合わせて強調。
<開館2周年記念> わいわいスタジオスペシャル+マックTV	11.1・3	10:45～ 17:30	音楽スタジオB、同ロビー、映像調整室	職員 2 アルバイト 2 (音楽事業部ほかが協力)	2周年記念セレモニー、わいわいスタジオ・プログラム（シンセサイザー・コンサート、おはなし劇場など）、おもしろビデオ館、ぱたぱたアニメを作ろうなどを連続して公開。一方、音楽ロビーにサテライトを設け、館内の催事情報を提供。（音楽事業部との共同企画、企画・研修教養部協力）
<同上> 2年目を迎えたこどもの城 86/87 1年の歩み	11.1～3	10:00～ 17:30	音楽ロビー入り口		こどもの城の1年の歩みの映像記録を制作し、スタンド・アローン方式で終日上映。
<冬休み> お楽しみおもしろビデオ館	12.26・27 63.1.5～7	11:00 13:30 14:30 15:30	音楽スタジオB	職員 2 アルバイト 2	「ニッポンまんが映画大行進」と題し上映。
<同上> マックTV・こどもの城情報局	12.24～28 63.1.3～7	10:00～ 17:30	映像調整室、音楽スタジオBほか	職員 2 アルバイト 1	当日のイベントをVTR取材してきて、即座に全館に放映するなど、文字情報と映像情報をミックスして、全館に催事案内情報を提供した。

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<冬休み> 息子よ これが私のヒーローだ	12.25~28 63.1.3~7	10:00~ 18:00	AV ライブライ	(人) 常勤 2 アルバイト 3	お父さんたちの、子どものころのビデオを集めて特集。
<同上> ウォルト・ディズニービデオ試写会	12.27 63.1.3~7	11:00~ 17:00	フリーホール	アルバイト 2	短編アニメ上映
<節分> 子どもの城のオニ退治	1.30・31	13:00~ 17:00 (30日) 11:00~ 17:00 (31日)	映像調整室	職員 2 アルバイト 2 (プレイ事業部のプログラムに協力)	鬼の出没場所を館内案内テレビを通して提供し、子どもたちは、案内テレビを見ながら鬼を探す。ゲームの中に館内案内テレビを組み込むという新しい試み。
<春休み> しねまていく	3.26・27	13:30~ 14:10 15:30~ 16:10	音楽スタジオ B	職員 2 アルバイト 2	ビデオ(テレビ)と違ったフィルム(映画)のすばらしさを感じてもらおうと、16mmの映画を上映、立体アニメーションの第一人者・岡本忠成さんの作品「あれはだれ?」「りすのパナシ」の2本を上映。
<同上> マックTV子どもの城情報報局	3.26~31	10:30~ 17:30	映像調整室	職員 2 アルバイト 2 (協力=プレイ事業部ほか)	催事案内情報を送出するほかに、ボランティアが担当した「チャレンジ・ゲーム大会」と連携。スーパー・チャレンジャーになった子どものインタビューを送出した。館内テレビシステムをゲームに取りこんだ新しい試み。
<同上> ウォルト・ディズニービデオ試写会	3.26~31	11:00~ 17:00	フリーホール	職員 2	短編アニメ上映
<同上> インフォビジョン特集	3.26 ~4.5	10:00~ 17:30	AV ライブライ	職員 3 アルバイト 5	新インフォビジョン「ネコになっちゃった」など公開。

## 4) 講座・クラブ

(講師等の欄中※印は「子どもの城」職員)

名 称	対 象	人 数		曜 日 間	場 所	期 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		(組)	(組)						
母と子のビデオ教室(I期)	母と子	8	4	木曜日 13:30~ 15:30	音楽スタジオ B	4.16~ 7.9 (ただし、 4.30は除く) 全 12 回	(円) 20,000	※木辺高敏 ※星間行雄 ほか 1 人	
母と子のビデオ教室(II期)	同上	同上	3	同上	同上	9.17~ 12.3 全 12 回	同上	同上	当初、金曜日を予定していたが、受講者が少なかったため、木曜日のファミリー・ビデオ・クラブの時間に移行、平行して講座を行った。

### III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数							
母と子のビデオ教室(III期)	母と子	(組) 8	(組) 2	木曜日 13:30~ 15:30		音楽スタジオB	1.14~ 3.24 (ただし, 2.11は除く) 全 10 回	(円) 16,000	※木辺高敏 ※昼間行雄 ほか 1 人	ファミリー・ビデオ・クラブ(Bコース)と同時平行して実施。
ファミリー・ビデオ・クラブ(I期)	こどもの城ビデオ教室終了者	8	7	A コース 木曜日 10:30~ 12:30		同上	4.16~ 7.19 (ただし, 4.30は除く) 4.17~ 7.10 (ただし, 5.1は除く) 全 12 回	15,000	同上	
ファミリー・ビデオクラブ(II期)	同上	同上	6	A コース 木曜日 10:30~ 12:30 B コース 木曜日 13:30~ 15:30		同上	9.17~ 12.3 全 12 回	同上	同上	途中から、母と子のビデオ教室(金曜日の講座)を移行し、同時平行して実施した。
ファミリー・ビデオクラブ(III期)	同上	同上	8	同上		同上	63.1.14 ~3.24 (ただし, 2.11は除く) 全 10 回	12,000	同上	
クリエイティブクラブ(造形事業部) 「アニメ体験」	小3~ 高3	(人) 10	(人) 3	水曜日 16:00~ 17:30		造形スタジオ	9.16~ 12.9 全 10 回		※昼間行雄 ※木辺高敏 造形事業部 スタッフ	「ぱたぱたアニメをつくろう」の経験を踏まえて、ストーリー性のある切り紙アニメーションの製作をした。造形事業部との共同企画。
(短期)保育クラブのメンバーのための母と子のビデオ教室	保育クラブの母と子	(組) 8	(組) 8	7.22・23 10:30~ 12:30		音楽スタジオA		4,000	※木辺高敏 ※昼間行雄 ほか 1 人	保育クラブ会員に対するサービスと、母と子のビデオ教室のPRを兼ねたもの。
(同上) 保育研究開発部母子教室 (7期) (8期) (9期) (10期)				8.25・26 同上		音楽スタジオB			※木辺高敏 ほか 2 人	保育研究開発部の母子教室のひとコマとして、ビデオ・カメラを通して子どもを見ている立場から、くみることについてビデオを使って講義。

## (2) AV 事業部の活動

AV ライブラリーは、子どもたちが自分でソフトを選ぶことによって、主体的に映像に接するようとする視聴施設。62年度の特筆すべきこととしては、これまで基本的には有料であった視聴を著作権の問題から無料に改めたことがある。これにより利用回数、利用者数は大幅に伸びた。

AV 資料室は、AV ライブラリーの後方支援部門。市販ソフトは年間 631 本を購入、インフォビジョンも 2 本製作し、年度内にプログラミングを終わった。バンダイと提携して始めたディズニー・アニメ試写会が好評で、単なる混雑緩和策以上の効果をあげた。

マスターコントロールは、AV ライブラリーの映像製作部門であり、AV ライブラリー用の番組製作、劇場収録 VTR テープの外部販売、アトリウム映像・案内テレビ映像の送出および機器のメンテナンスなどを行っている。62年度になってようやく運営が軌道に乗り、劇場公演の収録および各種夏のキャンプ収録、平常期間の講座の記録という映像製作の 3 つの方向を見いだすことができた。

### 1) AV ライブラリー

#### (ア) 利用回数・利用者数

62年度のAV ライブラリーの利用回数・利用者数は、入館者数が前年度比 12 %減・AV ライブラリーの開館時間が 9 %減であったにもかかわらず、それぞれ 32 %・22 %増で、70,524 回、165,313 人の利用があった。

- これは
  - ①ライブラリーの無料化に伴う一般来館者、講座受講者の利用増
  - ②混雑時の視聴時間制限（休日は 35 分以内の番組のみ視聴可能）による利用回数増（視聴時間前年比 17 %減）
  - ③休日の入館者は 14 %減だったが、それでもライブラリーの処理能力を上回っており、平日は 4 %減とほぼ横ばいであったため、AV ライブラリーの利用者数に影響しなかった

#### ④幼児向け番組の追加整備

などのためによるものと考えられるが、61 年 3 月からすでに増加傾向は始まっていることから、最も大きな要因は②であると考えられる。

#### (イ) 視聴の傾向

61 年度と基本的には変化がなく、アニメ・特撮テレビ（ウルトラマン・仮面ライダーなど）が 80~85 % を占めている。インフォビジョンを含む、「こどもの城」オリジナル作品と音楽物が、62 年度はやや増加している。視聴者の年齢から見ても、今後もこの傾向はおむね変化しないと思われる。

62 年度も、前年度と同様、特別期間には、「インフォビジョン特集」、「昔のヒーロー

### III 各部の活動(1)

に会いに行こう」などの強調テーマを設定したが、中心を通年使用できる特集カタログの製作におき、テーマに添った作品を特に協調することは、行わなかった。これは、特別期間は、そもそも満員であり、一部の作品に視聴が集中することは、混乱の原因になること、また、AVライブラリーの特徴は、3,000本の作品の中から利用者が、自由に選択できる点であるため、作品の押しつけをするより、むしろカタログを整備することで、子どもが主体的に番組を選択しやすくすることに重点を置くべきだと考えたためである。

今後も特別期間のテーマの強調については、目録製作を中心とした緩やかなもので対応していくつもりである。

AVライブラリー利用状況

	開館日数 (日)		入館者数 (人)		利用回数 (回)		利用者数 (人)		AVライブラリー 利用率 (人・%)	
	62年度	前年比 %	62年度	前年比 %	62年度	前年比 %	62年度	前年比 %	62年度	前年差
4月	26	0	24,011	-28	5,425	23	12,724	17	53	20
5月	27	0	27,733	-4	5,356	38	12,459	28	45	11
6月	25	0	16,110	-13	4,278	29	9,980	20	62	17
7月	27	-4	29,866	24	7,679	65	18,350	52	61	11
8月	29	0	53,292	-23	12,131	26	29,005	15	54	18
9月	26	4	18,421	-24	5,280	40	12,276	27	67	27
10月	27	0	15,335	-28	4,564	33	10,289	18	67	27
11月	25	-4	20,934	-16	5,231	23	12,100	13	57	15
12月	25	4	9,806	-13	3,649	46	8,156	30	83	28
1月	26	0	22,151	9	5,648	50	13,452	40	61	13
2月	24	0	18,030	-8	4,636	26	10,866	16	60	12
3月	28	4	30,659	-1	6,647	12	15,656	4	51	2
合計	315	0	286,348	-12	70,524	32	165,313	22	58	16

注 入館者数には無料の6歳未満児は含まない。

## 2) AV資料室

### (ア) インフォビジョンのプログラミング

62年度は、「街は音楽だ（後半）」「ネコになっちゃった（後半）」の2本のインフォビジョンを国費で製作し、63年2月にプログラミングを完了した。

インフォビジョンは、

- ①AVライブラリーの看板であり、他の類似施設にはない「こどもの城」独特の番組である
- ②自前の著作権の作品である
- ③AVライブラリーの目的である、子どもの映像に対する主体性を育てることに最も適

した番組である

④数の少ない幼児向け市販ソフトを補完することができる

などの点から 63 年度以降も小さいものを毎年 1 本程度は製作していきたいと考えている。

#### (イ) 市販ソフトの選定・購入・試視聴・データ登録

62 年度は、市販ソフトを国費で 2 回 (571 本, 30 本), 協会費で 1 回 (30 本) 購入した。選定に当たっては、

①消耗分の置き換え

②幼児向け

③視聴回数の全体比に比べ、本数の全体比に小さい分類ソフト

(哺乳動物・映画 2 童話・日本の音楽・陸の乗物・アニメ・特撮 TV 2 —— 分類別表参照)

④外国人子ども向け

を優先して選び、ソフト会社を回り著作権の処理をお願いした。AV ライブラリーの無料化により、61 年度よりはスムーズに交渉が進み、おおむね希望したものを購入することができた。

試視聴・データ登録は 10 月から毎月 50~100 本行い、62 年度末までに約 580 本を処理し終わった。

62 年度購入ソフトは非常に好評で、特にディズニー・アニメは視聴回数の約 10 % を占めるほどである。

また 62 年 10 月にかなり大幅な分類の変更を行った。



親子で楽しく - AV ライブラリー

III 各部の活動(1)

分類別視聴回数・番組数

(63年3月分)

分類		回数	比 %	番組数	比 %
01	子どもの城オリジナル作品	6	0.09	20	0.51
02	インフォビジョン	137	2.09	6	0.15
03	青山劇場・円形劇場 1	64	0.98	90	2.31
04	青山劇場・円形劇場 2	8	0.12	56	1.44
	小計	215	3.28	172	4.42
11	天文学と宇宙	28	0.43	31	0.80
12	地球の科学	11	0.17	26	0.67
13	物体の運動	2	0.03	11	0.28
14	電気・音・光	5	0.08	24	0.62
15	化学	1	0.02	10	0.26
16	数の科学	1	0.02	13	0.33
17	気象	1	0.02	13	0.33
	小計	49	0.75	128	3.29
21	生物全体	4	0.06	11	0.28
22	すごく小さな生き物	1	0.02	2	0.05
23	水の中の生き物	14	0.21	29	0.75
24	哺乳動物	68	1.04	69	1.77
25	鳥・へび・かえるの仲間	11	0.17	36	0.93
26	昆虫	12	0.18	34	0.87
27	植物	0	0.00	24	0.62
28	生態系	0	0.00	5	0.13
29	その他／生物	8	0.12	28	0.72
	小計	118	1.80	239	6.15
31	世界	5	0.08	81	2.08
32	世界の歴史	2	0.03	4	0.10
33	アメリカ大陸	4	0.06	22	0.57
34	中国	1	0.02	20	0.51
35	アジア・オセアニア	10	0.15	12	0.31
36	アフリカ	0	0.00	3	0.08
37	ヨーロッパ・ソビエト	8	0.12	19	0.49
38	世界の文学	4	0.06	18	0.46
	小計	34	0.52	179	4.60
41	日本の歴史	12	0.18	35	0.90
42	昭和の歴史	3	0.05	27	0.69
43	日本の自然と旅	4	0.06	34	0.87
44	日本の風俗	1	0.02	25	0.64
45	日本の文化	3	0.05	24	0.62
47	産業	0	0.00	20	0.51
49	その他／日本	3	0.05	3	0.08
	小計	26	0.40	168	4.32
51	あそびとおもちゃ	38	0.58	55	1.41
52	趣味	1	0.02	75	1.93
53	芸能 1 落語	5	0.08	53	1.36
54	芸能 2	5	0.08	35	0.90
55	福祉と健康	1	0.02	34	0.87
56	看護と性	4	0.06	38	0.98

57	発達と保育	5	0.08	33	0.85
58	人々の生活	0	0.00	10	0.26
59	おかあさんの勉強室	13	0.20	27	0.69
	小計	72	1.10	359	9.23
60	童謡	14	0.21	17	0.44
61	音楽	4	0.06	28	0.72
62	クラシック音楽	22	0.34	61	1.57
63	ロック・ポップス 1	28	0.43	54	1.39
64	ロック・ポップス 2	32	0.49	44	1.13
65	ジャズ	3	0.05	25	0.64
66	日本の音楽 1・ソロ	113	1.72	72	1.85
67	日本の音楽 2・グループ	70	1.07	38	0.98
68	その他／音楽	4	0.06	25	0.64
69	美術と工芸	10	0.15	84	2.16
	小計	300	4.57	448	11.52
71	海・山のスポーツ	11	0.17	39	1.00
72	球技・集団	27	0.41	46	1.18
73	球技・個人	3	0.05	22	0.57
74	器械体操	0	0.00	9	0.23
75	武道・格闘技	8	0.12	17	0.44
76	海と空のり物	22	0.34	20	0.51
77	陸のり物	84	1.28	46	1.18
78	宇宙のり物	9	0.14	9	0.23
79	その他／スポーツ・のり物	4	0.06	7	0.18
	小計	168	2.56	215	5.53
80	ディズニー・アニメ	667	10.16	103	2.65
81	アニメ 1 童話	433	6.60	178	4.58
82	アニメ 2 名作アニメ	187	2.85	164	4.22
83	アニメ 3昔話／歴史	231	3.52	187	4.81
84	アニメ 4 マンガ	1,483	22.60	199	5.12
85	アニメ 5 宇宙 S F マンガ	274	4.17	135	3.47
86	アニメ 6 スポーツマンガ	147	2.24	71	1.83
87	アニメ 7 少女向マンガ	466	7.10	44	1.13
88	アニメ 8 長編	95	1.45	73	1.85
89	その他／アニメ	52	0.79	80	2.06
	小計	4,035	61.48	1,234	31.74
90	特撮 T V 1 海外	20	0.30	56	1.44
91	特撮 T V 2 ウルトラマン	799	12.17	106	2.73
92	特撮 T V 3 変身ヒーロー	263	4.01	130	3.34
93	特撮 T V 4 時代劇・妖怪	127	1.94	77	1.98
94	特撮 T V 5 その他	184	2.80	117	3.01
95	映画 1 特撮	54	0.82	67	1.72
96	映画 2 童話	11	0.17	25	0.64
97	映画 3 その他	13	0.20	44	1.13
98	外国語 1 子供向け	74	1.13	63	1.62
99	外国語 2 その他	1	0.02	29	0.75
	小計	1,546	28.56	723	18.60
	合計	6,563		3,888	

#### (ウ) けんさくくんのデータ登録

62年度は、8月からディズニー・アニメ試写会を始めたこと、9月から常勤1人が欠員になったこと、けんさくくんのソフト改造を12月末まで行っていたことなどから、けんさくくんのデータ更新を行わなかった。作業量の多い仕事ではあるが63年度には行わなければならないと考えている。

#### (エ) ポスター・目録の製作

AVライブラリーの目録は、

- ①特集カタログ（写真入り）
- ②総合カタログ（35分以内版・全件版）
- ③年齢別カタログ（3・4歳向け、5・6歳向け）
- ④新着ソフトカタログ（35分以内版・全件版）
- ⑤外国語カタログ

の5種類を常備している。

特集カタログおよびポスターについては、特別期間のAVライブラリーのテーマに合わせ、62年度は、動物ランドへひとつとび、オリジナル・ソフト、自由研究に役立つかな、昔のヒーロー、インフォビジョンの5種類を製作した。

また総合カタログ、年齢別カタログ、新着ソフトカタログについては、ほぼ月1回の割合で更新を行っている。

#### (オ) ディズニー・アニメ試写会

ディズニー・アニメ試写会は、おもちゃメーカーのバンダイと提携し、

- ①混雑時にAVライブラリーで処理しきれない利用者への対応を図る
- ②バンダイの宣伝活動による「こどもの城」の入館者の増大を図る
- ③質の高いディズニー・アニメの上映を定期的に行って「こどもの城」の魅力を高めることを目的として、62年8月から始めた。

プログラムは、短編から長編まで約25種類あり、日替わりを原則とし、100インチ・ビデオ・プロジェクタによる上映である。会場は主に地下1階フリーホールで、場合によっては8階研修室を使った。夏休み・冬休み・春休みの特別期間と平常期間の日曜・祝日を中心に行い、延べ51日間、計21,596人の利用者があった。混雑時には1日1,000人以上の利用者があり、ますます成功していると考えている。63年度もバンダイと提携が続けられれば、継続して催していきたいと思う。

### 3) マスターコントロール

マスターコントロールの62年度収入は、61年度と比べ51%増であった。これは青山劇場で行われた公演記録VTRテープの売れ行きが好調だったことなどによる。

青山劇場・円形劇場の収録は、外注・内部依頼を合わせ、13本、36本の計49本。1本につき2回収録することも多いので、実際の収録回数はほぼ80回である。収録の際は人手が

いるので、AV 資料室の要員の応援を得て、おおむね順調に作業をこなした。

そのほか、体育合宿の収録、「子どもの城」の全館的な記録などを計 13 回行った。

また、これまでに青山劇場・円形劇場で収録したもののうち 104 本、その他 8 本の計 112 本を 62 年度に編集し、「子どもの城」オリジナル・ソフトとして、AV ライブラリーで視聴に供している。オリジナル・ソフトは、「子どもの城」AV ライブラリーでしか見ることのできないソフトなので、他の類似施設にはない特徴となるものである。見られる回数も徐々に増えており、63 年度も 120 本程度製作していきたいと考えている。

#### 4) ビデオ活動

＜映像の時代＞といわれるなかで、際限なく増え続けるさまざま＜映像＞に取り囲まれて我々は生活している。このような状況のなかで、どのように＜映像＞と対していくべきなのか——今までのようなく映像を無条件に真実を伝えるものとして受け入れるままでよいのか、それともなんらか（識別するとか、選択するとか）の方法を考え出さなければならないのか——現実の問題として考えねばならない。

子どもと＜映像＞のかかわり方を考えるときに、避けて通れない問題であり、我々自身が＜映像＞に携わる者として考えていかなければならない問題である。コミュニケーションの道具として従来から使われている＜言葉（文字）＞と同じように、＜映像＞の役割、可能性を探り、伝えることが活動の基本にある。

映像を含めてたくさんの情報が飛び交っている。それらをいかに読み取り、選別し、活用していくかが次の世代の課題となるだろう。考えるキッカケを提供できればと考えている。

映像作品に触れること（おもしろビデオ館などの活動）を通して「読む」ことを意識し、創造的な活動（ぱたぱたアニメを作ろう、母と子のビデオ教室などの活動）を通して「表現の仕組み」や「映像の構造」が理解できればと願っている。

我々自身がもっと勉強していかなければならないことが多く、頭の中だけでカラ回りしているものも多分にある。今後の課題である。

##### (ア) 平常期間

###### 【おもしろビデオ館・おもしろビデオ館スペシャル】

AV ライブラリーのビデオ・ソフトのなかから、子どもたちに見てほしいもの、見せたいものを選んで上映している。おもしろビデオ館は平日（7 月までは木曜日、9 月から金曜日）の午後に開催。おもしろビデオ館スペシャルは毎月 1 回程度の割合で、日曜・祝日に実施している。内容的にはほぼ同じだが、スペシャルのほうが少しイベント的なニュアンスがある。

映像（作品）の見方（見せ方）は、簡単なようで意外と難しい。何をどのように見せる（見る）か、明快な答えはなかなか出せない。子どもが喜びさえすればよいと考えるなら、好きなものを見せておけばいいかもしれないが、果たしてそれだけでよいのだろうかという疑問が残る。では、どうすればよいかというと、今度はなかなか答えが見つからない。読書と同じように難しい問題がある。

### III 各部の活動(1)

ビデオ館では、家庭ではあまり見る機会がないと思われるもの、映像として良質なものと我々が判断したものを選んでいる。「きみも鳥博士になれる」（5月）、「おはなし畠は夢の実いっぱい」（6～7月）のように、数本ごとにテーマを設定して見やすく、興味を引くように工夫している。

また、1対1で映像に向かうのではなく、多数対1で映像に向かい、何人かと共に体験を持つというコミュニケーションのキッカケづくりができればとも考えている。

おもしろビデオ館スペシャルでは、PRをかねてAVライブラリーのオリジナルである「インフォビジョン」を少人数のブースでなく、広い会場で集団で見る見方を試みた。インフォビジョン用の機器を持ち込むわけにはいかないので、一部を割愛しゲーム性を強調した形で取り上げた。映像を仲介としたコミュニケーションの1つの形と考えている。

#### 【ぱたぱたアニメをつくろう】

「子どもの城」ならではのユニークなプログラムの1つ「ぱたぱたアニメをつくろう」は、今年度も特別期間と祝日を除く土曜日の夕方、音楽ロビーで行われた。2回、3回と続けて来る子どももいて、定例のプログラムとして定着した感がある。

本来ならば「ぱたぱた——」を導入として、アニメーション作りに進みたいところだが、一般来館児向けのプログラムとして、時間的にも空間的にも制約があるため、実現していない（造形事業部と共同で、クリエイティブ・クラブの1つとしてアニメーション作りのプログラムを試験的に実施した）。

#### 【マックTV・子どもの城情報局／わいわいスタジオ】

館内案内テレビシステムを利用したCATV。TVスタジオの収録・中継を疑似体験する「わいわいスタジオ」、TVメディアそのものを身近に体験する「マックTV・子どもの城情報局」——いずれも映像メディアへのアプローチの1つと考えている。

来館児を作り手（送り出す側）として参加させることの困難さから、満足のいくプログラムとして成立していないが、映像（特にテレビ等のメディア）を考えるとき、重要な要素であると思うので、今後の課題として取り組んでいきたい。

今年度は来館児・者への各種情報（催し物の案内等）の提供に重点を置いた。サービスの向上と、メディアとしての館内CATVの活用法を考えることがねらい。文字による情報を中心に、時間の許すかぎり映像情報（撮影・取材してきたものをそのまま放送する）を交えて提供了。

##### (イ) 特別期間

平常期間の活動の延長として「おたのしみおもしろビデオ館」を夏と冬休み特別期間に開催。そして春休み特別期間にはフィルムの上映会「しねまていく」を行った。

昨年度実施した「AVアニメーション・フェスタ」を7月31日から8月2日の3日間にわたって実施。「おもしろビデオ館」「しねまていく」「ぱたぱたアニメをつくろう」「わいわいスタジオ」を組み合わせ、〈動く映像〉の仕組みを探る楽しいプログラムを組んだ。

「マックTV・子どもの城情報局」は特別期間中、他事業部と協力してさまざまな展開を

した。4月29日の「こどもデパート」の日には、こどもデパートのCATV局として全館に各種情報を提供した。売り場や閉店時間の案内、迷子のお知らせ、バーゲン情報等々。子どもたちも取材班の一員としてビデオ・カメラを持って出かけるもの、キャスターとして情報を伝えるものなどの役割を担った。

端末のモニター・テレビも特設し、広く情報が行き渡るように配慮した。

11月1日と3日の開館記念特別期間には、音楽事業部ほかと協力して「マックTV」と「わいわいスタジオ」を組み合わせたスペシャル・プログラムを実施した。「わいわいスタジオ」の番組の合間に情報を提供し、更に「2周年の歩み」を記録したVTRを放送するなどテレビ局並みのタイムスケジュールを組み、放送を行った。2周年記念セレモニー（音楽スタジオBで行った）の中継も含め、AV事業部と音楽事業部の平常活動の総決算。

1月30、31日の節分特別行事では、プレイ事業部と協力し「マックTV」と連動したイベント「こどもの城の鬼たいじ」を行った。館内に出没するオニを見つけ、ジャンケンなどのゲームに勝つとポイントがもらえるというもの。オニの出没場所は時間ごとに異なり、どこにいるかの情報は館内案内テレビ（マックTV）で見るというプログラム。館内案内テレビを利用した新しいプログラムの展開を試みた。

館内案内テレビ利用の新しい展開が見られたのが62年度の大きな特色といえる。

#### (ウ) グループ活動

昨年度同様「みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”」「フィルムに絵を絵がいてみよう」（以上2つは幼児から）、「チャレンジ・ザ・ビデオ」「ビデオおもしろゲーム」（小学3年生以上）の4つのプログラムを用意し、実施した。

今年度は24グループ（保育園・幼稚園11、小学校4、養護学校ほか9）に対し、「ぱたぱたアニメ——」15回、「フィルム——」2回、「チャレンジ——」6回、その他1回を行った。

グループ活動の場合、共通の基盤を持った限定された集団であるため、一般来館児向けでは難しいプログラムを実施することができる。1回だけの活動ということで、＜継続＞という意味では不十分な面もあるが、意義のあるものと考えている。「こどもの城」での体験が、＜映像＞を考える何かのキッカケになってくれればと願っている。

#### (エ) 講座・クラブ

ビデオ講座は、母と子が一緒に参加できる「母と子のビデオ教室」に焦点を絞って実施した。講座修了者が継続してビデオ作品作りに励める「ファミリー・ビデオ・クラブ」も昨年度同様設けた。

幼児を連れた母親が多いという来館児・者層と、ビデオ・カメラで子どもの成長を記録する機会が多い母親をターゲットにしている。そのため、保育クラブの会員を対象とした短期の教室（夏期）を開催したり、受講者掘り起こしを図っている。

ビデオ・クラブの母親たちからは、それぞれの思いを込めた作品が生まれてきている。地域の相撲大会に参加してがんばった子どもの記録、成長に合わせて変化していく食事の様子

### III 各部の活動(1)

を捕えたものなど、母親らしい作品が作られた。

#### (オ) 映像の記録制作、その他

「マック TV・こどもの城情報局」の放送に合わせて、各事業部の四季折々の活動を取材し、VTR に収録した。多忙な時期が重なるため、十分な取材・収録ができたとは言いがたいが、限られた人員、時間、器材で可能な限り努力した。

映像による<年報>を意図した「2年目を迎えたこどもの城'86／'87 1年の歩み」、ぱたぱたアニメによる「ママごめんなさい」をこどもの城児童合唱団の協力で制作した。

「ママごめんなさい」は 62 年 8 月に開催された第 2 回国際アニメーション・フェスティバル広島大会に出品、佳作入選した。

このほかにも、音楽事業部をはじめ他事業部のイベント展示用、PR 用ビデオも制作した。

また、各事業部が各自の活動を記録するためにビデオ器材を貸し出した。年間延べ約 140 回もの頻度で、器材管理の大切さを改めて痛感させられた。ビデオ活動に使用する器材は、活動記録用に適している（自分たちで操作でき、長時間の記録ができるなど）ので、利用の申し込みが多い。

多様な利用法が考えられるビデオ機器は、これからもいろいろな場面でさまざまな使い方がなされていくと思う。ビデオを生かす使い方であれば、積極的に協力していきたいし、その経験をビデオ活動に生かしていきたいと考えている。

## 5 ) 今後の課題

#### (ア) AV ライブラリー・AV 資料室・マスターコントロール

- ①類似施設の増加に対して、「こどもの城」 AV ライブラリーに特色を持たせる
- ②AV ライブラリーの利用者増、ディズニー・アニメ試写会の利用者増を図り、「こどもの城」の入館者増に結びつける
- ③マスターコントロール収入の増大を図るとともに、AV ライブラリー・AV 資料室・マスターコントロールの運営をより効率化し、支出を抑制する

の 3 つがある。

AV ライブラリーの類似施設の増加に対して、「こどもの城」 AV ライブラリーに特色を持たせるためには、これまでも行ってきた

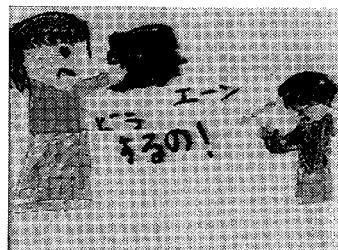
- ①インフォビジョンの充実
- ②オリジナル・ソフトの充実
- ③徹底した子ども向けのソフト収集

の 3 点を引き続き強化していく以外にないと考えられる。

特に著作権の問題もあり、この 3 点を並行して進めていく必要がある。

AV ライブラリーの場合、視聴時間の短縮のような、すぐにできる合理化はやってしまったので、休日の利用者増は今後は難しく、平日の利用者増を図るしかない。

休日と平日を比較してみると、12 月を除けば休日はほぼ満員の状態であり、平日は能力



毎週土曜日の午後、4階音楽ロビーで実施している「ぱたぱたアニメをつくろう」からくぱたばた音楽アニメーション>『ママ ごめんなさい』が生まれた。NHKの「みんなの歌」のように、歌に合わせて動くアニメーションが、「こどもの城」ならではの方法(ぱたぱたアニメ)で、子どもたちの手で作られた。

ぱたぱたアニメーションの絵を描いたのは、こどもの城児童合唱団のメンバー。もちろん歌もこどもの城児童合唱団。

練習の合い間に『ママ ごめんなさい』の歌詞に合わせて、ネコのしっぽにペンキをペタペタ塗っているところ、パパの写真にひげを描いているところ、バナナの皮を踏んですべるとこ

### 「国際フェスティバル」で佳作に

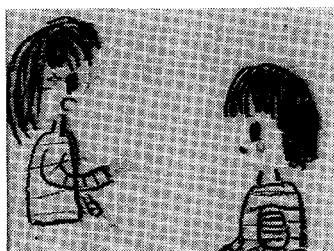
子どもたちの作った「ぱたぱたアニメ」

ろ、そしてママにごめんなさいと頭を下げて謝るところ——子どもたちそれぞれのイメージを「ぱたぱたアニメ」にした。

できあがった「ぱたぱたアニメ」は、別の機会に録音した歌に合わせて編集。足りない場面を描き足してもらうなど、1か月近くを費やしてようやく完成させた。

完成了作品は「第2回国際アニメーション・フェスティバル広島大会」に出品。世界各国から応募した作品とともに審査を受けた結果、佳作に入選。大会会場で上映された。

子ども自身によって作られた、子どものためのアニメーション『ママ ごめんなさい』は、ビデオ活動の1つの結果だといえよう。



### III 各部の活動(1)

の約5割の利用率である。したがって平日も休日並みに稼働した場合、約15,000回・35,000人・62年度比20%の増加の余地がある。

平日の利用者増を図るために次のような2つが考えられる。

- ①幼児（2・3歳）と母親の親子連れ向けにPRを行い、「子どもの城」の存在を浸透させる
- ②大学生など子ども以外の新たな利用者層を開拓する

①についてはかなり潜在的な需要はあると思われるが、全館的なPRに頼るほかなく、②については63年4月のアニメフェスティバルのAVライブラリーの参加のような機会を見つけて浸透を図ることが考えられる。

いずれにしてもすぐに効果をだすことは難しく、ソフト収集を充実し、AVライブラリーの魅力を徐々に高めていくことが重要かもしれない。

ディズニー・アニメ試写会については、バンダイとの連携をよくし、必要な時期に適切なプログラムで開催できよう努力していきたい。

マスターコントロールの収入増については、劇場収録・体育合宿の収録とともに、62年度にテスト的に行った体育講座の収録に本格的に取り組んでいきたいと考えている。

また、運営の効率化については、特にAV資料室とマスターコントロールの人員の相互融通を図り、人員を増やすことにマスターコントロールの仕事量の増大に対応したいと考えている。このためAVライブラリーとAV資料室とマスターコントロールは、ほぼ一体として運用していく必要があると考えている。

#### (イ) ビデオ活動

今後の課題を述べるに当たっては、現状の把握がどれほどなされているかが問題になろう。また、それがどのような視点でなされるかも問題になる。プログラムを企画する側からの視点、実施する側の視点、経営的な視点等々のさまざまな立場からの考え方、見方がある。

今、何をなすべきなのだろうか。事業部のレベルで何ができるのだろうか。

我々は「子どもの城のビデオ活動」としての実体の在るプログラム作りが何にも増して大切なものと考えている。他の施設にはないものを、行っていないものを、できないものを、異なった視点のものを作り上げることによって「子どもの城」の存在を印象付け、魅力ある「子どもの城」をアピールすることが必要ではないかと考えている。

そのためには、ハード面（機器・設備等）での類似施設との違いを際立たせるだけでなく、ソフト面（活動プログラム等）でも「子どもの城」らしい特徴づけを志向していかなければならない。「子どもの城」ならではの活動プログラムを確立すること——2年半の活動をどのように評価し、形のあるものを作り上げ、将来につなげていくかが大きな課題である。

評価の基準をどこに置くかを明確にして、今までの活動を整理しまとめること、文章化して広く活用できるようにすること——等々なさなければならないことは山積している。

「ぱたぱたアニメを作ろう」や「おもしろビデオ館」「マックTV 子どもの城情報局」など、今まで実施したプログラムを1つずつ総括し、整理していきたいと考えている。

## 6 保 育

(1) 62年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間	火	水	木	金	土	日
10:00						
11:00	幼児保育	幼児保育	母子教室	幼児保育	幼児保育	保育
12:00	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	育児
13:00	一クラス	一クラス	一クラス	一クラス	一クラス	一クラス
14:00	ラブ	ラブ				
15:00						
16:00						
17:00						
18:00						

授乳室 親子イベント プログラム（月1回）  
の一般開放

### III 各部の活動(1)

#### 2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
保育室IIの一般開放	4.1～ 63.3.31 (毎日曜日 及びこども の城特別期 間祝祭日)	10：00～ 17：00	保育室II	職員	
授乳室	祝祭日	10：00～ 17：00	保育室 I	同上	

#### 3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<春休み> 親子であそぼう春がきた	4.2～5	13:30～ 14:00 14:30～ 15:00	保育室II	職員	
<児童福祉週間> 親子シアター	5.3～5	14:30～ 15:00	同上	大妻女子短大パ ネルシアターサー クル、職員	
<夏休み> 親子あそび	7.25 8.1・13～ 16	13:30～ 14:00 14:30～ 15:00	同上	職員	
<同上> おやつの実演会	7.26 8.2・21・ 24・28	13:30～ 14:00 15:00～ 15:30	同上	同上	
<同上> 夏まつりふうせん割り	8.9	13:00～ 18:00	ふしぎが丘	同上	
<同上> 親子シアター	8.22・23・ 29・30	15:30～ 16:00	保育室II	大妻女子短大パ ネルシアターサー クル、職員	
<開館2周年記念> おやつの実演会	11.2	15:00～ 15:30	同上	職員	
<同上> 母子で参加する体験保育	11.1・3	10:00～ 11:00	同上	同上	
<冬休み> 親子でサンタさんとあそ ぼう	12.24・25	13:30～ 15:00～	同上	同上	
<同上> 親子で楽しい正月あそび	63.1.3～5	13:30～ 15:00～	同上	同上	
<春休み> 親子で遊ぼう春がきた	3.28～30	13:30～ 15:00	同上	同上	

## 6 保 育

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
保育クラブフェスティバル	11.29	14:00~ 15:00	Bリハーサル室	できるかな人形劇場職員	保育クラブ会員対象
保育クラブフェスティバル	3.27	13:30~ 15:00	同上	松戸市おはなしキャラバン職員	同上
第1回こどもの城保育セミナー	8.7・8	9:30~ 19:30	青山円形劇場 (8日 研修室902~905)	職員 森上史郎氏 大場幸夫氏 今井和子氏 藤野敬子氏 鳥山敏子氏 竹内敏晴氏 鈴木昭男氏	保育者対象 参加費 10,000円

### 4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数						
保育クラブ	1~5歳	(人) 一	(人) 718	火~土曜日 10:00~ 18:00	保育室 I II  保育室 I	年間 245日	(円) 1~2歳児 900/時間 3~5歳児 700/時間	各部職員	単位時間当たりの定員 1~2歳 12人 3~5歳 8~10人
幼児 グループ	3~5歳	22	22	火~金曜日 10:00~ 14:00	造形スタジオ 音楽スタジオ プール プレイホール ほか	4.7~7.17 9.1~12.18 63.1.8~ 3.22	30,000	同上	
母子教室 7期 9期 10期	1歳児 母子	(組) 各期 15	(組) 各期 15	水曜日 10:00~ 12:30	保育室 II	3か月 10回	22,000	巷野悟郎氏 各部職員	
母子教室 8期	2歳児 母子	15	15	同上	同上	同上	22,000	同上	

## (2) 保育研究開発部の活動

62年度の平常期間の活動としては、幼児の年齢と発達に即して、1，2歳前期は母子ぐるみで友達との出会いを考える「母子教室」、2歳前期、3歳前期には週1回ぐらい友達と出会い、遊ぶ「保育クラブ」、3歳～就学までは週1～4回程度グループとして活動する「保育クラブ」、「児童グループ」のプログラムを前年度に引き続き展開した。調査活動としては都内の障害児保育を実施している保育所を対象として、障害児保育の実施に当たって複数担任制がどのように行われているかについてアンケート調査を実施した。また「保育クラブ」「母子教室」の子どもを対象に、低年齢化する児童のおけいこごとについて実態を調査し、東京都小児保健婦協会の講演会で報告した。

研修事業としては「第1回こどもの城保育セミナー」を青山円形劇場で開催した。

### 1) 母子教室

#### (ア) 活動の概要

1歳児の母子教室を3期、2歳児の母子教室を1期、計4期の講座を実施した。各期とも対象は15組の母子とし1期のプログラムは10回で構成した。前半5回を「お母さんと遊ぼう」とし、母子一緒に遊びのプログラムに参加して保育者とかかわったり、他の母子の様子を見て、新しい“気づき”や体験をしたり、また母親同士の親睦を深めていくことをねらいとした。

後半の5回は母子分離活動を取り入れた。子どもが母親と離れ、保育者や他の子どもとの遊びをしている間に、母親は小児科医師を囲んで子どもの心や体について考えたり、ビデオカメラを通して子どもについての見方や考え方を広げることをねらいとしたプログラムに参加した。また父親参加のプログラムも必ず1回は組み入れた。各期のプログラムは表1のとおりである。

#### (イ) 課題と展望

61年度の実践を踏まえて、1、2歳児の遊びは子どもをよくみて、無理をせず楽しめるものを行ったが、グループ人数15人については相互のかかわりを考えるうえで少し減らすことを検討する必要があると思われた。母子教室終了後のアフターフォローについては、保育クラブの会員として受け入れる方法を試みてクラブ利用が活発に行われたが、その考え方については、母親の期待と保育クラブのねらいに多少のずれが見られるなど、なお検討の必要がある。

2歳児のプログラムでは小児保健部から紹介のあった母子を受け入れ、小児保健部とともにみしていくことを試みたが、参加母子にもよい影響があり、今後とも連携を深めていくことが大切であると思われた。

## 6 保 育

表1 母子教室プログラム

(1) 第10期プログラム（1歳児）

回	月 日	テ 一 マ (講 師)	会 場
1	1. 20 (水)	お母さんと遊ぼう (1) オリエンテーション 保育研究開発部	保育室 2
2	1. 27 (水)	お母さんと遊ぼう (2)～動いて遊ぼう	保育室 2
3	2. 3 (水)	お母さんと遊ぼう (3)～粘土で遊ぼう	保育室 2
4	2. 10 (水)	お母さんと遊ぼう (4)～おやつをつくろう	保育室 2
5	2. 17 (水)	お母さんと遊ぼう (5)～紙で遊ぼう	保育室 2
6	2. 24 (水)	子育ての医学 小児保健部長 巷野 悟郎	保育室 2
7	3. 2 (水)	<みる>ビデオを通してみよう A V事業部 木邊 高敏	保育室 2
8	3. 6 (日)	お父さんと遊ぼう	保育室 1
9	3. 9 (水)	子どものこころを考えよう 小児保健部長 巷野 悟郎	保育室 2
10	3. 16 (水)	お別れパーティー 修了式 保育研究開発部	保育室 2

(2) 第8期プログラム（2歳児）

回	月 日	テ 一 マ (講 師)	会 場
1	7. 1 (水)	お母さんと遊ぼう (1) オリエンテーション 保育研究開発部	保育室 2
2	7. 8 (水)	お母さんと遊ぼう (2) ～劇ごっこをしよう	保育室 2
3	7. 15 (水)	お母さんと遊ぼう (3) ～劇ごっこをしよう	保育室 2
4	7. 22 (水)	お母さんと遊ぼう (4) ～劇ごっこをしよう	保育室 2
5	7. 29 (水)	子育ての医学 小児保健部長 巷野 悟郎	研修室 905
6	9. 2 (水)	子どもとおやつ 小児保健部・保育研究開発部	保育室 2
7	9. 9 (水)	<みる>ビデオをとおして<みる> A V事業部 木邊 高敏	研修室 901
8	9. 13 (日)	お父さんと遊ぼう	保育室 1 5F屋上
9	9. 16 (水)	子どものこころを考えよう 小児保健部長 巷野 悟郎	研修室 901
10	9. 30 (水)	お別れパーティー 修了式	保育室 2

## 2) 保育クラブ

### (ア) 活動の概要

前年度の実践の中で、特に低年齢児の定期的利用者が増え、その保育対応についての検討が必要となった。そこで本年度の保育クラブは2歳児の集団遊びについて検討するため、6か月及び3か月の期間を定め、週1回定期的に利用する2歳児グループを保育クラブ会員の中から募集した。

6か月コースは毎週木曜日、全18回で主に月齢の高い2歳児を14人1グループとして10～13時の午前コースと13時30分～16時30分の午後コース、年間4グループを編成した。3か月コースは毎週土曜日、全10回で月齢の低い2歳児を13人1グループとし、年間2グループを編成した。その結果1、2歳児についてはフリーに予約できる日が火・金曜日の週2回となった。3歳以上児については、前年度に引き続き8人の定員で10～14時までは定期的に活動する幼児グループの3～5歳児22人と統合して異年齢混合保育を行った。

13時30分からの午後の時間帯は、フリー予約のメンバーで定員10人のグループによる活動を行った。前年度、保育クラブの利用者が午前中に片寄るため、会員数を増やして午後の活性化を図ろうとしたが効果が見られなかった。しかも保育クラブ入会希望者は多数あったため、本年度は午後の時間帯を利用する午後会員を募集し、200人の応募者の中から抽選により123人を午後会員として登録した。

プログラムはひとりひとりの子どもを十分に受け止め、安定したなかで子ども同士のかかわりや、遊びの広がりを助けることに留意して展開した。また家庭への働きかけとしては全会員を対象に年4回の保育クラブ通信の発行、いちご狩り、いも掘りなどの野外活動や、ミニ運動会、ハローウィン、クリスマスなど季節行事への親子での参加プログラムを行った。育児上のさまざまな悩みが保育利用時に保育担当者に相談されたほか、保育相談として申し込まれたものが、言葉、しつけ、母子関係などの問題について7件あった。

このほか会員相互の親睦を図り親子が一緒に参加して楽しむイベントとして年2回の「保育クラブフェスティバル」を行い、人形劇やゲームを楽しんだ。保育クラブ利用状況は表2のとおりである。

### (イ) 課題と展望

2歳児のグループ化によって2歳児の遊びが広がり、他児とのかかわりを深めることができた。保育者にとっても不定期メンバーの保育より充実感をえる度合いが高かったが、自由に予約できる日時が制限されたため、利用者が限られる傾向が強まった。

3～5歳については2歳児でも、3歳の誕生日から3～5歳児のグループに加えたため、実質的には2歳児から5歳児の異年齢混合活動となり、2歳児のための特別な配慮が必要となった。

午後の保育については、午後会員を募集して一時、利用者が増えたが、徐々に減って利用メンバーが固定していった。午後の保育は個々の子どもたちの午前中の時間帯の過ごし方が

## 6 保育

さまざまであることを配慮して、保育内容の検討を更に進める必要がある。

表2 保育クラブ活動状況

(1) 居住地域分布

都道府県	市区	会員全体		利用者				会員全体		利用者		
		人数	%	人数	%	都道府県	市区	人数	%	人数	%	
東京都	港区	137	19.1	59	22.5	東京都	葛飾区	3	0.4	2	0.8	
	渋谷区	145	20.2	51	19.5		江戸川区	4	0.6	0	0.0	
	世田谷区	99	13.8	34	13.0		荒川区	3	0.4	0	0.0	
	目黒区	46	6.4	11	4.2		中野区	11	1.5	6	2.3	
	新宿区	20	2.8	4	1.5		墨田区	2	0.3	0	0.0	
	大田区	20	2.8	8	3.1		練馬区	3	0.4	1	0.4	
	品川区	21	2.9	9	3.4		23区外	27	3.8	11	4.2	
	杉並区	18	2.5	9	3.4		神奈川県	川崎市	22	3.1	7	2.7
	台東区	8	1.1	3	1.1		横浜市	19	2.6	11	4.2	
	千代田区	18	2.5	10	3.8		その他の市	10	1.4	4	1.5	
	板橋区	7	1.0	2	0.8		静岡県	3	0.4	2	0.8	
	豊橋区	4	0.6	0	0.0		千葉県	11	1.5	2	0.8	
	江東区	7	1.0	3	1.1		茨城県	3	0.4	1	0.4	
	中央区	9	1.3	3	1.1		埼玉県	7	1.0	1	0.4	
	北区	2	0.3	0	0.0		その他の県	13	1.8	1	0.4	
	足立区	1	0.1	0	0.0		合計	718	100.0	262	100.0	
	文京区	15	2.1	7	2.7							



外人のお友達と一緒に綱引き  
「親子でバレンタイン」(63.2.11)



かわいい絵が並んだ「子どもの城ほいく展」(63.2.16~28)

### III 各部の活動(1)

#### (2) 性別・年齢分布 (%)

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
男児	5 ( 0.7)	30 ( 4.2)	101 ( 14.1)	116 ( 16.2)	67 ( 9.3)	31 ( 4.3)	350 ( 48.7)
女児	8 ( 1.1)	36 ( 5.0)	130 ( 18.1)	106 ( 14.8)	64 ( 8.9)	24 ( 3.3)	368 ( 51.3)
合計	13 ( 1.8)	66 ( 9.2)	231 ( 32.2)	222 ( 30.9)	131 ( 18.2)	55 ( 7.7)	718 ( 100.0)

#### (3) 利用頻度 (%)

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
一度も利用していない	11 ( 84.6)	32 ( 48.5)	100 ( 43.3)	154 ( 69.4)	113 ( 86.3)	46 ( 83.6)	456 ( 63.5)
今まで数回利用している	0 ( 0.0)	21 ( 31.8)	48 ( 20.8)	52 ( 23.4)	16 ( 12.2)	8 ( 14.5)	145 ( 20.2)
月一回以上利用している	1 ( 7.7)	9 ( 13.6)	63 ( 27.3)	12 ( 5.4)	2 ( 1.5)	1 ( 1.8)	88 ( 12.3)
週一回以上利用している	1 ( 7.7)	4 ( 6.1)	20 ( 8.7)	4 ( 1.8)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	29 ( 4.0)
合計	13 ( 100.0)	66 ( 100.0)	231 ( 100.0)	222 ( 100.0)	131 ( 100.0)	55 ( 100.0)	718 ( 100.0)

#### (4) 利用目的 (%)

	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
集団保育	43 ( 35.0)	812 ( 64.9)	1,123 ( 62.8)	179 ( 66.3)	20 ( 18.0)	0 ( 0.0)	2,177 ( 61.3)
緊急時	1 ( 0.8)	5 ( 0.4)	8 ( 0.4)	5 ( 1.9)	2 ( 1.8)	0 ( 0.0)	21 ( 0.6)
就労・就学	44 ( 35.8)	268 ( 21.4)	272 ( 15.2)	29 ( 10.7)	64 ( 57.7)	3 ( 37.5)	680 ( 19.1)
用事	30 ( 24.4)	132 ( 10.5)	335 ( 18.7)	53 ( 19.6)	22 ( 19.8)	5 ( 62.5)	577 ( 16.2)
講座・サークル	5 ( 4.1)	34 ( 2.7)	45 ( 2.5)	4 ( 1.5)	3 ( 2.7)	0 ( 0.0)	91 ( 2.6)
保育相談	0 ( 0.0)	1 ( 0.1)	4 ( 0.2)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	5 ( 0.1)
その他	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)
合計	123 ( 100.0)	1,252 ( 100.0)	1,787 ( 100.0)	270 ( 100.0)	11.1 ( 100.0)	8 ( 100.0)	3,551 ( 100.0)

保育クラブ利用状況として本年度は集団保育に参加させるための定期的な利用者の割合が更に増したが、母親のさまざまな保育ニーズに柔軟に対応する側面から、不定期利用者の受け入れについて更に検討する必要がある。

また保育担当者のローテーションについても不定期利用者の予測がつかないため不安定になりがちであり、検討を要した。保育内容とともに、母親への働きかけは重要であり、更にその内容・方法について充実させていく必要がある。

### 3) 幼児グループ

#### (ア) 活動の概要

前年度から継続した3～5歳児16人に新入児6人を加えて計22人で活動を行った。その年齢構成は3歳児8人（継続4人新入4人）4歳児10人（継続9人新入1人）5歳児4人（継続3人新入1人）である。年齢構成比のばらつきは大きいが3年目になって初めて3, 4, 5歳児のそろった異年齢グループとなった。

不定期に参加する主として2, 3歳児の保育クラブ児との統合保育、異年齢混合保育を通して子ども同士のかかわりを育て、豊かな感性をはぐくむことをねらいとして保育活動を開いた。

幼児グループの子どもたちは「こどもの城」での体験を重ねて、5階の保育室以外の場所についてもなじみが深まり、全館にわたっての活動が展開された。週1回のプール活動、月2回の音楽、造形活動がそれぞれ活発に継続されて、8月には青山劇場で行われたサマーフェスティバルに参加し、また2月には「こどもの城ギャラリー」で保育クラブとともに、1年間の活動展「ほいく展」を開催するなど成長がみられた。

保育クラブとの統合保育の中では外国人の参加も多く、またインターナショナルスクールとの交流活動などを通じて外国人との交流も積極的に行われた。家庭との連携については、懇談会、家庭訪問、週1回の観察室からの保育観察、「こどもデパート」など母親参加プログラム、野外活動などの親子プログラムなどを行い、更に毎月の配布物「3～5歳お知らせ」で活動の内容、子どもの様子を具体的に伝えていった。

#### (イ) 課題と展望

「こどもの城」で3年目を迎えた幼児グループの子どもたちは、子ども同士や保育者との関係が安定してきたことにより、不定期に参加する保育クラブ児との統合保育のなかで、いろいろな子どもとのかかわりが少しづつ広がっていった。しかし、統合を3歳から行ったため後半保育クラブ児の月齢が上がるにつれて3歳になった2歳児の参加が多くなり、一緒に活動に無理が生じる場面も見られるようになった。異年齢混合保育のプログラムについて検討を重ねる必要がある。

家庭との連携については、保育活動に関して母親の積極的な協力を得ることができたが、午後の時間の過ごし方や、保育クラブの母親との共同活動などに課題が残っている。

#### 4) 調査研究活動

##### (ア) 障害児保育に関する調査

障害児保育を効果的に進める条件を検討するため、障害児保育を実施している都内 242 か所の保育所の障害児保育担当者にアンケートを依頼し、保育の態勢について、また担当保母の年齢や経験年数等の基本的な特徴や障害児保育に対する意識、複数担当制についての意識などの調査を行った。

##### (イ) 2歳児における習いごとについて

幼児の習いごとが盛んになり、低年齢化している現象について、保育クラブ、母子教室の2歳児を対象に内容や実態を調査した。また、けいこごとに通っている子の中で、行動的な特徴を示しているケースについて、生育・家族の状況、両親の子どもへの態度、保育場面での行動などを紹介し、東京都小児保健婦協会第27回学術集会秋季講演会で報告した。

#### 5) その他の活動

##### (ア) 第1回子どもの城保育セミナー

「保育におけるコミュニケーションを考える」をテーマに、青山円形劇場で8月7・8日の日程で保育セミナーを開催した。

基調講演は森上史郎日本女子大学教授により「今、保育で求められているもの」と題して、人とのかかわり、コミュニケーションについて深く掘り下げた提言が行われた。これを受けたシンポジウムでは、大場幸夫大妻女子大学教授の司会により、中野区立桃園第2小学校教諭鳥山敏子氏、川崎市立宮崎保育園保母今井和子氏、東洋英和幼稚園長藤野敬子氏をシンポジストとして「保育におけるコミュニケーションを考える」と題して、子どもとのかかわり、子ども同士のかかわりについて活発な意見交換や提言がなされた。2日目は演出家竹内敏晴氏によるレッスン、「子どもの城」の活動紹介、そして鈴木昭男氏のサウンドイベントなどのプログラムが行われ、140人の参加者を迎えて好評裏に幕を閉じた。

##### (イ) 保育室の開放及び授乳室の設置

「子どもの城」の一般来館者のために日曜祭日及び春、夏、冬休みなどの特別期間には保育室IIに低年齢児向けのおもちゃを用意して、親子でゆっくり遊ぶ場を提供した。毎月最終日曜日に「親子あそび」のイベントプログラムを行い家族ぐるみで参加し、その場で出会った家族同士の交流を図る活動も工夫した。

日曜日ごとの保育室Iの授乳室の設置も授乳、休憩の場としてよく利用されたが、年間を通じて授乳室の場所が一定しないための利用者のとまどいがあり、検討が必要である。

##### (ウ) 催し——親子あそび——

特別期間には季節感を生かした「親子あそび」のプログラムを行ったほか、人形劇を組み合わせたおやつの実演会、母子で参加する一日体験保育、大妻女子大パネルシアターサークルの協力による親子シアターを行った。

7 小児保健部

7 小児保健

(1) 62年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

	火	水	木	金	土	日
9:00 -						
10:00 -						
11:00 -	総合健康新相談 （月1回） ぜんそく相談 （月1回）	耳鼻科相談 （月1回） マタニティ・スイミング	ミーティング ケース・カンファランス	総合健康新相談 マタニティ・スイミング	総合健康新相談 心理相談 言語相談	精神相談（月1回） 総合健康新相談 心理相談 神経相談（月1回） ダウン症相談（月1回）
12:00 -						
13:00 -	マタニティ	マタニティ	育児・生活相談			心理相談
14:00 -	マタニティ	心理相談 言語相談	総合健康新相談 心理相談 言語相談		健康スポーツ教室 リトミック クラウズ症児クラス	総合健康新相談 心理相談
15:00 -	心理相談 栄養相談	マタニティ	育児・生活相談	心理相談 言語相談	太りすぎクラス ぜんそく児クラス	
16:00 -						
17:00 -						
18:00 -						

III 各部の活動(1)

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
<児童福祉週間> 育児相談コーナー	5.2~5	12:30~ 17:30	小児保健部	巷野悟郎氏ほか 職員	授乳コーナーを兼ねて 相談件数 7件
<夏休み> ママの相談「いきいき子 育てコーナー」	7.25・26 8.14~18 29.30	13:00~ 16:00	同上	同上	授乳コーナーを兼ねて 相談件数 22件
<同上> こども1日ドック	8.19・20	12:30~ 17:30	小児保健部 健康開発室	体育・小児保健 職員	対象 小・中学生 受診 = 7人 料金 4,000円 血液検査などは実費
<同上> 健康教室集中講座	8.26~28	14:00~ 17:00	研修室 体育室	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育・造形・小 児保健職員	対象: 太りすぎの小1~ 6児童とその親参加 9 組 参加費 5,000円
<開館2周年記念> シンポジウム 「変わる育児事情」	10.17	13:30~ 17:30	研修室(901~ 906)	東京慈恵会医科大学 講師 今村榮一氏 東京医科大学 長 加納六郎氏 巷野悟郎氏ほか 職員	参加者 233人 保母・看護婦・園長・保 健婦・助産婦など
<冬休み> ドクター・グローの育児 相談コーナー	12.24~27	13:00~ 16:00	小児保健部	巷野悟郎氏ほか 職員	授乳コーナーを兼ねて 相談件数 3件
<同上> こども1日ドック	63.1.5~6	12:30~ 17:30	小児保健部 健康開発室	体育・小児保健 職員	受診 10人 料金 4,000円 血液検査などは実費
<春休み> 育児展 「おんぶにだっこ・乳母 車」	3.26~ 4.6	10:00~ 17:30	アトリウムギャ ラリー	職員 アルバイト(期 間中1日1人)	入場者 9,669人
第2回こどもの城 マタニティ・コンサート	4.25  26	① 14:00 ② 18:00  14:00 (各回約2時間)	青山円形劇場	出演者 矢野頤子・西山 千真氏 古谷博・本多洋 市川英子・巷野 悟郎氏	対象: 妊娠5~9か月の 妊婦とその夫 将来、子どもを持ちたい 人 参加人数 3回合計 876人 参加費 2,000円
マタニティ・スイミング 同窓会(第2回)	11.7	11:30~ 13:30	研修室	体育・小児保健 職員	対象: マタニティ・スイ ミング講座の卒業生 参加人数 75組 参加費 大人 2,000円 子ども 1,000円

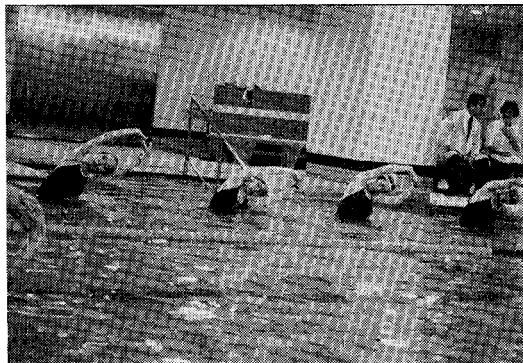
## 7 小児保健

## 3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 時 日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考	
		定 員	受 講 數							
健康スポーツ教室 <太りすぎ 児クラス> 第Ⅳ期	小1～6 年生の太り すぎ児童	(人) 30	(人) 9 14 15	土曜日 14：00～ 17：00	小児保 健部 体育室 プール 健康開 発室 造形ス タジオ 音楽ス タジオ 研修室	4.25～ 7.11 (12回) 9.12～ 12.12 (12回) 6.3.1.9～ 3.12 (10回) 全 34回	20,000 20,000 17,000 検査・診 察料は別 途	東京女子医大 村田光範教 授 和洋女子大 坂本元子教 授 助手 川野 辺由美子氏 体育・音楽・ 造形職員		
健康教室 <ぜんそく 児クラス> 第Ⅲ期	小1～3年	20	7	土曜日 15：30～ 17：00	小児保 健部 プール 健康開 発室 音楽ス タジオ 研修室	4.8～ 7.11 全 12回	24,000	日本臨床アレ ルギー研究所 副所長 高嶋宏哉氏 (医師) 東埼玉病院 千葉文氏 愛国学園短大 飯田恭子氏 (生活指導) 体育・音楽 職員		
健康教室 <ぜんそく 児クラス> 第Ⅳ期	同上	20	12	同上	同上	9.12～ 12.2 全 12回	24,000	日本臨床アレ ルギー研究所 副所長 高嶋宏哉氏 東埼玉病院 宮本永子氏 愛国学園短大 飯田恭子氏 体育・音楽 職員		
マタニティ・ スイミング	妊娠 (妊娠16 週以降)	各月 35	26～ 36	水泳 火・木曜日 10:00～ 12:30 レクチャー 1月1回(火 または木曜 日) 13:30～ 14:30	プール 小児保 健部 研修室	通年 毎月 7回	入学金 5,000 月謝 10,000 (臨月に 限りD・ H・Cビ ジター扱 いも可)	日本赤十字社 医療センター 産科医師 助産婦 レクチャー 講師 体育職員		
母と子の リトミック <ダウン症 児クラス> 第Ⅱ期	3～5歳 のダウン 症児と母 親	(組) 10	(組) 9	金曜日 14：00～ 15：00	音楽ス タジオ A	4.24～ 7.24 12回 (5.1・22 を除く)	15,000	玉川大講師 吉村温子氏 川口あづさ 氏ほか 音楽職員	ボランティアとして 健常児親子 1組が参 加	

### III 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 時	日 間	場 所	期 間 回 数	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受 講 數							
母と子のリトミック <ダウントラス> 第III期	3～5歳のダウントラス児と母親	(組) 10	(組) 9	金曜日	14:00～15:00	音楽スタジオA	9.11～12.18 12回 (9.18・10.23・12.4を除く)	(円) 15,000	玉川大講師 吉村温子氏 川口あづさ 氏ほか 音楽職員	ボランティアとして健常児親子1組が参加
母と子のリトミック <ダウントラス> 第IV期	同上	10	7	金曜日	14:30～15:30	同上	63.1.22～3.25	12,000	同上	同上
肥満児指導者講習会 (第3回)	養護教諭 栄養士 保健婦 保母など	(人) 50	(人) 54	土曜日	10:00～17:00	研修室 体育室	8.29	7,000 (昼食付)	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育職員	
同上 (第4回)	同上	50	55	同上		同上	63.3.19	同上	同上	



常時医師と看護婦がプールサイドにて  
「マタニティ・スイミング」



「おんぶにだっこ・乳母車」展 (63.3.26～4.6)

## (2) 小児保健部の活動

62年度における小児保健部の活動としては、前年度に引き続き、3本の柱として、診療・相談（クリニック）活動、講座（健康教室）および研究・研修活動の充実を目標においた。事業内容としては、前年度に実施したものに加え、ダウン症外来の開設、特別期間（夏休み、冬休み）に「こども1日ドック」の実施、初の試みとして春休み期間に「育児展」の開催などを行った。

### 1) 診療・相談

診療・相談活動は、前年度同様に実施された。件数の増加とともに、相談の質の向上を目指し、部内での異職種間の連絡・連携の在り方の改良を中心に、具体的には、カンファレンスの充実、カルテ様式の改良（連絡票の作成）などを実施した。新規事業としては、4月からダウン症相談を山梨医科大学日暮眞教授（当時）担当で開始した。診療・相談来所者の数、居住地域、来所時年齢、主訴・問題（相談内容）については表に示した。62年度の新規来所者数は456人であった。この中には、マタニティ・スイミング受講者も含まれている。再来所者を含めての月別診療・相談件数は年間延べ1,580件で、前年度件数より約2割の増加であった。

#### (ア) 来所者の居住地域

世田谷区からの来所が最も多く、次いで地元の渋谷、港、目黒区の順であり、神奈川県川崎市、横浜市からの来所者も多かった。

#### (イ) 来所時の年齢

マタニティ・スイミング受講者を除くと、昨年度同様0～6歳の幼児が多く、小児の来所者の約7割を占めた。0、1歳では、乳幼児健康診査の受診者が多く、2～6歳では心理相談を中心とする専門相談の受診者が多く見られた。

#### (ウ) 相談内容について

前年度に比べ、育児・健康相談の件数が増えた。これは、小児保健クリニックが健康診査委託医療機関として周知されてきたためと思われる。育児相談を機会に、継続して受診したり、他の専門相談へ紹介される例も多くなってきている。次に、今年度から新設されたダウン症相談の対象であるダウン症児が多く、次いで健康教室との関連でぜんそくおよび肥満に関する相談の受診者が多かった。

精神発達遅滞や言語発達遅滞を中心とした問題については、前年度からの継続者が多く、延べ来所者の中では多数を占めるが、新規来所者の中での割合としては増加は見られなかった。

### III 各部の活動(1)

#### 小児保健部来所者の概要

##### (1) 新規来所者数

	実数 (人)
診療・相談	333
(うち健康教室肥満クラス受講児)	(19)
(うち健康教室喘息クラス受講児)	(12)
(うちダウン症クラス受講児)	(14)
マタニティスイミング	123
合 計	456

##### (2) 来所者の居住地域内訳

居住地域	人 数	%
渋谷区	66	14.5
世田谷区	86	18.9
新宿区	8	1.8
港区	41	9.0
目黒区	24	5.3
その他の23区内	116	25.4
都内(市部)	31	6.8
神奈川県	42	9.2
千葉県	13	2.9
埼玉県	18	3.9
その他の都道府県	11	2.4
合 計	456	100.0

##### (3) 初回来所時年齢内訳

0	65 (人)
1	44
2	41
3	39
4	25
5	20
6	9
7	22
8	17
9	15
10	10
11	9
12~17	11
18歳以上	129
合 計	456

##### (4) 月別診療・相談件数(特別期間の無料相談コーナーの相談者を除く)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療	110	131	102	89	78	109	109	117	124	132	113	153	1,367
相談	14	45	18	4	17	13	23	16	11	20	16	16	213
	124	176	120	93	95	122	132	133	135	152	129	169	1,580

## (5) 新規来所者の主訴・問題内訳

主訴・問題	人數	%
ぜんそく・アトピー・湿疹	33	7.2
肥満	25	5.5
神経症・習癖・情緒障害等 (遺尿・夜尿・歎息・恐怖症など)	18	3.9
言語発達遅滞(疑いも含む)	17	3.7
精神・運動発達遅滞(疑いも含む)	10	2.2
自閉症	4	0.9
微細脳障害	3	0.7
育児・健康相談	139	30.5
その他 心理面の相談 (遊べない、社会的不適応など)	21	4.6
その他 身体面の相談(斜視、てんかん、脳性まひ、低身長、頭痛等)	27	5.9
ダウントン症	36	7.9
マタニティスイミング受講者	123	27.6
合計	456	100.0

## 2) 特別企画(催し)

## (ア) こどもの城マタニティ・コンサート(第2回)

いわゆる「胎教コンサート」ではなく、妊婦自身が楽しめ、リラックスできることをねらいとしたコンサートとして昨年に引き続き第2回を62年4月に開催した。対象は妊婦とその夫および将来子どもを持ちたい人とし、青山円形劇場で行った。今回は、ニュー・ミュージック分野では第一人者の矢野顕子によるピアノの弾き語り演奏を中心とし、演奏の合間に、産婦人科と小児科の医師の話や助産婦による呼吸法の指導を行い、妊婦向けの特色ある内容とした。

アンケート調査の結果によれば、参加者の約6割が夫婦で来場し、7割近くが「楽しかった」、「リラックスできた」という感想であった。また、妊婦自身のためのコンサートとして企画したにもかかわらず、来場理由を「胎教によいため」としたもののが約半数を占めた。この種の妊婦対象のコンサートがかなり普及してきた現状の中で、「こどもの城」らしい特徴のある内容を企画していくことが今後の課題であると思われる。

### III 各部の活動(1)

#### (イ) 育児相談コーナー（ゴールデンウイーク、夏休み、冬休み）

館内での小児保健部のPRを目的として、一般来館者を対象に無料の相談を実施した。乳品メーカーの協賛を得て育児用粉乳等のサンプルを提供し、乳幼児のための授乳コーナーも兼ねた形とした。相談件数は、ゴールデンウイーク7、夏休み22、冬休み3で、内容は友達とうまく遊べない、食べ方に問題がある、湿疹、習癖などの生活全般にわたったものであった。ここでは、育児相談コーナーとしてよりも、授乳・休憩室としての利用が多く見られた。前年度の年報においても指摘したように乳児や年少の幼児を対象としたスペースは、「子どもの城」の中には少なく、特に、授乳室を兼ねた赤ちゃんコーナーの需要は大きいと思われた。

#### (ウ) こども一日ドック（夏休み、冬休み）

学校の休みを機会に、心身両面からの総合健診を行い、生活の見直しを図ることを目的に、体育事業部との協力事業として小・中学生を対象に実施した。内容は、医師による診察や各種の検査（呼吸機能、聴力、身体計測、尿検査、血圧測定）による医学的所見と、健康開発室で行った体力テストの結果、更に生活習慣調査、食生活調査、心理検査などの分析結果を総合的に考え合わせた所見に基づき、保健、生活指導を行うものである。希望者には、血液検査も追加して行った。夏休み7人、冬休み10人の受診であったが、ほとんどは特に異常や問題はなかった。

反省点としては、スタッフ間の連絡の在り方や子ども自身の楽しめるプログラム作りなどがあげられ、今後も内容を改善しつつ、総合施設「子どもの城」ならではの事業の一環として実施していきたい。

#### (エ) 開館2周年記念シンポジウム

子どもの城開館2周年を記念し、「変わる育児事情」をテーマとして、9階研修・会議室においてシンポジウムを開催した。

このシンポジウムは、「子どもの城」の研修・啓発活動の一環として実施しているが、今回はより実際的、具体的なテーマとして、日常生活の中の衣食住を中心とした内容とした。

まず、「衣」の観点から、「使い捨ておむつの普及と育児について」と題して子どもの城小児保健部長・東京家政大学児童学科教授、巷野悟郎先生の講演、次に小児栄養学の立場から東京慈恵会医科大学講師、今村栄一先生の「考え方の食生活」と題する講演、最後に「ペットにより感染する病気」というテーマで、東京医科歯科大学学長、加納六郎先生から、最近のペットブームに関連した講演をいただいた。参加者は、保母、看護婦、保健婦などの小児保健関係者を中心とした約230人で、会場からの質問も活発に行われ、盛会かつ好評であった。

#### (オ) 育児展（春休み）

「おんぶにだっこ・乳母車」と題した育児展をアトリウム・ギャラリーで開催した。乳幼児を運搬する手段としてのおんぶが、最近減少し、前抱きにする母親の姿が目につくようになってきたことをきっかけに、育児の方法の歴史や変遷をたどり、もう一度育児の原点に返っ

て、望ましい親子の在り方について考えてみようという趣旨のもとに企画された。内容は動物の子どもを運ぶ方法、世界の民族に特徴的な運搬方法、日本の古来のおんぶ、明治以後の乳母車からベビーカーへの移り変わりなどについて写真パネルを中心に展示を行った。小児保健部としては初めての試みで、企画、準備にかなりの時間および労力を必要としたが、一般の母親から育児に関する専門家まで幅広い層からの反応があり、期間中、約1万人の見学者があった。

### 3) 講 座

#### (ア) 健康スポーツ教室 (太りすぎクラス)

60年度に発足したこの講座も3年目を迎える内容もかなり充実してきたといえる。前年度までの半年コースを今年度から1年コースとして第Ⅳ期を実施した。受講者は、1学期9人、2学期14人、3学期15人であり、延べ参加者23人、1年間通して参加した者は5人であった。テレビや新聞で報道されたことにより、途中からの入会者が多かった。受講期間中に肥満度が減少した者は23人中15人であった。これまでの経験から、教室での指導が中断した場合（休み中や卒業・退会後）に肥満度の上昇が見られるので、今後は、受講者たちに「子どもの城」の他の講座を勧めたり、夏休み中の体重の増加を予防するため、キャンプへの参加を勧めるなど、自然な形での継続指導、フォローアップを実行していきたいと考えている。

#### (イ) 健康教室 (ぜんそく児クラス)

気管支ぜんそくの小学生を対象とした講座で、楽しくのびのび体を動かすこと、更に腹筋を鍛え、腹式呼吸を習得することにより呼吸機能の向上を主目的とした講座である。活動内容としては、プールでの水泳指導を中心に音楽活動、レクリエーション活動、鍛練指導、母親への日常生活指導などを行った。受講者は、Ⅲ期（4～7月）7人、Ⅳ期（9～12月）12人であった。

教室の期間が3か月と短期であったため、水泳技術や呼吸機能の著しい向上は見られなかつたが、参加者から、ぜんそくに対する理解が深まり、積極的にぜんそくに対処できるようになったという感想が多くあげられている。日常生活面での積極性や心理的な成長を援助するといった意味で、この教室の意義は大きいと考えられる。

#### (ウ) マタニティ・スイミング

妊娠中の生活を心身ともにより快適に送ってもらうことを趣旨としたこの講座も2年目を迎える、ほぼ軌道に乗ったといえよう。体育事業部と小児保健部の共同事業とし、更に日本赤十字社医療センター（産科および分娩室）の協力を得て実施した。

プログラムは昨年と同様、毎週火・木曜日に月7回実施した。水泳は原則として、午前11時～正午まで、検診を水泳前後に行い、そのほかに月1回レクチャーの時間を設けた。定員は、35人であるが、毎月10～20人ほどの受講待機者がいた。これは、昨今の妊婦水泳ブームを反映しているともいえるが、「子どもの城」のプログラムのよさが認められてきた結果ともいえるだろう。年間延べ123人の受講者であり、ほとんどが20代後半から30代前半の

### III 各部の活動(1)

初産の主婦であった。受講者からは、水泳後は腰背痛が軽減する、教室が友人づくりや気分転換など精神衛生面で役に立ったなどの感想が多くかった。

#### 月別新人会生・在籍者数・出席率

月	新入会生	在籍者総数	出席率
4	10 (人)	36 (人)	71 (%)
5	10	29	74
6	12	30	81
7	11	33	79
8	9	30	78
9	13	33	77
10	11	33	76
11	9	30	71
12	12	33	74
1	13	31	68
2	5	26	78
3	10	32	71

#### レクチャーのテーマと講師（敬称略）

月	講義テーマ	講	師	(敬称略)
4	赤ちゃんと一緒に	小児保健部	部長	巷野悟郎
5	お産の呼吸法	日赤分娩室	助産婦	足利子乃
6	私達の出産と子育て	小児保健部	医師	神代・長谷川
7	妊娠・授乳期の栄養	小児保健部	栄養士	太田百合子
8	赤ちゃんはおもしろい	小児保健部	心理相談員	吉田弘道
9	水泳の効果とシェイプアップ	体育事業部	指導員	大野 元
10	お産の呼吸法	日赤分娩室	助産婦	寺下久美子
11	先輩達を囲んで（茶話会）	小児保健部		上別府・近藤・長谷川
12	赤ちゃんと楽しく	小児保健部	部長	巷野悟郎
1	産科の先生を囲んで	日赤産婦人科	医局長	浦野晴義
2	乳首の手当て	日赤分娩室	助産婦	中村玲子
3	お産の呼吸法	日赤分娩室	助産婦	中根直子

#### (二) 母と子のリトミック（ダウン症クラス）（II期4～7月， III期9～12月， IV期1～3月）

音楽や遊びを通じて母子のかかわり方や子どもの発達の見方を考えることを目的としたクラスで、3～5歳のダウン症児の親子10組を対象とした。61年度と同様、音楽事業部の協力で、母子一緒にリトミック活動を週1回1時間、4階の音楽スタジオで実施した。

ここでの活動は、障害児のための教育・訓練というよりも、遊びを主体とした楽しい内容であり、お母さんや友達、スタッフとのかかわり合いの中で、自分の気持ちを表現できること、さまざまな要素のプログラムの中から最も魅力あるものを見つけてもらうことをねらい

としている。受講児のほとんどは、地域の通園訓練施設や幼稚園・保育園に在席しながら、このクラスを受講しており、違った角度から子どもやそのかかわり方を見直せるという点で母親には好評であった。

本年度は3か月を1期として、計3期であったが、指導の効果、子どもの変化を見るためには期間が短かった。実際には2期以上継続するものも多かったため、次年度からは1年コースとして実施したい。

#### (オ) 夏休み健康教室集中講座（太りすぎクラス）

「健康スポーツ教室」の夏休みにおける短期集中講座として、昨年に引き続き実施した。小児肥満の原因や、肥満と健康との関係を理解させ、肥満改善の方法を身につけさせることを目的に、母親には医学・栄養面の講座と個別の栄養指導、児童には、体育指導と造形・音楽活動を行った。

参加者が9組と前年に比較して少なく、今後募集広報の方法などについての検討が必要と思われる。

#### (カ) 肥満児指導者講習会（第3回8月29日、第4回63年3月19日）

主として学校保健関係者など、子どもの肥満の予防と改善について指導を行う立場の人を対象とした講習会である。「こどもの城」オープン以来継続している「健康スポーツ教室」の経験を踏まえ、更に学校などの現場指導に役立つよう、実技指導を取り入れたり、質問時間を長く設けるなど、より具体的、実践的な内容となるよう配慮をした。参加者は第3回が53人、第4回52人で、ほとんどは、学校の養護教諭や栄養士であった。

### 4 ) 研究活動

診療・相談の内容や効果を検討する目的で幾つかの調査研究を実施した。昨年度に引き続き、肥満児及びぜんそく児健康教室における各種データのまとめを実施しつつ、今後の「こどもの城」における指導の在り方を検討している。また、マタニティ・スイミングにおける健診結果と一般産科外来受診者データとの比較を行い、妊婦水泳受講者における特徴についてのまとめを行った。更に、日常診療・相談の中での研究としては、発達障害児の注意行動理解への瞬時心拍数（Heart rate）の応用性に関する研究、ダウン症児の発達特性に関する研究などを実施した。これらについては、今後各学会で発表を行う予定である。

### 5 ) 今後の課題

小児保健部の利用者はだいに増えつつあるが、今後も引き続き、館内掲示の改善や、関連病院・施設との連絡・調整の見直し、学会での報告などを実施しながら、小児保健部の存在や活動をより広く知らしめたい。

また、3年目に入る段階で、これまでの各活動の実績を点検し、その反省の上に立って、より活性化する長期的な方向を見定めたい。

## 8 劇場事業本部

### III 各部の活動(1)

#### (1) 演目一覧表

##### 1) 青山劇場

公演名	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<b>&lt;自主&gt;</b>						
近松座 「百合若大臣野守鏡」	5.7~19	19	5,000・4,000	22,363	10,872	48.6
青山オペラクリエーション 「ワインザーの陽気な女房達」	5.20~24	3	5,000・4,000	3,234	1,982	61.2
こどもの城 サマーフェスティバル みんな音楽家	8.6	2	1,000	2,400	1,480	61.6
第2回青山バレエフェスティバル	9.4~6	3	5,000・4,000	3,234	3,028	93.6
ねむの木学園20周年歌のコンサート 宮城まり子とうたう「こども・愛・祈り」	9.26・27	2	1,800	2,156	1,892	87.7
前進座 「赤ひげ」	10.29~11.10	20	6,500・4,000	24,000	17,304	72.1
第2回こどもの城友の会 ファミリー・フェスティバル	12.24・25	2	1,500・1,000	2,400	1,794	74.7
(小計)	7	51		59,787	38,352	64.1
<b>&lt;提携&gt;</b>						
ピッグ・リバープレコンサート 「ザ・スピリット・オブ・ピッグ・リバー」	5.25・26	2	5,000・4,000	2,344	2,079	88.7
ミュージカル 「ピック・リバー」	63.2.26~3.31 (~5.6)	29 (42)	10,000・8,000・ 5,000	37,312	30,435	81.6
(小計)	2	31		39,656	32,514	82.0
<b>&lt;貸館&gt;</b>						
「いとしのエリー」試写会	4.1	1	無料	1,200	936	86.8
日本結核病学会	4.2~4	2	無料	2,400	1,746	72.7
アーストンボラージュ 87-88秋冬コレクション	4.8	1	無料	1,078	1,078	100
夢の遊眠社 「明るい冒險ー見よボロロッカ空に逝く」	4.11~5・6	37	4,000・3,000	30,316	27,945	92.1
重症心身障害者を守る全国大会	5.30	1	無料	1,200	800	66.6
サンデー・アフタヌーン ジョイフルコンサート	5.31	1	無料	1,200	908	75.6

## 8 劇 場

公演名	期間	回数	料金	(円)	総席数	入場者数	入場率
				(人)	(人)	(%)	
劇団四季公演 「この生命は誰のもの？」	6.1~28	37	5,000~2,000	31,570	18,873	59.7	
少年隊ミュージカル 「PLAY ZONE '87」	6.29~7.26	30	5,000	32,340	30,707	94.9	
西友ミュージカルシアター 「はだかの大様」	7.27~8.5	13	3,000・2,000	15,600	10,161	65.1	
日本信販ミュージカル 「アニー」	8.7~9.3	44	7,000・5,000	48,400	39,886	82.4	
宝塚企画 「スウォード フラッシュ！」	9.7~15	10	4,000・3,000・ 2,000	12,000	10,455	87.1	
曜会公演	9.16・17	2	7,000・5,000	2,156	1,370	63.5	
布施明ドラマチックコンサート	9.18~25	6	5,000・4,000	6,936	5,793	83.5	
東宝ミュージカル 「王子と踊り子」	9.30~10.28	40	8,500・4,000・ 3,000	43,120	34,327	79.6	
谷村新司リサイタル'87 「CORAZON II」	11.11~22	11	7,000・5,000・ 4,000	12,760	11,190	87.6	
第37回児童福祉施設文化祭	11.22・23	1	無料	1,112	800	71.9	
服部克久 「音楽畑コンサートパートIII」	11.24	1	5,000	1,030	840	81.5	
名倉加代子ジャズダンスリサイタル 「CAN'T STOP DANCIN' PART 7」	11.25~28	5	5,000・4,000	5,830	5,399	92.6	
第12回東日本小児科学会	11.29	1	3,000	1,200	800	66.6	
劇団四季公演 「ハンス」	12.1~20	19	7,000~2,000	20,482	17,722	86.5	
劇団四季公演 「35ステップス」	12.21~23 26~30 63.1.2~2.25	69	8,000~2,000	74,382	66,032	88.7	
(小計)	21	332		346,312	287,768	83.1	
青山劇場 計	30	414		445,755	358,634	80.5	

III 各部の活動(1)

2) 青山円形劇場

公演名	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主>						
近松シンポジウム	4.5	1	1,500	180	111	61.7
第2回こどもの城 マタニティコンサート	4.24~26	3	2,000	975	876	89.8
ふれあいの集い	5.4・5	1	無料	350	350	100
こどもの城民話劇場 「鬼の角」	7.22~31	12	1,000	2,952	2,693	91.2
宮城まり子 「こどもって何だろう」	8.1	2	500	656	503	76.6
「こどものためのモーツアルト」	8.12~15	7	2,000	2,310	2,161	93.5
「ファミリーボンディスコ」	8.16~18	3	1,500	1,110	356	32.0
こどもの城ビクター童謡コンサート	8.31	1	700・500	376	306	81.3
横笛・赤尾三千子の世界	9.19~23	5	3,000	1,380	1,065	77.1
ダンス アット ザ ギャザリング VOL.3 「オペラは踊る」	10.19~24	6	3,500	1,476	955	64.7
第1回青山演劇フェスティバル (3)	10.26~30 11.4~12	16	2,000	4,842	4,214	86.9
ボニージャックスの 「空とぶうさぎ」	10.31~11.3	5	2,500	1,880	901	47.9
「マザーグース クリスマス」	12.23~25	4	800・500	1,504	1,427	94.8
「おとぎの国のメルヘン通り」	12.26~1.7	9	2,500	2,538	2,277	89.7
第1回青山演劇フェスティバル プラスワン公演	63.1.8~31	24	2,000	6,831	6,477	94.8
環状線ラブソディ 「終着駅」	2.22~29	8	3,000	2,480	1,955	78.8
ダンス アット ザ ギャザリング VOL.4 「ダンス コレクション」	3.4~9	6	3,500	1,782	1,507	84.5
(小計)	17	113		33,622	28,134	83.7
<提携>						
「イ・サロニスティ」	2.17~21	5	4,000 21日のみ2,500	1,650	1,039	62.9
(小計)	1	5		1,650	1,039	62.9

## 8 劇 場

公演名	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<貸し劇場>						
日本結核病学会	4.2~4	2	無料	360	200	55.5
ミュージカルファクトリー 「ダンス・ダム」	4.6~15	9	3,000	2,592	1,401	54.0
独語劇 「ハンメルンの笛吹」	4.17・18	2	1,000・800	564	136	24.1
オーボエとピアノのデュオ 「遙かなるイタリアから」	4.19	2	2,000・1,500	752	336	44.6
伊藤京子 ニュークラシックライブ	4.20	1	2,200・2,000	322	281	87.2
{ NHK公開録画 「思いっきり小学生」	4.29	1			100	
{ NHK公開録画 「お母さんの勉強室」	4.30~5.1	2			237	
シェイクスピアシアター 「間違いの喜劇」	5.6~17	13	3,000・2,800	3,666	2,421	66.0
尺八と琴のコンサート	5.18	1	2,500	282	185	65.6
サイケデリック物理学コンサート	5.19~24	7	3,500・3,000	1,617	1,450	89.6
アムウェイ記念講演	5.25	1	無料	300	250	83.3
マーサ三宅 ジャズボーカルコンサート	5.26	1	3,500	310	302	97.4
岡田祥造のバレエ小劇場その2	5.27	1	4,000	300	231	77.0
むごん劇かんぱにい 「イメージサークル」	5.28~31	4	3,000・2,500	944	495	52.4
共に育つ喜びの集い	6.1	3	1,000	594	240	40.4
芝祐靖 「笛ライブ'87」	6.2	1	3,000	300	281	93.6
劇団東演 「翔ペイカロスの翼」	6.3~7	7	3,500・2,500	1,316	1,185	90.0
劇団東演 「リサの瞳の中に」	6.8~14	6	3,500・2,500	1,128	1,022	90.6
「うかうか三十ちょろちょろ四十」	6.15~21	7	2,800・2,500	1,974	1,233	62.4
クリエイティブ・スタッフ第3回公演	6.25・26	2	4,000・3,500	564	414	73.4
「ジミーとジョアン」 「明日! キャサリン」	6.27~30	5	2,800・2,500	1,230	1,076	87.4
アキコ・カンド・リサイタル 「バルバラを踊る」	7.1~5	5	2,800	1,025	920	89.8

III 各部の活動(1)

公演名	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
近松シンポジウム	7.7	1	1,500	180	92	51.1
美雪コンサート 「LAST WALTZ」	7.9	1	2,800	346	280	80.9
ダンスシンフォニー 「STOP & GO」	7.10~12	4	2,800	1,148	1,022	89.0
三条真理子ダンスコンサート1987	7.13~19	6	2,800・2,500	1,188	1,005	84.5
中條富美子作品展NO.2	8.3~5	4	2,800・2,500	960	584	60.8
「BABES IN THE WOOD」	8.19~21	5	3,000・2,800	1,090	795	72.9
ゲーテの詩朗読コンテスト	8.22	1	無料	246	112	45.5
「男闘呼組ライブ・イン」	8.23・24	7	2,500	2,590	2,565	99.0
青音協企画	8.25~30	10	2,000	2,116	1,203	56.8
「MAGIC-SPELL」	9.4・5	2	3,800・2,800・ 2,500	564	385	68.2
「子どもの歌まつり」	9.6	1	無料	330	193	58.4
1987 ALL JAPAN ARTISTIC BILLIARDS CARINA ED CAMPIONSHIP	9.7	1	4,000・3,000	316	188	59.4
創価学生祭	9.8~15	10	無料	2,960	2,365	79.8
甦れ文明のクロスワード	9.16~18	4	4,000	1,316	1,141	86.7
田島佳子 「三味線のつどい」	9.24	1	3,000	312	193	61.8
ソプラノパフォーマンス 「天高くオペラ肥える秋II」	9.25・26	2	3,300~3,000	576	182	31.5
「FAN FAN氏の微笑みの南」	10.4~14	12	7,000	3,384	2,009	59.3
「ある馬の物語」	10.15~18	4	3,300・3,000・ 2,800	984	337	34.2
藤陰須美創作舞踊	10.25	1	5,000・3,500	235	166	70.6
絞留里の会第2回公演	11.13~15	3	5,000	726	447	61.5
創作舞踊展第2回公演	11.16~18	2	3,000	492	400	81.3
「ぼくたちの明日」	11.19~25	8	1,000	1,740	1,212	69.6
「星の王子さま」	11.26~28	7	4,000	2,184	1,981	90.7
朝日玩具コンクール	11.29	1	無料	242	148	61.1

## 8 劇 場

公演名	期間	回数	料金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
「イグノランティス大陸」	12.1~13	20	2,500	5,640	4,608	81.7
「ナイトワン」	12.19・20	2	3,500	500	500	100
坪口昌恭 「クリスマスコンサート」	12.22	1	2,300・2,000	280	195	69.6
「EDGE OF AGES」	63.1.17	2	無料	644	462	71.7
「むすめたちは似ている」	2.5~7	3	2,500	714	566	79.2
モダンダンス「パ・ト・ドゥ」	2.10	1	無料	272	255	93.7
モダンダンス「パ・ト・ドゥ」	2.11	2	2,500	464	264	56.8
「婢弥鼓コンサート」	2.12~14	4	2,500	984	558	56.7
「恋でいっぱいの森」	3.1~3	4	無料	820	598	72.9
一葉式いけ花展	3.10~13		無料			
黙劇 「ファウストの遺言」	3.15~21	9	3,500・3,000	1,854	1,312	70.7
影絵劇カーニバル	3.22~30	14	2,300・2,000	2,800	1,761	62.8
寺田美佐子コンサート 「ミサからあなたへ」	3.31	1	3,500	282	150	53.1
※音楽事業部合同コンサート 「ぼくらのサウンド'87」	4.1 (62.3.30~)	1 (計4)	無料	235 (940)	209 (688)	88.9 (73.1)
※おもちゃ図書館開館記念講演	4.22	1	無料	246	67	27.2
※こどもの城 「第3回おまつり劇場」	5.2・3	2	800	492	311	63.2
※金管楽器による 楽しいファミリーコンサート	8.2	2	500	450	339	75.3
※保育研修会	8.6~8	2	無料	360	240	66.6
※「わくわく I CAN FESTIVAL」	8.9~11	4	1,000・500	1,480	772	52.1
(小計)	64	256		64,882	46,568	71.8
青山円形劇場 計	82	374		100,154	75,741	75.6
劇場合計		788		545,909	434,375	79.6

注 ※印は劇場事業本部以外のこどもの城事業部が主管した公演

## (2) 劇場事業本部の活動

劇場が発足したばかりの 60・61 年度は新しい劇場の機能や設備、雰囲気なども含めた社会的な評価を高めるねらいで、いろいろなジャンルのものを、リスクを負う自主あるいは提携公演の形で開催してきた。その効果がだいに表れて、評価がほぼ定着した 62 年度は、青山劇場、青山円形劇場とも自主・提携公演の数を大幅に絞ったのが特徴である。

その分、貸し劇場の割合が増えているが、使用申し込みが多く、貸し劇場の公演内容についても、いい選択ができた。公演の演目、対象などの面からも年間を通して一応、バランスのとれた配列になったと考えている。

また、青山劇場では質、量ともにミュージカルが目立ったこと、青山円形劇場では“シリーズもの”が根付き始める一方、新しい分野の企画が好調なスタートを切ったことが特筆される。

### 1) 青山劇場

62 年度の青山劇場を考える規準として前年度との比較をしてみたい。（〔 〕内は前年度）

①総演目数 30 本〔30 本〕

②ジャンル

ミュージカル 8 本〔6 本〕、演劇（現代劇）3 本〔7 本〕、歌舞伎 1 本〔0 本〕、オペラ 1 本〔1 本〕、コンサート 7 本〔7 本〕、舞踊 3 本〔1 本〕、学会 3 本〔3 本〕、その他 4 本〔5 本〕

③公演形態

自主公演 7 本〔10 本〕、提携公演 2 本〔4 本〕、貸劇場公演 21 本〔16 本〕

総演目数は前年度と同じ 30 本であり、公演ジャンル内訳もほぼ一定である。目につくのは、現代劇が半減し、ミュージカルの割合が高くなっていることだが、これはミュージカル・ブーム、ミュージカル・ラッシュといわれる昨今の現象を反映したことと思われる。また、公演形態の割合は自主・提携公演が数字上では 14 本から 9 本に減少しているが、これは提携公演として 62 年度最大の眼目であるミュージカル「ビッグ・リバー」に力を注いだ結果であり、内容的には 62 年度の自主、提携公演はたいへん充実していたといえる。

その「ビッグ・リバー」だが、これはこどもの城、東京放送、ホリプロダクションの 3 者提携で、協賛としてダスキン／ミスターードーナツがついた。このプロジェクトにおける 3 者提携は、名義的なものではなく、出資、リスク、実務のすべてにおいて、1 つの作品に向けて同等の立場から携わっていこうとする画期的なものであった。その前提に立って、青山劇場が受け持った主な業務分担は、広報・宣伝分野（宣材物・広告・プログラム製作を含む）と劇場の技術協力である。技術協力に関しては、作品の魅力が最大に引き出されるよう青山

劇場技術スタッフが真価を発揮した。

この2か月間にわたる大型公演に主催の1社として積極的に携わった経験から得たものは大きく、今後の自主・提携公演において大いに役立つだろう。また、この作品は内容的にも自由・冒險をテーマとし、広くファミリー層に訴える力強いものであり、また、日・米合同キャスト、スタッフによる国際的な事業でもあった。このことは「子どもの城」にとっても大きな意義があったといえる。

62年度の青山劇場でほかに特徴的なことは、「夢の遊眠社」（貸劇場）という若手の劇団が青山のライン・アップに入ってきたことである。夢の遊眠社は若い世代に熱烈な支持を受けている新進の劇団であり、今まで小・中劇場を中心に活躍してきたが、青山劇場において初めて大劇場の1か月公演に挑戦し、高い動員率をマークした。このような若い劇団の参入は、劇場のイメージをリフレッシュする点でも意義深いと思われる。劇団にとっても、劇場にとっても失敗を恐れず新しい可能性に絶えずチャレンジする精神を持ち続けることは、大切なことである。

毎年の再演あるいはシリーズ化によって定着してきた公演がある。自主公演では、「オペラクリエーション・イン・青山」「子どもの城サマーフェスティバル」「青山バレエフェスティバル」の各シリーズである。

「オペラクリエーション・イン・青山」は、若い歌手たちから成り、前年度の「フィガロの結婚」の実績に基づいて、62年度は「ウィンザーの陽気な女房達」に挑戦し、安定した実力を発揮した。このグループの真価が問われるのは、まだ先のことだろうが、今のところよく健闘し、青山の自主オペラ企画を支えている。

「子どもの城サマーフェスティバル」は、子どもの城友の会へのサービスを主眼とする企画である。ジャンルでいえば、バラエティショーの範疇に入るファミリー向けの企画で、親子という別々の世代がともに楽しめ、開かれたコミュニケーションの一助となることを目指している。難しいところをねらっているものだけに、長い時間をかけてじっくりと取り組んでいく必要があるように思われる。

「青山バレエフェスティバル」は、2回目にして、完全に定着したと思われる。日本バレエ界の若手の才能を一堂に集めてのこのフェスティバルは、青山劇場のバレエ企画の要となるとともに、日本バレエ界の重要な祭典に成長している。63年度に予定されている「ローザンヌ国際バレエコンクール」も、この実績を踏まえて初めて成立するイベントである。

貸し劇場ではミュージカル「アニー」、「谷村新司リサイタル」が、再演企画、シリーズ企画として、好調を維持している。「アニー」は、ファミリーを対象として、「谷村新司リサイタル」は青山劇場の都会性を表して、ともに青山・子どもの城の特徴を十分に生かそうとしている企画である。

また、シリーズ企画ではないが、劇団四季、東宝という大手カンパニーも、よく練られた企画を提供し、青山劇場に与えた業績は大きく評価される。

## 2) 青山円形劇場

62年度の青山円形劇場を、前年度と比較すると次のようになる。（〔 〕内は前年度）

①総演目数 82本〔80本〕

②ジャンル

ミュージカル6本〔5本〕、演劇18本〔21本〕、コンサート26本〔22本〕、舞踊14本〔8本〕、学会・シンポジウム8本〔4本〕、その他11本〔20本〕

③公演形態

自主公演17本〔30本〕、提携公演1本〔6本〕、貸劇場64本〔44本〕

青山円形劇場の62年度は、61年度の方向性の継承・発展と、新しい可能性の模索という点が特徴的である。自主・提携公演についてこのことをみてみたい。

まず前年度の方向性の継承・発展としてのシリーズ企画は次のものが挙げられる。

(1) ダンス・アット・ザ・ギャザリング

このシリーズは、クラシック・モダン・日本舞踊など、ジャンルを問わず広く「舞踊」の分野からの若手の才能をピック・アップし、発表の場を与えようというもので、第3回、4回を実施した。第3回は「オペラは踊る」と題し、若手オペラ歌手とモダン・ダンサーの融合を試み、第4回は「ダンス・コレクション」として、名倉加代子率いるジャズ・ダンスの若い力を披露した。

(2) こどもの城マタニティ・コンサート

妊娠が「リラックス」することをテーマとしたこのコンサートは、第2回として、ニューミュージック界の第一人者、矢野顕子を迎えて、彼女のピアノの弾き語りで楽しいひとときを提供した。いわゆる「胎教」を旨とした妊娠向けのコンサートが増えている中で、「こどもの城・青山円形劇場」ならではのアット・ホームな雰囲気を十分に發揮できるものとなった。

(3) 「おとぎの国のメルヘン通り」

こどもの城のスタッフが中心となって、創作ファミリー・オペレッタの第2回を実施。出演はオペラクリエーション・イン・青山。今回、お正月企画として実施された同オペレッタは、前回にも増して、内容・動員ともに好成績を収め、観客（幼児とその両親）を魅了した。また、ファミリーを対象とする良質の企画の重要性を再認識させた。

次に新しい可能性を模索する企画としては以下のものが挙げられる。

(1) こどもの城民話劇場「鬼の角」

キリン記念財団との共同主催で行われたこの企画は、民話劇場としては60年度青山劇場での「彦市ばなし」「鯉女房」に続くシリーズ第2弾だが、今回は第1回青山円形劇場脚本コンクールの入選作が取り上げられたところに、新しい意義が見いだせる。青山円形劇場脚本コンクールには、104編の作品が寄せられ、その中から選ばれた佳作3編（優秀作はなし）のうち1編が、民話劇場として舞台に乗ったわけである。「鬼の角」は泉鏡花の原作に取材

した作品で、厳密な意味では民話ではないが、民話の味わいを持つほのぼのとした雰囲気が、観客の心を捉えた。

### (2) 青山演劇フェスティバル

新しい感性を持ち、独特の表現で時代を捉えている小劇場系の劇団によるフェスティバル。シリーズ企画として発足した第1回目は「ネヴァーランド・ミュージカル・コミュニティ」「遊・機械／全自動シアター」「自転車キンクリート」の3劇団を取り上げた。連日、若い観客で満席となり、熱気あふれるフェスティバルとなった。舞台は3劇団それぞれ「今」感覚に満ち、円形空間も創意ある使い方がなされた。また、アンコール公演としての「プラス・ワン公演」も、大成功に終わった。

### (3) 環状線ラプソディ「終着駅」

結城昌治の同名小説の舞台化。青山円形劇場のオリジナル・プロデュース公演として企画され、今後の（青山劇場を含めて）オリジナル・プロデュース公演の先鞭（べん）をつけるものとなった。小劇場系の若い俳優を多く起用し、表現スタイルにも実験的なものを取り入れて力強い舞台成果をあげることができた。また、円形空間の生かし方も、円形中央に螺旋（らせん）階段を作り空間を縦に使って斬新なものであった。

最後に音楽企画を見てみたい。

### (1) ボニージャックスの「空とぶうさぎ」

これは、子どもの城オープン2周年記念チャリティ・コンサートとして行われた。身体に障害を持った子どもの詩に、曲をつけ、ボニージャックスが歌うというもので、ハンディキャップを背負っている子どもたちの純粋な心から生まれる詩と、ボニージャックスの優しく力強い歌声が、聴く心を打ち、子どもの城オープン2周年を飾るにふさわしい温かい催しとなった。

### (2) 子どものためのモーツァルト

ミュンヘン・フィルのアンサンブルと歌手、それにドイツ連邦共和国の青少年音楽コンクールで入賞した少年・少女音楽家たちによる楽しいコンサート。モーツァルトの名曲を演奏したり、歌劇「魔笛」の中の有名なアリアを客席の子どもたちと合唱したりしながら、自然に音楽のすばらしさを体験できる企画として絶賛を博した。

### (3) 横笛－赤尾三千子の世界

日本古来の横笛の奏者として世界的に活躍する赤尾三千子が、岡田知之打楽器合奏団、岸田今日子（語り）、木佐貫邦子（ダンス）という個性豊かな共演者を得て、5日間にわたる白熱のステージを開幕した。湯浅譲二、松下功、石井眞木という現代日本を代表する3人の作曲家の作品で横笛の持つ音楽的表現の新境地を聴かせる一方、岸田今日子の朗読とのジョイントや、木佐貫邦子との即興パフォーマンスで円形空間ならではの緊張感あふれる舞台を見せ、高く評価された。

### (4) イ・サロニスティ

### III 各部の活動(1)

19世紀から20世紀初頭にかけてヨーロッパ各地で大流行したサロン音楽を専門とするイスの五重奏団によるコンサート。ウィンナ・ワルツからタンゴまで名曲の数々が、演奏者による楽しい話を交えながらアットホームな雰囲気の中で披露された。また日曜日の午後には、ミュージカル・ナンバーやディズニーの映画による「ファミリー・サロン・コンサート」が催され、多くの親子連れが音楽のすばらしさを体験し、こどもの城ならではの企画として好評を博した。

#### <新しいものを生み出す努力>

青山劇場、青山円形劇場の62年度は、前年度の実績を踏まえながらも、まだまだ走り続けた時期だったといえよう。経験を積むにつれて対応のマニュアルを身につけることはできるが、ややもすれば経験則だけに頼りきって、姿勢が硬直化しがちである。この点62年度は、新シリーズの発足などを含めて、前向きの姿勢で走り続けることができたように思う。

また、今後数年間のうちに、首都圏に新しい劇場が続々と建設される予定であり、劇場過密時代が到来する。青山劇場、青山円形劇場は、ハード面においてはそれぞれユニークな特質を持ち、他の劇場にはないオリジナリティを有しているが、問題になってくるのはソフト面である。出来あいのソフトを受け入れるだけでなく、失敗を恐れずに新しいソフトを生み出していく姿勢と機能を身につけることが更に重要となるであろう。



第1回青山演劇フェスティバル「僕の時間の深呼吸Vol. 2」  
(11. 5 ~ 8)



ミュージカル「ビッグ・リバー」公演 (63. 3. 4 ~ 5. 5)

## 各部の協力活動

62年度の全館行事は、各部の協力により、7種目行われた。催しのテーマとしては前年度と同様だが、前回の反省点を踏まえて内容はより一層充実したものとなった。特に専門分野の技術的な面での工夫に進歩が見られた。

### 1) こどもデパート

4月29日（祝）に第2回こどもデパートを行った。前年と同じく、子どもたちが企画・運営し、手作りの品や本・中古雑貨などを販売する内容で、目的は①集団活動を通して個人の役割とチームワークを学習する ②集団の中でのルールとマナーを身につける一方、製作・流通・宣伝など、社会の仕組みを学ぶ ③お店やさんごっこを通して一般来館児童（お客様）との交流を図る、というものである。

出店数は前年度の18店舗に対し、本年度は24店舗と規模を拡大した。音楽事業部からは前年参加の合唱団に加えてパーカッション講座の児童も参加し、新たな試みとして小児保健部は無料の健康チェックコーナーを設けた。プレイ事業部・AV事業部では参加スタッフを一般児童から公募した。プレイ事業部は、プレイホールに遊びに来る常連の児童を集めてゲーム店を運営し、AV事業部は公募した児童にテレビカメラマン・ニュースキャスターなどを担当させ、館内テレビ局を運営した。

いずれも講座のように定期的に来館する児童でないため、指導が難しい点もあったが、初対面の子どもたちが協力し合い、1つのことをやり遂げたことは、彼らにとっても有意義な体験になったと思われる。

こども喫茶店は場所を昨年の1階エントラーホールから5階保

#### 第2回こどもデパート店舗数

音楽事業部 講座クラブ児童・母親 (こども喫茶店含む)	13店
あそびガヤガヤ研究所	6店
研修教養部 婦人ボランティア	1店
研修教養部 青年ボランティア	1店
保育研究開発部 幼児と母親	1店
プレイ事業部 一般公募児童	1店
小児保健部（健康チェック）	1店
	計 24店

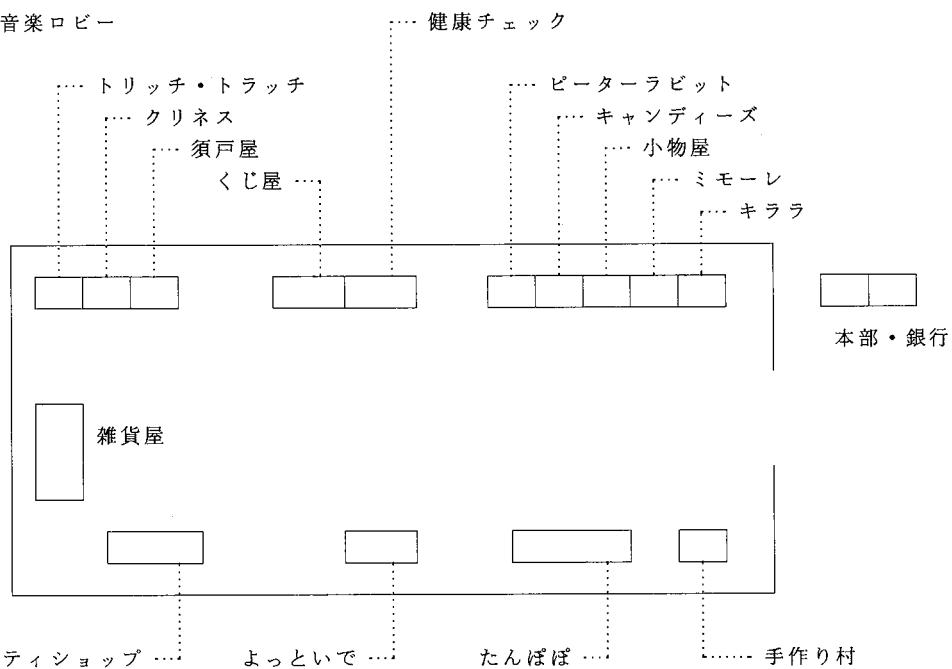
#### 第2回こどもデパート収支

前年度から繰越金（準備費）	① 160,662円
収 入（金券売上）	489,015円
支 出（材料費）	165,609円
収 支	② 323,406円
残 金（① + ②）	484,068円
（福）日本肢体不自由児協会へ寄付	200,000円
次年度へ繰越（準備費）	284,098円

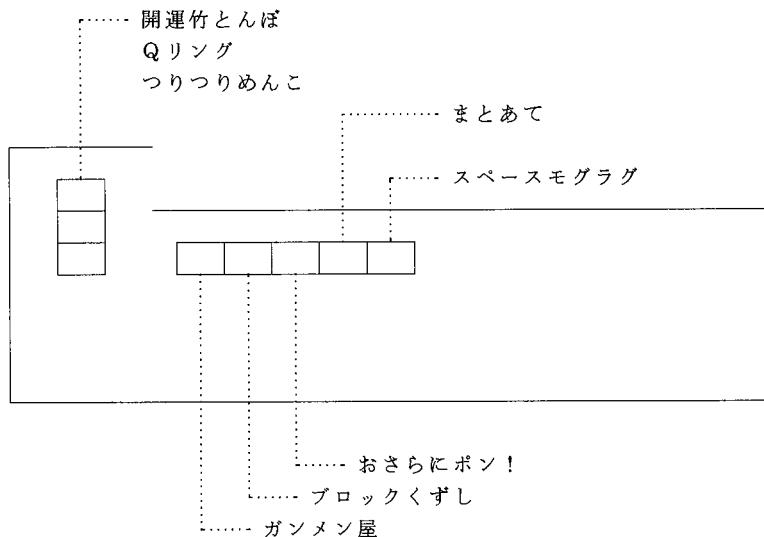
### III 各部の活動(1)

#### こどもデパート会場図

☆ 4 階音楽ロビー



☆ 3 階プレイホール



☆ 4 階音楽 B スタジオ内はこどもデパート放送局

☆ 5 階保育室内にはこども喫茶店キャロット

育室に移して、合唱団児童により運営した。昨年の場所は騒然とした環境の中にあったが、保育室は落ち着いた雰囲気で児童も運営しやすかったようだ。

あそびガヤガヤ研究所は、今年も「おさらんポン！」「スペースモグラグ」などオリジナル性の高いユニークなゲーム店を運営して人気を集めた。

全体として前年の反省点が随所に生かされており、特に前回の「各フロアが孤立して一体感がない」という問題点に対し、AVチームが館内各所にモニターテレビを設置し、子どもキャスターによる情報番組を提供することで、会場となった3・4・5階の各フロアに亘る様子がリアルタイムで伝わり、催し全体を成功に導くうえで重要な役割を果たした。

また、子どもたち自身が昨年の経験を生かし、自ら考え、積極的に参加するという望ましい情景も随所に見られ、この催しの最も重要な目的が達成されつつあるということを感じさせた。

## 2) ブラック・ボックス

前年の「ミステリーゾーン」と同じく「ふしぎ空間」を児童に体験してもらおうと企画・実施したのが「ブラック・ボックス」である。場所は地下1階のフリーホール。期間は7月21日～8月2日。

今回は「音と光のふしぎ体験」ということに重点を置き、お化け屋敷的作り物は排除した。主に音楽・造形・AV・プレイのスタッフがそれぞれの専門性を生かし、各コーナーを担当した。3Dのセットや光センサーを使って人が通ると台所用品が騒ぎ出す「ゴーストキッチン」。水が流れ落ちる力を利用していろいろなガラクタが音を出す「水の塔」など、さまざまな工夫をこらした17のコーナーで構成したものである。

中でも人気があったのは4つのスピーカーから自分の声がさまざまに変調されてこだまする「サラウンド」や、ビデオの画像を白いお面に反射させ、あたかもお面の顔が話しているように見せた「魔宮」などであった。

反省点としては、まず地下1階フリーホールという場所は入館者が自然に流れてくる位置になかったため、昨年4階で実施した「ミステリーゾーン」に比べると、平均入場者数は少なかった。内容的には入場者の多くから「おもしろかった」「もう1度見よう」という声が聞かれた。特に小学校低・中学年に人気があったようだ。逆に高学年にはもの足りないという声もあったようだが、これには「ブラックボックス」という名称からお化け屋敷を連想し、スリルを期待していた子が多くいたためであった。

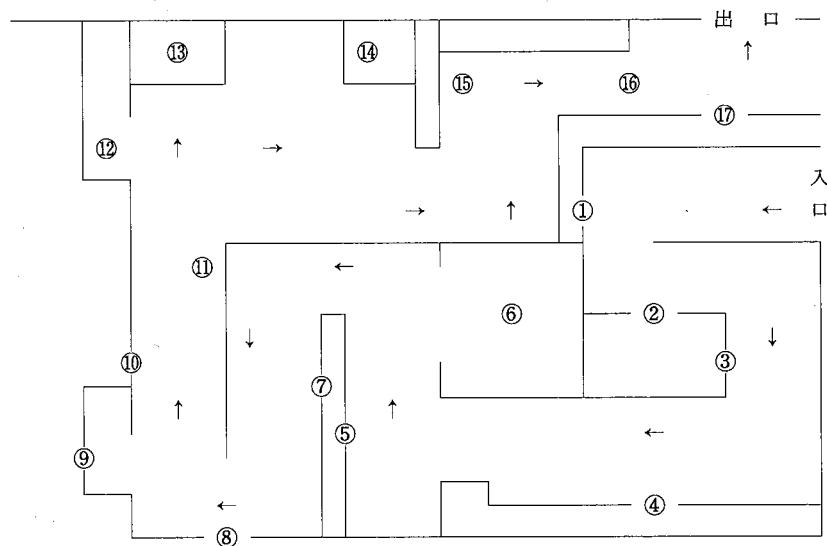
各システムはスタッフの技術だけでは限界の所もあり、うまく動かない部分もあった。故障が多く、結局、すべてのシステムが完ぺきに動いていた日は1日もなかった。

内部はだれが見ても手作りという感じで、そこに好感が持たれた部分もあった。簡単な仕組みや工夫でこのようなものができるということを、ある程度アピールできた。しかし、全システムの解説書を出口で配るということが当初の企画段階で検討されていたのだが、時間の関係で実現できなかったのがたいへん残念であった。

### III 各部の活動(1)

ブラックボックス会場図

☆地下1階フリーホール



- |            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| ①まねっこ小僧    | 自分の言ったことをロボットボイスでそっくりマネする。      |
| ②のぞいてごらん   | 筒をのぞくと不思議な模様がぐるぐる回る。（万華鏡）       |
| ③ぶつぶつ小僧    | 壁の4つのお面がぶつぶつ言う。なんとなくハーモニーに聞こえる。 |
| ④魔宮        | お面の顔が動く。人が通るとガムランの自動演奏。         |
| ⑤カシカン      | 人が通ると空き瓶がカンカン鳴る。                |
| ⑥虹の彼方      | ブラックライトの部屋。螢光色が浮き上がって見える。       |
| ⑦サラウンド     | 自分の声が変な声になって、自分の周りをこだまする。       |
| ⑧ウォータードロップ | オルガンを弾くと水の音が。                   |
| ⑨ゴーストキッチン  | 人が通ると台所用品が騒ぎだす。                 |
| ⑩アナラボス     | 缶のスプリングをはじくと不思議な音が。             |
| ⑪宝箱        | 大きな箱がいびきをかいて開いたり閉まったり。          |
| ⑫水の塔       | 水の落ちる力でいろいろなガラクタが鳴る。            |
| ⑬洗顔マシーン    | 穴をのぞくと自分の顔に向かって勢いよく水が。          |
| ⑭3D        | メガネをのぞくと模型の電車が浮き上がって見える。        |
| ⑮かざぐるま     | 風車がいっぱい回る。                      |
| ⑯レインボーライト  | 七色の照明。                          |
| ⑰バイバイ鳥     | 人が通ると鳴きだす模型の鳥。                  |

これは、子どもたちがコース内で楽しんだ後に「考える」ことを目的としたものであり、子どもになんらかの刺激を与えることはできたと思う。しかし、「どうしてこうなるのかな?」と考えさせられたあとの「なるほど!」がなかったので、催しの趣旨としては中途半端になってしまったという課題が残った。

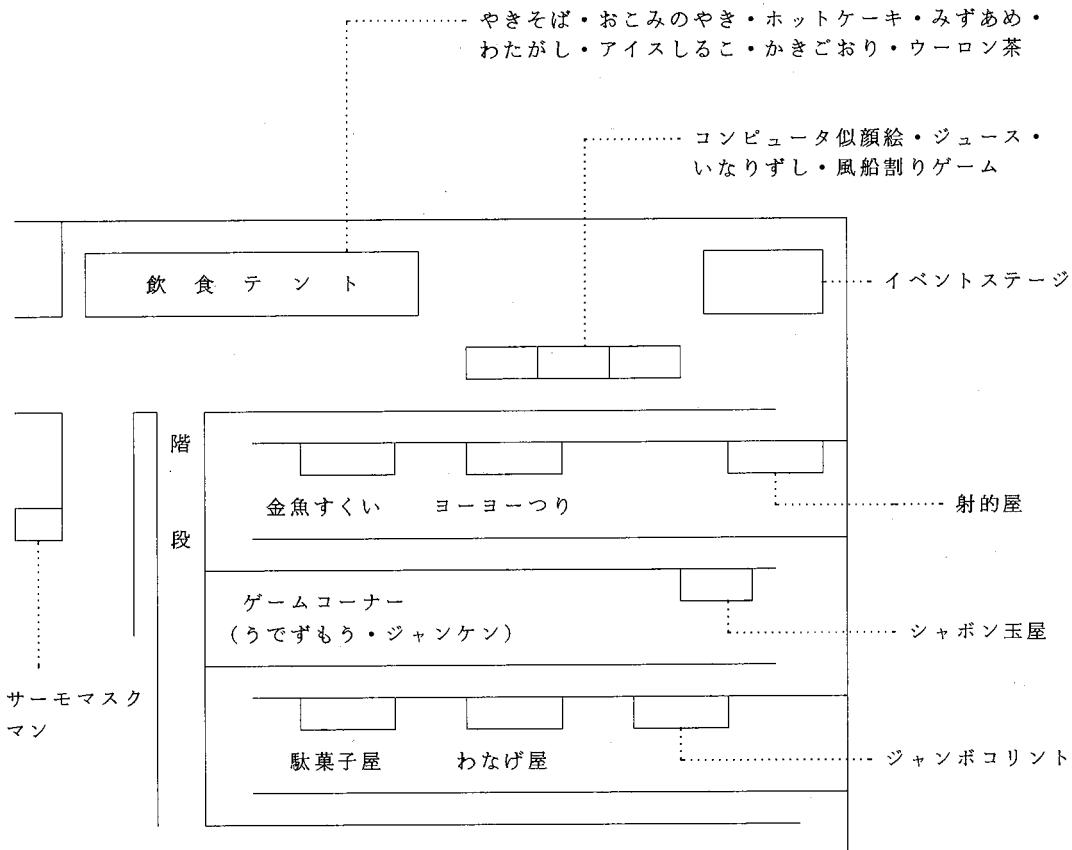
### 3) 子どもの城の夏まつり

8月8, 9日、屋上ふしぎが丘を使って「子どもの城の夏まつり」が行われた。テーマは昨年と同じく、縁日・映画会・ゲーム大会などを通して同世代・異世代・親子などの幅広いコミュニケーションの場とし、地域との交流を図ろうというものである。

今年も渋谷区青年団体の協力が得られ、飲食関係の屋台やゲーム屋など合わせて19店舗

子どもの城の夏まつり会場図

☆ 5階屋上ふしぎが丘



○ — 映 画 会 用 大 ス ク リ ー ン — ○

### III 各部の活動(1)

が出て、前年の14店舗に比べてにぎやかさを増した。3～5階まで屋上全体に店が出せたことで全体の雰囲気が盛り上がった。

前年は1階劇場前ピロティでゲーム大会を行ったが、今年はその代わりとして屋上にステージを設け、音楽事業部の企画によるガムランコンサートなどが行われた。

映画会も昨年と同じく、屋上大スクリーンを設置して行い、ディズニー映画（16mmフィルム）を上映した。

催しの雰囲気としてはにぎやかな中に温かさがあり、「コミュニケーションの場」という目的は十分に達成されたことと思う。常連の児童や地域にも少しづつ催しが浸透しつつあるようだ。

#### 4) こどもの城の夕すずみ

屋上ふしぎが丘で8月14～16日に「こどもの城の夕すずみ」を行った。時間は15～19時で、内容はおもちゃのスイカを使ったスイカ割りゲーム、bingoゲーム、紙芝居グループ「スケッチブック」による5m×3mのジャンボ紙芝居、ミニ花火大会というものである。全体の運営は青年ボランティアのメンバーの協力によって行われた。

スイカ割りゲームは集団でゲームをするには難しく、進行はスムーズにいかなかった。狭いスペースで5、6人ずつついっぺんにスタートしたため、スイカをけとばしたり、棒を振りかざして観客に向かっていったりと、騒然とした雰囲気になり、なかなかまとまりがつかなかった。プラスチックのスイカも案外もなく、半数が壊れた。このゲームは多人数を対象にしたプログラムとしては適していなかった。

bingoゲームは、会場にいるすべての人が参加でき、一体感を持てるゲームでたいへん盛り上がった。ゲームの内容はとても単純なものだが、ボランティアの司会の上手さが催しの雰囲気を明るくし、多くの人が楽しめたことで評価できるものであった。

催しのメインとなった「スケッチブック」によるジャンボ紙芝居は、バンドの生演奏に合わせた歌と語りで展開され、キャストの進行が絶妙で、子どもたちを強く引きつけていた。

プログラムの最後のミニ花火大会は、センコウ花火だけの地味なものであったが、逆にそれが雰囲気としてはよかったです。

「スケッチブック」の感動的な紙芝居「片足だちょうのエルフ」を見たあと、夕焼け空の下で親子で楽しんだ線香花火は、夕涼みのフィナーレにふさわしく、きっと子どもたちの思い出に残るものになったと思う。

1つのイベントの中に、動と静の部分をよい形で取り込めたプログラムであった。

#### 5) ウォーター・アドベンチャー

屋上ふしぎが丘のスロープの1つを使い8月20～23日に「ウォーター・アドベンチャー」を実施した。人気テレビ番組の影響で、はやっている電池式水鉄砲を使用したものだが、ゲームルールと会場設定はオリジナルである。内容は、簡単な迷路を通って奥にある砲台のマト

(半紙) を水鉄砲で打ち抜き、戻って来るまでの時間を競うゲーム。途中で自分の頭についた半紙のマトを破られると減点される。

単純なゲームであったが、子どもも、ギャラリーとなった大人も十分楽しめた。とにかく濡れになってしまっても元気な子どもたちの姿が印象的であった。今回は個人参加型のものであったが、グループで互いに協力しながら進んでいく形にすれば、よい催しになる可能性がある。

問題点としては、とにかく1人ずつプレイするので、30分ほど並ばなければ参加できないことがしばしばで、1日にもしても300人程度しか遊ぶことができなかつた点だ。

規模を拡張し、会場・ルールなどに改良を加えれば、多人数が参加することもでき、夏のメインイベントの1つにすることも可能であろう。

## 6) 正月もちつき大会

行事としては小規模なものであるが、63年1月5日に「正月もちつき大会」を行った。夏まつりと同じく渋谷区青年団体の協力が得られ、来館児童に昔ながらのもちつきを体験させてあげることができた。

もち米の蒸し上がるのに時間がかかり、つくまでに多少待ち時間がかかったが、つきたてのもちを親子でおぱり、子どもたちは初めての体験に満足していた様子であった。

音楽事業部の講座児童による獅子(しし)舞、お囃子(はやし)も行われ、正月の雰囲気を演出した。

## 7) あそびのパスポート

63年3月26日から4月5日の春休み特別期間に、「あそびのパスポート」を行った。これは、館内各所の行事が催されている場所にスタンプ台を置き、4種類のスタンプを集めると、1階のアトリウムで記念シールがもらえるというものである。

このイベントの目的は、各フロアのコーナーポスト(スタンプ台)を巡り、それぞれの行事に参加することで館内全体の流れを活発にし、来館者がスムーズに多くの催しに参加できるようにすることであった。すなわち、「プレゼントをもらうためのゲーム」ではなく、子どもたちがさまざまな「遊び」に参加したという記録となることが主旨である。

コーナーポイントは17の催しを4種類に分けて、1種類には必ず幼児向けと小学生以上向けのものがあるように設定した。

スタンプはインク内蔵型で、4種類のポイントの印(しるし)をⒶⒷⒸⒹとし、ゴールのアトリウムでⒶのチェック印を押してもらうとENJOYがそろいうようにした。

11日間を通して、パスポートの配布数は、19,550枚(1日平均約1,770枚)。記念シールは11,220枚(1日平均約1,020枚)という結果となった。全体の雰囲気として、人の流れの活発化ということでは成功したようであるが、やはり参加した児童のほとんどはスタンプを押して回ることを楽しんでいたようだ。この結果をもとに、ポイントを探して回るラリーゲームを企画すれば、幅広い年齢層が楽しめるものが考えられる。

III 各部の活動(1)



どのお店も大にぎわいー「こどもデパート」（4.29）



ボクもペッタンコー「おもちつき」（63.1.5）

## IV 各部の活動(2)

1 広報部	149
2 研修教養部	153
・こどもの城あそびガヤガヤ研究所	159
3 国際交流部	161
4 営業部	165

## &lt;活性剤となったスタンプラリー&gt;

62年度の広報展開に当たって、広報部の最も腐心した点は、3年目を迎えてややマンネリ化の兆しがみえる「こどもの城」の活動・事業内容を、いかにしてマスコミ方面につなぎ、話題として提供していくか、という点であった。その折りに登場したのが「NHK展示プラザ」「電力館」「たばこと塩の博物館」「こどもの城」を結んでのスタンプラリーであった。これら渋谷地区4施設の間には、かねがねなんらかの提携ができないかとの気運があり、それがこの形で実現したものである。

「NHK展示プラザ」はいまでもないが、「電力館」には東京電力、「たばこと塩の博物館」には日本たばこという強力な組織が背後に控え、それぞれが抜群のPR力を持っている。4者が結束すればその効果は一段と大きなものになろう。

「NHK展示プラザ」と「電力館」は入館無料、「たばこと塩の博物館」「こどもの城」は有料（たばこと塩の博物館は100円）という違いはあるが、実施に当たってまず問題はあるまいとの見解で一致した。とりあえず7月21日から8月31日までの夏休み全期間を「第1回渋谷スタンプラリー」と

スタンプラリーの参加、8,500人超す  
「こどもの城」「NHK展示プラザ」「電力館」「たばこと塩の博物館」の4者が共催で行った「第一回渋谷夏のスタンプラリー」は8,500人が参加し、この半分以上の人に「こどもの城」から記念品が贈呈された。



4館まわってペッタンポン 「第1回渋谷スタンプラリー」  
(7.21~8.31)

してスタートした。4館を回ってスタンプを集めれば、集め終わった所で記念品がもらえる仕組みである。記念品は各館が独自で用意した。スタンプ用紙は18万枚を印刷、この経費(250万円)はすべてスタンプ用紙に掲載した広告料収入で賄った。

終了時点での記念品贈呈数は4館合わせて8,553個に達し、うち「こどもの城」の分は4,363個と半分以上を占めた。

4館は以後、月1回定期連絡会を開き、2回目を63年3月20日から5月8日まで「第2回渋谷春のスタンプラリー」として実施した。短い春休みのため、結果は夏のほぼ半数の4,000人にとどまったが、期間中の4館入館者は前年同期よりおよそ10万人増え、59万人にのぼった。2回目は新たにポスターを印刷し、スタンプシートも20ページにして内容をより興味深いものにした。

2回目の記念品数も「こどもの城」が1,700個で1位であった。「こどもの城」の名が、このラリーを通じて広範囲に流されたメリットは大きい。今後もしだいに内容を充実させ継続していく予定である。

### <積極的にパブリシティ促進>

前年度より減ったとはいえる、「こどもの城」についての取材は劇場関係を除いても1年間で225件に及んだ。範囲も依然各分野にわたり、企業のPR誌や社内報なども多数含まれている。取材の時期はやはり学校の季節休みの前後が多くなり、1日に取材対応の重なることであった。

しかし、取材の目的は当初の施設紹介の段階は過ぎて、「いま何をやっているか?」「これからどんなことをやるか?」というのが多くなってきた。このため、館内に動きの少ないときには対応に苦心した。

テレビ局には、いろいろある番組のなかで、「こどもの城」を上手に使ってもらい、かつ「こどもの城」のPRにも役立つという方向で積極的に働きかけた。例えばドラマのシーンになった「マタニティ・スイミング」の情景（フジテレビ・男の泣かない夜はない=5月12日）、情報番組のバックになったプレイホールやAVライブラリーなどの活動場面（テレビ朝日・発汗シェーブアップ=8月6日。テレビ東京・TAX君の税金問答=6月6日）、肥満児教室、ぜんそく児教室など特異性のあるプログラムの報道（NHK・845情報=6月20日）などであり、学校の季節休みの前には積極的に情報を流しパブリシティを促進した。この効果は、CFなど1度もやったことがないにもかかわらず、8月に実施したアンケートで「こどもの城をどうして知ったか」との問い合わせに対し「テレビで」と答えた人が13.4%もあったことでうかがえる。しかし、全体的にプログラム決定の時期が遅く、締め切りの早い雑誌等に間に合わないことも悩みのひとつだった。

### <こどもの城ニュース臨時号を発行>

「こどもの城ニュース」は前年度に引き続いて9~14号を発行、臨時号として11月1日付で4ページの「ビッグリバー特集号」を発行した。また、毎月児童手当誌に4ページ挿入する方式の「ネットワーク」を4回、「こどもの城」を8回、編集発行した。館内無料配布の「館内ご案内」は合計175,000部を印刷（ほかに英文10,000部）、これを含めると広報部扱いのリーフレット、チラシ類の総部数は36万を突破した。

### <事業と広報は不即不離>

〔反省点〕ものごとをPRするには抽象的でなく、具体的な裏付けを持たさなければならない。ただ単に「おもしろい」「楽しい」といった表現では通用しない。具体的なものを、いかに訴えていくかが、常に問題である。したがって広報部に提供されるデータは詳細かつ正確なものでなければならない。更にいえば、対外的に行動を起こす場合、広報部の情報入手が早ければ早いほどすべてに有利である。

開館以来、「こどもの城」をPRするうえで、絶えずつきまとっていたのは館内情報の流通の遅延であった。1つのイベントが計画される度に、必ず広報計画なるものが付記される

## 1 広報部

が、広報部の情報入手段階は、すべてのお膳立てがすんでからということが多かった。広報計画は立案と同時に進行すべきものであり、企画決定後では完全に機能し得ない。広報部の取材不足もあるうが、単なる宣伝と、広報というものの違いを、内部にも更に深く認識してもらい、より事業部と密着した広報体制をとるようにしたい。

### 編集・発行

#### [こどもの城ニュース]

	発行日	内 容	主 な 配 布 先
第9号	62年 4月15日	ハローマックロー ほか	ネットワーク…………… 4,100部
第10号	6月15日	風さわやか、コイさまさま ほか	こどもの城友の会会員……………約 3,800部
第11号	7月20日	おもしろ夏休み特集 ほか	都道府県民生主管部（全国57か所）…………… 1,156部
第12号	10月15日	スクスク育って満2歳 ほか	保育園、幼稚園、小学校、中学校…………… 438部(219件×2部) (渋谷区、港区のみ公・私立共)
臨時号	11月1日	ピッグ・リバー特集号	
第13号	12月15日	屋上にネットの広場 ほか	渋谷区町内会、渋谷区ボーイスカウト・ガールスカウトほか…………… 284部(142件×2部)
第14号	63年 2月15日	装い一変、青山通り ほか	その他、招待者、視察・見学者など へ贈呈・配布…………… 約10,000部

#### [児童手当誌]

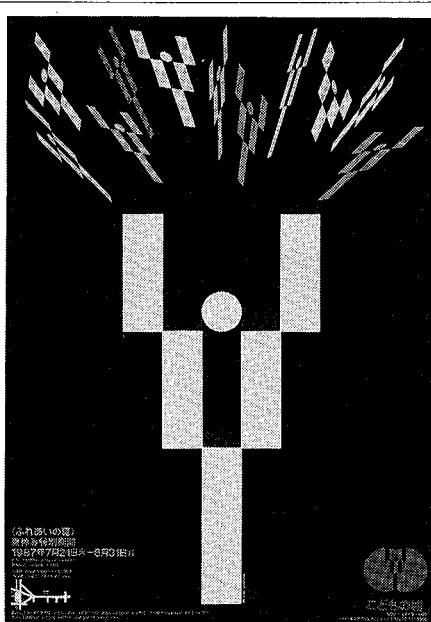
	発行日	内 容		発行日	内 容
ネットワーク 第10号	62年 6月1日	障害児の幸せ願う記念講演会 ほか	第17号	8月1日	「現代の子どもたちを考える」 公開講座 ほか
第11号	9月1日	原点から保育を考えよう —— セミナー ほか	第18号	10月1日	全国に紹介された「こどもの城」の夏休み ほか
第12号	12月1日	「こどもの城」満2歳 ほか	第19号	11月1日	3年目に思う —— 大野出穂常務理事 —— ほか
第13号	63年 3月1日	ローザンヌ国際バレエコンクール ほか	第20号	63年 1月1日	一層の発展を目指して —— 小島弘仲副理事長 —— ほか
こどもの城 第14号	62年 4月1日	「こどもの城」ボランティア活動 ほか	第21号	2月1日	化石の貝は何を思う —— 「こどもの城」が変えた青山通り —— ほか
第15号	5月1日	マックローワールドがデビュー ほか			
第16号	7月1日	「こどもの城」で「ふれあいの夏」 ほか			

#### IV 各部の活動(2)

##### 取材件数

	新 聞	テ レ ビ	ラ ジ オ	雑 誌	そ の 他	計 (件)
62年 4月	7	8	1	6	9	31
5	3	9	1	2	4	19
6	2	5	1	8	5	21
7	1	5	2	8	2	18
8	5	11	2	1	4	23
9	2	2	0	6	1	11
10	2	3	0	3	1	9
11	1	7	0	5	1	14
12	5	1	0	3	8	17
63年 1月	5	6	2	2	8	23
2	2	4	1	5	4	16
3	5	7	0	3	8	23
計	40	68	10	52	55	225
開館以来の 総 計	172	208		226	218	824

注：「その他」は単行本、PR誌、年誌、社内報、機関誌（紙）などである。



福田繁雄氏のデザインで開館以来初めてのポスター

夏休みに向けての PR には、広報部として開館以来初めての B 全判ポスターを作成、7月 20 日から 1 週間、東急線主要 25 駅に駅ばりポスターを掲出した。デザインは福田繁雄氏に依頼して格調の高い図柄のものができあがった。

## 活躍することの城ボランティア

### 1) 社会福祉講座

61年度と同様に、財団法人広げよう愛の輪運動基金の協賛を得て、手話講座など4講座・1サークルを開講した。各講座とも前年度の反省点などを踏まえて、計画、実施され、おおむね好評であった。

#### (ア) 手話講座 (4~8月 全15回)

申込者33人中、11人が前年度に受講したことがある方であった。受講者の3分の1に当たる経験者が初心者と同じ講座クラスで、内容・進行などに若干心配はあったものの受講者の反応は良好だった。

決められたテキストは使用せず、常に講師と受講者との対話の中から手話の技法が自然に身につくといったやり方である。開始時間、期間などについては前年度の反省をもとに改善したため、特に問題はなかった。

なお、昨年からの継続者の中には簡単な日常会話なら通じるようになったという人もあった。

#### (イ) 点訳入門講座 (4~12月 全24回)

この講座は、ほかのものと比べて継続性と正確な国語力が要求されるが、申込者32人に対して修了者が19人と多かった。

出席率も6割強で12月で最終回を迎えたが、14人が点訳サークルに入り、点訳活動を続けた。

#### (ウ) お話講座 (9~12月 全8回)

前年度の反省から、内容を一新して、講師との事前打ち合わせを密にし、職員も助手として指導に加わった。26人の申し込みがあり、21人が修了した。

毎回必ず「手あそび」のレパートリーが1つ増え、絵本の読み聞かせの実習を中心とした講座進行であった。

受講者にはおおむね好評で、出席率も約7割であった。隔週の開講と、18時30分開始という点はよかったです。全8回では少ない、講座1回当たりの時間が1時間30分でなく2時間くらいあってもいいという声が多くいた。このほか①新しい内容で企画をしてほしい②手あそびもいろいろ教えて欲しい、などの希望があった。

#### (エ) 後期手話講座 (10~63.3月 全15回)

申込者28人中、15人が前期(4~8月)からの継続者で、初心者の気後れが心配されたが、始まってみると、経験の有無に関係なく、受講者間の雰囲気は回を重ねる度によくなっていた。講座のねらいは前期と同様であっても、内容はタイムリーな話題を取り入れ、変化に富んでいた。詰め込み的な指導ではなく、自然に手を動かし、表現することができるよ

うな進行が好評で、継続者も多いのではないかと思われる。

(オ) **公開講座**——現代の子どもたちを考える——

年間5回の単発講座として計画したが、実施したのは次の4回で、延べ参加者数168人（1回当たりの平均42人）であった。

第1回：5月16日（土）

巷野悟郎先生（子どもの城小児保健部長・東京家政大学児童学科教授）テーマ『子どもと楽しく——子育てのためのいきいきエッセンス——』

第2回：6月27日（土）

新谷弘子先生（社会活動教育研究所所長）テーマ『現代っ子に欠けている人間的感性を育てる場——それはどんなことでしょう、気がついていますか——』

第3回：9月26日（土）

斎藤友紀雄先生（東京いのちの電話常務理事）テーマ『思春期の性について——人に言えない彼等の不安・悩み——』

第4回：11月28日（土）

平井信義先生（大妻女子大学教授・医学博士）テーマ『遊びを忘れた子どもたち』  
講義内容に関しては、概して好評を得た。しかし、毎回必ず希望があるのは、子どもの同伴を認めないのなら託児させて欲しいという点である。これは、子どもに関する話題を実施していくからにはやはり避けられない課題となりそうである。

また、申し込みは電話予約のみで、費用の一部をも徴収していないためか、当日連絡なしに欠席される方が毎回2割は出てしまう。

(カ) **点訳サークル**

登録者10人によって、視覚障害の方から要望のあった本の点訳奉仕活動を続けた。

子どもの城ホテルの利用料金表の点字版も作り上げ、これからますます意欲的に取り組んでもらえそうである。

まあ、12月に最終回を迎えた点訳入門講座の修了者14人も63年1月から活動に加わった。

## 2) ボランティア養成講座

(ア) **ボランティア講習会**

日本キャンプ協会及び東京都レクリエーション連盟の後援を得て、青年ボランティア講習会を第9～11期まで3回、婦人ボランティア講習会を1回それぞれ実施し、青年ボランティアは計134人、婦人14人が修了、62年度末現在、計約360人のボランティアが登録されている。

青年ボランティアは、季節行事を中心に、“平日活動”，“土・日イベント”，“あそびガヤガヤ研究所”，“人形劇”，の4つのグループによって運営されているが、ボランティア同士の連携も昨年に増してよくなり、各グループとも積極的に活動を展開している。

## 2 研修教養

また、婦人ボランティアは、家庭婦人ならではの気配りや特技によって、日常活動においても、季節行事においても、青年ボランティアの補えない部分をうまくサポートしてくれている。

### (イ) ボランティアの活動状況

(1) 平日活動としてプレイホール、屋上ふしきが丘でのプレイリーダーとしての活動を中心とし、曜日ごとの紙芝居、ゲーム大会、ダンスの集いなどの定期的な活動をしている。

(2) イベント活動として、祝・祭日、児童の長期休暇中の定期的なゲーム大会と、季節行事の企画から実施までの一連の活動が中心。

それぞれのイベントが、回を重ねる度に改善され、充実したものとなり、「こどもの城」の目玉行事として定着しそうな兆しである。

(3) チャリティー事業援助活動として、劇場などにおいて実施されるチャリティー公演時の介護活動。

(4) 年間を通してグループ活動を行う子ども集団、あそびガヤガヤ研究所のグループカウンセラーとして、異年齢の子どもたちの育成にかかる活動。

(5) その他、特定部門の事業活動における補助指導。

### (ウ) 今年度のボランティア募集

ある程度対象を絞って講習会を実施した。年度始めの5・6月は学生のみを対象とし、夏休み以降10・11月は社会人、学生、2・3月は進学の決まった高校3年生と1・2年の学生を対象として講習会を実施した。

これは、それぞれの講習会をよりメンバーに通じた内容で実施し、年齢の若い学生の枠を広げることによって長く「こどもの城」で活動してくれるメンバーを増やしていくこうという考え方からである。これにより各講習会ごとの指導目標が明確になり、大学1・2年生の受講が増えてきている。

### 3) ふれあいセミナー

ボランティアの養成講習会の修了者を主たる対象に、障害児（者）への理解を深める基礎知識と具体的な介助の技術を身につける講習会を5月に実施した。

ボランティアの養成状況

(63. 3現在)

		養成期間	登録数	修了者数
青 年	1	59年6～7月	9	37
	2	59年11～12月	15	44
	3	60年2月	10	46
	4	60年6～7月	20	50
	5	61年2～3月	22	36
	6	61年6～7月	22	35
	7	61年11～12月	36	43
	8	62年2～3月	47	49
	9	62年6～7月	42	42
	10	62年11～12月	44	44
	11	63年2～3月	48	48
計			315	474
婦 人	1	60年11月	18	19
	2	61年10月	13	15
	3	62年11月	14	14
計			45	48
合 計			360	522

#### IV 各部の活動(2)

全6回で、参加者は、学生31人、社会人7人、主婦4人の合計42人。

##### 4) 「ジュニア・アウトドア・スクール」及び「ジュニア・スキー・キャンプ」

参加者は小学校4年生から中学校3年生までを対象に公募した。異年齢の仲間との規律ある共同生活を通じて、友達との協調性や自主性を体験的に学ばせ、また創造性を養うことを目的とし、ボランティアリーダーの訓練も兼ねて実施した。



おいしく煮えたよ－「ジュニア・アウトドア・スクール」（8.2～5）



ボランティアのお姉さんから教わって－  
「おもしろチャレンジゲーム大会」（5.2～5）

## 2 研修教養

### ○ ジュニア・アウトドア・スクール

8. 2～5（3泊4日）群馬県・鹿沢国民休暇キャンプ場 児童数 73人

### ○ ジュニア・スキー・キャンプ

63. 3. 31～4. 4（4泊5日）新潟県・苗場高原グリーンピア津南 児童数 71人

回を追うごとに、参加児童が増え、昨年度参加した児童が再び参加する例が多くみられるようになった。継続的に参加する児童が増加しているので、年齢層も高学年傾向がみられる。したがって、ますます青年ボランティアのかかわりあいが重要視される。

## 5) 児童厚生員等実技指導講習会

子どもの城全国連絡協議会が主催し、全国の児童館、児童センター並びに児童厚生文化施設の職員を対象に2泊3日の宿泊研修として実施した。

第1回（5月）は、「音」と「表現活動」を中心とする音楽指導として、9都道県から19人が参加、第2回（10月）は、“スポーツの秋「現場での活動上の指導法」”のテーマで16都道県から35人の参加があった。

1回目の講習会では「指で奏でるワークショップ」「音を見るワークショップ」と題して、手あそび・指あそびの実習や実際に子どもの中で身体表現活動を行ったほか、青山円形劇場で広島市のおばあちゃんの合唱グループと「子どもの城」合唱団の「表現活動による世代交流の試み」を参観した。

2回目の講習会は「子どもの好きなスポーツをどう創るか」、「スポーツプログラムの実際」として、現場で役立つ指導法を実習した。

また、「子どもの健康づくり体育の指標」について理論面からも理解を深められる講習となった。

いずれも、参加者同士の情報交換、交流の場としても好評で、今後とも現場のニーズを考慮してプログラムを編成したい。

## 6) 実習生及び研究生の受け入れ

前年度に続いて試行とし、それぞれ次により受け入れを行った。

(1) 実習生 △児童福祉実習〈保母資格取得に関する実習〉として1大学12人が、保育研究開発部及び体育事業部、プレイ事業部、造形事業部、研修教養・企画部（国際交流関係）で実習した。

△施設実習〈職場実習としての体験実習〉として2大学5人、1短大7人、1専門学校2人が、保育研究開発部及び体育事業部、プレイ事業部においてそれぞれ実習した。

(2) 研究生 △2大学2人を小児保健部で受け入れ、また、昨年から継続の2大学2人が小児保健部で研究を続けた。

## ◎ こどもの城「おもちゃ図書館」の創設

心身に障害のある子どもたちが、ボランティアや保護者と一緒におもちゃ遊びをし、また、おもちゃの無料貸し出しを受けることにより、遊びを通して心が開かれることを願い、4月1日から開設した。

場所は「こどもの城」アトリウム・ギャラリーの奥で、室の名称を「こどもの城」のマスコット・キャラクターからとて「こどもの城おもちゃの図書館マックロー」とつけた。

毎週水曜日の午前11時から午後4時まで開いている。当面、対象を就学前の障害児に限定した。

この開設と運営に当たっては財団法人日本おもちゃ図書館財団の協力を得、また、「おもちゃ図書館全国連絡会世話人代表」である小林るつ子氏を図書館の代表に委嘱した。なお、運営は経験豊かなボランティア・グループの手で行われている。

現在、開館は週1日だが、将来は常設とし、健常児も障害児も一緒に気軽に遊べる場とする方向で検討している。



「おもちゃの図書館マックロー」開設のテープカット（4.1）

### 〈おもちゃ図書館利用・活動状況〉

	開館回数	利用者数（保護者児童）	おもちゃ貸出数	ボランティア活動人員
62／4	5	72（延べ人員）	25（個）	42（人）
	5	13	32	10
	6	12	17	11
	7	86	34	12
	8	92	20	16
	9	42	23	22
	10	55	32	18
	11	21	44	20
	12	70	30	19
	63／1	35	15	16
	2	19	24	21
	3	10	5	14
計	50	527	301	221

<地域別利用者数>	
目黒区	16（人）
杉並区	11
港区	10
渋谷区	6
大田区	6
練馬区	6
江東区	5
世田谷区	4
墨田区	4
武蔵野市	3



## 大好評の「あそび探険ラリー」

「子どもの城あそびガヤガヤ研究所」第2期の活動は研究員60人、レポーター4人の構成で、61年9月から62年8月まで実施した。

第2期下半期4月からの活動は次のとおりである。

4月……こどもデパート出店参加

6つの班が各班ごとに次のようなゲーム屋を出店。子どもの城を訪れたたくさんのお客様を相手に、役割分担をして懸命にゲーム屋の運営をした。

(出店名)

- 1班 スペースモグラグ（もぐらたたき）
- 2班 Qリング（チョロQゲーム）
- 3班 まとあて屋（ピンポン玉のまとあて）
- 4班 つりつりめんこ（めんこつり）
- 5班 ブロックくずし
- 6班 おさらにポン（お皿にスポンジボールを入れる）

5月6日……壁新聞の作成・発行

各班ごとにこどもデパートの実施報告、昔あそび体験談、子どもの城のユニークな遊び方などを内容に壁新聞を作成。手づくりのタコを子どもの城で飛ばした体験のレポートなど面白い記事が続々登場した。

(新聞名)

- 1班 マックロー新聞
- 2班 ガヤ研セカンドホープ
- 3班 セントポーリア
- 4班 タイムマシーン
- 5班 雪んこ新聞
- 6班 MKS新聞

8月……夏合宿（あそび探検ラリーの実施・閉所式）

城での夏合宿（8月14～16日）の中で行われた「あそび探検ラリー」は、子どもたちの手で企画制作・運営を行う行事であった。子どもの城内を、ウォークラリーのコマ地図にしたがって歩く。途中には子どもたちが考えた昔あそびにちなんだ10種類のゲームが設置されているという仕掛けである。子どもたちのチームワークの結晶ともいえるこの行事は大好評のうちに終了、最終日の16日に閉所式を行った。

第2期の活動について次のような反省点が挙げられた。

- ① 活動プログラムが、小・中学生の別なく一様で、年齢に応じた取り組みをさせることが難しかった。

#### IV 各部の活動(2)

② 継続者が毎回、意欲的に活動に取り組めるような活動内容に乏しかった。

③ 継続者が多く、グループの新陳代謝が困難であった。

この反省を生かし、第3期は次の目標を掲げてスタートした。

① 小・中学生の活動を分け、それぞれ年齢に応じた目的を持たせることによって、小学生から中学生まで継続的に意欲をもって取り組めるよう配慮する。

② 中学生の活動は、ジュニアリーダー養成の前段階として考え、将来的には高校生対象の「ジュニアリーダー養成講習会」に結びつけていく。

③ 新メンバーを迎える機会を多くしてグループの新陳代謝を行い、集団の活性化を図る。

第3期は、11月中に公募し、12月13日から研究員50人（小学生24人、中学生26人）、レポーター16人（小学生14人、中学生2人）の構成で月1回の定例会を基本に活動を開始した。なお、研究員50人のうち、24人が新規のメンバーであった。

12月……開所式・オリエンテーション（小・中学生合同）

1月……「昔あそびモニター活動」（小学生）

「おもしろビデオ教室」（中学生）

初めて小・中学生が分かれて行った活動は、双方とも活発で、プログラムを分けた効果が見え始めた。

2月……「卒業お祝い会」（小・中学生合同）

小学6年生と第2期の中学生3年生の卒業を祝う会。各班が考えたスタンツを卒業生に披露。小学生と中学生の心が1つにまとまった。

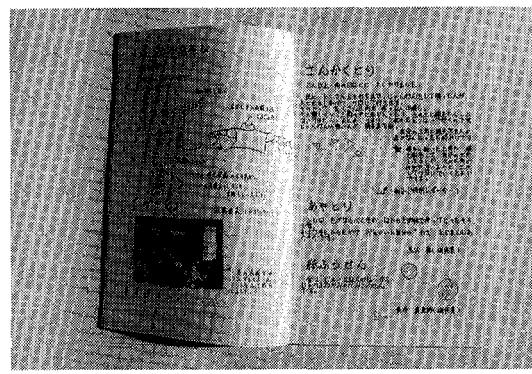
3月……春合宿

4月に行われるこどもデパートの準備として1泊2日の合宿をこどもの城で行った。ポスターづくり、企画会議のグループ活動を通じて、子どもたちに仲間との協力の仕方や集団活動の基本的ルールを学ぶ機会となった。

\*なお、ガヤ研第3期の終了は、63年8月。終了までの予定は、こどもデパート参加、モニター活動、パソコン体験教室、ミステリーハウス実施など。



みんなで壁新聞作り－こどもの城あそびガヤガヤ研究所



「こどもたちからみた昔あそび」－ガヤ研応募作品集

## 独立部として活動を展開

児童の国際的な視野を育て、諸外国との相互理解、親善を深めることを目標とする国際交流は、「こどもの城」の重要な活動項目の1つ。

開館当初からいろいろな機会をとらえてこの活動を続けてきたが、事業の幅が広がり、質的にも高まってきた状況に対応して62年10月、広報部から国際交流のセクションが独立し、国際交流部となった。ここでは部設立前の活動も併せて報告する。

部設立後、初めて実施した「マザーグース・クリスマス」は、曲がり角にきていた従来のディスコを前面に出さないで、親子で楽しめるマザーグースを強調して効果をあげた。この種の国際交流行事に募集に応じて自主的に活動する親子グループも増えた。この任意グループをどう組織するかを含め、広範な国際交流活動を推進するには、こどもの城内部の各部門をはじめ、外部の団体・企業の理解ある協力が欠かせない。

活動推進の核としての国際交流部の在り方を常に考えながら、従来のプログラムの改善、新しい事業の開拓に取り組んでいきたい。

### 1) 平常期間

#### (ア) 親子でバレンタイン（63年2月11日）

バレンタインデーにちなんで、「こどもの城」一般来館児を対象に小さなカップチョコ作りを行った。研修室を利用しチョコレートの話を聞いたり、作り方の実演を見るコーナーと実際にチョコ作りをするコーナーを区切って、参加する子どもたちがスムーズに流れるように工夫した。衛生面でも、また、火気等の安全面でも、特に問題はなかった。むしろ溶かしたチョコレートを形を整えて固めるために氷や冷蔵庫を目指して走り回ることのほうが大変であった。実施日が祝日のため、他の研修室の利用者が少なく、子どもたちの歓声やチョコレートのにおいを気にせずに催しを実施できた。

小学校高学年から中学生の参加も多かったが、お菓子作りや調理をするための部屋がないため、定期的に実施するのは難しいだろう。

#### (イ) バレンタインパーティー（63年2月12日）

保育研究開発部と協力して、「こどもの城」幼児グループと聖心インターナショナルスクールの幼児との交流会を実施した。歌やゲームの交歓、バレンタインのお話やバレンタインカードの交換も行った。聖心インターナショナルスクールのお母さんたちは、子どもたちと協力してバレンタインクッキーを焼いており、幼児グループのお母さんたち手作りのおにぎりと交換する風景も見られた。

言葉は通じなくても年齢が近いためか、子どもたち同士はすっかり打ち解け、綱引きなども大歓声のうちに終了した。

## 2) 特別期間

### (ア) アートスケープ'87 (4月25日～5月5日)

東京・横浜地区のインターナショナルスクールの生徒の美術作品展として昨年に引き続き開催された。参加校は、アメリカン・スクール・イン・ジャパン、西町インターナショナルスクール、セント・メリー・インターナショナルスクール、横浜インターナショナルスクール、聖心インターナショナルスクール、クリスチャニアカデミー・イン・ジャパン、清泉インターナショナルスクール、サン・モール・インターナショナルスクール、横田インターナショナルスクール、セント・ジョセフ・スクールの10校。

5年生から12年生までの40か国以上の生徒による400点ほどの絵画・彫刻・陶器など色鮮やかな作品が展示された。期間中の会場は各国からの家族連れでにぎわっていた。

### (イ) ワクワク・I CAN・フェスティバル (8月10・11日)

子どもたちに人種・国家・言葉・文化・慣習などの壁を越えて心から楽しめる国際交流の場として企画された催しである。日本の子どもたち、在日外国人の子どもたち、海外経験のある帰国子女の子どもたちを対象に夏休み期間中の2日間にわたって開催した。

中・高校生向けには9か国の子どもによるファッションショーやパネルディスカッション、幼児・小学生向けには帰国子女へのインタビューや参加劇などを行った。また、特別ゲストの長野県下伊那郡大鹿村・大鹿中学校の歌舞伎クラブによる子ども歌舞伎が披露された。

プログラムの内容が多く上演時間が長いなどの問題点もあったが、企画運営を担当した上智大学国際交流学生協議会のメンバーは、初めての試みに大健闘であった。

### (ウ) ファミリー・ポン・ディスコ (8月16～18日)

60年12月の「ファミリー・クリスマス」以来、青山円形劇場で定期的に開催しているファミリー・ディスコシリーズの第6弾。夏の風物詩「盆踊り」をテーマに家族で楽しめる国際交流の催しとして企画された。

舞踊集団「菊の会」は、アラレちゃん音頭・ドラえもん音頭・鬼剣舞・銭太鼓・傘踊り・阿波おどりなどをダイナミックな踊りで、「といちんさ」は津軽じょんがら節・牛深ハイヤなどを三味線や唄で、「ビクター少年民謡会」の子どもたちは津軽じょんがら節・秋田大黒舞・ディスコそーらん節などをそれぞれ上演した。また、和太鼓を現代風にアレンジした「火の国太鼓推進協議会・千葉神楽太鼓」の中・高生のメンバーが登場し、喝・cha-cha-chha・ヴィーナスなどを汗だくになって演奏した。うちわを使って風船を運ぶゲームや歌遊びなども織り交ぜ、エンディングではアラレちゃん音頭・ドラえもん音頭・阿波おどり・八木節を参加者全員で輪になって踊り日本を十分に満喫した。

定期的に開催しているファミリー・ディスコシリーズは一部に根強いファン層があるものの全体の参加者数は減少している。小さい子から大人までがともに手をとって仲よく踊る機会を提供し、家族で過ごす習慣を理解してほしいと始めたファミリー・ディスコであるが、「ディスコ」という言葉への一般的な抵抗感や料金設定などを含め、全体の立て直しを検討

すべき時期だと考えた。

#### (ニ) マザーグース・クリスマス (12月24・25日)

国際交流部が設立されて初めて取り組んだ催しである。8月のファミリー・ボン・ディスコの反省点からディスコを前面に掲げずに、プログラムの終わりの10分間をディスコ・タイムと設定するにとどめた。対象を幼児・小学生と若い家族に限定し、マザーグースの歌やダンス、なじみの深いクリスマスソングをふんだんに取り入れ親しみやすい内容にした。外国人の子どもたちによるバレエチームや、高校・大学生のゲーム指導グループ「小学館レクリエーションリーダースクラブ」が出演し、ステージの子どもたちと客席の子どもたちが遊びを通して交流をした。国際交流部が「子どもの城ニュース」などを通してメンバーを募集した「パフォーミング・アーツ・グループ」小・中学生とその母親約40人も、約2か月間の練習の成果として、クリスマスソングや寸劇を披露した。

大人800円・こども500円という入場料金に「マザーグース・クリスマス」というネーミングが好感を呼んでか、2日間にわたって青山円形劇場は家族連れであふれていた。

#### (オ) ザンビア子ども絵画展 (63年1月3~17日)

アフリカで活動していた青年海外協力隊員（渋谷区在住・諏訪法子さん）が、帰国の際ザンビアの小・中学校の絵を持ち帰った。この絵を展示したいという彼女の意思を受けて渋谷区内の子ども会などの有志メンバーにより「ザンビア子ども絵画展実行委員会」が組織され、「子どもの城」で14日間にわたり絵画展が開催された。

ザンビアの子どもたちの絵はエンピツ書きのものや、サインペン書きのもの、紙のはり絵やバナナの皮をはったものなど約170点を展示した。同時にザンビアを紹介する写真の展示やビデオの放映を行った。これは飢餓や難民問題ばかりがクローズアップされ、暗いイメージが強いなかで、すばらしい自然と生き生きと働く人々であふれるザンビアの姿を伝えることを意図したもの。期間中1日平均約200人が入場した。

### 3) 講座・クラブ

#### (ア) 切り絵教室

62年度の新設講座として4月から、研修室を利用して開始した。はさみを使って和紙・ラシャ紙・色紙を切り抜き、台紙にはり付けながら好きな絵を完成させてゆく。切り抜く形は鉛筆やサインペンなどで下書きせずに、イメージを大切にし創造力を働かせて作ってゆくように指導した。作品のテーマには、「春休みの楽しかったこと」「自分の顔」などのほか「イースター」「ハロウィン」「クリスマス」などの楽しい外国の季節行事や習慣を取り上げ、お祭りの楽しいお話を聴きながら作品をつくり上げた。

「子どもの城」で唯一の2か国語を使う講座で、日本人の子どもたちの受講が多く、英語に楽しく触れるように簡単な英会話の指導も並行して実施した。来年度には外国の子どもたちをもっと多く受け入れることと、作品発表の展覧会を目指している。

#### IV 各部の活動(2)

61年9月から62年5月までアメリカ・ボストンのチルドレンズ・ミュージアム東洋部部長レスリー・ベットフォード女史（フルブライト奨学生）を「こどもの城」に受け入れた。同女史は滞在期間中、「こどもの城」を拠点に各地の児童施設などの見学を重ね、チルドレンズ・ミュージアムで日本に関する展示会を開催する準備を行った。また、児童のための文化活動や施設の在り方に関する日・米の相違などについて、城の職員と意見を交わした。

帰国後も城から日本古来のおもちゃや人形、学生服や学生カバン、柔道着にといったさまざまなものを作り、日本の紹介をしてもらうなどの交流が継続されている。



みんなでやぐらを囲んでー「ファミリー・ポン・ディスコ」（8.16~18）



カボチャのらんたん作り「ハロウィンパーティー」（10.29）

4 営業部

4 営業

1) 業務の概要

「こどもの城」利用者に対するサービスの一環として営業部は、前年度に引き続き、次の事業を実施してきた。

利用者サービス事業一覧表

業種	店名等	場所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備考
ホテル	こどもの城ホテル	6, 7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月29日から1月2日までを除く）	洋室 24室（シングル3, ツイン10, デラックスツイン11) 和室 3室（4人用1, 5人用1, 10人用1） 料金 1泊 6,350円から（朝食・税・サービス料込）
飲食関係	レストラン・ラブニール	8階	客席数 60	毎週月曜日休業（ホテル宿泊客の朝食を（開業時間）除く） モーニングタイム 7:30～9:00 ランチタイム 11:30～14:00 ディナータイム 17:00～21:30	洋食全般, パーティー及びホテル宿泊者の食事等
	カフェテラス・アンファン	1階	客席数 42	無休（12月29日から1月2日までを除く） (開業時間) 10:00～21:30	喫茶, 軽食及び弁当の仕出し等
	すし・ひさご	1階	カフェテラス・アンファン内	無休（12月29日から1月4日までを除く） (開業時間) 11:00～21:30	すし, 和食及び弁当・料理の仕出し等
	コーヒーラウンジ・アミティーエ	2階	客席数 60	毎週月曜日休業 (開業時間) 11:00～21:00	喫茶, 軽食
	劇場内・スナック	青山劇場内地下ロビー及び2階ロビー	立食	公演に合わせて開業 (開業時間) 開演前・幕間	同上

#### IV 各部の活動(2)

貸 室	研 修 室	8～9階	室数 10 (一部通しで 使用できる) 利用人員 350 人ぐらいまで	無休 (12月29日から1月2日 までを除く) (開業時間) 9:00 ～21:00	研修及び会議等 料金 1単位時間 9,500円から
	ギ ャ ラ リ 一	1階アト リウム		無休 (12月29日から1月2日 までを除く) (開業時間) 10:00 ～18:00	各種展示会及び実演等 料金 1日 30,000円 から
	フ リ ー ホ ー ル	地下1階		無休 (12月29日から1月2日 までを除く) (開業時間) 9:00 ～21:00	自由な企画で利用 料金 1日 55,000円 から
物 品 販 売	売 店	1階アト リウム 3階ロビ ー 青山劇場 地下ロビ ー	3か所	毎週月曜日休業 (劇場ロビー 売店は公演 に合わせ開 業) (開業時間) 開館時間と同じ	絵画, 造形用品, 文具, 遊具, 玩具, 印刷出版 物, 電気用品, 音楽用 品、衣料、スポーツ用 品, 劇場関連用品, 催 事関連用品, 雑貨等
	自 動 販 売 機	館内各所	飲食・乳販売 12か所 たばこ販売 7か所	無休	通常ドリンク類, 牛乳 類, スナック類
	酒 類 販 売	青山劇場 地下ロビ ー及び2 階ロビー	2か所	青山劇場公演に合わせて開業	全酒類の小売り
公 衆 電 話		館内各所	16台	無休	
駐車場		地下2階 ～地下4 階	約90台 (業務 用車両分を含 む)	無休 (12月29日から1月2日 までを除く) (開業時間) 8:00 ～22:30	一般車両は地下駐車, バス等大型車両は1階 ピロティに駐車 料金 普通車両の場合 1時間 400円

- 注) 1. 春休み, 夏休み, 冬休み等の特別期間については、「こどもの城」全館の日程に合わせ休業日にも営業を行っている。  
 2. 劇場公演日程に合わせ, 関連部門は休業日であっても休業しないで営業している。  
 3. 各事業部の事業上必要なときは, 当該事業に合わせ可能な限り上記場所以外でも営業を行っている。

## 2) 業種別の状況

### (ア) ホテル

引き続き利用客が増加してきている。これを営業収入でみると、61年度9,586万円、62年度1億65万円となっている。

客室がどのように利用されたかを62年度についてみると、客室利用率（注1）は全体で81%，客数比率（注2）では71%となっている。

客数比率が客室利用率に比し低いのは、主としてツインルーム及び和室の利用人員が定員より少ない利用状況にあったためである。これら利用効率の向上は、直ちに行い得ないものであるが、今後受注等に際して更に努力していく必要がある。

$$\text{注) 1 客室利用率} = \frac{\text{(期間中利用室延数)}}{\text{(期間中日数} \times 27\text{室)}} \times 100$$

$$2 \text{ 客数比率} = \frac{\text{(期間中利用客延人員)}}{\text{(期間中日数} \times \text{定員 } 64\text{人)}} \times 100$$

### (イ) レストラン・喫茶

飲食5店舗の営業状況をみると、ほぼ入館者数、劇場公演及び国際会議等の影響を受けた業務運営となっている。営業収入でみると、61年度3億4,204万円、62年度3億5,063万円となっている。年間を通じての業務の繁閑をみると、年度当初は業務が伸びなかつたが、子どもたちの夏休み中、開館記念日を含む11月及び2、3月が前年に比し大きく伸び繁忙であった。今後とも子どもの城の各種事業に即応した運営を図っていくとともに、喫食需要を見極め、喫食メニューの改善、料金の低廉化とサービスの向上を図っていく必要がある。

### (ウ) 貸室

引き続き利用が増加してきている。これを収入面でみると、61年度4,340万円、62年度5,489万円となっている（注1）。研修室の利用は、有料による貸し付けのみでなく、「子どもの城」事業活動に使用しているほか、日曜、祝祭日、夏休み等の入館者休憩室、授乳室としての利用等も多い状況となっている。したがって全体としての利用状況は、1日のうち空室になる時間はあるものの、ほぼ満杯に近い状況となっている。アトリウム内のギャラリーの使用も激増してきているが、今後更に利用効率を高め、入館者のために、また、「子どもの城」のよいイメージづくりに貢献していく必要がある。

（注1）料理飲食等消費税の課税対象となる室料等については、飲食業収入に含まれている。

### (エ) その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供等については、前年度に引き続き「子どもの城」事業活動に即応する形で利用者サービス事業を行ってきている。これらの収入の状況は、

#### IV 各部の活動(2)

61年度1億3,324万円、62年度1億4,429万円となっている。「子どもの城」の利用を促進していくうえで、これらの利用者サービスはいずれも欠くことのできないものであるので、引き続き多様な利用者需要にあわせたサービス向上を図る必要がある。

#### 研修室等利用状況

##### (1) 研修室等

			年 計					
			有料利用		内部利用		計	
			件 数	利用率	件 数	利用率	件 数	利用率
研修室	午前	前後間	1,699	47.1%	327	9.0%	2,026	56.2%
	午後		2,218	61.4%	369	10.2%	2,587	71.8%
	夜		1,429	39.6%	208	5.7%	1,637	45.4%
計			5,346	49.5%	904	8.3%	6,250	57.8%
フリーホール			52	4.8%	581	53.7%	633	58.6%
ギャラリー			89日	24.7%	150日	41.6%	239日	66.3%

注) 利用率は次により算出した。

1) 研修室は(午前・午後・夜間)の件数を360日×10室=3,600で除した。

(計)については件数を360日×10室×3=10,800で除した。

2) フリーホールについては件数を360日×1室×3=1,080で除した。

3) ギャラリーについては件数を360日×1か所で除した。

##### (2) ホテル

客室種別	利用率
シングル	89.4%
ツイン	72.2%
和室	53.8%
総利用率	70.9%
総利用者数	16,290人

注) 利用率は次により算出した。

61年度中利用延べ人員 × 100  
359日 × 客室種別定員

#### ギャラリー使用一覧

催事名	期間	主催	備考
ブルーノ・ムナーリ コレクション巡回展示キット 作品展	62. 3. 27～4. 22	造形事業部	
アートスケープ (インターナショナルスクール の生徒の作品展)	4. 25～5. 5	インターナショナル スクール10校	
薰風展	5. 15 ～ 18	東京工業大・ 日本女子大美術部	貸しスペース
アルゼンチンの子供の絵の作品展	5. 20 ～ 24	アルゼンチン大使館	同上
NTTアニメートク フェスティバル	6. 18 ～ 21	NTT	同上
「天使になった私」 角田正治写真展	7. 2 ～ 12	角田スタジオ	同上

## 4 営業

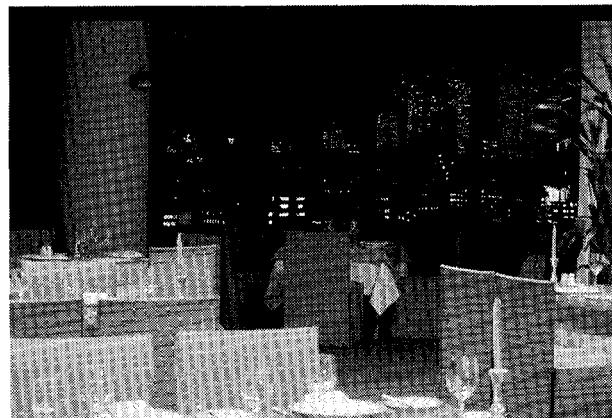
催事名	期間	主催	備考
伊豆大島火山展	7. 29 ~ 31	大島町・ 大島観光協会	同上
音のオブジェたち展	8. 4 ~ 31	造形事業部	
創価学生祭'87	9. 8 ~ 15	聖教新聞社	貸しスペース
体育の日と東京オリンピック展	10. 2 ~ 18	体育事業部	
第2回造形スタジオ展	10. 29~11. 23	造形事業部	
中国児童絵画展	11. 26~12. 5	株パンダイ	貸しスペース
肢体不自由児・者の美術展	12. 7 ~ 14	日本肢体不自由児協会	
パレスチナの子供の絵の展覧会	12. 16 ~ 20	日本パレスチナ医療協会	貸しスペース
マスコウイツ原画展	12. 22 ~ 28	広報部	
ザンビアこども絵画展	63. 1. 3 ~ 17	ザンビアこども絵画展実行委員会	
例の件「ごろくにん展」	1. 18 ~ 23	武蔵野美術大 卒業生5人	貸しスペース
日本絵本造形専門学院卒業制作展	2. 4 ~ 8	日本絵本造形専門学院	同上
青山学院大美術部卒業制作展	2. 10 ~ 14	青山学院大美術部 4年会	同上
ほいく展	2. 16 ~ 28	保育研究開発部	
春・はなランド	3. 11 ~ 13	一葉式いけ花本部	

IV 各部の活動(2)

催 事 名	期 間	主 催	備 考
第35回文部大臣賞 全国小中学生優秀作品展	3. 19 ~ 24	(財)児童憲章愛の会	協賛
「おんぶにだっこ・乳母車」展	3. 26~4. 5	小児保健部	
マックローおもちゃ図書館	毎 水 曜 日	研修教養部	



落ち着いた雰囲気ーこどもの城ホテル



新宿高層ビルを背景にーラブニール

## 4 営業

## フリーホール使用一覧

催事名	期間	主催	備考
人形劇	62. 3. 31～4. 3	プレイ事業部	
同上	4. 29～5. 6	同上	
NTT日田ニューメディア塾 オープニングイベント	5. 24	NTT九州総支社	貸しスペース
「私の赤ちゃん」 ふれあいスマミングパーティー	7. 3	主婦の友社	
人形劇	7. 10～11	プレイ事業部	
ブラックボックス	7. 21～8. 2	企画部	
創価学生祭	9. 4～15	聖教新聞社	貸しスペース
人形劇	10. 27～11. 4	プレイ事業部	
同上	12. 24～28	同上	
同上	63. 1. 8～9	同上	

催事名	期間	主催	備考
ディズニーアニメ上映会	62. 8. 22～31 9. 20～27 10. 4～11～18～25 11. 15～22～23～29 12. 6～13～20～27 63. 1. 4～7～10～15～ 17～24～31 2. 7～11～14～21～28 3. 6～13～20～21～ 26～31	A V事業部	

IV 各部の活動(2)

営業許可等の状況

業種	店名等	営業許可を受けた日	営業許可番号	行政庁	備考
旅館業	子どもの城ホテル	昭60. 10. 30	60滋保衛環旅 第 10 号	渋谷区保健所	表示基準適合 (渋谷消防署) 昭62. 10. 1 渋予 762号
飲食業 (飲食店)	レストラン・ラブニール	昭60. 10. 22	60滋保衛食ほ 第 1552 号	同上	
同 上	カフェテラス・アンファン	昭60. 10. 22	60滋保衛食ほ 第 1555 号	同上	
同 上	コーヒーラウンジ・アミティーエ	昭60. 10. 22	60滋保衛食ほ 第 1554 号	同上	
同 上	劇場スナック	昭60. 10. 22	60滋保衛食ほ 第 1553 号	同上	
同 上	自動販売機	昭60. 10. 31	60滋保衛食ほ 第2072~5号	同上	
(喫茶店)	同 上	昭60. 11. 20	60滋保衛食ほ 第2308~9号	同上	
同 上	同 上	昭60. 11. 30	60滋保衛食ほ 第 2310 号	同上	
乳類販売	同 上	昭60. 11. 20	60滋保衛食ほ 第 2311 号	同上	
食料品販売	同 上	昭61. 4. 28	61滋保衛食れ 第 20, 21 号	同上	
乳類販売	同 上	昭63. 2. 6	63滋保衛食ほ 第 2816 号	同上	
たばこ小売		昭60. 9. 30		大蔵省 関東財務局	
酒類販売	劇場ロビー	昭62. 3. 9	渋間第200号	渋谷税務署	

注) 1. 期間が定められている許可等については、当該期間満了後更新手続きをとっている。

## V グループ活動

## 全部門の機能を総合的に生かす

前年度の実践から、グループ活動を利用する子どもたちに、学校や園ではできない新しい体験を提供すること、グループでの活動の特性を生かして子どもたちの感性や社会性に働きかけること、そのために全部門がかかわり、その機能を総合的に活用したプログラムの開発を行うことを目的に事業の企画を行った。

具体的にはグループ活動に関する連絡会を月1回、運営についてのミーティングを週1回定例化し、グループ活動の考え方、対象、料金、受け入れ方法などについて検討を加える一方、活動データの集積、PRの充実、関係機関・利用団体との連携、公開グループ活動の実施、特別プログラム活動の実施、更に障害児プログラムのシミュレーションの実施などを企画した。

### 1) 利用状況

利用団体は幼児施設54団体、学校関係24団体、計78団体であり、幼児1,527人、就学児850人、計2,377人の子どもたちが利用した（表1）。幼児施設では幼稚園の利用が最も多く、学校では特殊学級を含む小学校、次いで中高生を含む養護学校の利用が多いことが特徴的である。

グループ活動実施状況から、月別の利用状況を見ると、幼児、就学児ともに10月から3月に利用が集中しており、特に、年度末の2・3月に利用が急増する傾向が見られる。これらは園や学校の園外、校外活動の行事時期と一致しており、クラス単位のお別れ遠足や卒業記念行事としてグループ活動が利用されたことを示している。

活動部門を見ると、幼児施設は音楽、造形、AV、プレイ、体育の利用順であり、学校では音楽、AV、プレイ、造形、体育の順となっている。また、特殊学級、養護学校などの障害児施設はAV、音楽、プレイでの活動が中心となっている。

利用団体の地域（表2-a, b）では、幼児施設は23区内の利用が多く、次いで千葉、埼玉、神奈川県などの近郊地域の利用が多い。学校では東京、埼玉、千葉、神奈川など比較的広い範囲にわたる状況である。

年間のプログラム実施数は、表3-a, bのとおりである。

更に、「子どもの城」特別期間中の特別プログラム活動として、子どもの城・キリン民話劇場「鬼の角」のグループ観劇を実施し、保育所、幼稚園、こども会、学校など計14団体、200人の参加を得ることができた。

### 2) 活動の実際

グループ活動に関する連絡会、運営のミーティングを定例化し、申し込み方法、対象、料金、プログラム実施日などについて検討を加えた。主な変更点は次のとおり。

①料金を幼児・就学児とも値上げし、プログラムにかかる材料費を確保する（62年度から幼児1人150円、就学児1人200円をそれぞれ50円値上げした）。②幼児グループの対象年齢を3歳以上とし2歳児のプログラム開発は今後の検討課題とする。③プログラム活動の定員を最低10人、最高30人とし、利用施設の状況により設定する。④対象施設の範囲を保育所・幼稚園、学校など指導者が引率するグループで下見、打ち合わせが可能なグループとする。遠足・社会見学はプログラムによるグループ活動ではないが、別に受け入れ方法を検討して提案していく。⑤前年度より利用の多い養護学校・特殊学級に対応するため、継続して利用できる学校と連携し、年4回程度のシミュレーション活動を行う。⑥現在あるプログラムを見直し、共同プログラムの開発を摸索する。グループ活動の通常プログラムは指導型プログラムを中心とし、施設を利用するプログラムと合わせて基本的な活動パターンとするなど。以上の諸点を運営の基本方針とする活動を行った。

本年度の活動プログラムは資料1のとおりである。前年度のプログラムに検討を加え、幼児・就学児合わせて、計26のプログラムを企画し、AVライブラリーやプレイホールでの自由活動も重視する活動を行った。

更に、世田谷区立桜小学校・生活学級の協力を得て障害児プログラム開発のためのシミュレーション活動を行った（資料2）。

幼児のためのプログラム開発としては、保育研究開発部、国際交流部共同による“ハッピーバレンタイン”プログラムを開発し、幼児グループの子どもたちと聖心インターナショナルスクールの子どもたちとの交流プログラムを実施した。また、この活動を神奈川県保育会園長部会に公開し、情報の交換を行った。

### 3) 問題点と今後の展開

「グループ活動」の考え方や全館事業としての位置づけについては、昨年度に引き続いて統一的な考え方を摸索しているのが実情である。プログラムについても、より質の高いプログラムの開発や2歳児プログラム、障害児のためのプログラム開発について今後も検討を重ねる必要がある。料金について、今年度は値上げしたが、特に高すぎるといった反響はなく、いちおう利用される側に受け入れられたと考えられる。

今年度は多くのプログラムを開発しているが、各部の共同プログラムがなく、今後もこの点について検討する必要がある。

また、特殊学級・養護学校の利用が多く、特に養護学校の場合、障害の程度も重度の子どもたちであり、シミュレーションなどのプロジェクトを組みながら今後もプログラム開



幼稚園児のグループ活動－「アニメーションってふしぎだね」

## V グループ活動

発を行っていきたい。

表1 利用団体、利用者数

区分	件数	人數	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
保育所	18	456	24	144	288												
幼稚園	35	1,048	75	378	595												
幼稚研究所	1	23		13	10												
小学校	5	495						99	26		370						
小学校特殊学級	7	94					9	15	16	27	13	14					
養護学校	10	237								14	4	18	22	24	69	24	62
肢体不自由児施設	1	14					2	1	2	5	1	3					
養護施設	1	10									1	1	2	1	2	1	
	78	2,377	99	535	893	11	16	117	58	28	392	19	24	26	70	26	63

表2-a 地域別利用団体数<幼児>

区分	都道府県	市 区	件数
保育所	神奈川県 東京都	川崎市	1
		江東区	1
		昭島区	2
		足立区	2
		台東区	1
		調布市	1
		板橋区	2
		品川区	1
		文京区	4
		豊島区	2
幼稚園	埼玉県 千葉県 東京都	墨田区	1
		川口市	2
		我孫子市	1
		鎌ヶ谷市	1
		船橋市	1
		港北区	2
		渋谷区	15
		杉並区	2
		世田谷区	6
		千代田区	2
研究所	東京都	調布市	1
		豊島区	1
		目黒区	1
		港区	1
	計		54

表2-b 地域別利用団体数<就学児>

区分	都道府県	市 区	件数
小学校	神奈川県 千葉県 東京都	横浜市中区	1
		我孫子市	1
		柏市	1
		渋谷区	2
小学校特殊学級	埼玉県 東京都	戸田市	1
		川口市	1
		三鷹市	1
		渋谷区	1
養護学校	埼玉県 神奈川県 東京都	三郷市	1
		川口市	1
		和光市	1
		横須賀市	1
		横浜市瀬谷区	1
		横浜市南区	1
		鎌倉市	1
		川崎市	1
		八王子市	1
		府中市	1
肢体不自由児施設	東京都	世田谷区	1
養護施設	神奈川県	川崎市	1
	計		24

V グループ活動

表3-a プログラム実施数

就学児

プログラム名	実施回数	利用者数	担当部門
ガムランを体験しよう	(回) 7	(人) 91	音楽
チャレンジビデオ	5	120	A V
グループレクリエーション	5	119	プレイ
アニメーションってふしきだね	5	81	A V
パソコン体験教室	4	111	プレイ
A Vを見よう	3	37	A V
フロア運動	2	111	体育
自由遊び	2	71	プレイ
アンクルン	2	59	音楽
木をつくろう	2	43	造形
和楽器に触れてみよう	2	24	音楽
おもしろゲーム	1	24	A V
どうぶつえんにいこう	1	21	音楽
ミュレーション	1	15	全部門
バタバタアニメ	1	12	A V
スカーフであそぼう	1	11	音楽

表3-b プログラム実施数

幼児

プログラム名	実施回数	利用者数	担当部門
スカーフであそぼう	(回) 18	(人) 412	音楽
影を写そう	15	284	造形
グループレクリエーション	8	181	プレイ
まつりばやし	6	152	音楽
フロア運動	6	152	体育
バタバタアニメ	4	99	A V
アニメーションってふしきだね	3	55	A V
フィルムに絵を書こう	3	52	A V
ライブラー	2	78	A V
木をつくろう	2	56	造形
ガムランであそぼう	2	53	音楽
どうぶつえんにいこう	2	28	音楽
すてきな新体操	1	41	体育
ミュレーション	1	36	全部門
おむすびころりん	1	8	音楽

<利用の諸規定>

◆幼児プログラム

- 対象年齢 3歳以上就学前
- 定員 1グループ 10~30人
- 料金 こども 1人 200円  
先生 1人 200円
- 実施時間 10~13時

・実施日

実施プログラム					
火	音 楽		A V	体 育	プレイ
水			A V		プレイ
木	造 形		A V	体 育	プレイ
金	音 楽	造 形	A V		プレイ

・実施日

◆就学児プログラム

- 対象年齢 小学校1年生以上高校3年生
- 定員 1グループ 10人以上30人まで
- 料金 こども 1人 250円  
先生 1人 250円
- 実施時間 10時~13時

・実施プログラム

実施プログラム					
火	音 楽		A V	体 育	プレイ
水			A V		プレイ
木	造 形		A V	体 育	プレイ
金	音 楽	造 形	A V		プレイ

◆申込方法

電話予約

- 希望の月日・プログラムを活動予定日の最低1か月前までに電話で予約する。
- 下見・打ち合わせは最低3週間前までに行う。

下見・打ち合わせ

- 活動プログラムの担当スタッフと詳しい内容の打ち合わせを行う。

活動日当日

- 当日1階アトリウム受付に集合
- なお、なんらかの事情で到着時間が大幅に遅れる場合は連絡をもらう。
- 今後の活動のために、アンケートを実施する。

資料1

AV プログラム

映像の世界でビックリ体験

<みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”>

みんなが描いた2枚の絵を交互に撮影。再生すると——不思議、動いて見える。アニメの原点を体験。

◎対象=4才～ ◎定員=30名 ◎時間=60～90分

<フィルムに絵を描いてみよう>

透明の映画フィルムに着色して映写。いろんな色や模様が画面で踊りだす光と色のファンタジー。

◎対象=4才～ ◎定員=30名 ◎時間=60分

<チャレンジ・ザ・ビデオ>

ともだち同士インタビューしあったり体験レポートを作ったり、キミも今日からビデオカメラマン。

◎対象=小3～ ◎定員=24名 ◎時間=60～90分

<ビデオおもしろゲーム>

ビデオを使って、楽しいゲームをしてみよう。“伝言ゲーム”“しりとり”にビデオで挑戦しよう。

◎対象=小3～ ◎定員=24名 ◎時間=60～90分

<AVライブラリーアクティビティ>

- 人形アニメをみてみよう

おとぎばなしや童話を、人形アニメーションで見てみよう。そのおもしろさを体験しよう。

◎対象=4～5才 ◎定員=80名 ◎時間=30分

- みじかなかきものをみてみよう

身近にいるようで、よく知られていないいきものを見てみよう。その習性、特質を知ろう。

◎対象=4～5才 ◎定員=80名 ◎時間=30分

- のりものをみてみよう

いろいろなところで活躍しているのりものを見てみよう。

のりものに乗った楽しさを、体験しよう。

◎対象=4～5才 ◎定員=45名 ◎時間=30分

## V グループ活動

・アニメの絵本をみてみよう

ビデオ絵本をみてみよう。ことばの不思議さを理解したり、ものを素直に感じ取る心をやしなおう。

◎対象 = 3 ~ 5 才 ◎定員 = 45 名 ◎時間 = 30 分

### プレイプログラム

幼児には参加劇、小・中生にはパソコン

#### <グループクリエーション>

こどもの城のいちばん広いスペースをつかってのレクリエーションゲーム、ダンスやクイズ大会などの楽しい集いのプログラム。またひとりひとりが物語の登場人物になって歌を歌ったり、ダンスをしたりしながら楽しく、ゆかいに遊ぶ参加劇のプログラムもあります。

◎対象 = 4 才 ~ 小 6 ◎定員 = 60 名 ◎時間 = 60 ~ 90 分

#### 障害児

※参加劇は 30 名以内の幼児と障害児のみです。

#### <パソコン体験教室>

パソコンの基本的な操作 LOGO (ロゴ) というプログラミング言語を使ってパソコンで図形や絵を描くプログラム。

◎対象 = 小 4 ~ 中 3 ◎定員 = 40 名 ◎時間 = 90 ~ 120 分

#### <コンピュータプレイゲーム>

パソコンを使って絵を描いたり、音楽を演奏したり、熱気球やヨットのシミュレーションゲームでみんなで楽しく遊ぶプログラム。

◎対象 = 障害児 ◎定員 = 20 名 ◎時間 = 60 分

### 音楽プログラム

いろいろな音に出会う楽しさ

#### <まつりばやし>

音楽スタジオはおまつり広場。楽しい歌と踊りをつけて、みんなで和太鼓をたたいてみよう。

◎対象 = 3 ~ 5 才 ◎定員 = 30 名 ◎時間 = 40 ~ 60 分

#### <スカーフであそぼう>

スタジオに広がる音と照明でみんなのスカーフはいろんなものに変身。自由にそれを表現してみよう。

◎対象 = 3 ~ 5 才 ◎定員 = 30 名 ◎時間 = 40 ~ 60 分

#### 障害児

#### <どうぶつえんにいこう>

みんなで動物園をまわっていこう。ピアノと照明で次々動物がでてきます。自由に楽しく表現してみよう。

◎対象 = 3 ~ 5 才 ◎定員 = 30 名 ◎時間 = 40 ~ 60 分

#### 障害児

## V グループ活動

### <おむすびころりん>

いろいろな場面をみんなに演じてもらしながら、劇あそび形式で、お話をすすめていきます。

◎対象=4~5才 ◎定員=30名 ◎時間=40~60分

### <「ア！」って何色、どんな音？>

#### 「“あ”のつく言葉って何がある？あいうえお」は何色？>

一緒に言葉のおもしろさを探しにいきましょう。

◎対象=4才~小3 ◎定員=30名 ◎時間=40~60分

### <ガムランであそぼう>

ガムランはインドネシアの打楽器。演奏を聞いて、みんなもたたいてみよう。どんな音がするかな。

◎対象=4~5才 ◎定員=25名 ◎時間=40~60分

### <ガムランを体験しよう>

ガムランの演奏を聞いて、みんなも簡単なアンサンブルを体験してみよう。

◎対象=小1~ ◎定員=20名 ◎時間=40~60分

障害児

### <レツ・プレイ・シンセサイザー>

シンセサイザーのしくみや楽しみ方のいくつかを紹介します。

演奏を聞いたら自分達もレツ・プレイ！

◎対象=小4~ ◎定員=40名 ◎時間=40~60分

### <和楽器に触れてみよう>

和楽器の代表、太鼓をおもいきりたたくことを通して、自己開放の場をつくります。リズムは簡単。

◎対象=小4~小6 ◎定員=25名 ◎時間=45分

障害児

## 造形プログラム

制作と体験を通して造形感覚をやしなう

### <かけをうつそう>

2人1組になって白い大きな壁「ブレイングボード」にライトで映しだされともだちの影のりんかくを絵具でうつしとります。うつしとった影の中に点や線など模様をつくり形や色のイメージを広げます。

(幼児) 大きなボードに形をうつし、形、色、動きを組み合わせてその楽しさ、面白さを体験します。

(就学児) 様々な姿勢をとるともだちの映しだされた影からその身近な姿を一層認識します。その空白の形態を自分のイメージで塗り、彩り、構成する感覚をやしないます。

◎対象=4~10才 ◎定員=30名 ◎時間=40~60分

障害児

### <木をつくろう>

グループ全員が協力して床に紙の大きな木を作ります。幹から太い枝が伸び、枝から細い小枝が出ます。

## V グループ活動

スタジオいっぱいに広がった木にマーカーや切り紙で、葉、花、鳥、虫などを描いたり、はったりします。木が出来上がったあとは……。

ひとつの作業の上にもうひとつの作業がつらなってはじめて物が仕上がっていいくといふ「計画すること」の重要さと、木の成長の法則を造形活動を通して学びます。

◎対象=4~10才 ◎定員=30名 ◎時間=40~60分

障害児

### 体育プログラム

#### 体力づくりをやさしく指導する

##### <すてきな新体操>

リズム体操からリング・ボール等手具の使い方の基礎指導から集団演技の指導。

◎対象=3才~中3 ◎定員=30名 ◎時間=60分

##### <レクリエーションゲーム>

色々なゲーム、ダンスや軽いスポーツゲームの指導。

◎対象=小1~ ◎定員=30名 ◎時間=60分

障害児

##### <フロア運動>

マット、パラバルーン等を利用したゲームと体育指導。

◎対象=3~5才 ◎定員=30名 ◎時間=60分

(内容により親子も可)

##### <マット・てつぼう・とびばこ>

ころがる・まわる・とぶ・走る…身のこなし、基本動作を中心とした体育指導。

◎対象=小1~ ◎定員=30名 ◎時間=60分

##### <球技>

バスケットボール・バレーボール・ミニサッカー・バドミントン・卓球から1種目を選んで。

◎対象=小3~ ◎定員=30名 ◎時間=60分

##### <水泳指導のエッセンス>

陸上で行う水泳トレーニングと泳法練習、またビデオ撮影による分析指導。

◎対象=小1~中3 ◎定員=20名 ◎時間=60分

##### <体力測定>

健康開発室での体力測定

◎対象=小1~ ◎定員=7種目20名 24種目10名

障害児(独立して動ける人) 7種目10名

◎時間=60分

◎料金 7種目 1名 100円

24種目 1名 1,000円

**資料2 「世田谷区 情緒障害教育」No16 から転載****世田谷区立桜小学校生活教室のグループ活動について****子どもの城のグループ活動と障害児への取組み**

子どもの城は、次代を担う子どもたちに、豊かな感性やのびやかな創造性をはぐくむという目的を持った児童施設として運営されている。音楽、造形、体育、AV、プレイ、さらに、保育、小児保健などさまざまな分野から、子供たちを総合的にとらえ、それぞれの専門スタッフが、子どもの城の設備、機能を活用しながら、多くの活動プログラムを実践している。

なかでもグループ活動は、幼稚園、保育園、学校など団体で来館する幼児、児童のための活動プログラムで、子どもたちに、相互の共感や仲間意識など集団の特性を生かした、楽しく創造的な遊びの体験を、提供するものである。

昭和60年11月の開館以来の実績をみると、健常児にならんで、障害を持った子どもの集団（施設、養護学校、特殊学級など）の利用もかなり多い。しかし、子どもの城全体として、障害児への対応は未だ充分なものではなく、各部門とも、試行錯誤を重ねながら、取り組んでいるのが実情である。このような理由で、昭和62年度は、我々担当職員が、障害を持った子どもたちをよりよく理解し、勉強しながら、新しい障害児向けのプログラムを開発する＜障害児シミュレーション＞の企画を持った。何度か来ていただける学校をと考えていたところ、たまたま、前年利用して下さった桜小学校生活教室の先生から、年間3回の利用の申し込みがあり、ご協力いただくことになったわけである。

**桜小学校生活教室のプログラム**

生活教室の先生方と打合わせの上、以下の様な日程で、3つの部門のプログラムを行うことにした。

- |                                   |                  |
|-----------------------------------|------------------|
| (1) AV プログラム<みんなでつくろう “ぱたぱたアニメ” > | 昭和 62 年 5 月 26 日 |
| (2) プレイ プログラム<森へゆこう >             | 昭和 62 年 9 月 18 日 |
| (3) 造形 プログラム                      | 昭和 63 年 2 月 25 日 |

このうち、(1)の“ぱたぱたアニメ”は、既製の、健常児にもおこなっているプログラムであるが、(2)と(3)は、今回はじめて、開発した（する）もので、担当の職員が事前に教室での授業風景を見学させていただき、先生方からお話を伺って制作した（する）ものである。つぎにこの(1)と(2)のプログラムについて、簡単に、内容及び作成上の留意点と、実施後の感想をします。(3)については、粘土を使ったプログラムを予定しているが、この原稿の執筆の段階では、未だ実施されていないので省略させていただく。

- (1) AV プログラム<みんなでつくろう “ぱたぱたアニメ” >

**<内容と作製上の留意点>**

2枚の絵を「ぱたぱた」交互に動かすと、絵が動いて見えるという、アニメの原点を体験してもらおうというプログラムで、みんなが描いた2枚の絵を交互に撮影し、実際にテレビの画面に自分や友だちの絵が再生され、動いて見えるおもしろさと意外性を、ねらったものである。すでに、何度か、障害児にもおこなっているものであるが、必ずしも動くことを意識しないで同じパターンで絵を描いても、再生すると予想外のイメージができることがある。

今回は、健康児に対して行う場合と、全く同じ進め方や方法をとってみた。すなわち、導入として、描

## V グループ活動

いた絵が見えるという楽しさを表現した、短いアニメーション作品を見せた後、子どもたちに2枚の絵を描くことを説明し、サインペンで好きなように描いてもらった。

先生方には、あらかじめプログラムの内容を詳しく伝えたが、その場での新鮮な体験となるように、特に準備しないで来ていただいた。

### <実施後の感想>

他の集団に比べ、絵を描くのが、たいへんはやく、驚かされた。みな、よく机に向かって座って集中しており、立って歩いていたのは、1～2名だけであった。健常児よりもかえって素直で飲みこみがはやく感じられた。全体としては、楽しんでくれたのではないかと思う。

説明する時に、見本を何例か見せたが、自閉的な子どもたちが同じパターンの絵をこだわって描いてしまうのではないかなどの心配もあったが、その影響は、あまりみられなかった。しかし、自分の興味で描く子と、人の模倣をする子といったようだ。線画が多く、色を塗ることが少なかった。信号や電車が目立ち、人や生き物が少ない印象をうけた。

生活教室ということで、先生が期待することと、こちらのプログラムの進め方には、多少のギャップがあったかもしれない。プログラムの内容だけでなく、生活教室としての指導（生活学習）という点までも、プログラムに含めて考えるかどうかについては、打ち合わせ時に特に注意しなかったのは、反省すべきであろう。（席につくときのつき方、物を配布するときの仕方等）これについては、たとえば、作画する用具を子どもたちが、自分で準備したりかたづけたりといった行程をいれることは、可能である。

学校である程度準備をしてきてプログラムにつなげることも、先生方との間で検討されたが、このプログラムでは、参加する子どもたちの自由な発想で作画させているので、今後もその点を大事にしてゆきたい。

### (2) プレイプログラム<森へいこう>

#### <内容と作成上の留意点>

劇あそび<森へいこう>は、子どもの城へ遊びに来た子どもたちの目の前で、先生の持っていた大切なナップザックが、いたずら者の猫に盗られたことからストーリーがはじまる。

このプログラムを立てる為、事前に生活教室に伺い、子どもたちの日常の様子を見学させていただいた。そこで感じたことは、理解力が高く、話し好きで、日常歌うことや、ムーブメント的な活動をしていることであり、また、運動能力が高く、動きのある活動が好きな様子が見受けられた。そこで、ひとつのストーリーを追ながら、歌ったり踊ったりと体を動かし楽しめるプログラムとして、全員参加の劇あそびを考えた。

そして、プログラムを作る上で次の3点に注目し、目標とした。第1点は、すでにプレイホールで遊んだ経験のある子どもたちもいるので、いつもと違うホールをイメージさせるため、全体を“森”と想定したことである。ホール内に設置してある大型ネットを山や川にみたてて、登ったり飛びはねるといった、よりいっそう活動的な場となるようにした。木の葉や草を飾り、それらしくみえるようディスプレイを行った。第2点は、森へ行く目的を明らかにすること。その為、子どもたちの目の前で先生の荷物を盗った猫が森へ逃げてゆき、みんなで森へ行って猫を捜しだそうというストーリー設定をした。第3点は、このプログラムを通して、参加した子どもたちが、グループで集うことの楽しさ、みんなで協力してひとつの物

## V グループ活動

事をやりとげることの喜びを伝えること。障害を持つ子どもたちにとってこれは難しいことかもしれないが、我々が、グループ活動としてプログラムを提供する中で一番大切にしていきたいことである。今回は、ストーリーの山場に登場する“森の神様”がそのキーポイントとなった。「わしの言ったとおりに、みんなが心をひとつにして行動できれば、先生のナップザックをかえそう」という部分で、神様のいったとおりに動くこと、よく人の話を聞いてみんなが協力して同じように行動することに挑戦させてみた。（レクリエーションゲーム“命令ゲーム”を活用）

以上の点に基づいて、様々なレクリエーションゲーム・ソング・ダンスを取り入れた劇あそびを立案した。

### <プログラム実施後の感想>

我々スタッフにとって、ある特定の子ども集団にあわせてオリジナルな作品を作ったのは初めての試みであったが、実施後、我々自身も劇あそびを通して、子どもたちと楽しい空間を共有できたと感じた。特に、子どもたちの表情に興味深いものがあった。

たとえば、先生の荷物が盗られてしまった時、「取りかえしにいこうよ」と真剣な瞳。また神様が荷物を持って現れた時、「かえして、それ先生のだよ」と次々に子どもたちがせまったく行動。子どもたちの感情が素直に現れ、率直に表現されるため、その迫力に、演じるスタッフも感動し、どぎまぎしたほどだった。これも、先生という身近な存在の人におこった事件が、子どもたちの心を抵抗なく劇あそびの世界に引き込んだ結果だろう。

また、子どもたちの協力をうながす意味で実施した「命令ゲーム」の部分は、注意して人の話を聞くことの不得手な子どもたちにとっては、とても大切なことで、先生方から大変意味のあるゲームとして日常でも取り入れてみたいという感想をいただいた。このゲームをすることには、スタッフの中で迷いがあったが、日頃できないことを通してやってみる機会を作れたことで、今後、プログラムを作成する上で、大切にしていきたいと思った。

逆に、反省としては、最初の森に入った時のイメージづくりが弱かったことだ。子どもたちを導く進行役が、セリフや動作でもっと森のイメージを広げられるよう表現力を豊かにする必要があった。また、険しい山や、危険な動物等、子どもたちにもっと森のなかでの危機感を与えられれば、よりストーリーに入り始めたのではないかと思う。

グループ活動という非日常的な場所での非日常的な体験を通し、子どもたちに素直な感情や行動を表現して楽しめる機会となるように、今後も研究を重ねていきたい。

### ま　と　め

このように、子どもたちと知り合い楽しい時間が持てたこと、今回の活動や先生方との率直な意見の交換を通じて、子どもたちの様子や障害等について、より深く理解することができたこと、我々のプログラムについて貴重な示唆が得られたことなど、たいへん大きな収穫があった。これからも、さまざまな障害のある子どもたちに対し、一步一步こうした経験を積み重ね、障害児の活動プログラムの開発に努力していきたいと考える。

桜小学校生活教室の子どもたち及び先生方に感謝いたします。

## VI その他の活動

1	こどもの城全国連絡協議会	185
2	チャリティー事業	188
3	こどもの城友の会	190
	・アンケート調査結果	193



## 1 連絡協議会

### 全国の児童関係施設に情報・資料を提供

「こどもの城全国連絡協議会」は全国の児童センター・児童館等の児童厚生施設その他児童厚生文化施設などと健全育成事業の交流等の業務を次のとおり実施した。

#### 1) 事業実施状況

##### (ア) 情報交換・資料提供

###### (1) 機関誌の発行

全国の児童館等へ年4回（6月、9月、12月、3月）各4,000部を送付した。

###### (2) 情報交換・資料提供等の協力援助

###### ① 「こどもの城」の情報

全国の児童館等へこどもの城ニュースを年6回（4月、6月、9月、10月、12月、3月）各4,000部及び60・61年度こどもの城事業年報を送付した。

###### ② 地域児童館等の情報

次の資料を全国の児童館等へ送付し、各館の活動の振興に供した。

- ・児童館等の活動実践集（東京都児童会館発行）
- ・游陣（プレイスクール協会発行）
- ・ジュニア・アウトドア・スクールの記録（こどもの城発行）

##### (イ) 児童文化・芸能活動

青山円形劇場において、こどもの城・おまつり劇場（こどもたちによる日本の伝統芸能の紹介）を開催した。（時期………62年5月3日・参加者………400人）

###### ① 神奈川県湯河原町のこどもたち——かしまおどり

###### ② 歌舞伎舞踊（市川亀治郎）——にわかかしまおどり

##### (ウ) 児童厚生員等の実技指導研修・現任訓練

子どもの活動エリアを利用して次のとおり実技指導講習会を開催した。

区分	時期	講習内容
児童厚生員等実技指導講習会 (第1回)	5月 5日(火) ～ 7日(木)	「音」と「表現活動」を中心とする音楽指導を実施。 このプログラムでは指導者自身が子どもたちに対して自分の気持ちを適切に表現できることをねらいとした。 (参加者………9都道県19人)
同上 (第2回)	10月 16日(金) ～ 18日(日)	「体育室」および「健康開発室」などを活用し、体育実技・理論を中心に展開。 現場で活動するうえでの指導法などを実地に学んでいただいた。 (参加者………16都道県35人)

## VI その他の活動

### 2) 総会・幹事会等

62年3月3日午前（幹事会）・午後（総会）をそれぞれ開催し、本協議会の事業・予算・決算及び役員の選任について審議決定した。

なお、各都道府県（指定都市）の児童館連絡協議会（児童福祉主管課）及び関係団体等の本会入会状況及び役員は次のとおりである。（62年3月末現在）

**こどもの城全国連絡協議会役員**

区分	氏名	選出 ブロック	所属する会員組織の役職名	勤務先
会長	竹内 嘉巳	こどもの城	日本児童手当協会理事長	財団法人 日本児童手当協会
副会長	渡辺 栄作	東京	東京都公立児童厚生施設連絡協議会長	東京都児童会館
副会長	中村 政司	近畿	大阪府福祉部児童福祉課長	大阪府福祉部児童福祉課
幹事	森 正	北海道	北海道児童館連絡協議会長	釧路市福祉部児童家庭課
幹事	阿部 久義	東北	宮城県市町村児童館連絡協議会長	泉市南光台東センター
幹事	岩本 憲道	中国・四国	広島県児童館連絡協議会長	くるみ園
幹事	久々山義人	九州	熊本県児童館連絡協議会長	本渡市市役所
幹事	堀 利雄	こどもの城	日本児童手当協会常務理事	財団法人 日本児童手当協会
会監会 計事 計事	池田 茂	関東	神奈川県公立青少年育成施設連絡協議会長	神奈川県青少年センター
	味岡 拓男	中部	愛知県児童館連絡協議会長	尾張旭市交通児童遊園

(注)役員の任期は、66年3月（定期総会時）までとする。

区分	入会	未入会
県（指定都市）	51	6
団体	6	
計	57	

## 1 連絡協議会

### 3) 会計

こどもの城全国連絡協議会会計を設け、会費及び日本児童手当協会の助成金を原資として、前記の業務に関する経理を次のとおり施行した。(62年度収支計算書)

(収入の部)

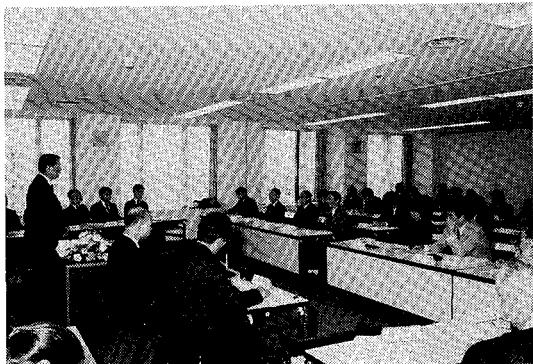
科 目	62年度	備 考
継 越 金 収 入	(円) 12	会費は1会員
会 費 収 入	285,000	年額 5,000円
日本児童手当協会 助成金収入	4,410,000	とする。
雜 収 入	2,451	
計	4,697,463	

(支出の部)

科 目	62年度	備 考
役員会・総会費	(円) 404,215	収支差額10円
業務諸費	47,240	は次年度継越
機関誌発行費	2,212,248	金とする。
協力援助費	2,083,750	
計	4,697,453	



62年第1回児童厚生員等実技指導講習会(5.5~7)



63年こどもの城全国連絡協議会総会(63.3.7)

## 劇場招待を中心に幅広い活動

62年度の「こどもの城」チャリティ事業は、当初の基本的な考え方を踏まえ、60・61年度に引き続き青山劇場、青山円形劇場の観劇招待を中心に、プラモデル模型工作教室への招待、館内見学及び夏休み、クリスマスなどの特別企画行事、各種イベントの招待など幅広い活動を進めた。



ミュージカル「ビッグ・リバー」チャリティー公演受け付け風景

また、「こどもの城」の各部門を活用し障害を持った子どもたちの健康増進、生活指導、療育指針に役立たせるための協力も引き続き進めていきたい。

62年度中の青山劇場、青山円形劇場におけるチャリティ観劇は養護施設などの児童らを対象に延べ47回、2,117人を招待した（別紙参照）。

その内訳は、養護施設などの児童28か所299人、母子寮の母子68か所337人、障害児・者のグループ23か所240人、老人ホームに入居のお年寄り6か所104人、そのほかホームヘルパー、ボランティアなど1,137人となっている。

なお、これらの観劇のほか、プラモデル模型工作教室に延べ7回50人の施設入所児童を招待した。

## 2 チャリティー

## チャリティ事業による観劇招待一覧

実施月日	実施回数	実施場所	実施演目	参加実人員	対象者
5月3日	1	青山円形劇場	こどもの城「おまつり劇場」	(人) 32	児童相談センター保護児童
5月13 ～19日	11	青山劇場	近松座青山公演 「百合若大臣野守鏡」	176	母子寮入寮の母子 老人ホーム等の入居者 都児童会館児童
7月27 ～31日	4	青山円形劇場	青山民話劇場「鬼の角」	327	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 児童相談センター保護児童 地域児童館の児童等
8月1日	2	同上	宮城まり子の「お話と歌」	28	養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 都児童会館児童
8月6日	1	青山劇場	こどもの城「サマー・フェスティバル」	119	肢体不自由児施設の児童 母子寮入寮の母子 養護施設等の児童
8月13 ～15日	3	青山円形劇場	ミュンヘン・フィルハーモニー 管弦楽団「こどものためのモーツアルト」	68	養護施設等の児童 東京小・中学校センター児童 肢体不自由児協会
8月16 ～18日	3	同上	ファミリー「ポン・ディスコ」	18	母子寮入寮の母子
8月15 ～22日	4	青山劇場	ミュージカル「アニー」	700	養護施設等の児童 児童相談センター保護児童 肢体不自由児協会 協賛団体関係者
9月27日	1	同上	宮城まり子の 「こども・愛・祈り」	113	母子寮入寮の母子 養護施設等の児童 在宅障害児・者 ボランティア
11月1 ・3日	2	青山円形劇場	ボニージャックス 「空とぶうさぎ」	41	母子寮入寮の母子
11月27日	1	青山劇場	名倉ジャズダンススタジオ 「CAN'T STOP DANCIN」	69	母子寮入寮の母子 ホームヘルパー ボランティア等
12月24・ 25日	2	青山円形劇場	「マザーグース・クリスマス」	37	母子寮入寮の母子
12月25日	2	青山劇場	こどもの城「友の会フェスティバル」	210	在宅障害児・者 児童相談センター保護児童 母子寮入寮の母子 養護学校生徒
1月7日	1	青山円形劇場	「おとぎの国のメルヘン通り PART 2」	26	母子寮入寮の母子
2月26 ～28日	3	同上	青山円形劇場パフォーマンス 「終着駅」	36	母子寮入寮の母子 ホームヘルパー ボランティア
3月12 ～31日	6	青山劇場	ミュージカル 「ビッグ・リバー」	117	在宅障害児・者 養護施設等の児童 母子寮入寮の母子 ボランティア
計	47			2,117	

## 会員は約 3,500 家族に

「こどもの城」を多くの人に理解してもらい、その支援の輪を広げるとともに、利用の促進を図ることを目的として「こどもの城友の会」が設けられている。

この会は、ファミリーで「こどもの城」とのつながりを持ち、利用してもらうことを願って、入会を家族単位としたところに特色がある。その会員数（家族数）は、63年3月末現在で3,482家族に達した。

会員に対する特典のうち、青山劇場及び青山円形劇場での公演への優待などの状況は、招待が1公演、優待が13公演（うち、友の会の集い1公演）、優先予約が4公演であった。

63年1月に「こどもの城友の会」の会則（制度）の一部を改正した。その改正の概要は、次のとおりである。

項目	改 正 前	改 正 後
会員期間	3年（この間、会費の継続納入が前提で、継続しない場合は途中でも資格を失う）。	納入した会費の有効期間（1年又は3年）。
会員期間満了後の継続希望者の取り扱い	特に定めなし。	継続する場合は更新として取り扱う。その際入会金は不要。
会費の3年分一括納入（1割引き）	入会時に限定。	2回目からでも3年分一括納入に変更可能。

### こどもの城友の会会則

#### 1. 名 称

この会は、「こどもの城友の会」と称します。

#### 2. 趣 旨

こどもの城友の会（以下「友の会」と略称します）は、こどもの城を多くの方に理解していただき、より多く利用し、支援していただくことを願って設けられたものです。

#### 3. 事務局

友の会の事務局は、こどもの城の中に置きます。

#### 4. 入会資格

(1) 入会は、家族単位でしていただきます。

### 3 友の会

(2) 特別の入会資格はありません（家族構成員の人数、年齢も問いません）。

#### 5. 入会の時期及び会員期間

(1) 入会は、いつでもすることができます。

(2) 会員期間は、納入された会費の有効期間の満了日までです。

(3) (2)の会員期間は、会費を継続して納めていただくことにより更新されます（その更新について、入会金を納入する必要はありません）。

なお、会費の有効期間が継続しない場合は、会員資格がなくなることになります。

#### 6. 入会金及び会費

##### (1) 入会金

ア 入会にあたっては、入会金の納入が必要です。

イ 入会金の額は、家族単位で1,500円です。

##### (2) 会 費

ア 会員は、毎年、会費を納入していただきます。

イ 会費の額は、家族単位で年額2,000円です。

ウ 会費の有効期間は、1年（入会した月の応答月の月末まで）です。

エ 会費は、3年分を一括納入することができます。この場合には、3年分の額の10%を割引きいたします。

##### (3) 額の改定

入会金及び会費の額は、今後、経済事情によって改定することがあります。

#### 7. 特 典

会員は、次の特典を受けることができます。

(1) こどもの城の事業活動内容、会員の特典の具体的な利用方法などについてお知らせする「こどもの城ニュース」を定期的にお送りします（家族単位）。

(2) こどもの城が実施する講座又はクラブに参加するために必要な登録料の割引きをします。（割引率20%，登録された家族構成員全員に適用）。

(3) こどもの城入館招待券を1家族当たり1年につき5枚をさしあげます。

(4) こどもの城の劇場での公演について次の優待をします。

ア 前売り予約の優先受付けをします。

イ こどもの城が指定する日時の公演について優待します。

(5) こどもの城が行う催しなどに特別案内又は優待をします。

(6) こどもの城が行う保育クラブは、友の会会員のみが利用することができます。

(7) こどもの城の売店で買物をする際に5%の割引きをします。

#### 8. 入会手続

(1) 入会の申込みは、所定の申込書に入会金と会費を添えてしていただきます。

(2) 入会の申込みにあたっては、家族の中から代表者（こどもの城から郵送する場合のあて先となったり、会費を納入されたりする方）を定めていただきます。

## VI 他の活動

- (3) 入会すると会員登録を行うとともに会員証を発行します。
- (4) 会員登録は、家族単位で行いますが、その構成員についても個別に登録します。
- (5) 会員証の発行方法及びその取扱いは、次のとおりです。
  - ア 会員証は、家族単位で1枚発行します（氏名の表示は代表者のみ）。
  - イ 会員証の有効期間は、納入した会費の有効期間と同じです。したがって、会費の継続納入をされるとあらためて会員証を発行することになります。
  - ウ 会員証は、会員の特典をお受けになるときには、提示していただくことになりますので、御来館の際には必ず御持参ください。
- (6) 納入された入会金及び会費は、お返しいたしません。

### 子どもの城友の会会員地域別分布

63. 3. 31現在

区分	東京都				市町村	計	埼玉県	神奈川県	千葉県	その他	合計							
	特別区																	
	渋谷区	港区	その他															
家族数	518	455	1,581	211	2,765	134	346	136	101	3,482								
人 数	2,039	1,729	5,934	794	10,496	519	1,317	528	374	13,234								

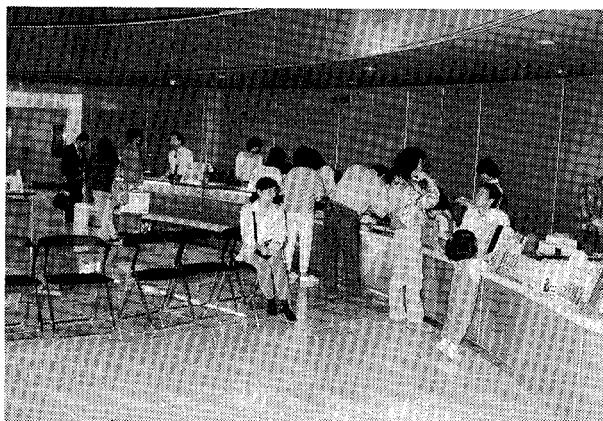
注 1 「家族数」の「神奈川県」の内訳

川崎市 112 横浜市 168 その他 66

2 「家族数」の「その他」の内訳

北海道 3, 青森 1, 岩手 2, 福島 5, 茨城 18, 栃木 7, 群馬 7, 新潟 2, 長野 5, 山梨 3, 富山 1, 静岡 9, 三重 2, 京都 1, 大阪 4, 兵庫 3, 山口 1, 徳島 1, 高知 1, 福岡 1, 熊本 1, 転居先不明 23

3 「人數」は、家族構成員（登録された人）の数である。



アトリウムでー友の会の入会受け付け風景

## ◇「子どもの城」入館者アンケート調査結果◇

「子どもの城」の今後の事業運営上の参考に資するため、62年8月に4回にわたって来館者を対象としたアンケート調査を実施した。

調査結果は、第1部を総合的なまとめとし、第2部として各回（全4回）別のまとめをした。

ここでは、第1部（4回分の総合的なまとめ）の主要部分を掲載する。

なお、この種の調査は、今後、平常期間についても行い、来館者の動向等を把握する必要がある。

調査の全体の企画及びとりまとめは企画部が担当し、その実施（調査票の配布・回収・集計）については、コンピューター部・広報部及び企画部が協力してこれにあたった。

### I 調査方法

#### (1) 調査実施日

夏休みの初期・中期・お盆・後期の4回に分け、比較的来館者が多く、催しの多い日曜日に実施した（8月2・9・16・23日）。

曜日を取り混ぜて行う方法もあるが、今回はベースをそろえて期間中の傾向を見る意味で日曜日に統一して実施する方法によった。

#### (2) 調査項目

「年齢」、「性別」、及び「住所」といった記入者自体の基礎的事項と、「来館回数」、「子どもの城を知ったきっかけ」、「楽しくよかったこと」、「また来たいと思うか」及び「感想・意見・希望」との合わせて8項目とした。

これらのうち、「楽しくよかったこと」は調査実施日ごとに異なるが、他の項目は4回とも同一内容で統一した。

#### (3) 調査票の配布と回収

調査票の用紙は、アトリウム及びエントランスホールで、当日入館する人（子ども活動エリアの利用者及び円形劇場の利用者）に配り、補充的に各回収場所にも備えておいた。

回収場所は、アトリウム、エントランス、4階（ホール）及び3階（エレベーターホール）の4か所とした（それぞれポストの設置と鉛筆の備え付け）。

#### (4) 調査票の様式

別紙のとおりである。

#### (5) 調査票についての説明

##### (ア) 形式等

質問は記入上の便宜を図り、かつ集計を容易にするため、○をつければ足りるような形式とした。また、項目は用紙が2枚以上にならないようできるだけ絞って簡略化を図った。

##### (イ) 年齢区分

次のような考え方で分けた（調査票には、進学していない人があることなどを考慮して学校

## VI その他の活動

区分による表示をしなかった)。

「5歳以下」未就学児・「6~8歳」小学校低学年・「9~11歳」小学校高学年・「12~14歳」中学生・「15~17歳」高校生・「18歳以上」大学生・おとな

なお、「5歳以下」と「小学校低学年」の区分は、本人が自分で読んで書くことは無理であるが、保護者が子どもに聞きながら書く場合があることを想定して設けたものである。

### (ウ) 住所

比較的短時間で、気軽にこどもの城に来ることができ、しかも住宅の多い地域は具体的な区の名称で表示し、その他は大きくまとめて表示することにした。

### (エ) 来館回数

6回目になると、現実には回数の記憶がないものと考えられるので、まとめて表示することにした。

### (オ) こどもの城を知ったきっかけ

直接、広報媒体を通じて知ったケースと、人を介して知ったケースとの両方があるので、それぞれの代表的なものを表示した。

### (カ) 楽しくよかったこと

当日の特別イベントだけでなく、平常活動ベースのものも含めて表示した。

表示に際しては、紙面の関係で必ずしも十分な説明ができないといった制約はあるが、できる限り来館者が実際に体験したものとドッキングできるよう配慮した。

また、事業活動は、1日中開いているものと、特定の時間帯に限って行われるものとに分かれる。

特定の時間帯に行われるものも比較的早い時間帯に行われるものと遅い時間帯に行われるものとがあり、回数にも差がある。また、規模の違いもある。したがって、「楽しくよかったこと」についての集計結果は、それぞれの事業についての来館者の反応をみるとうえでの参考とすることはできるが、その数のみをもって直ちに事業自体の良否または効果や事業相互の比較評価をすることにはつながらないと考えられる。

## 2 調査結果

### (1) 調査数

区分	集計枚数 (A)	(A/B)	(A/C)	用紙配布枚数 (B)	こどもの城活動エリア入館者数 (推定分を除く) (C)
8月2日分	320	(29.5%)	(12.9%)	1,084	2,487
8月9日分	202	(21.8%)	(11.7%)	925	1,732
8月16日分	222	(18.4%)	( 9.3%)	1,208	2,400
8月23日分	267	(20.3%)	( 9.1%)	1,314	2,948
合 計	1,011	(22.3%)	(10.6%)	4,531	9,567

## アンケートの結果

### (2) 内容 調査結果の概要は別表のとおりである。

調査結果で特記すべき主な点は、次のとおりである。

○<住所> 都道府県別には東京都が最も多いが、地元の渋谷区や港区に集中してはおらず、周辺の区、都近隣の県、更には夏休みの影響もあって、その他の県からの来館者も多い。特に神奈川県が18.2%と、全体の5分の1近くを占めているのが目立ち、広報活動を進めるうえで参考となった。

○<こどもの城に来た回数> 「初めて」が58.2%と半分以上に達し、以下2~5回目と遂次減少していくが、「6回目以上」、つまり頻繁に来館している人が11.3%に達しているのが注目される。このことは常にプログラムに変化を持たせ、展開していく必要を示唆している。半面、「初めて」が半分以上であるのは、まだまだ来館者開拓の余地があることを示すものといえる。

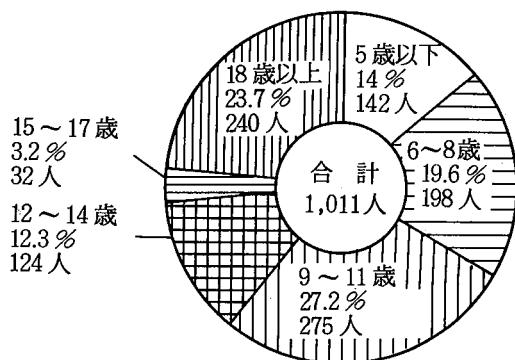
○<こどもの城を知ったのは> 新聞・テレビなどの広報媒体からのケースと、家族や先輩・友達からといったいわゆるクチコミによるものとの比率は4対6と、クチコミの影響が大きい。そのクチコミの元が何であったかは明らかではないが、前者の広報媒体の中では新聞・テレビが最も多いことなども総合してみると、新聞・テレビにとりあげられるような事業の展開や来館者に好印象を持たれる対応に十分配慮する必要があると考えられる。

○<また来たいと思うか> 「思う」が86.5%と大半を占めるのに対し、「思わない」がわずか4.3%（無回答 9.2%）にすぎず、まずは結果をみられる。しかし、無回答の中には否定的な要素を含んでいるものもあるというところまで考察して、この数字に安心せず、事業内容の充実と、来館者応接にいっそうの心配りをしなければならないと思う。

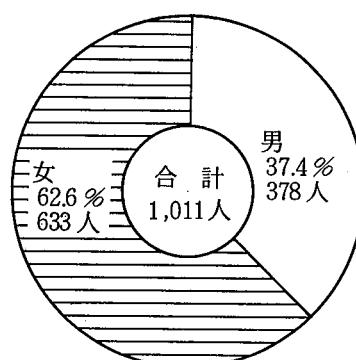
<8>の感想、意見、希望については、設備やプログラムについて「よかった、楽しかった」とするものが多い反面、改善を求めるケースもみられ、今後の事業運営上参考となるものが少なくなかった。

## アンケート結果一覧

### 1 あなたの年齢は？

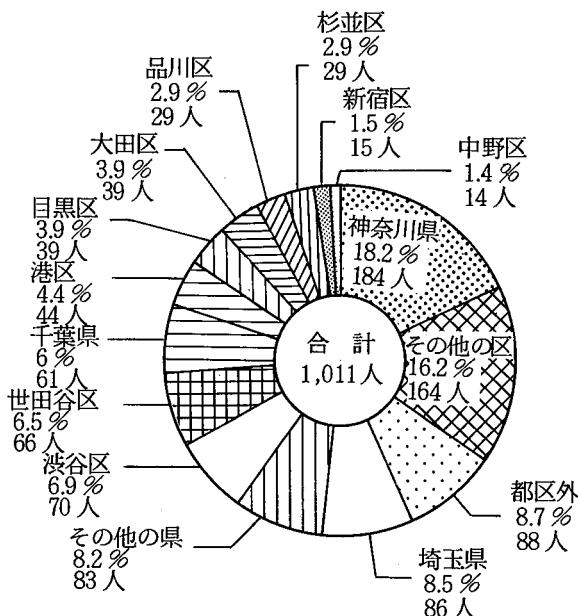


### 2 性別は？

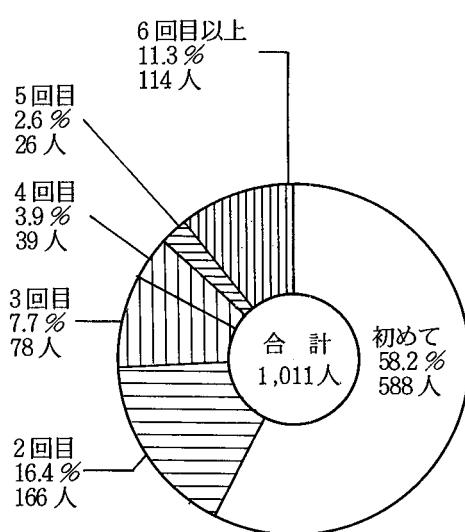


## VI その他の活動

3 住所は？



4-1 こどもの城に来た回数は？



4-2 こどもの城に来た回数は？(年齢別)

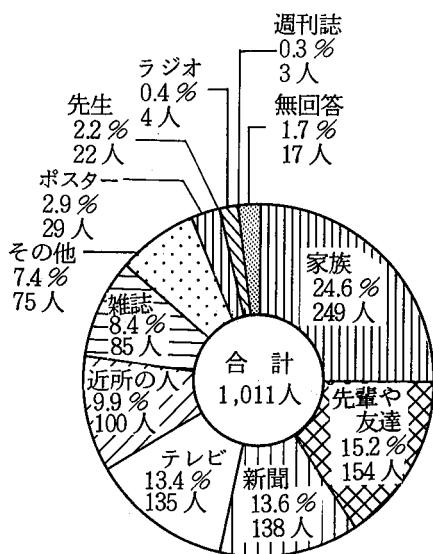
		初めて	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目以上	合計
5歳以下	男	39	6	4	5	1	12	(人) 67
	女	38	15	8	2	2	10	75
	小計	77	21	12	7	3	22	142
6～8歳	男	52	18	8	5	5	4	92
	女	54	24	9	4	3	12	106
	小計	106	42	17	9	8	16	198
9～11歳	男	54	18	7	3	5	16	103
	女	106	27	12	8	2	17	172
	小計	160	45	19	11	7	33	275
12～14歳	男	27	5	2	3	—	6	43
	女	53	13	6	1	2	6	81
	小計	80	18	8	4	2	12	124
15～17歳	男	4	2	2	—	—	1	9
	女	17	2	2	—	—	2	23
	小計	21	4	4	—	—	3	32
18歳以上	男	43	8	3	2	—	8	64
	女	101	28	15	6	6	20	176
	小計	144	36	18	8	6	28	240
合計		588	166	78	39	26	114	1,011

アンケートの結果

4-3 こどもの城に来た回数は？（地域別）

地域	回目	1	2	3	4	5	6 以 上	合 計
渋 谷 区	18	13	8	3	4	24	(人) 70	
港 区	10	7	4	5	2	16	44	
目 黒 区	11	8	6	4	3	7	39	
世 田 谷 区	27	13	7	3	2	14	66	
新 宿 区	7	1	3	3	—	1	15	
中 野 区	11	—	—	1	—	2	14	
杉 並 区	13	8	3	3	1	1	29	
品 川 区	14	6	2	2	1	4	29	
大 田 区	22	11	1	1	2	2	39	
そ の 他 の 区	92	34	13	4	4	17	164	
都 区 外	57	15	4	4	1	7	88	
神 奈 川 県	134	22	12	2	4	10	184	
埼 玉 県	58	14	8	3	1	2	86	
千 葦 県	43	10	4	—	1	3	61	
そ の 他 の 県	71	4	3	1	—	4	83	
合 計	588	166	78	39	26	114	1,011	

5-1 こどもの城を知ったのは？

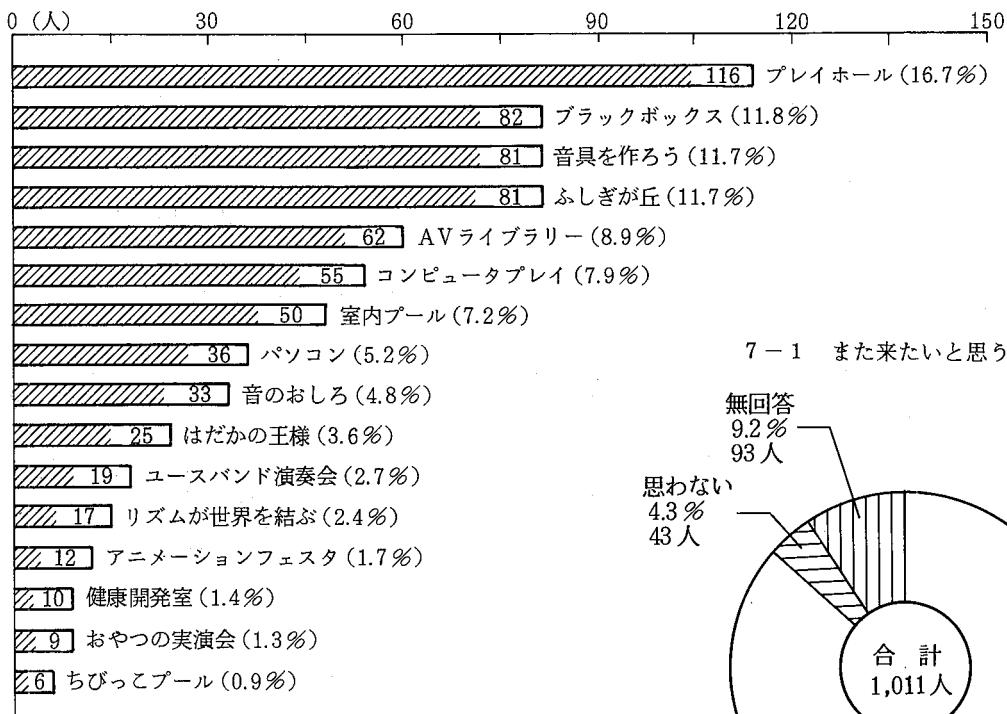


5-2 こどもの城を知ったのは？（地域別）

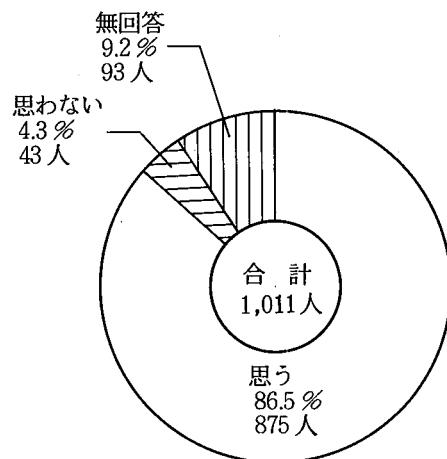
区分	テレビ	ラジオ	新聞	雑誌	週刊誌	ポスター	家族	近所の 人	先生	先輩や 友達	その 他	無回答	合 計
渋 谷 区	9	—	12	4	—	—	15	9	3	11	6	1	(人) 70
港 区	7	—	3	3	—	1	11	4	—	10	4	1	44
目 黒 区	7	—	5	2	—	3	7	5	—	7	2	1	39
世 田 谷 区	9	1	9	6	—	2	12	7	1	13	4	2	66
新 宿 区	2	—	3	3	—	1	4	—	—	1	1	—	15
中 野 区	3	—	3	2	—	1	4	—	—	—	—	1	14
杉 並 区	5	—	5	2	—	1	6	3	—	6	—	1	29
品 川 区	2	1	3	2	—	3	8	4	—	4	2	—	29
大 田 区	4	—	8	5	—	—	6	9	—	6	1	—	39
そ の 他 の 区	23	—	22	16	2	4	35	13	5	33	11	—	164
都 区 外	10	—	14	6	—	2	32	4	5	10	3	2	88
神 奈 川 県	24	1	24	18	—	4	40	22	3	29	18	1	184
埼 玉 県	11	—	17	6	—	3	21	8	1	9	7	3	86
千 葦 県	7	—	9	4	1	2	23	4	1	4	4	2	61
そ の 他 の 県	12	1	1	6	—	2	25	8	3	11	12	2	83
合 計	135	4	138	85	3	29	249	100	22	154	75	17	1,011

## VI その他の活動

### 6 楽しく、よかったですのはどれか？（8月2日320人）



7-1 また来たいと思うか？



7-2 また来たいと思うか？（年齢別）

		思 う	思わな い	無回答	合 計
5歳以下	男	63	—	4 (人)	67
	女	70	1	4	75
	小計	133	1	8	142
6～8歳	男	84	1	7	92
	女	94	2	10	106
	小計	178	3	17	198
9～11歳	男	91	1	11	103
	女	143	5	24	172
	小計	234	6	35	275
12～14歳	男	32	7	4	43
	女	69	6	6	81
	小計	101	13	10	124
15～17歳	男	4	3	2	9
	女	19	3	1	23
	小計	23	6	3	32
18歳以上	男	53	5	6	64
	女	153	9	14	176
	小計	206	14	20	240
合 計		875	43	93	1,011

7-3 また来たいと思うか？（地域別）

	思 う	思わな い	無回答	合 計
渋 谷 区	57	4	9 (人)	70
港 区	42	1	1	44
目 黒 区	30	3	6	39
世 田 谷 区	59	1	6	66
新 宿 区	15	—	—	15
中 野 区	13	—	1	14
杉 並 区	27	—	2	29
品 川 区	22	4	3	29
大 田 区	35	1	3	39
そ の 他 の 区	146	4	14	164
都 区 外	73	5	10	88
神 奈 川 県	165	5	14	184
埼 玉 県	71	6	9	86
千 葉 県	52	3	6	61
そ の 他 の 県	68	6	9	83
合 計	875	43	93	1,011

## アンケートの結果

### ねがい アンケート調査についてのお願い

今日は、子どもの城にご来館いただき、まことにありがとうございます。ただいま、子どもの城では、これからも楽しくよいプログラムを計画していくために皆様のご感想やご意見をおたずねするアンケート調査を行っております。よろしくご協力ををお願い申し上げます。

このアンケート用紙にご記入のうえ、今日、お帰りのときに1階のアトリウムや、エントランスホールなどの「アンケート入れ」と書いた箱にお入れください。

昭和62年8月2日 こどもの城

1 あなたの年齢  
(どれか1つを○でかこむ。)

5歳以下・6~8歳・9~11歳・12~14歳・15歳以上  
~17歳・18歳以上

2 性別  
(どちらか1つを○でかこむ。)

男・女

3 住所 (どれか1つを○でかこむ。)  
渋谷区・港区・目黒区・世田谷区・新宿区・中野区・杉並区・品川区・大田区  
東京都そのほかの区・東京都の区以外の所  
神奈川県・埼玉県・千葉県・そのほかの所

4 こどもの城に遊びに来た回数  
(どれか1つを○でかこむ。)

はじめて・2回目・3回目・4回目・5回目・6回目以上

5 こどもの城をはじめて知ったのは  
何でしたか? (だれからでしたか)  
(どれか1つを○でかこむ。)

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・週刊誌・ポスター  
家族の人・近所の人・先生・先輩や友達

どれにもあてはまらないとき  
「そのほか」の〔 〕の中に書く。

そのほか〔 〕

6 今日、こどもの城で遊んだ中でとても楽しく、よかったのはどれですか。

## VI その他の活動

(番号の数字を○でかこむ。) 2つ以上に○をつけていただいて結構です。  
どれにもあてはまらないことは、「そのほか」の〔 〕の中に書く。

1. リズムが世界を結ぶ (体育室) \_\_\_\_\_ 地下2階
2. 室内プール \_\_\_\_\_
3. あなたの健康度をはかる (健康開発室) \_\_\_\_\_
4. ブラックボックス \_\_\_\_\_ 地下1階
5. プレイホール (ネットやふしきの館、パンパーやピンポンなど) \_\_\_\_\_
6. コンピュータ・プレイ (プレイホールの奥) \_\_\_\_\_ 3階
7. 「音と造形」音具をつくろう (造形スタジオ) \_\_\_\_\_
8. 「音のおしろ」木の音と音楽 演奏マラソン (音楽ロビー) \_\_\_\_\_
9. アニメーションフェスタ'87 (音楽スタジオ) \_\_\_\_\_ 4階
10. ビデオ (AVライブラリー) \_\_\_\_\_ 5階
11. おやつの実演会 (保育室) \_\_\_\_\_
12. ちびっこプール \_\_\_\_\_
13. ふしきが丘 (いろいろなりもの) \_\_\_\_\_ 屋上
14. パソコンを使って絵を描こう (パソコンルーム) \_\_\_\_\_ 10階
15. ユースバンド演奏会 \_\_\_\_\_ 青山円形劇場
16. はだかの王様 \_\_\_\_\_ 青山劇場

そのほか 〔 〕

- 7 こどもの城にまた来たいと思いませんか? 思う • 思わない  
(どちらか1つを○でかこむ。)

- 8 そのほか、こどもの城についてのご感想やご意見・ご希望がありましたら、下の欄にお書きください。
- 

◎ ご協力ありがとうございました。

---

子どもの城事業年報 昭和62年度

昭和63年11月1日発行

財団法人 日本児童手当協会

理事長 小島 弘仲

〒 150 東京都渋谷区神宮前 5-53-1

電話 03 (797) 5666

---

印刷所 ヨンダ印刷両国工場